

—嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4 —

東畠瀬遺跡 2 畠瀬城跡

東畠瀬遺跡 2・4・5・6・8 区 畠瀬城跡 2・3 区



平成 22 (2010) 年 3 月

佐賀県教育委員会

—嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4 —

東畠瀬遺跡 2 畠瀬城跡

東畠瀬遺跡 2・4・5・6・8 区 畠瀬城跡 2・3 区

平成 22 (2010) 年 3 月

佐賀県教育委員会

序

本書は、国土交通省九州地方整備局による嘉瀬川ダム建設事業に伴い、佐賀県教育委員会が実施している埋蔵文化財発掘調査の記録をまとめたものです。

今回の報告は、東畠瀬遺跡と畠瀬城跡に関するもので、戦国時代の城館跡、近世の集落跡等を調査しました。いずれも地域の歴史を物語る貴重な資料であり、先人の生活や文化を偲ばせるものです。

本書が学術文化の向上に幾分なりとも寄与し、併せて地域の歴史を学ぶ資料のひとつとして生涯教育や学校教育の場で活用されるものになれば幸いに存じます。

発刊にあたり、埋蔵文化財の保護に深い御理解と多大な御協力を賜った国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所並びに関係各位に対し衷心より厚くお礼申し上げ、御挨拶といたします。

平成 22 年 3 月

佐賀県教育委員会
教育長 川崎俊広

例　言

- 1 本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴い佐賀県教育委員会が平成 15～21 年度に実施した佐賀市富士町所在の東烟瀬遺跡 2・4・5・6（6A～6F・6H～6R）・8 区と烟瀬城跡 2・3 区の発掘調査報告書で、嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第 4 冊である。
- 2 発掘調査は、佐賀県教育委員会が主体となり、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所の委託を受けて実施した。
- 3 発掘調査にあたっては、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所、佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室（現・佐賀県県土づくり本部水資源対策課）、富士町教育委員会（現・佐賀市教育委員会）、富士町ダム対策課（現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課）、並びに地元各位の協力を得た。
- 4 本書の表紙と写真図版の一部に用いた平成 4 年撮影の航空写真は、嘉瀬川ダム工事事務所から提供を受けた。
- 5 本書での遺跡名については発掘調査当時のものを使用したが、平成 22 年 3 月作成の佐賀県遺跡地図では、東烟瀬遺跡 6F 区が神代氏烟瀬館跡、烟瀬城跡 3 区が烟瀬城マツバラ出丸跡となっている。また、5・6・8 区内の小地区名について整理途中で変更したため、一部の遺物に旧地区名で注記しているものがある。
- 6 東烟瀬遺跡 2・4・5・6（6A～6F・6H～6R）・8 区と烟瀬城跡 2・3 区の現地調査から報告書作成までの作業に従事したものは下記のとおりである。

発掘作業：	姉川妙子 岡本和子 嘉村ヒトミ 庄島信子 納富弘子 無津呂明子 吉原美智子 遠藤啓輔 北島裕司 進藤睦美 真崎政嗣 杠 義臣 江口敏郎 未次貞亮 竹下政征 野口節子 山口道雄	内田英子 岡本君子 坂口伸己 時松紗喜子 東川福代 森 ミカノ 糸山楨一 大谷節子 坂井和子 高木俊治 丸内隆康 横尾和夫 江寄 章 副島 貞 長 清一 野中賢之 山口裕二	嬉野サツキ 小剛川千代恵 坂口久江 中島鶴美 藤田一雄 吉原文代 岩熊素子 川崎恵美子 坂井義人 千綿一夫 光武宣子 新井英雄 柿本由紀子 副島正義 鶴丸仁之 野中静枝 山口榮次	大塚信代 貝野啓子 佐保マリ子 中田政信 豆田正秀 吉原松美 内川さつき 川崎はつえ 實松政秀 千綿伸義 藤井千枝子 荒木聖剛 古賀芳子 下川利信 長倉真美子 松藤孝幸 吉岡泰士 渡谷 格	大塚弥生 嘉村末人 下津浦理恵 中原春己 丸山民江 吉原幹夫 嬉野みつ代 川原トシ子 澤田健吉 野田恵美子 古川 黙 井手口 异 幸山 巍 下村静雄 中山隼人 諸角敏子 吉成哲夫 田中良輔
（株）埋蔵文化財サポートシステム					
遺構写真撮影：加藤吾郎 遺構写真撮影：樋口秀信	渡谷 格 前田耕輔	田中良輔 吉田大輔	徳永貞紹 西野元勝	徳永貞紹 西野元勝	秦 広之

遺跡空中写真撮影：(有)空中写真企画

遺物整理：	植木玲子	坂本明子	佐保敦子	重田正子	柴村悦子
	谷澤裕美	堀田香澄	松尾三枝子		
遺物実測：	江副朋子	大串早苗	境 靖紀	指山美江子	渋谷 格
	上瀧光子	辻 静子	鶴田啓子	徳永智恵子	兵動美紀
	平山とし	村里育子	山浦美香		
整図（デジタルトレース）：	江副朋子	大庭佐和子	境 靖紀	馬場里美	
	皆越弘子	村里育子	(株)とっぺん		

遺物写真撮影：境 靖紀 渋谷 格

写真整理・編集：市田佳奈子 奥 知恵子 馬場里美

調査記録整理：東烟瀬遺跡）遺構：渋谷 格・市田佳奈子・田中良輔・大庭佐和子

遺物：渋谷 格・徳永貞紹・市田佳奈子

（烟瀬城跡）遺構：渋谷 格・田中良輔・吉田大輔・西野元勝

遺物：渋谷 格

7 本書の編集は馬場里美の協力を得て渋谷 格が行った。執筆分担は下記のとおりである。

第1章、第2章：徳永貞紹・渋谷 格

第3章、第4章：渋谷 格

第5章1：植田弥生（パレオ・ラボ）

第5章2：パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

8 東烟瀬遺跡2・4・5・6・8区と烟瀬城跡2・3区の整理・報告にあたって、下記の方々から御教示・御協力をいただいた。

大橋康二	玉井哲雄	徳永貞紹	東中川忠美	藤原友子	古川未由
宮武正登	森田孝志	(五十音順)			

本書の記載方法

1 嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の対象遺跡には英大文字3文字の略号を与え、実測図・写真等の記録類や出土遺物の注記等に使用している。本書で報告する東烟瀬遺跡はHHT、烟瀬城跡はHTJの略号で示される。

2 個々の遺構名は、遺構の種別を表す英大文字2文字の分類記号（下記参照）と4桁の遺構番号の組み合わせで示す。遺構番号の千の位には、各遺跡の地区名を示す数字を付けている。

なお、小穴・柱穴は遺物の出土したものに限り、Pの略号を用いて他の遺構とは別個の遺構番号を与えている。このうち掘立柱建物や柵列などの遺構を構成するものについては英大文字を用いてPA、PB、…の要領で示し、それ以外の柱穴・小穴については算用数字4桁の一連番号を付け、千の位で地区名を示す。

S A : 柵列・塙・土塁・石塁	S B : 掘立柱建物・礎石建物	S C : 石棺墓・石蓋土坑墓
S D : 堀・溝・流路	S E : 井戸	S F : 道路
S H : 積穴住居・積穴建物	S J : 豊棺墓・土器棺墓	S K : 土坑
S P : 土坑墓・木棺墓	S T : 古墳・その他の墳墓	S X : その他・不明遺構

3 出土遺物の○○形土器は、○○とのみ表現する。例) 長形土器→長

4 実測した出土遺物には4桁の遺物登録番号を1点ずつ付し、挿図中には各章ごとの通し番号を付した。

5 表で示した出土遺物の計測値は、復元値に*、残存値に+を付けて表現する。

6 平成14年4月に改正測量法が施行されたが、調査時の記録類は全て日本測地系による旧国土地標であることから、混亂を回避するため、嘉瀬川ダム建設事業に伴う文化財発掘調査では今のところ世界測地系による座標を使用していない。

本書で示す方位は旧国土地標第II系の座標北で、磁北はこれより西偏約6°30'である。

7 出土遺物に関して、本文・表中で記述の煩雑さを避けるため下記の分類・編年を使用・参照した。

・中世前期の中国陶磁：

太宰府市教育委員会（2000）『太宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』太宰府市の文化財第49集

・中世後期の中国陶磁：

森田 勉（1982）「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

上田秀夫（1982）「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

小野正敏（1982）「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

目次

本文目次

第1章 調査の経緯	1
1 調査の経緯	1
2 調査組織	1
3 発掘調査の経過	2
第2章 位置と環境	7
1 地理的環境	7
2 歴史的環境	7
第3章 東畠瀬遺跡2・4・5・6・8区	14
1 東畠瀬遺跡2・4・5・6・8区の概要	14
2 2・5区の遺構と遺物	18
1) 2区の遺構と遺物	18
2) 5区の遺構と遺物	19
3 6区の遺構と遺物	33
1) 6B区下層の遺構と遺物	33
2) 6区中世の遺物	43
3) 6B区上層の遺構と遺物	43
4) 6E区の遺構と遺物	47
5) 6区近世以降の遺構と遺物	51
4 6F・8区の遺構と遺物	86
1) 6F・8区中世の遺構と遺物	86
2) 6F・8区近世の遺構と遺物	122
5まとめ	144
1) 6F区戦国時代の居館跡について	144
2) 東畠瀬地区近世集落の展開について	145
第4章 畠瀬城跡2・3区	148
1 畠瀬城跡2・3区の概要	148

2	3区の遺構と遺物	154
1)	遺構	154
2)	遺物	154
3	まとめ	163
第5章 自然科学分析		169
1	東烟瀬遺跡出土木製品の樹種同定	170
1)	はじめに	170
2)	試料と方法	170
3)	結果	170
4)	考察	171
2	放射性炭素年代測定	172
1)	はじめに	172
2)	試料と方法	172
3)	結果	172
4)	考察	173

挿図目次

図 1	嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区 (1/25,000)	3
図 2	東畠瀬遺跡・畠瀬城跡の位置 (1/600,000)	9
図 3	嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡 (1/100,000)	10
図 4	東畠瀬遺跡周辺の地形 (1/5,000)	15
図 5	東畠瀬遺跡2・4区の位置 (1/2,500)	16
図 6	東畠瀬遺跡5・6・8区の位置 (1/2,000)	17
図 7	2区縄文時代の遺物 (1/3・1/2)	18
図 8	5区の地形 (1/750)	20
図 9	5区の石垣 (1/100)	21
図 10	5区の出土遺物1 (1/3)	23
図 11	5区の出土遺物2 (1/3)	24
図 12	5区の出土遺物3 (1/3)	25
図 13	5区の出土遺物4 (1/3)	26
図 14	5区の出土遺物5 (1/3)	27
図 15	5区の出土遺物6 (1/3・1/2・1/4)	28
図 16	6区の地形 (1/1,000)	34
図 17	6区の遺構分布 (1/1,000)	35
図 18	6区の遺構分布詳細1 (1/400)	36
図 19	6区の遺構分布詳細2 (1/400)	37
図 20	6区の遺構分布詳細3 (1/400)	38
図 21	6B区下層の遺構分布 (1/150)	39
図 22	6B区下層の遺構 (1/20・1/100)	40
図 23	6B区下層の遺物1 (1/3)	41
図 24	6B区下層の遺物2 (1/2・1/3)	42
図 25	6区中世の遺物 (1/3)	44
図 26	6B区上層の遺構分布 (1/125)	45
図 27	6B区の土層 (1/60)	46
図 28	6B区上層の遺構1 (1/40)	48
図 29	6B区上層の遺構2 (1/40)	49
図 30	6B区上層の遺物 (1/2・1/3・1/4)	50
図 31	6E区の遺構分布 (1/200)	52
図 32	6E区の遺構1 (1/20・1/40・1/60)	53
図 33	6E区の遺構2 (1/80)	54
図 34	6E区の遺物 (1/2・1/3)	55
図 35	6H区の遺構 (1/20)	56
図 36	6区近世の遺物1 (1/3)	57
図 37	6区近世の遺物2 (1/3)	58

図 38 6区近世の遺物3 (1/3)	60
図 39 6区近世の遺物4 (1/3)	61
図 40 6区近世の遺物5 (1/2・1/3)	62
図 41 6区近世の遺物6 (1/3)	63
図 42 6区近世の遺物7 (1/2・1/6)	64
図 43 6区近世の遺物8 (1/3)	65
図 44 6区近世の遺物9 (1/3)	66
図 45 6区近世の遺物10 (1/3)	68
図 46 6区近世の遺物11 (1/2・1/3)	69
図 47 6区近世の遺物12 (1/3)	70
図 48 6区近世の遺物13 (1/2・1/4)	71
図 49 6区近世の遺物14 (1/3)	73
図 50 6区近世の遺物15 (1/2・1/3)	74
図 51 6・8区の地形 (1/1,500)	87
図 52 6F・8A・8B区の遺構分布 (1/1,000)	88
図 53 6F区の遺構分布 (1/250)	89
図 54 6F区の土層1 (1/60)	90
図 55 6F区の土層2 (1/60)	91
図 56 6F区中世の遺構分布 (1/250)	93
図 57 6F区中世の遺構1 (1/60)	94
図 58 6F区中世の遺構2 (1/80)	95
図 59 6F区中世の遺構3 (1/60)	97
図 60 6F区中世の遺構4 (1/60)	99
図 61 6F区中世の遺構5 (1/60)	101
図 62 6F区中世の遺構6 (1/60・1/40)	102
図 63 6F区中世の遺構7 (1/60)	103
図 64 8A区の遺構分布 (1/250)	105
図 65 8A区の土層 (1/60・1/100)	106
図 66 8A区中世の遺構 (1/80)	107
図 67 8B区中世の遺構分布 (1/400)	108
図 68 8B区中世の遺構 (1/60)	109
図 69 6F区中世の遺物1 (1/3)	110
図 70 6F区中世の遺物2 (1/3)	111
図 71 6F区中世の遺物3 (1/3・1/2)	112
図 72 6F区中世の遺物4 (1/3・1/2)	113
図 73 6F区中世の遺物5 (1/3)	114
図 74 6F区中世の遺物6 (1/3)	115
図 75 6F区中世の遺物7 (1/3)	117
図 76 6F区中世の遺物8 (1/3)	118
図 77 6F区中世の遺物9 (1/3)	119

図 78 6 F 区中世の遺物 10 (1/3)	120
図 79 6 F 区中世の遺物 11 (1/3)	121
図 80 6 F 区中世の遺物 12 (1/3)	122
図 81 6 F 区中世の遺物 13 (1/3・1/2)	123
図 82 6 F 区近世の遺構分布 (1/250)	124
図 83 8 C 区の遺構分布 (1/500)	125
図 84 6 F・8 区近世の遺構 (1/40)	127
図 85 6 F 区近世の遺物 (1/3)	128
図 86 8 区中世～近世の遺物 (1/3)	129
図 87 8 区近世の遺物 (1/3・1/2)	131
図 88 畠瀬城跡周辺の地形 (1/5,000)	149
図 89 畠瀬城跡 2・3 区の位置 (1/2,000)	150
図 90 2 区調査前の地形 (1/400)	151
図 91 2 区遺構の分布 (1/300)	152
図 92 2 区の土層 (1/50・1/100)	153
図 93 3 区の地形 (1/400)	155
図 94 3 区の土層 1 (1/60)	156
図 95 3 区の土層 2 (1/60)	157
図 96 3 区の土層 3 (1/60)	158
図 97 3 区試掘坑 8 の遺構分布 (1/60)	159
図 98 3 区中世・近世の遺物 (1/3)	160
図 99 3 区近世の遺物 (1/3・1/2)	161
図 100 畠瀬城跡 (山頂部) 繩張り図 (1/1,000)	165
図 101 谷田城跡・熊の川城跡縄張り図 (1/3,000)	166
図 102 合瀬山城跡・菖蒲山城跡縄張り図 (1/3,000)	167
図 103 曆年較正結果	174

表目次

表1 嘉瀬川ダム水没地区周辺の遺跡	2
表2 東畠瀬遺跡5・6・8区の地区名変更	4
表3 東畠瀬遺跡2区の出土遺物	18
表4 東畠瀬遺跡5区の出土遺物	29
表5 東畠瀬遺跡6区の出土遺物	75
表6 東畠瀬遺跡6F区の出土遺物	132
表7 東畠瀬遺跡8区の出土遺物	142
表8 畠瀬城跡3区の出土遺物	162
表9 東畠瀬遺跡出土柱材の樹種同定結果一覧	170
表10 測定試料及び処理	172
表11 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	173

写真図版目次

写真図版1 嘉瀬川ダム予定地周辺（真俯瞰合成）	177	
写真図版2 東畠瀬遺跡中心部・畠瀬城跡遠景（西から）	178	
写真図版3 東畠瀬遺跡全景（南から）	179	
写真図版4	180	
2区 調査前遺壙（西から）	5区 石垣（9・10面）	5区 全景（北西から）
2区 調査状況（南から）	5区 石垣（4面）	
写真図版5 2区出土遺物・5区出土遺物1		181
写真図版6 5区出土遺物2		182
写真図版7 5区出土遺物3		183
写真図版8		184
6B区上層 全景（南から）	6B区下層 全景（南から）	6B区下層 SX6035 検出状況（南から）
写真図版9		185
6B区上層 SX6020（南東から）		6B区上層 SX6028（南東から）
6B区下層 SX6035 上層（東から）		6B区下層 SX6035 完壙状況（南西から）
6B区上層 SX6021（南東から）		6B区 土壙（北から）
6B区下層 SX6035 炭化物検出状況（南西から）		6B区下層 SX6035 壁面赤化状況（東から）
写真図版10		186
6B区下層 SX6036 半壙状況（南西から）	6E区 SX6201（東から）	
6E区 SX6203 土壙（南東から）	6E区 SX6204 土壙（北から）	
6B区下層 SX6103 遺物出土状況	6E区 SX6203 植出状況（南東から）	
6E区 SX6203 完壙状況（南東から）	6E区 SX6204 完壙状況（北から）	

写真図版 11		187
6E 区 全景（南東から）	6E 区 SX6202（南東から）	6E 区 SB6200（東から）
写真図版 12		188
6C 区 全景（南から）	6H 区 SX6002 植出状況（西から）	
6H 区 SX6006 植出状況（南西から）	6H 区 SX6011（北から）	
6D 区 全景（南から）	6H 区 SX6008 植出状況	
6H 区 SX6000 塩化物検出状況（南西から）	6H 区 完解状況（東から）	
写真図版 13		189
6J 区 全景（南から）	6N 区 全景（南から）	
6P 区 全景（南西から）	6Q 区 遺物出土状況	
6K 区 石棺検出状況（南から）	6O 区 全景（南西から）	
6Q 区 右列検出状況（北東から）	6Q 区 遺物出土状況	
写真図版 14 6区出土遺物 1		190
写真図版 15 6区出土遺物 2		191
写真図版 16 6区出土遺物 3		192
写真図版 17 6区出土遺物 4		193
写真図版 18 6区出土遺物 5		194
写真図版 19 6区出土遺物 6		195
写真図版 20 6区出土遺物 7		196
写真図版 21 6区出土遺物 8		197
写真図版 22 6区出土遺物 9		198
写真図版 23 6区出土遺物 10		199
写真図版 24		200
6F・8区 遠景（北西から）	6F・8A区 遠景（西から）	
写真図版 25		201
6F・8A区 遠景（南東から）	6F 区 全景（東から）	
写真図版 26		202
6F 区 表土除去後状況（北東から）	6F 区 土層（南から）	
6F 区 土層（南から）	6F 区 土層（南から）	
6F 区 土層（南から）	6F 区 土層（西から）	
6F 区 土層（南から）	6F 区 土層（南から）	
写真図版 27		203
6F 区 土層（南から）	6F 区 土層（南から）	
6F 区 土層（南から）	6F 区 土層（南から）	
6F 区 土層（南から）	6F 区 土層（南から）	
6F 区 土層（南から）	6F 区 調査区北壁土層（南から）	
写真図版 28		204
6F 区 全景（北東から）	6F 区 SA6210 土層（南から）	6F 区 SA6210 黄土層検出状況（北西から）
写真図版 29		205
6F 区 SA6210 土層（南から）	6F 区 SA6210 土層（南から）	

6F 区 SA6210 土層（北から）	6F 区 SA6210 遺物出土状況（北東から）
6F 区 SA6210 土層（南から）	6F 区 SA6210 桁土層検出状況（南から）
6F 区 SA6210 遺物出土状況（北東から）	6F 区 SA6210 青銅製勝金貝出土状況（北東から）
写真図版 30	206
6F 区 SB6216（真上から）	6F 区 SB6220・SA6217（真上から）
写真図版 31	207
6F 区 SX6215（南西から）	6F 区 SX6215 石加工痕（北東から）
6F 区 SB6218PE（北西から）	6F 区 SB6220PD（北東から）
6F 区 SX6215（南東から）	6F 区 SB6216PA（南東から）
6F 区 SB6220PB（北東から）	6F 区 SB6220PE（南西から）
写真図版 32	208
6F 区 主要部全貌（真上から）	6F 区 SB6221・6222（真上から）
写真図版 33	209
6F 区 SB6222PG（東から）	9F 区 SB6222PH（南東から）
	6F 区 SB6222PI（南西から）
写真図版 34	210
6F 区 SB6222PA（北西から）	6F 区 SB6221・6222PF 土層（西から）
6F 区 SB6221PB（北西から）	6F 区 SB6221PF（南東から）
6F 区 SB6222PI（北西から）	6F 区 SB6221PA（北西から）
6F 区 SB6221PC（北西から）	6F 区 SB6221PG（南東から）
写真図版 35	211
6F 区 SX6208 遺物出土状況（南から）	6F 区 SA6211（北東から）
6F 区 SA6211 柱穴検出状況（南東から）	6F 区 近現代加工痕のある石材
6F 区 SX6208（南から）	6F 区 SA6211（北から）
6F 区 SA6211 柱頭跡土層（北東から）	6F 区 SX6229（西から）
写真図版 36	212
8A 区 山城全貌（北東から）	8A 区 山城全貌（真上から）
写真図版 37	213
8A 区 山域調査前状況（北東から）	8A 区 山城全貌（北東から）
	8A 区 主部（南東から）
写真図版 38	214
8A 区 SB8003 柱穴（西から）	8A 区 SX8006 裂け目（南西から）
8A 区 e-f 土層（東から）	8A 区 尾根上の土層（南から）
8A 区 SB8003 柱穴（東から）	8A 区 c-d 土層（北東から）
8A 区 e-f 土層（南東から）	8A 区 曲輪4 土層（北西から）
写真図版 39	215
8B 区 全貌（北から）	8B 区 SB8011（南西から）
	8B 区 SB8011PA（南東から）
写真図版 40	216
6F 区 SX6207（北西から）	6F 区 SX6212 平闢状況（北東から）
8A1 区 完掘状況（南西から）	8C 区 SX8012（北西から）
6F 区 SX6207・SX6214 土層（南東から）	6F 区 SX6213 平闢状況（北東から）
8A 区 SK8001（南西から）	8C 区 SX8013（南西から）

写真図版 41	217
8C 区 試掘坑 15 完掘状況（東から）	8A 区 尾根上近世墓地（南東から）
8A 区 尾根上近世墓地出土状況	8A 区 尾根上近世墓石（宝剣）
8C 区 試掘坑 3 完掘状況（東から）	8A1 区西側 近世墓地（南東から）
8A 区 山城主郭近世墓地出土状況（南東から）	8A1 区西側 近世墓石（延宝・正徳）
写真図版 42 6F 区出土遺物 1	218
写真図版 43 6F 区出土遺物 2	219
写真図版 44 6F 区出土遺物 3	220
写真図版 45 6F 区出土遺物 4	221
写真図版 46 6F 区出土遺物 5	222
写真図版 47 6F 区出土遺物 6	223
写真図版 48 6F 区出土遺物 7	224
写真図版 49 8 区出土遺物	225
写真図版 50	227
畠瀬城跡遠景（北西から）	3 区 全景（北西から）
写真図版 51	228
2 区 遠景（西から）	2 区 a-b 土層（西から）
3 区 東半部（南から）	3 区 東半部（北から）
2 区 全景（南から）	2 区 北東斜面完掘状況（東から）
3 区 西半部（南東から）	3 区 墓場（南西から）
写真図版 52	229
3 区 試掘坑 1 北壁土層（南から）	3 区 試掘坑 3 北壁土層（西から）
3 区 試掘坑 5 北壁土層（南西から）	3 区 試掘坑 7 北壁土層（南西から）
3 区 試掘坑 2 北壁土層（南東から）	3 区 試掘坑 4 西壁土層（南から）
3 区 試掘坑 6 北壁土層（南西から）	3 区 試掘坑 8 完掘状況（南から）
写真図版 53 3 区出土遺物	230

第1章 調査の経過

1 調査の経緯

嘉瀬川ダムは、嘉瀬川水系嘉瀬川の総合開発の一環として佐賀県佐賀市富士町（平成17年10月1日に佐賀市、佐賀郡富士町、同郡大和町、同郡諸富町、神埼郡三瀬村が合併した）で建設が進められており、洪水調節をはじめ、流水の正常な機能の維持、灌漑用水及び都市用水の補給、及び水力発電に供される多目的ダムである。

嘉瀬川ダム建設事業とこれに伴う文化財調査の詳しい経緯については既刊の『東畠瀬遺跡1・大野遺跡1』に記しているので参照されたい。平成21年度は、畠瀬城跡3区、東畠瀬遺跡7区、西畠瀬遺跡9B区、垣内遺跡1～3区、地蔵平遺跡3区の発掘調査を実施し、本書の作成を行った。

本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第4冊目となるもので、東畠瀬遺跡2・4・5・6（6A～6F・6H～6R）・8区と畠瀬城跡2・3区の2地区を収録した。

2 調査組織

調査主体 佐賀県教育委員会

調査協力 国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所

富士町教育委員会（現・佐賀市教育委員会）

佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室（現・佐賀県土づくり本部水資源対策課）

富士町ダム対策課（現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課）

地元各位

調査組織（平成21年度）

総括	佐賀県教育委員会教育長	川崎俊広
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課長	江島秋人
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課参事	七田忠昭
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課副課長	蒲原宏行
調査総括	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主幹	樋口秀信
調査員	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	白木原 宜
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課指導主事	今泉好孝
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	渡谷 格
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	大庭佐和子
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	渡部芳久
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	吉田大輔
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	津田 文
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	西野元勝
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	境 靖紀

事務局	佐賀県教育庁社会教育・文化財課副課長 佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査 佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査 佐賀県教育庁社会教育・文化財課副主査	寺島克敏 古川直樹 上村亞紀子 吉田顯徳
-----	--	-------------------------------

調査指導・助言 文化庁記念物課 佐賀県文化財保護審議会 玉井哲雄

3 発掘調査の経過

嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、関連工事に伴って富士町教育委員会（当時）により平成7～9年度に断続的に行われたが、平成11～12年度の水没地区内確認調査の結果を踏まえ、平成12年度以降は佐賀県教育委員会が継続して実施している。水没地区内及び付替国道・付替市道など嘉瀬川ダム工事事務所所管工事に伴つて発掘調査が必要な遺跡は、13遺跡にのぼり（図1-1、表1-1）、平成21年度までに東畠瀬遺跡、畠瀬城跡、西畠瀬遺跡、垣ノ内遺跡1・2区、小ヶ倉遺跡、入道遺跡1区、地蔵平遺跡1・2区、九郎遺跡1～3区、大串遺跡1区、平畠遺跡、フルタ遺跡、大野遺跡1～7区について発掘作業を終了しており、調査報告書を4集刊行している。

表1 嘉瀬川ダム水没地区周辺の遺跡

番号	遺跡名	略号	対象面積（m ² ）	遺跡の時代	遺跡の種類	番号	遺跡名	略号	対象面積（m ² ）	遺跡の時代	遺跡の種類
①	東畠瀬遺跡	HIT	121,300	縄文～近世	集落・城郭・墓地	※	フルタ遺跡	FRT	26,600	縄文～近世	集落
②	畠瀬城跡	HTJ	12,800	中世～近世	城郭・墓地	※	小ヶ倉遺跡	KKA	47,000	旧石器～近世	集落
③	西畠瀬遺跡	NHT	58,800	縄文～近世	集落	※	地蔵平遺跡	JZD	20,000	旧石器～縄文	集落
④	垣ノ内遺跡	RNU	21,000	弥生～古墳	集落	※	平畠遺跡	HBT	13,000	縄文～近世	集落
⑤	九郎遺跡	KRO	17,950	旧石器～近世	集落	※	音無丘窯跡	OTN	1,500	近世	生産遺跡
⑥	大串遺跡	OOK	3,000	中世	集落	※	入道遺跡	NYD	400	旧石器～縄文	集落
⑦	大野遺跡	OON	35,200	縄文～近世	集落・官衙						

本書で報告する東畠瀬遺跡の発掘調査は、2・4区を平成15年度、5区を平成16年度、6区を平成16年度（一部17年度に補足調査）、8区を平成17年度に実施した。

2区では時期不明の小穴、縄文時代と近世の遺物、4区では近世末～近代かと考えられる土坑や小穴、縄文土器と中世～近世の遺物をわずかに確認したにすぎない。

5区では石垣が残り、段状となっている南東部の平坦面を中心に調査を行ったが、竹林となっていた影響が大きく、石垣以外の明確な遺構は確認できなかった。遺物は江戸時代中期を中心とする陶磁器などが出土した。

6区では、ダム建設に伴う移転前に屋敷地として主に利用され、石垣などで造成された平坦面にまず試掘坑を設け、近代以前の遺構面が明確にとらえられる地区を中心に抵抗して面的な調査を行った。多くの平坦面では近現代の造成などによって近世以前の遺構面を把握することができなかつたが、6B区で中世と近世後期、6E区で近世後期以前、6F区で中世後期の遺構面や遺構を確認することができた。このうち、6F区で確認された戦国時代の居館跡は、戦国武将神代勝利の隠居所と推定されるもので、貴重な調査成果となった。他の地区においても、近世の遺物が多く出土しており、中世の遺物も一定量ある。なお、6区のうち6G（宗源院跡）・6S・6T区は次年度以降に報告予定である。

8区では、調査前から山城と認識されていた尾根部（8A区）を中心に調査を実施し、山城部分では人力により表土除去を行い、遺構の確認に努め、6F区の居館に付随する山城の内容を確認することができた。6F区南側の8B区では中世の遺構、6区南側の8C区では近世の遺構をわずかに確認ただけで、8区全体でも遺物の出土量は多くない。

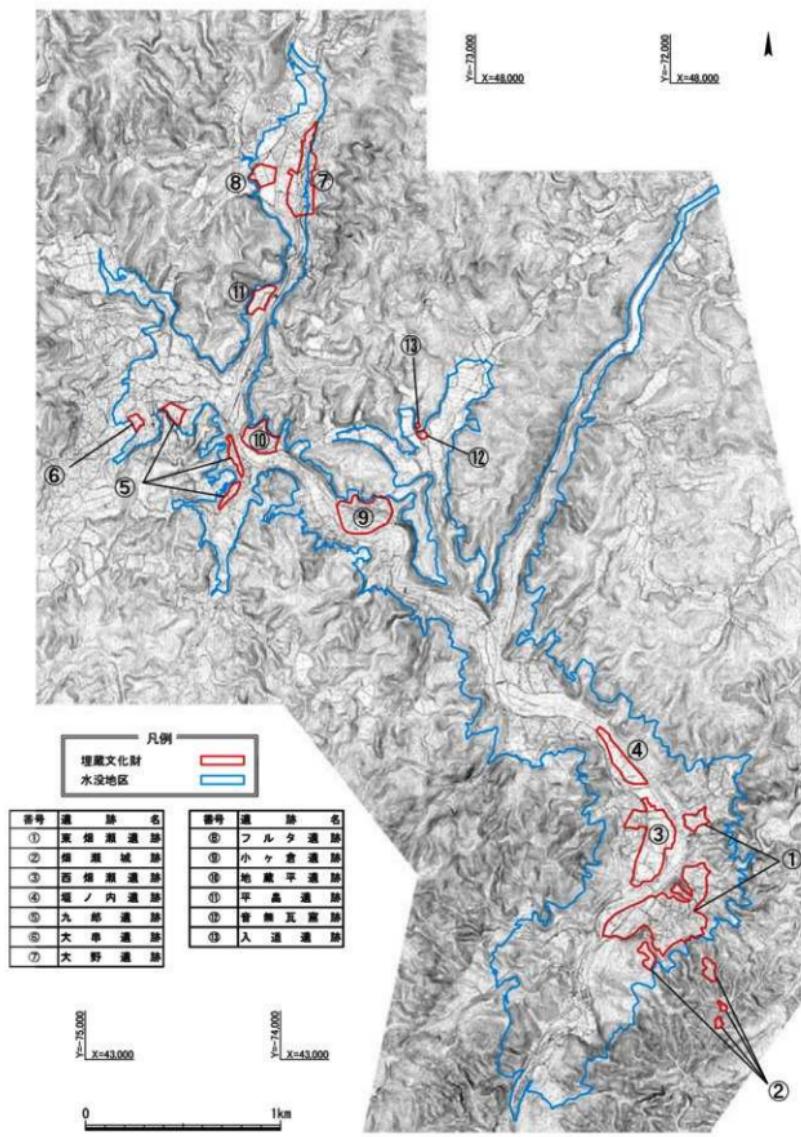


図1 嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区 (1/25,000)

調査の経過

8A 区の近世墓地については本格的な発掘調査を実施していないが、一部の墓石について拓本や写真などの記録を作成した。

東畠瀬遺跡 2 区

略号：HHT 2

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字閑屋字辻・田野々²⁵

調査対象面積：18,000m²

調査担当：樋口秀信・徳永貞紹・田中良輔（平成 15 年度）

東畠瀬遺跡 4 区

略号：HHT 4

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字閑屋字平²⁶

調査対象面積：8,000m²

調査担当：樋口秀信・田中良輔（平成 15 年度）

東畠瀬遺跡 5 区

略号：HHT 5

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字閑屋字鶴²⁷

調査対象面積：7,000m²

調査担当：樋口秀信・田中良輔（平成 16 年度）

東畠瀬遺跡 6 区（6A～6F・6H～6R 区）

略号：HHT 6

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字閑屋字鶴

調査対象面積：20,000m²

調査担当：樋口秀信・徳永貞紹・加藤吾郎・田中良輔・市田佳奈子（平成 16 年度）

徳永貞紹・加藤吾郎・渋谷格・田中良輔・市田佳奈子（平成 17 年度）

東畠瀬遺跡 8 区

略号：HHT 8

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字閑屋字鶴

調査対象面積：14,000m²

調査担当：渋谷格・田中良輔（平成 17 年度）

なお、東畠瀬遺跡 5・6・8 区では、整理作業の途中で小地区名について表 2 のように変更している。

表 2 東畠瀬遺跡 5・6・8 区の地区名変更

地区名	旧地区名	地区名	旧地区名	地区名	旧地区名
5 A区	← 5-1区	6 D区	← 6-3 D区	6 N区	← 6-5 D区
5 B区	← 5-2区	6 E区	← 6-3 E区	6 O区	← 6-5 E区
5 C区	← 5-3区	6 F区	← 6-3 F区	6 P区	← 6-5 F区
5 D区	← 5-4区	6 H区	← 6-2 A区	6 Q区	← 6-1 A区
5 E区	← 5-5区	6 I区	← 6-2 B区	6 R区	← 6-1 B区
5 F区	← 5-6区	6 J区	← 6-2 C区	8 A区	← 8-1区
6 A区	← 6-3 A区	6 K区	← 6-5 A区	8 B区	← 8-2区
6 B区	← 6-3 B区	6 L区	← 6-5 B区	8 C区	← 8-3区
6 C区	← 6-3 C区	6 M区	← 6-5 C区		

烟瀬城跡2区の調査は平成17年度に、烟瀬城跡3区の調査は21年度に発掘作業を実施した。なお、平成16年度に富士町教育委員会（当時）が高圧線鉄塔移設に伴い調査を実施した地区を1区とした。

2区の調査は、調査区まで麓から山登りをしなければならないという困難を伴った。人力で尾根上を中心に表土を掘削したが、小穴を確認したのみで、山城に関連する明確な遺構を認識することはできなかった。

3区の調査は、近世以降の墓地改葬の後で行なわれたため、山城の痕跡を確認するには不利な条件であった。試掘坑での調査となったが、切岸、土塁の痕跡、山城に関わる可能性がある溝などを確認した。遺物は近世以降の墓地に伴うものが大多数であるが、中世の遺物もわずかではあるが出土した。

烟瀬城跡2区

略号：HTJ2

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字閑屋

調査対象面積：6,700m²

調査担当：田中良輔（平成17年度）

烟瀬城跡3区

略号：HTJ3

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字閑屋字鶴

調査対象面積：6,100m²

調査担当：吉田大輔・西野元勝（平成21年度）

調査記録や出土遺物の整理は発掘作業と並行して順次進めたが、本格的な報告書作成作業は平成20年度から着手し、平成21年度に本書を作成刊行した。

第1章参考・引用文献

嘉瀬川ダム環境検討委員会・国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所（2003）「嘉瀬川ダム事業における環境保全への取り組み」国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所

嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書—佐賀県佐賀郡富士町一』富士町教育委員会

富士町教育委員会（2005）『烟瀬城跡』富士町文化財調査報告書第4集

富士町史編さん委員会（2000）『富士町史』上・下巻富士町

第2章 位置と環境

1 地理的環境

嘉瀬川は、佐賀県と福岡県の分水嶺をなす脊振山地の金山に源を発し、山間部を流下して神水川、天河川、名屋川などの支流を合わせ、肥前国府や肥前國一宮河上神社のある山地を抜け、佐賀平野のほぼ中央を貫流して有明海に注ぐ。幹線流域延長 57km、流域面積 368km²の一級河川である。上流部には灌漑用水を主な目的とする北山ダムが昭和 32(1957)年に完成しているが、すぐ下流にあたる佐賀市富士町の中央部に多目的ダムとして建設中なのが、嘉瀬川ダムである。ダム予定地の下流には古湯温泉と熊の川温泉があり、県内外から多くの人が訪れている。

佐賀市富士町（旧佐賀郡富士町）は、佐賀県の北端部に位置し、北は県境の分水嶺を境に福岡県前原市・福岡市早良区と、東は佐賀市三瀬村（旧神埼郡三瀬村）・佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）と、西は唐津市七山・厳木町（旧東松浦郡七山村・嚴木町）と、南は天山山地の尾根筋で小城市小城町・多久市とそれぞれ接している。旧富士町役場、現在の佐賀市役所富士支所の位置で言うと、東經 130° 12' 03"、北緯 33° 22' 58" に位置し、東西 10 km、南北 17 km、面積 143.25 km²である。気候は、温暖潤湿な佐賀県の中でも平均気温が低く、降水量が多い。山間部特有の日照時間の短さもあいまって冬季の寒さが厳しい地域である。

地勢は、福岡県との県境をなす脊振山地の東西脊梁のうち羽金山・雷山・井原山・金山の峰々を北に仰ぎ、南に脊振山地の一部でもある天山山地がそびえ、両山地の間は高原状の丘陵地・山地とその間を流れる河川により開拓された谷底平野・河岸段丘などからなる。西側には羽金山から龜岳を経て天山に連なる南北方向の分水界峰があり、これより東側が有明海に注ぐ嘉瀬川水系、西側が玄界灘に注ぐ玉島川・松浦川水系となっている。佐賀市富士町地域は、東側の佐賀市三瀬村や更に東側の神埼郡脊振町（旧神埼郡脊振村）と大小の谷や峠を介して連続しており、このような一體的な地勢の特徴が、「山内」という独自の地域圏を育んできた。

表層地質は中世白亜紀に生成した花崗岩類を主体とし、雷山や天山周辺に局地的に三郡変成岩の塩基性深成岩類及び蛇紋岩と結晶片岩類が分布する。土壤は、南北の大起伏山地は礫質・粗砂質であるが、中央部の小起伏山地・丘陵地では風化が進んでやや粘土質の土壤に覆われている。山麓部や斜面には礫質・中粗粒の黄色土壤、河川沿いの谷底平野に中粗粒の黄色土壤や礫質・中粗粒・細粒の灰色低地土壤などが分布する。また、嘉瀬川上流域の北山ダム（北山湖）を中心とする一帯には北山層と名付けられた泥炭層を挟む湖成層が分布していて、第四期更新世末期頃に存在した「古北山湖」の湖底に堆積したものと考えられている。

旧富士町域の 8 割以上が森林で、更にその 8 割以上がスギ・ヒノキの人工林である。人工林以外の植生は、ほとんど常緑広葉樹林帯に属するが、標高 900 m 級の南北山地の山頂部近くには夏緑広葉樹林帯が僅かに認められる。動物相は、大型哺乳類ではイノシシ、キツネ、ニホンザル、タヌキ、アナグマ、イタチ、ノウサギ、テンなどが生息し、ニホンザルやキツネは減少傾向にあるが、イノシシは近年急増しており、発掘調査中にも遭遇することがある。鳥類では主な留鳥として大小のサギ類、キジ、コジュケイ、キジバト、カワセミ、ヤマセミなどが見られ、国指定天然記念物のカササギ（カチガラス）は古湯地区より上流部には生息しておらず、嘉瀬川ダム地区内では確認されない。

2 歴史的環境

本地域の歴史的環境全般については、『富士町史』などを参照していただくとして、ここでは近年の遺跡調査により急速に充実してきた考古学的な所見を中心に概述する。

旧石器時代の遺跡は、地城平遺跡（10）、小ヶ倉遺跡（9）、九郎遺跡（5）などでナイフ形石器などの示準石器

が出土している。このうち平成 18 年度から発掘調査を継続している地蔵平遺跡では、部分的に始良 T n テフラ (A T) の堆積層が良好な状態で検出され、その堆積層の上下から多様な石器が出土しており、今後の調査や分析により多くの成果が期待される。

縄文時代の遺跡として知られる箇所は非常に多く、近年の発掘調査で縄文時代各時期の遺物が堅穴住居や竪窓などの遺構と共に検出され、遺跡の内容が明らかになりつつある。嘉瀬川ダム建設に伴う調査に限っても、早期前葉の資料として、小ヶ倉遺跡で円筒形刺突文・押引文土器や石槍が出土しているほか、入道遺跡（13）で集石炉^{ひつせきろ}と刺突文土器を検出している。早期中葉では、九郎遺跡、平高遺跡（11）、埴ノ内遺跡（4）などで稲荷山式～田村式期の遺物が出土している。早期後葉では、九郎遺跡や西畠瀬遺跡（3）で塞ノ神 A 式・B 式・轟 A 式系土器などが出土しており、西畠瀬遺跡では地床炉^{じちゆら}と思われる焼土遺構と焼廻集積遺構が検出されている。前期では九郎遺跡や西畠瀬遺跡で轟 B 式・西唐津式・曾畠式土器があり、西畠瀬遺跡では鬼界アカホヤテフラ（K-A h）を含む層が部分的ではあるが広がっていて、下層から塞ノ神 B 式・轟 A 式期、上層から轟 B 式・曾畠式期の遺構・遺物が確認されている。中期の資料はやや少ないが、九郎遺跡、西畠瀬遺跡で船元式・春日式・阿高式系土器が出土している。後期初頭では東畠瀬遺跡（1）で坂ノ下式土器、少量ではあるが西畠瀬遺跡から中津式系土器が出土している。後期中葉～後葉では、西畠瀬遺跡で鐘崎式期頃の遺物集中部から石製垂飾が出土し、大野遺跡（7）では三万田式期の集落で堅穴住居などの遺構を検出している。晚期では、東畠瀬遺跡で縄文時代後期末～弥生時代前中期まで集落が断続的に営まれている。

縄文時代と比べると、当地域における弥生時代から平安時代までの様相を知る手がかりは非常に少ない。標高が高く寒冷地であるこの地域では水稻耕作を基盤とする生活が成り立ちにくかったようで、この時期の遺跡数は極端に減少している。近年の埋蔵文化財調査の進展によって、西畠瀬遺跡や東畠瀬遺跡、垣ノ内遺跡などで断片的に遺構・遺物が確認され、ようやく山間部の弥生時代～古代の様相が少しづつ知られるようになってきた。

弥生時代では、東畠瀬遺跡で弥生時代前期の堅穴住居らしき遺構が検出されているが、弥生時代特有の大陸系磨製石器は検出されておらず、縄文時代的な生活が続いているようである。西畠瀬遺跡では中期の土器埋納遺構や後期の小兒喪棺墓が検出されており、1 点ずつではあるが石包丁（磨製錐摘具）・磨製石斧も見つかっている。

古墳時代では、古墳はもちろん堅穴住居などを伴う集落の広がりも確認されていないが、同時代の土器は発掘調査や採集資料で散見される。西畠瀬遺跡では完形の土師器甕と土師器高杯の杯部 2 点を埋納した何らかの祭祀に関わる小穴が発見され、垣ノ内遺跡でも土師器甕などが出土しており、大野遺跡では土坑が確認されている。

律令制下の当地域は肥前国佐嘉郡の範囲であったと思われ、嘉瀬川治いの脊振山間部と佐賀平野部との結節点に肥前国府が置かれていることを考えると、嘉瀬川流域も律令国家の関心外であったとは思えないが、具体的な様相を知る史料はなく、遺跡にもして内野遺跡で平安時代前期頃の土師器・西畠瀬遺跡で越州窯系青磁碗や須恵器等の平安時代前半期に遡る遺物が数点出土している程度である。

古代末以降においても、富士町域の各所がどの莊園公領に含まれていたかを示すことが難しいが、少なくとも肥前安富荘領があつたことは史料上で確認できる。南北朝初期の暦応 2 (1339) 年 4 月 25 日石志定阿讓状案（石志氏家文書）は中世前期の富士町域を知る貴重な史料で、松浦党一族の石志氏が恩賞として配分された所領を子孫に伝えたものであるが、その中に「安富庄内畠瀬村、同村内火桶」と「安富庄畠瀬村内上於副河」が記されている。肥前安富庄に関する記述は宮武（1991）に詳しいが、佐賀郡一帯に散在的に散らばる莊園のうち、富士町畠瀬・上小川村、佐賀市大和町東山田・佐保・久留間、佐賀市久保田町北部で確認される遺称地については嘉瀬川流域に分布している点が注目される。古代末～中世前期の遺跡としては、東畠瀬遺跡、西畠瀬遺跡、九郎遺跡、大野遺跡、中原遺跡で屋敷地などの遺構が見つかっていて、特に東畠瀬・西畠瀬遺跡の屋敷地は安富荘畠瀬村との関連で重要である。また、中原遺跡では土師器器・皿を 40 点ほど集積した遺構が検出されている。

安富畠瀬の名は、近世初期まで鍋島直茂所領目録（杜家文書）の「安富畠瀬山」や東畠瀬宗源院半鐘銘の「佐賀郡安富庄畠瀬山」などで確認できるが、中世後期には畠瀬、栗並、藤瀬、菖蒲、等々の山内の各地を名字とする在地

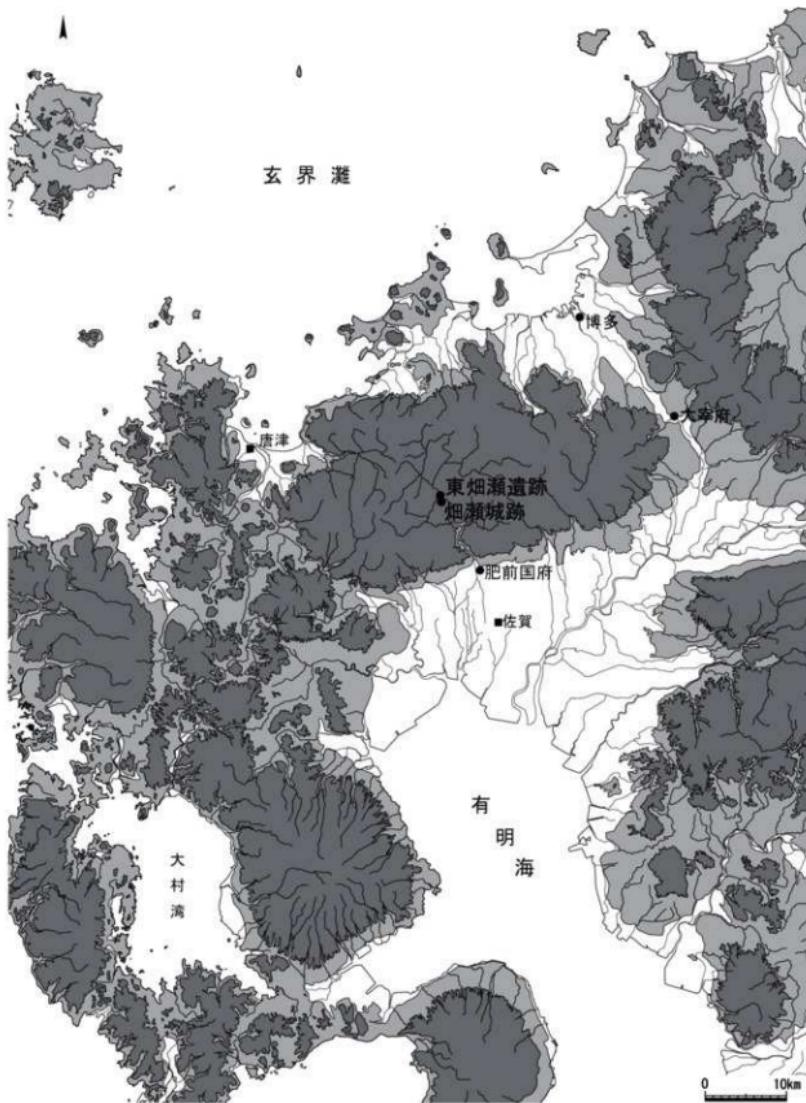


図2 東畠瀬遺跡・畠瀬城跡の位置 (1/600,000)

遺跡の位置と環境

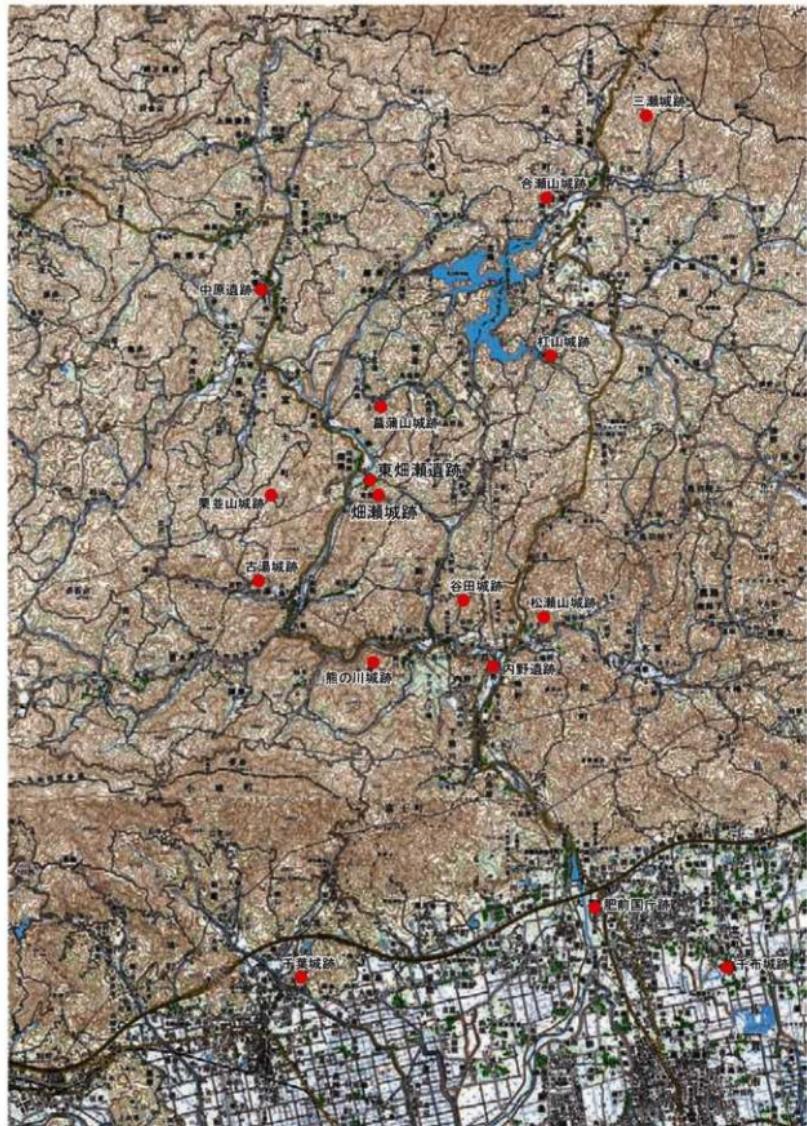


図3 嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡 (1/100,000)

国土地理院の数値地図 50,000 (地図画像)『佐賀・長崎』を使用

勢力の台頭によって、荘園としては実態の伴わないものへ変化していったものと思われる。大串遺跡（6）では14～15世紀代の在地有力者層に関わると考えられる遺構群が見つかっており、平畠遺跡でも中世後期の屋敷地が検出されている。

戦国期に至ると、神代勝利が各地に割拠した小領主をまとめあげて山内を統一し、佐賀市三瀬村三瀬城を本城として佐賀の龍造寺信と朝を競った。勝利は富士町域にも谷田城、熊川城などを構え、永禄7（1564）年に隠居所として畠瀬城を築いたとされる。戦国期の城館については近年の中近世城館跡分布調査によって、山内では三瀬城の規模が際立って大きく、それ以外の在地領主のものと考えられる山城は規模・構造とも簡素なものが多いこと、個々の集落単位で領主居館跡、詰城、領主の墓址、菩提寺、氏神がセットで残っている例が数多く確認できることなど、この地域の独自性が徐々に明らかになりつつある。東畠瀬地区では、勝利が築いた畠瀬城に比定される城郭遺構について、山頂部の一部の調査（富士町教委2005）を含め、隠居所と推定される山麓部の土塁を作った居館跡、それに付随する山城などの調査によって、総体としての畠瀬城の実態が明確に捉えられるようになってきている（本書）。

勝利の嫡子長良は龍造寺氏と和睦し、龍造寺氏の重臣で鍋島藩祖となる鍋島直茂の甥を養子に迎えた。神代氏は小城芦刈、更に佐賀川久保へと転封されたが、川久保邑主として1万石の大身を保持した。山内は鍋島氏の所管となつたが、元和3（1617）年的小城鍋島家（小城支藩）創設にあたって畠瀬川以西の地域が分け与えられた。これ以後、明治維新を迎えるまで、それぞれ佐賀山内、小城山内として郷村支配が続いた。佐賀山内郷では松瀬三反田に、小城山内郷では大野に代官所が設置された。このうち大野地区に現存する大野代官所の遺構は江戸時代後期のものであるが、その設置時期や詳しい経緯についてはよく判っていない。城郭を思わせる本格的な石垣造りの遺構であり、單に一支藩が山間部の経営のために設けた代官所としては破格の規模であり、隣藩との国境に近い軍事上の重要地であることが、その背景として想定される。隣接する大野遺跡では近世初期の役所的施設とみられる建物群が検出されており、大野代官所の前身のような施設であった可能性がある。東畠瀬遺跡では神代勝利の菩提寺である宗源院跡で近世から現代までの寺院跡が4面重複して確認され、付属する宗源院墓地では多数の近世墓が調査されている。また、集落部の調査によって近世の開発の様相が明らかになりつつある（本書）。

明治維新の後、伊万里県の設置や長崎県への統合などの糾糾曲折を経て、明治16（1883）年に現在の佐賀県が成立した。これに先立つ明治11（1878）年の郡区町村編成法により、富士町域にあたる範囲では、佐賀郡小原川村、小原川村の2ヶ村、小城郡鎌原村、草木村、市川村、杉山村、大串村、栗並村、大野村、中原村、麻那古村、かみむら、下無津呂村、上合瀬村、下合瀬村、古場村、藤瀬村、畠瀬村、古湯村、上熊川村、内野村、下熊川村の20ヶ村が行政単位となっていたが、明治22（1889）年の市制町村制により上記の各村は佐賀郡小原村と小城郡北山村・南山村の3村に統合され、旧村名は大字として残ることになった。

昭和31（1956）年には佐賀郡小原村と小城郡北山村・南山村の3村が対等合併して富士村となり、昭和41（1966）年10月1日の町制施行により佐賀郡富士町となった。その39年後にあたる平成17（2005）年10月1日に、佐賀市・佐賀郡大和町・同郡諸富町・神崎郡三瀬村と対等合併して佐賀市富士町となった。なお、佐賀市は平成19年10月1日に、佐賀郡川副町・東与賀町・久保田町を編入合併している。

第2章 参考・引用文献

- 畠瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）「畠瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書」富士町教育委員会
- 佐賀県企画室（1979）「土地分類基本調査 沢崎」
- 佐賀県教育委員会（1997）「佐賀県の地質鉱物」佐賀県文化財調査報告書第134集
- 佐賀県教育委員会（1964）「佐賀県の遺跡」佐賀県文化財調査報告書第13集
- 佐賀県教育委員会（2007）「東畠瀬遺跡1・大野遺跡」佐賀県文化財調査報告書第170集
- 佐賀県教育委員会（2008）「西畠瀬遺跡1」佐賀県文化財調査報告書第176集
- 佐賀県教育委員会（2009）「西畠瀬遺跡2・大串遺跡」佐賀県文化財調査報告書第180集

遺跡の位置と環境

- 佐賀県教育庁文化財課（1997）「九郎遺跡 1 区」『佐賀県文化財年報 2』
佐賀県教育庁文化財課（1998）「大野遺跡（1 区）」『佐賀県文化財年報 3』
佐賀県教育庁文化課（2003）「大木遺跡（1 区）」『佐賀県文化財年報 8』
佐賀県教育庁文化課（2005a）「西烟瀬遺跡（4 区）」『佐賀県文化財年報 10』
佐賀県教育庁文化課（2005b）「西烟瀬遺跡（5 区）」『佐賀県文化財年報 10』
佐賀県教育庁文化課（2006a）「東烟瀬遺跡（5・6・7 区）」『佐賀県文化財年報 11』
佐賀県教育庁文化課（2006b）「西烟瀬遺跡（5 区）」『佐賀県文化財年報 11』
佐賀県教育庁文化課（2007a）「西烟瀬遺跡（6・7・8 区）」『佐賀県文化財年報 12』
佐賀県教育庁文化課（2007b）「東烟瀬遺跡（8 区）」『佐賀県文化財年報 12』
佐賀県教育庁文化課（2007c）「増瀬城跡（2 区）」『佐賀県文化財年報 12』
佐賀県教育庁文化課（2007d）「大野遺跡（4 区）」『佐賀県文化財年報 12』
佐賀県教育庁文化課（2008a）「地藏平遺跡（1 区）」『佐賀県文化財年報 13』
佐賀県教育庁文化課（2008b）「小ヶ倉遺跡」『佐賀県文化財年報 13』
佐賀県教育庁文化課（2008c）「九郎遺跡（1 区）」『佐賀県文化財年報 13』
佐賀県教育庁文化課（2008d）「九郎遺跡（2 区）」『佐賀県文化財年報 13』
佐賀県教育庁文化課（2008e）「九郎遺跡（3 区）」『佐賀県文化財年報 13』
佐賀県立図書館（1986）『佐賀県史料集成 吉文書編』第 27巻
佐賀市教育委員会（2007a）「大井遺跡」佐賀市埋蔵文化財調査報告書第 16 集
佐賀市教育委員会（2007b）「中原遺跡—2・3 区の調査—」佐賀市埋蔵文化財調査報告書第 19 集
全国神代ゆかりの会（1980）『神代家伝記』『神代家とその一族』1 号
富士町教育委員会（2003a）「富士町内遺跡発掘調査報告書 平成 7 年度～13 年度」富士町文化財調査報告書第 2 集
富士町教育委員会（2003b）「中原遺跡 1 区」富士町文化財調査報告書第 3 集
富士町教育委員会（2005）「須瀬城跡」富士町文化財調査報告書第 4 集
富士町誌編さん委員会（1968）『富士町誌』富士町教育委員会
富士町史編纂委員会（2000）『富士町史』上巻・下巻 富士町
三瀬村誌編纂委員会（1977）『三瀬村誌』三瀬村
宮武正登（1991）「本村遺跡をめぐる中世世界—安富庄内村落としての位置付け—」『本村遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 102 集 佐賀県教育委員会

第3章 東畠瀬遺跡 2・4・5・6・8区

第3章 東畠瀬遺跡 2・4・5・6・8区

1 東畠瀬遺跡 2・4・5・6・8区の概要

東畠瀬遺跡は、佐賀県佐賀市富士町大字閑屋字鶴・辻・田野々・平・川向に所在する（図3-1）。2区が字辻・田野々、4区が字平、5・6・8区が字鶴である。

東畠瀬地区は、嘉瀬川中流域の左岸に位置し、ダム建設に伴い全戸移転するまで北西向きの山麓部斜面一帯に集落が展開していた。当地には山内を代表する戦国武将である神代勝利が隠居所とした畠瀬城があったとされ、勝利の墓や菩提寺である宗源院がある。嘉瀬川を挟んだ対岸には西畠瀬地区があり、東西の畠瀬地区は、藩政期には東畠瀬が佐賀本藩領、西畠瀬が小城鍋島家（小城支藩）領に属し、昭和31（1956）年に旧富士村として合併するまで佐賀郡小閑村と小城郡南山村に分かれていた。現在は国道323号線が嘉瀬川に沿って古湯地区から西畠瀬に向かっているが、近世以前の基幹道は小副川地区で一旦嘉瀬川沿いから外れ、上小副川まで北上した後、西に向かい峰を越えて東畠瀬に入り、嘉瀬川を渡って西畠瀬に至るという経路であったことが、『正保四年肥前一国絵図』などからも読み取れる。これは、小副川地区から畠瀬地区にかけてのほとんど平坦地のない深い渓谷をなしている部分を避けるためと推測される。

東畠瀬遺跡では、嘉瀬川ダム建設事業に伴い発掘調査を実施し、現地調査は平成21年度で終了しており、縄文時代～弥生時代の集落跡・遺物包含層、中世の集落跡・城館跡、近世の寺院跡・集落跡などを確認している。このうち、1区上層で中世前期の屋敷地、下層で縄文時代晚期～弥生時代前期の遺構・遺物、3区で中世～近世の神社跡などが既に報告されている。

今回報告する2・4・5・6（6A～6F・6H～6R）・8区は、大部分が屋敷地や田畠として利用されていた標高250～280mの斜面地で、一部尾根部（標高285～290m）を含んでいる。当該地区では、縄文時代の遺物、中世～近世の遺構と遺物を確認した。

縄文時代の遺物は、各区から点々と確認され、2区では押型文土器や石器、4区では縄文土器細片、5区では石礫、6区では石器などが出土しており、縄文時代の人々の行動範囲が伺える。なお、6区の石器については、次年度以降報告予定である。

中世の遺構は、6B区下層で土坑、石列、小穴、6F区で掘立柱建物、柵列、土塁など、8A区で山城関連の遺構、8B区で掘立柱建物などがあり、遺物は6区を中心に各区で出土したが、全体的には中世の様相が明確になった部分は少ない。6B区下層の状況やその周辺の遺物から、当該地区は南北朝期から本格的に開発されるようになったと推定される。戦国時代では、6F区で北西に向って開く谷部に立地する居館跡全体を調査し、土塁で防御された館の内容が明らかとなった。また、8A区ではこの居館に付随する山城が確認され、これらが一体となり、城館を構成していたものと考えられる。出土遺物などの状況と合わせると、神代勝利が隠居所とした畠瀬城の館部分に当たると推測され、山内地域の領主クラスの居住空間を知る上で重要な調査となった。このため、本書では6F区と8区を同じ節で説明することとした。

近世の遺構・遺物は、各区で確認されているが、山崩れなどの影響や後世の開発、植物などの擾乱により、建物跡などが検出できた地区はなく、時期を特定できる遺構も少なく、遺跡の内容を詳細に確認できた地区は限られる。遺構や遺物から、2・4区は主に田畠として、5区は江戸時代中期の一時期に屋敷地として利用されていたものと考えられる。6区は江戸時代初期に集落が営まれ始めるようだが、開発が盛んになるのは19世紀代で、8区の一部には近世以降の墓地が展開していた。

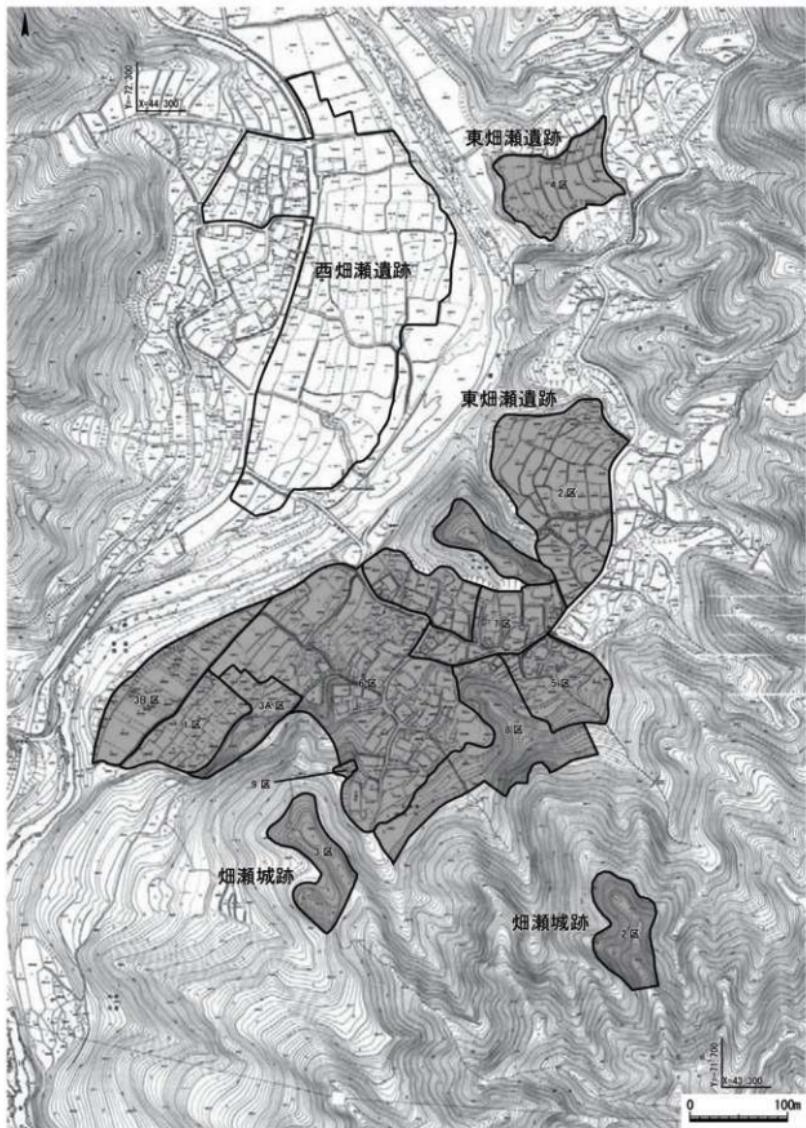


図4 東畠瀬遺跡周辺の地形 (1/5,000)

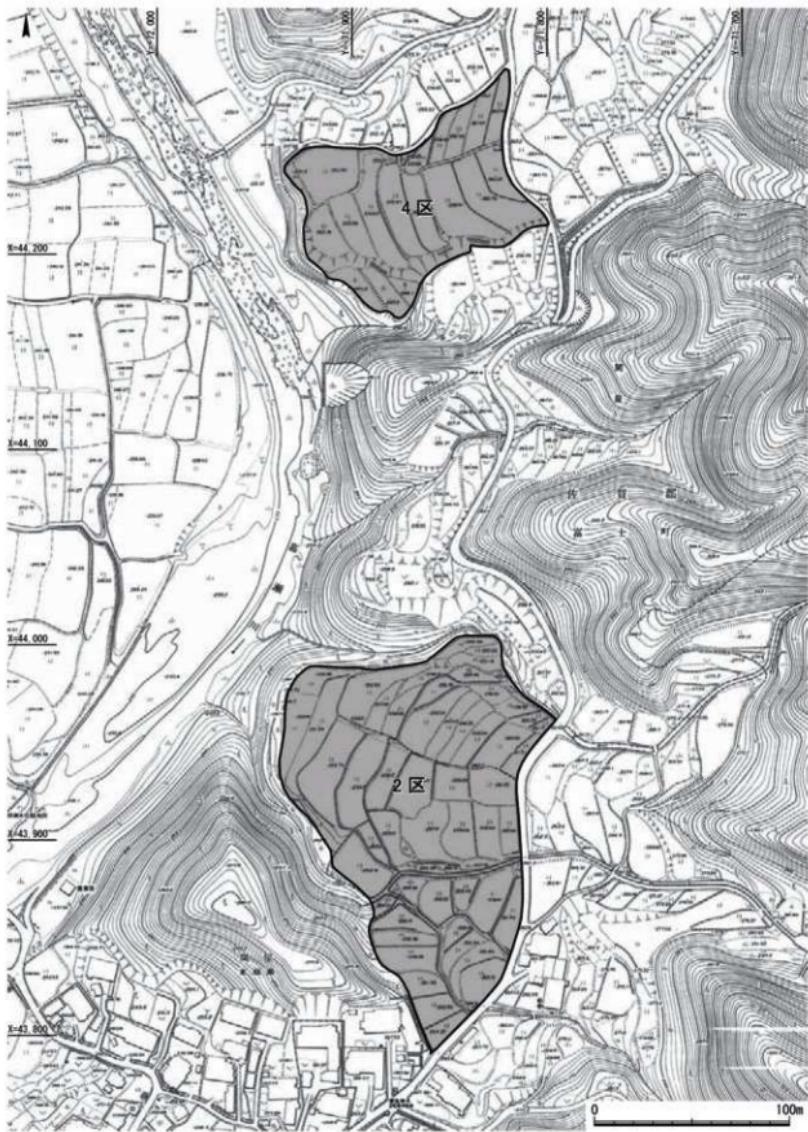


図5 東畠瀬遺跡 2・4区の位置 (1/2,500)



図6 東堀瀬遺跡5・6・8区の位置 (1/2,000)

2 2・5区の遺構と遺物

1) 2区の遺構と遺物

2区では、遺構として時期不明の小穴を確認したにすぎず、遺物として縄文土器、中近世の土師器、青磁、染付磁器、石器などが少量出土した。

2区縄文時代の出土遺物（図7）

1～3は縄文土器で、1は内外面ナデ、2は外面に押型文が施され、3は外面に浅い沈線状のものが確認できるが、文様かどうかは不明である。4は石鏃、5は石核で、いずれも無斑品質安山岩製である。嘉瀬川対岸の西烟瀬遺跡では、縄文時代早期中葉以降のほぼ全時期にわたって遺構・遺物が確認されており、当時の人々の活動範囲が対岸の東烟瀬地区まで及んでいたものと思われる。

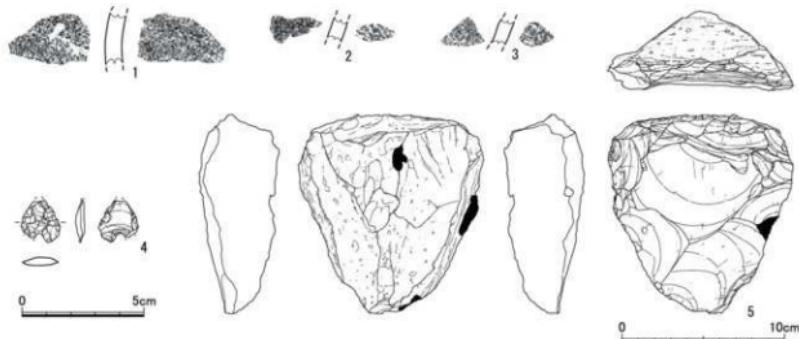


図7 2区縄文時代の遺物（1/3・1/2）

表3 東烟瀬遺跡 2区の出土遺物

辨別番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調 / 石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ			
図7-1 06001978	表探	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐		写真図版 5-1 20101708
図7-2 06001979	表探	縄文土器 深鉢	-	-	-	明褐	横円文	写真図版 5-2 20101709
図7-3 06001980	表探	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：に深い黄褐		写真図版 5-3 20101710
図7-4 06001982	表探	石器 石鏃	1.7	1.6	0.4	安山岩	先端、片側基部欠損	写真図版 5-4 20101711
図7-5 06001981	表探	石器 石核	12.3	11.5	4.9	安山岩	ほぼ完形	写真図版 5-5 20101712

2) 5区の遺構と遺物

5区では、石垣により造成された段状の区画が確認できるが、調査時点で竹林となっていた影響などで、石垣以外の明確な遺構については確認できなかった。ただ、江戸時代の遺物が一定量出土していることから、出土量が多かった5C・5F区を中心に屋敷地として利用されていた可能性が高い。石垣については、これらの小区画の周辺のもののみ図示した(図9)。遺物は、近世のものが大部分を占めるが、中世に遡るものも少量ある。

5区中世の出土遺物(図10)

6・7は白磁である。6は皿か小碗で、内面見込みの軸を蛇の目状に搔き取っており、7は森田D群の皿である。8・9は竜泉窯系青磁碗で、8は外面無文、内面を区画するI-4b類、9は線描蓮弁文が施される上田B IV類である。10は竜泉窯系青磁皿で、全面に施釉されているが、内面見込みは軸を輪状に搔き取っている可能性がある。11は朝鮮王朝期の灰青陶器皿である。12・13は景德鎮窯系青花で、12は小野皿C群、13は小野碗C群である。14は須恵器系陶器の擂鉢と思われる。31は福建系青花皿で、内面見込みの軸を搔き取っている。

5B区近世の出土遺物(図10)

15は肥前陶器灯火具で、口縁部に油煤が付着している。16は陶器蓋、17は福岡系と思われる陶器擂鉢で、鉄軸が施される。18・19は肥前陶器擂鉢で、高台が付き全面に施釉されるタイプである。20は陶器土瓶で、鉄軸が施される。21は肥前陶器瓶、22は福岡系と思われる陶器壺で、灰軸に薙灰軸を流し掛けている。23は陶器鉢で、灰軸を施している。24・25は肥前陶器壺で、24の口縁上面には目跡が残る。

26は肥前白磁の合子身である。27は肥前染付磁器小杯で、2次的な被熱を受ける。28・29・32は肥前染付磁器碗で、32は2次的な被熱を受け、文様がほとんど読み取れない。30は肥前染付磁器皿で、内面見込みにコンニャク印判があるものと思われる。33は肥前染付磁器瓶である。33は陶胎染付で、底部に穴があることから植木鉢であろうか。

34は土師器鍋、35は瓦質土器鍋で、いずれも外面に煤が付着している。

5C区近世の出土遺物(図11・12)

36～38は肥前陶器皿で、37・38は内面見込みを蛇の目軸剥ぎしている。39は陶器瓶で、灰軸に薙灰軸を流し掛けている。40は陶器土瓶で、外面に煤が付着している。41は肥前陶器で、瓶と思われる。42は陶器壺、43は肥前陶器甕である。44は陶器瓶で、鉄軸に暗青色の軸を流し掛けている。45は肥前陶器鉢で、白土で波状に装飾する刷毛目である。46～49は肥前陶器擂鉢で、46～48は平底で口縁部のみに施釉されるタイプ、49は高台が付き全面に施釉されるタイプである。

50～57は肥前染付磁器碗である。50・51は小碗、52～57は丸形碗で、50・57は2次的な被熱を受ける。58は陶器碗である。59は肥前青磁瓶で、頸部に1対の装飾が付く。60は肥前白磁合子身、61は肥前染付磁器猪口である。62～67は肥前染付磁器皿である。62・65～67は内面見込みに五弁花文のコンニャク印判が施され、63は蛇の目凹形高台である。68は肥前染付磁器瓶である。

69は瓦質土器火鉢で、外面に印刻文が施される。70は土師器焰烙の把手である。71は底部糸切の土師器杯で、中世の可能性が高い。72は瓦質土器火鉢と思われ、図示していないが外面に梅花の印刻文が施される。

5D区近世の出土遺物(図12)

73は肥前陶器擂鉢で、口縁部のみに施釉するタイプである。74は肥前陶器甕で、口縁上面に目跡が残る。75は白磁と思われる碗で、高台に別個体の口縁部が熔着している。76は肥前白磁紅皿、77・78は肥前染付磁器で、77

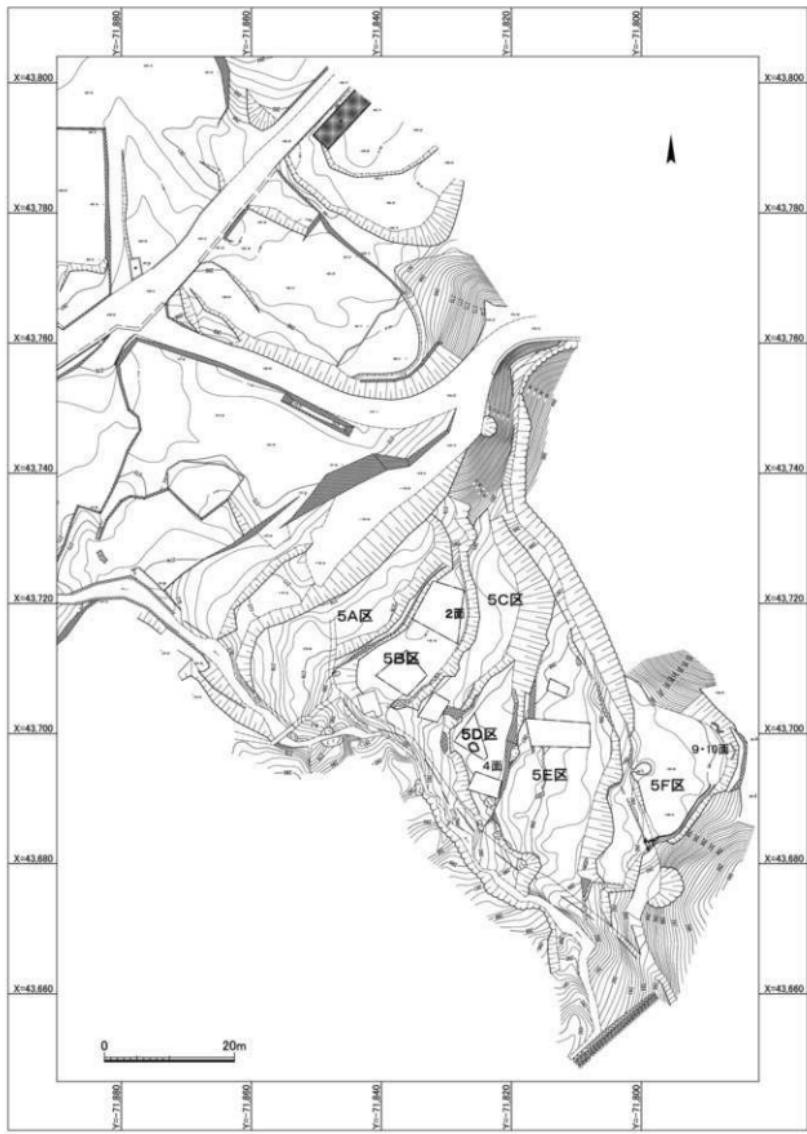


図 8 5区の地形 (1/750)

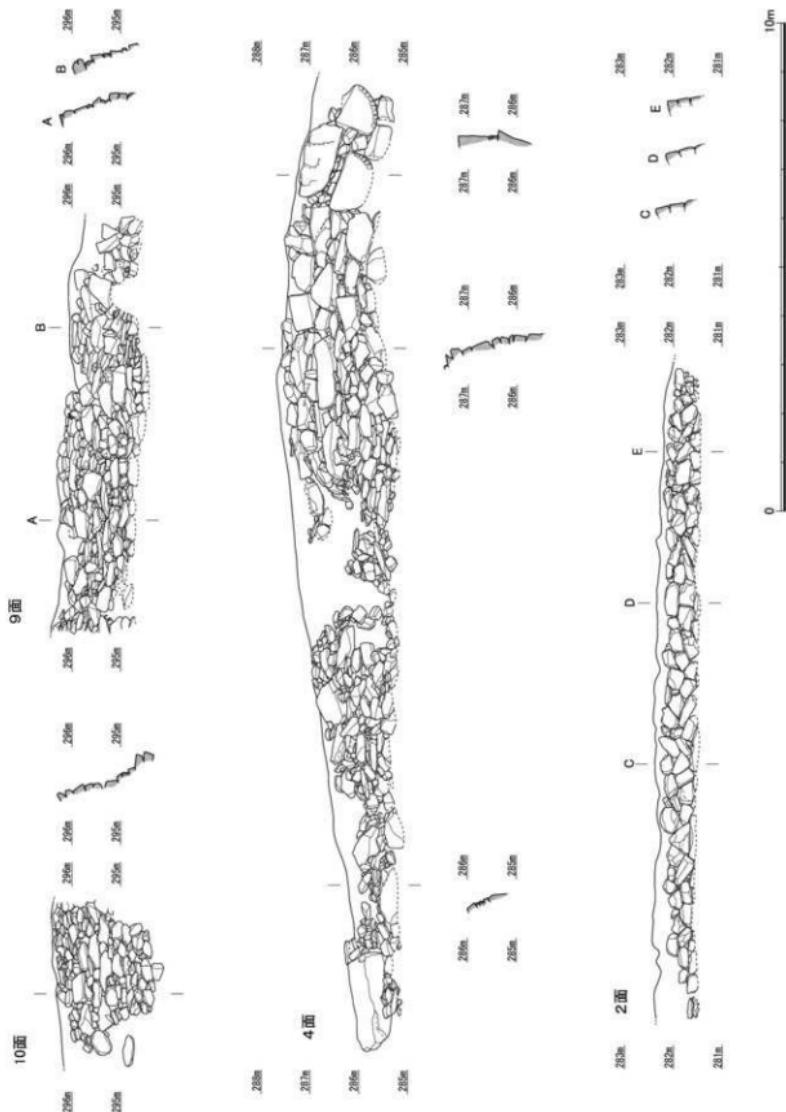


図9 5区の石垣 (1/100)

は丸形碗、78 は猪口である。79 は瓦質土器鍋である。

5E 区近世の出土遺物（図 13）

80 は肥前陶器碗で、内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。81 は肥前陶器擂鉢で、口縁部のみに施釉されるタイプである。82 は陶器瓶で、薔薇灰釉を施している。83 は肥前染付磁器小碗である。84～86 は肥前染付磁器碗で、いずれも丸形碗である。87 は肥前白磁小碗、88 は肥前染付磁器皿、89 は肥前染付磁器瓶である。91 は瓦質土器鍋、92 は瓦質土器火入で、ともに外面に煤が付着している。

5F 区近世の出土遺物（図 13・14）

92・93 は肥前陶器碗である。92 は外面銅緑釉、内面透明釉が施される。93 は底部外面から高台内にかけ鉄錆を塗る。94 は陶器碗、95 は陶器花入である。96 は肥前陶器鉢で、白土で波状に装飾する刷毛目である。97 は肥前陶器擂鉢で、高台が付き全面に施釉されるタイプである。98 は肥前陶器土瓶で、内面は透明釉、外側は灰釉を施し、その上に鉄釉と銅緑釉で文様を描いている。110 は肥前陶器片口で、内底を蛇の目状に釉剥ぎしている。

99～104 は肥前染付磁器碗である。99 は広東形碗、100～104 は丸形碗で、103 はコンニャク印判で文様が施される。105～107 は肥前染付磁器皿である。105・107 は内面見込みに五弁花文のコンニャク印判が施され、106 は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。108 は肥前白磁紅皿、109 は肥前染付磁器瓶である。

111 は底部糸切の土師器小皿である。112・113 は瓦質土器鍋で、113 は口縁内面のハケメをナデ消している。114・115 は土師器焰硝の把手である。

5 区その他の出土遺物（図 15）

116・117 は陶器瓶で、鉄釉が施され、同一個体の可能性がある。118 は肥前陶器甕で、胴部に繩状突帯がめぐる。119・120 は肥前陶器皿で、120 は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。121 は肥前陶器甕で、口縁上面に目跡が残る。

122 は肥前白磁猪口である。123～128 は肥前染付磁器碗である。124 は胴部に別個体の口縁部が熔着しており、128 は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。129・130 は肥前染付磁器皿で、129 は内面見込みに五弁花文のコンニャク印判が施され、130 は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。

131 は縄文時代の黒曜岩製の石鏃である。

132・133 は石垣清掃時に出土した銅錢の寛永通寶である。134 は 5E 区出土の青銅製の簪である。135 は 5C 区出土のタイルで、裏面の刻印は「大正通」まで読み取れる。136 は砥石で、中砥と思われる。137 は性格不明の土製品で、平面馬蹄形の上面に把手状の隆起が付き、丁寧なミガキが施される。138 は白磁の人形、139 は土製の人形である。

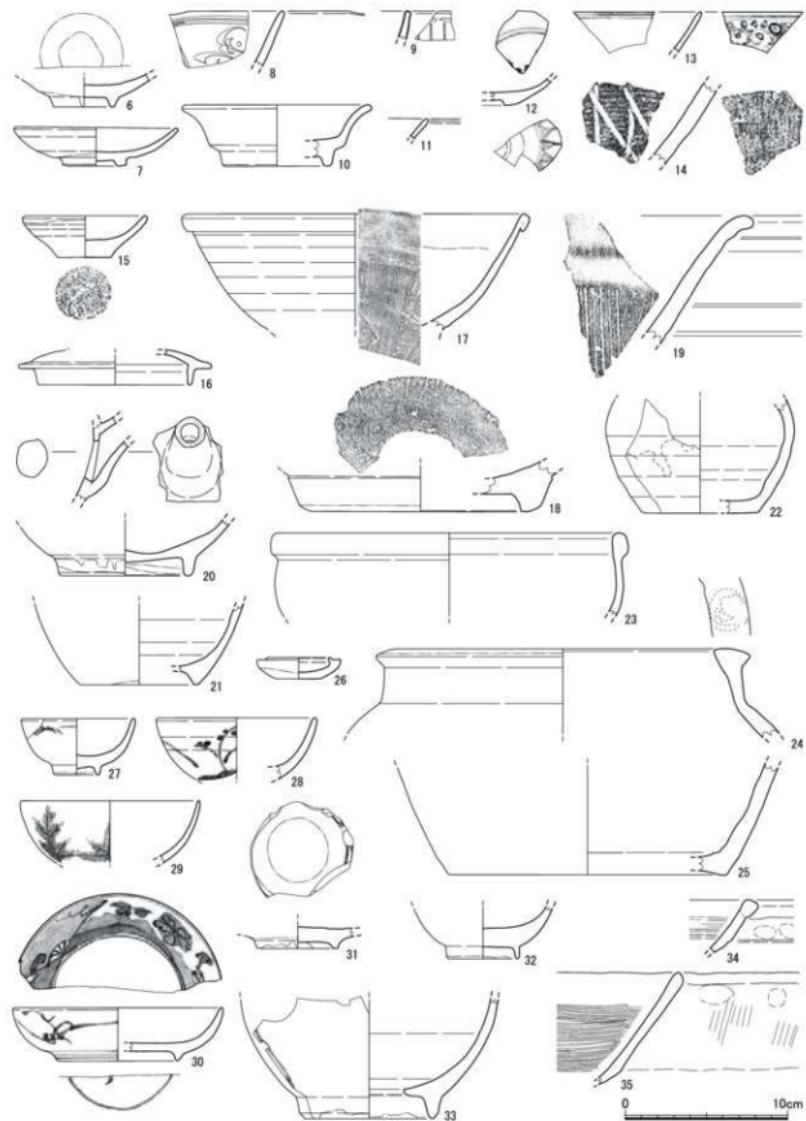


図 10 5区の出土遺物 1 (1/3)

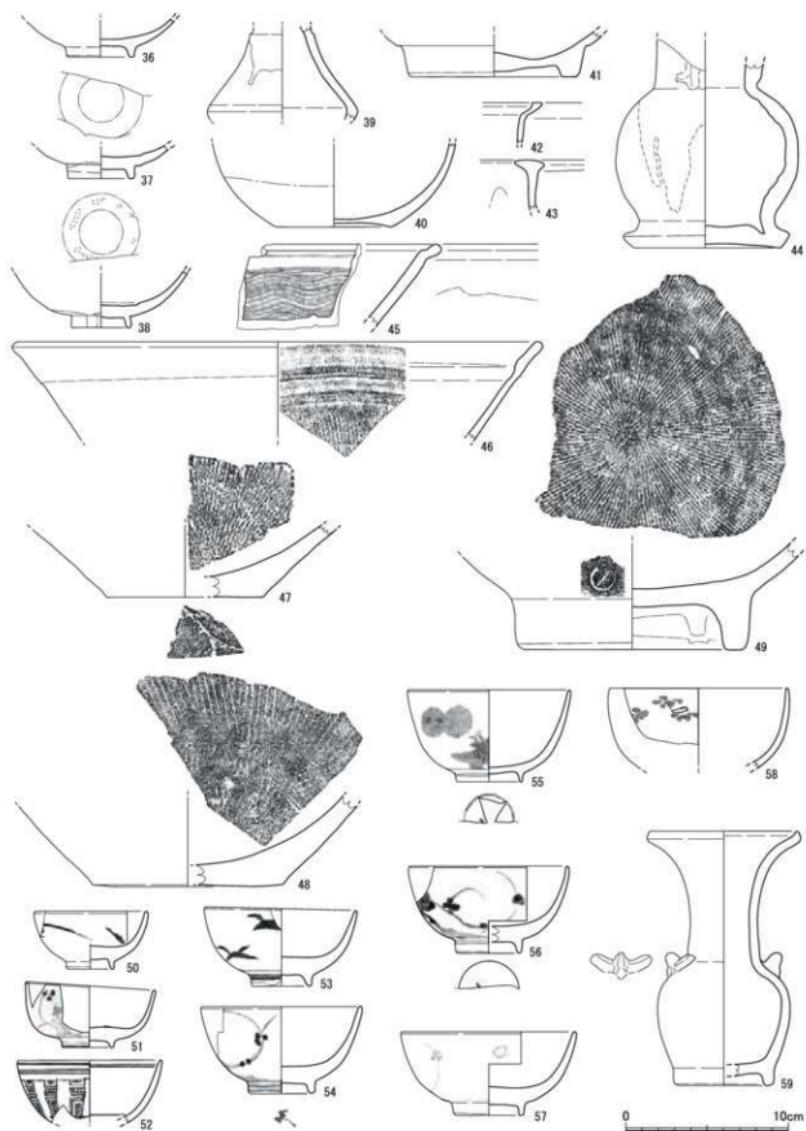


図 11 5区の出土遺物 2 (1/3)

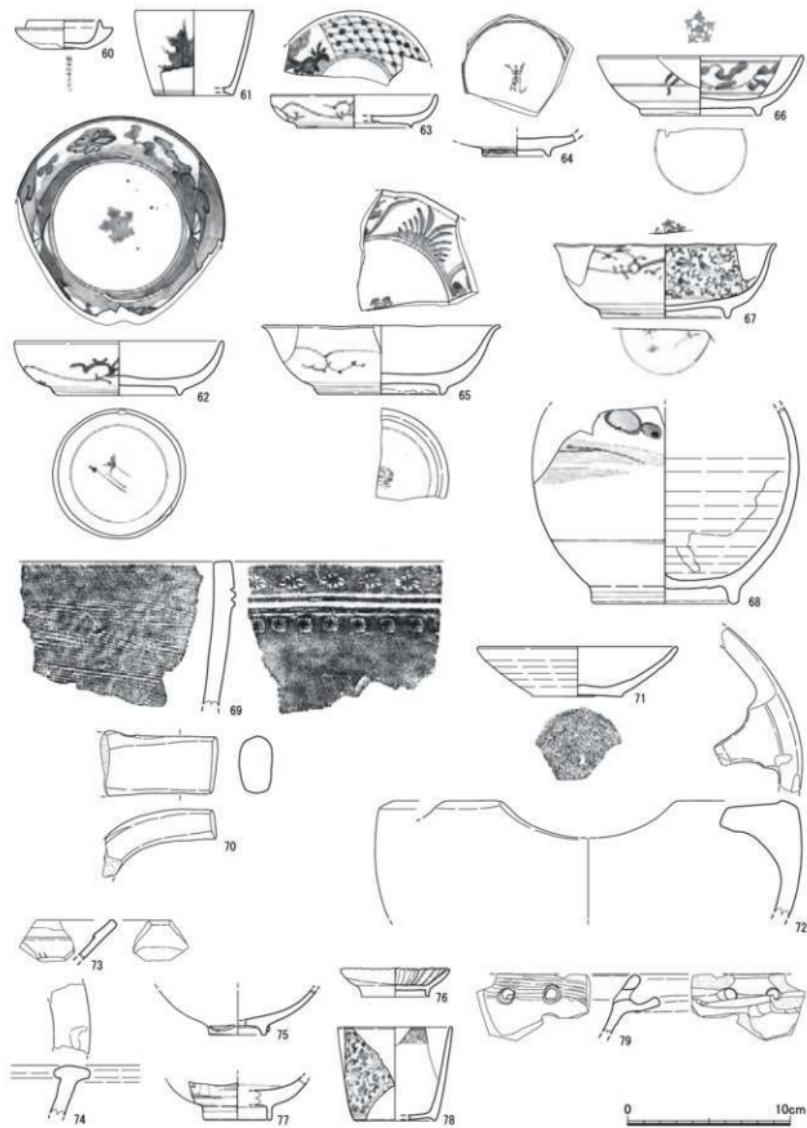


図 12 5区の出土遺物3 (1/3)

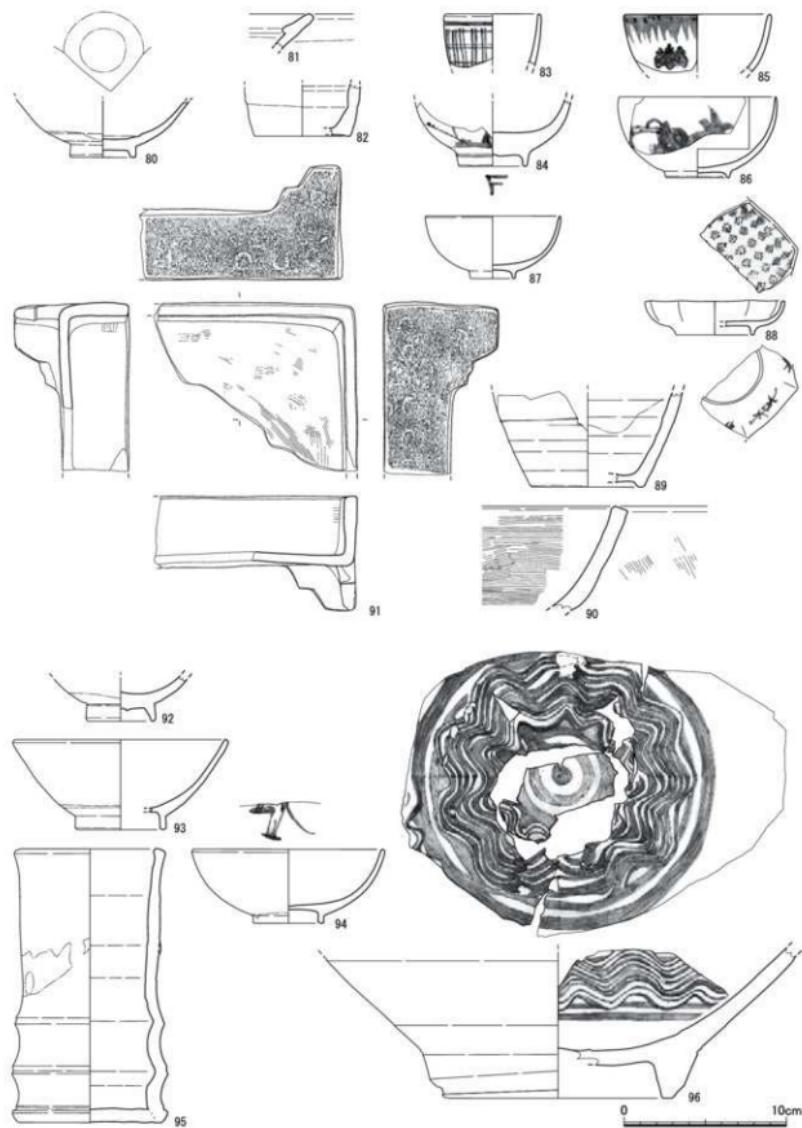


図 13 5区の出土遺物 4 (1/3)

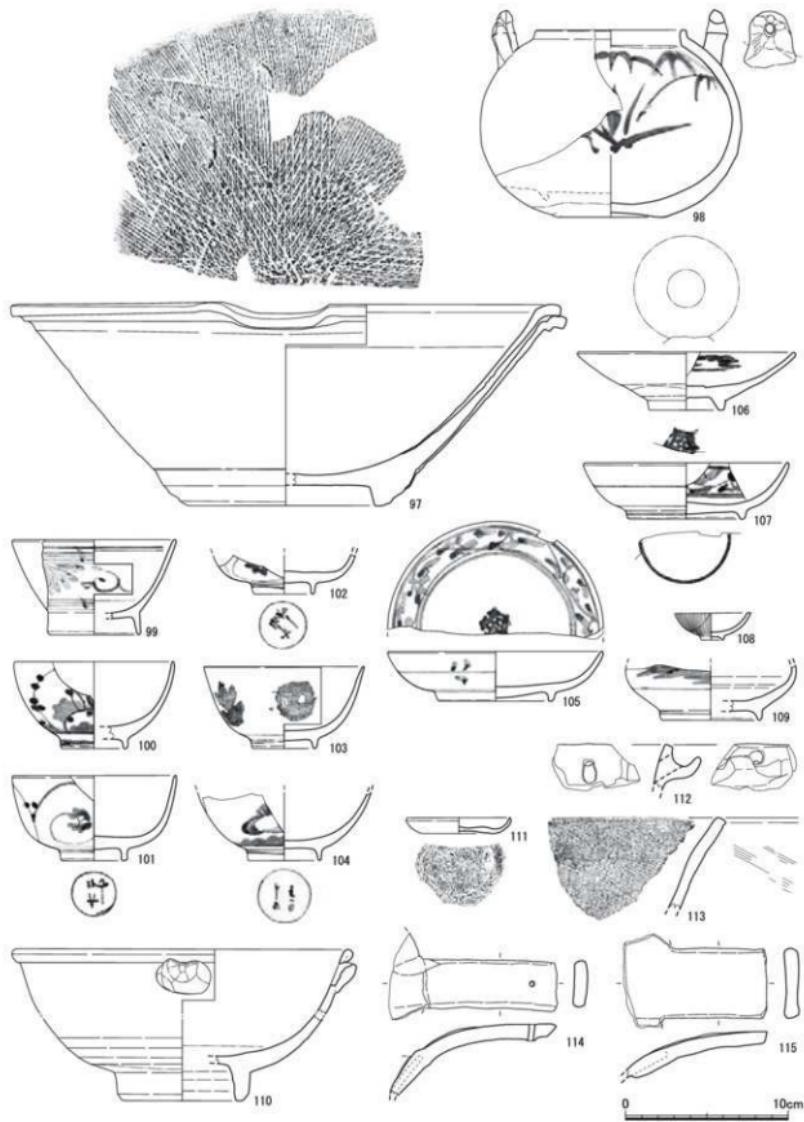


図 14 5区の出土遺物 5 (1/3)



図15 5区の出土遺物 6 (1/3・1/2・1/4)

表4 東畠瀬遺跡5区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
岡10-6 06002318	5C区	白磁 皿	-	3.8	-	胎土；灰白	内面蛇の目輪刻ぎ	写真図版 5-6 20094912
岡10-7 06002314	5C区	白磁 皿	10.2	4.0	2.4	胎土；灰白	森田D群	写真図版 5-7 20094907
岡10-8 06002315	5C区	青磁 碗	-	-	-	胎土；灰白	電気窯系碗 I -4b類	写真図版 5-8 20094908・4909
岡10-9 06002294	5E区	青磁 碗	-	-	-	胎土；灰白	電気窯系碗上田B IV類	
岡10-10 06002319	5C区	青磁 皿	11.8*	6.8*	3.8	胎土；灰	電気窯系	写真図版 5-10 20094913
岡10-11 06002295	5E区	陶器 皿	-	-	-	胎土；灰	朝鮮王朝期 灰青陶器	
岡10-12 06002266	5D区	青花 皿	-	-	-	胎土；灰白	景德鎮窯系盤小野C類	
岡10-13 06002279	5B区	青花 碗	-	-	-	胎土；灰白	景德鎮窯系盤小野C類	写真図版 5-13 20094884
岡10-14 06002293	5E区	楽器系胸掛 襦袴	-	-	-	灰		写真図版 5-14 20094897
岡10-15 06002306	5B区	陶器 灯火具	7.7*	3.4	2.6	にぶい赤褐色	肥前 底部糸切 油墨付着	写真図版 5-15 20094900
岡10-16 06002215	5B区	陶器 蓋	9.6*	-	-	胎土；浅黄		
岡10-17 06002220	5B区	陶器 襦袴	21.6*	-	-	胎土；灰黄		写真図版 5-17 20094859
岡10-18 06002233	5B区	陶器 襦袴	-	15.0*	-	胎土；赤褐色	肥前	
岡10-19 06002278	5B区	陶器 襦袴	-	-	-	胎土；にぶい赤褐色	肥前	
岡10-20 06002214	5B区	陶器 土瓶	-	8.4	-	胎土；灰黄		
岡10-21 06002305	5B区	陶器 瓶	-	7.2*	-	胎土；橙	肥前	
岡10-22 06002232	5B区	陶器 壺	-	7.3*	-	胎土；灰黄褐	底部糸切	写真図版 5-22 20094863
岡10-23 06002277	5B区	陶器 躰	22.2*	-	-	胎土；褐灰		写真図版 5-23 20094881
岡10-24 06002280	5B区	陶器 甕	23.2*	-	-	胎土；にぶい赤褐色	肥前	写真図版 5-24 20094885
岡10-25 06002309	5B区	陶器 甕	-	17.2*	-	胎土；灰	肥前	
岡10-26 06002216	5B区	白磁 合子	-	-	-	胎土；灰白	肥前	
岡10-27 06002276	5B区	染付磁器 小杯	7.0	2.8	3.5	胎土；灰白	肥前 2次的な被熱	写真図版 5-27 20094880
岡10-28 06002307	5B区	染付磁器 碗	10.0*	-	-	胎土；灰白	肥前	
岡10-29 06002308	5B区	染付磁器 碗	11.0*	-	-	胎土；灰白	肥前	写真図版 5-29 20094901
岡10-30 06002230	5B区	染付磁器 皿	13.1*	7.4*	3.4	胎土；灰白	肥前 口縁	写真図版 5-30 20094861
岡10-31 06002275	5B区	青花 皿	-	5.0	-	胎土；灰白	福建系	
岡10-32 06002212	5B区	染付磁器 碗	-	4.5	-	胎土；灰白	肥前 2次的な被熱	写真図版 5-32 20094851
岡10-33 06002211	5B区	陶胎染付 植木鉢か 土師器 鍋	-	8.6*	-	胎土；灰褐色	肥前	写真図版 5-33 20094850
岡10-34 06002281	5B区	瓦質土器 鍋	-	-	-	外：黒褐色 内：にぶい、褐	煤付着	写真図版 5-34 20094886
岡10-35 06002217	5B区	瓦質土器 鍋	-	-	-	にぶい、黄褐色	煤付着	
岡11-36 06002312	5C区	陶器 皿	-	4.2	-	胎土；灰黄	肥前	写真図版 5-36 20094905
岡11-37 06002317	5C区	陶器 皿	-	4.1	-	胎土；灰白	肥前 内面蛇の目輪刻ぎ	写真図版 5-37 20094911
岡11-38 06002250	5C区	陶器 皿	-	3.7*	-	胎土；灰白	肥前 内面蛇の目輪刻ぎ	写真図版 5-38 20094906
岡11-39 06002226	5C区	陶器 瓶	-	-	-	胎土；灰		写真図版 5-39 20094953

表4 東畠瀬遺跡5区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
岡 11-40 06002225	5C 区	陶器 土瓶	-	7.2*	-	胎土：ぶい黄褐	縁付着	写真図版 5-40 20094952
岡 11-41 06002238	5C 区	陶器 瓶か 壺	-	10.4*	-	胎土：ぶい褐	肥前	
岡 11-42 06002283	5C 区	陶器 壺	-	-	-	胎土：灰黄		写真図版 5-42 20094888
岡 11-43 06002282	5C 区	陶器 甕	-	-	-	胎土：灰褐	肥前	写真図版 5-43 20094887
岡 11-44 06002255	5C 区	陶器 瓶	-	10.3*	-	胎土：褐灰	耳付き 底面露胎	写真図版 5-44 20094973
岡 11-45 06002286	5C 区	陶器 鉢	-	-	-	胎土：ぶい赤褐	肥前	写真図版 5-45 20094891
岡 11-46 06002222	5C 区	陶器 擂鉢	33.0*	-	-	胎土：褐灰	肥前	写真図版 5-46 20094959
岡 11-47 06002224	5C 区	陶器 擂鉢	-	9.6*	-	胎土：灰褐	肥前	写真図版 5-47 20094951
岡 11-48 06002221	5C 区	陶器 擂鉢	-	11.8*	-	胎土：暗赤	肥前	写真図版 5-48 20094949
岡 11-49 06002237	5C 区	陶器 擂鉢	-	14.4	-	胎土：ぶい褐	肥前	
岡 11-50 06002310	染付磁器 小瓶	7.1	3.0	3.6	胎土：灰白	肥前 2次的な被熱		写真図版 5-50 20094903
岡 11-51 06002229	5C 区	染付磁器 小瓶	8.1*	3.2	4.1	胎土：灰白	肥前	写真図版 5-51 20094954
岡 11-52 06002316	5C 区	染付磁器 瓶	-	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 5-52 20094910
岡 11-53 06002311	5C 区	染付磁器 瓶	9.5	3.8	4.9	胎土：灰白	肥前	写真図版 5-53 20094904
岡 11-54 06002248	5C 区	染付磁器 瓶	10.1*	4.1*	5.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 5-54 20094966
岡 11-55 06002247	5C 区	染付磁器 瓶	10.1*	4.2*	6.2	胎土：灰白	肥前	写真図版 5-55 20094965
岡 11-56 06002313	5C 区	染付磁器 瓶	10.0*	4.0*	5.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 5-56 20094906
岡 11-57 06002288	5C 区	染付磁器 瓶	10.9*	4.4*	5.2	胎土：灰白	肥前 2次的な被熱	写真図版 5-57 20094894
岡 11-58 06002244	5C 区	陶器 碗	11.2*	-	-	胎土：灰白		写真図版 5-58 20094962
岡 11-59 06002240	5C 区	青磁 瓶	9.1*	6.2*	15.8	胎土：灰白	頸の部分に一对の耳がつく	写真図版 5-59 20094867 + 4868
岡 12-60 06002252	5C 区	白磁 合子	4.4*	-	1.8	胎土：灰白	肥前 「野中ウサイン」	
岡 12-61 06002245	5C 区	染付磁器 猪口	7.2*	4.8*	5.3	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-61 20094963
岡 12-62 06002246	5C 区	染付磁器 皿	13.0*	7.9*	3.4	胎土：灰白	肥前 口継	写真図版 6-62 20094964
岡 12-63 06002253	5C 区	染付磁器 皿	10.4*	7.2*	2.1	胎土：灰白	肥前 蛇の目四形高台	写真図版 6-63 20094972
岡 12-64 06002289	5C 区	染付磁器 皿	-	4.3	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-64 20094895
岡 12-65 06002227	5C 区	染付磁器 皿	14.8*	8.0*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-65 20094960
岡 12-66 06002249	5C 区	染付磁器 皿	12.8*	7.5*	3.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-66 20094967
岡 12-67 06002251	5B 区 5C 区	染付磁器 皿	13.9*	7.9*	4.7	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-67 20094974 + 75 + 76
岡 12-68 06002287	5C 区	染付磁器 瓶	-	9.2*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-68 20094893
岡 12-69 06002239	5C 区	瓦質土器 火鉢	-	-	-	褐灰		写真図版 6-69 20094957
岡 12-70 06002228	5C 区	土師器 培培把手	-	-	-	ぶい褐		
岡 12-71 06002241	5C 区	土師器 杯	12.6*	5.6*	3.1	褐	底部系切	写真図版 6-71 20094958
岡 12-72 06002243	5C 区	瓦質土器 火鉢か 壺	25.6*	-	-	外：灰 内：灰白		
岡 12-73 06002263	5D 区	陶器 擂鉢	-	-	-	胎土：黑褐	肥前	

表4 東煙瀬遺跡5区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
岡12-74 06002265	5D区	陶器 甕	-	-	-	胎土：にい赤	肥前	写真図版 6-74 20094873
岡12-75 06002267	5D区	白磁分 碗	-	3.6*	-	胎土：灰白		写真図版 6-75 20094874
岡12-76 06002268	5D区	白磁 紅皿	6.8*	4.2*	1.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-76 20094875
岡12-77 06002269	5D区	染付磁器 碗	-	4.2*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-77 20094876
岡12-78 06002270	5D区	染付磁器 猪口	7.2*	5.2*	5.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-78 20094877
岡12-79 06002264	5D区	瓦質土器 鍋	-	-	-	橙・浅黄		
岡13-80 06002260	SE区	陶器 碗	-	4.2	-	胎土：灰黄	肥前 内面蛇の目輪剥ぎ	写真図版 6-80 20094871
岡13-81 06002290	SE区	陶器 擂鉢	-	-	-	胎土：にい黄柾	肥前	
岡13-82 06002291	SE区	陶器 瓶	-	6.0*	-	胎土：灰黄		
岡13-83 06002320	SE区	染付磁器 小碗	6.0*	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-83 20094914
岡13-84 06002323	SE区	染付磁器 碗	-	4.3	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-84 20094917
岡13-85 06002321	SE区	染付磁器 碗	9.2*	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-85 20094915
岡13-86 06002261	SE区	染付磁器 碗	10.8*	3.8*	4.7	胎土：灰白	肥前	
岡13-87 06002258	SE区	白磁 小碗	8.4	2.8	3.9	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-87 20094870
岡13-88 06002262	SE区	染付磁器 皿	8.7*	4.7*	2.1	胎土：灰白	肥前 口附	写真図版 6-88 20094872
岡13-89 06002322	SE区	磁器 瓶	-	7.0*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 6-89 20094916
岡13-90 06002292	SE区	瓦質土器 鍋	-	-	-	灰黄褐	焼付着	写真図版 6-90 20094890
岡13-91 06002272	SE区	瓦質土器 火丸	長 12.6*	幅 10.5*	7.2	暗灰黄	外側剥付着	写真図版 6-91 20094879
岡13-92 06002364	SF区	陶器 瓶	-	4.4	-	胎土：灰白	肥前 外面剥離釉	写真図版 6-92 20094843
岡13-93 06002298	SF区	陶器 瓶	13.4*	5.6*	5.6	胎土：にい黄柾	肥前 口附	写真図版 6-93 20094842
岡13-94 06002328	SF区	陶器 瓶	12.0*	4.4*	4.6	胎土：灰白		写真図版 6-94 20094834
岡13-95 06002301	SF区	陶器 花入	9.4*	8.8*	17.0	胎土：にい黄柾		写真図版 6-95 20094825
岡13-96 06002367	SF区	陶器 鉢	-	14.5	-	胎土：にい赤褐	肥前	写真図版 6-96 20094847
岡14-97 06002302	SF区	陶器 擂鉢	34.5*	12.2*	12.5	胎土：にい赤褐	肥前	写真図版 7-97 20094826
岡14-98 06002349	SF区	陶器 土瓶	9.4*	6.4	11.6	胎土：棕	肥前	写真図版 7-98 20094835
岡14-99 06002296	SF区	染付磁器 瓶	10.2*	5.8*	5.9	胎土：灰白	肥前 2次的な被熱	写真図版 7-99 20094821
岡14-100 06002326	SF区	染付磁器 瓶	10.0*	4.2*	5.4	胎土：灰白	肥前	
岡14-101 06002324	SF区	染付磁器 瓶	10.0*	4.1	5.3	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-101 20094827・4828
岡14-102 06002363	SF区	染付磁器 瓶	-	4.0	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-102 20094842
岡14-103 06002325	SF区	染付磁器 瓶	10.0*	4.0*	5.1	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-103 20094829
岡14-104 06002361	SF区	染付磁器 瓶	-	4.6*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-104 20094838・4839
岡14-105 06002297	SF区	染付磁器 皿	13.4	7.2	3.1	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-105 20094822・4823
岡14-106 06002360	SF区	染付磁器 皿	13.6*	4.8	3.6	胎土：灰白	肥前 内面蛇の目輪剥ぎ	
岡14-107 06002327	SF区	染付磁器 皿	12.8*	7.4*	3.5	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-107 20094831

表4 東畠瀬遺跡5区の出土遺物

種類・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図14-108 06002365	5F区	白磁 紅縁	4.7	1.5	1.7	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-108 20094844
図14-109 06002362	5F区	染付磁器 瓶	-	6.2*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-109 20094840
図14-110 06002350	5F区	陶器 片口	21.2*	8.1*	9.4*	胎土：灰	肥前	
図14-111 06002300	5F区	土師器 小皿	6.5*	4.8*	1.0	に赤い黄緑	底部糸切	
図14-112 06002369	5F区	瓦質土器 鍋	-	-	2.8*	褐灰		
図14-113 06002299	5F区	瓦質土器 鍋	-	-	-	黄灰		
図14-114 06002347	5F区	土師器 焰培肥手	-	-	-	浅黄		
図14-115 06002348	5F区	土師器 焰培肥手	-	-	-	に赤い黄緑		
図15-116 06002344	表探	陶器 瓶	6.2*	-	-	胎土：淡黄	117と同一個体か	写真図版 7-116 20094931
図15-117 06002345	表探	陶器 瓶	-	9.1*	-	胎土：黄灰	116と同一個体か	
図15-118 06002354	表探	陶器 瓶	-	-	-	胎土：に赤い黄緑	肥前	
図15-119 06002340	表探	陶器 皿	9.0*	3.5	5.2	胎土：淡黄	肥前	写真図版 7-119 20094927
図15-120 06002355	表探	陶器 皿	11.7*	4.2*	3.2	胎土：灰白	肥前 内面蛇の目輪剥ぎ	写真図版 7-120 20094937
図15-121 06002352	表探	陶器 皿	25.4*	-	-	胎土：明赤褐	肥前	写真図版 7-121 20094933
図15-122 06002358	表探	白磁 猪口	5.8*	2.7	3.5	胎土：灰白	肥前	
図15-123 06002370	表探	染付磁器 瓶	9.2	3.7	4.3	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-123 20094943
図15-124 06002338	表探	染付磁器 瓶	10.4*	-	-	胎土：灰白	肥前 2個体の瓶が接着	写真図版 7-124 20094925
図15-125 06002329	表探	染付磁器 瓶	10.2*	4.2*	5.2	胎土：灰白	肥前 2次的な被熱	写真図版 7-125 20094918
図15-126 06002376	表探	染付磁器 瓶	-	4.2	-	胎土：灰黄	肥前 2次的な被熱	
図15-127 06002330	表探	染付磁器 瓶	-	3.7	-	胎土：灰白	肥前 2次的な被熱	写真図版 7-127 20094919
図15-128 06002337	表探	染付磁器 瓶	10.4*	4.2	4.9	胎土：灰白	肥前 内面蛇の目輪剥ぎ	写真図版 7-128 20094924
図15-129 06002357	表探	染付磁器 皿	14.6*	7.8*	4.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-129 20094940
図15-130 06002339	表探	染付磁器 皿	12.0*	4.2*	3.0	胎土：灰白	肥前 内面蛇の目輪剥ぎ	
図15-131 06002304	5B区	打製石器 石鑿	長 幅 厚	大幅 1.3+ 0.4	-	-	黒曜石 先端と基部欠損	
図15-132 06002333	表探	銘賀 削鉗	-	2.2	-	-	寛永通寶 1.8g	
図15-133 06002334	表探	銘賀 削鉗	-	2.3	-	-	寛永通寶 2.9g	
図15-134 06002271	SE区	青銅製品 肩	長 幅 厚	18.1 1.2 0.2	-	-	完形	写真図版 7-134 20094878
図15-135 06002266	SC区	磁器 タイル	長 幅 厚	3.8 2.3 0.8	-	-	胎土：灰白	
図15-136 06002242	5C区	石製品 硯石	長 幅 厚	9.3 4.8 3.4	-	-		写真図版 7-136 20094880 - 82 - 83
図15-137 06002218	5B区	土製品	長 幅 厚	5.4 5.1 3.8	-	赤褐	ほぼ完形	写真図版 7-137 20094857
図15-138 06002343	表探	白磁 人形	-	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 7-138 20094930
図15-139 06002236	5B区	土製品 人形	-	-	-	に赤い黄緑	肥前	写真図版 7-139 20094979

3 6区の遺構と遺物

ここでは、6F区以外の6区について説明する。全体的には現代までの生活面が近世まで遡るためか、良好に遺構面を認識できた区画は少なく、6B・6D・6E区などに限られる。このうち、6D区については近代に降る面である可能性が高い。また、試掘坑で確認される下層の状況も、谷部に立地する条件のためか遺構面として確認できる区画は6B区のみである。ただ、遺物には中世のものもある程度出土しており、近世の陶磁器などからある程度集落の展開を知る手がかりは得られた。

1) 6B区下層の遺構と遺物

6B区では、現地表面から約2m下の部分で遺構面を確認することができ、土坑1基、小穴1基、石列1基を確認した。いずれも確実に伴う遺物がないため、時期は明確ではないが、SX6103の北側に14世紀代の遺物がまとまって出土しており、南北朝期の生活面があつたものと考えられる。

SX6035(図22)

調査区の中央付近に位置し、一辺1.0mの平面方形であったものと推測され、深さ0.25mである。埋土は炭と黄褐色系統の土が互層状をなしており、土坑の壁面や底面には被熱による硬化面が認められ、炭層の下部にも一部認められる。このことから、炭を人為的に敷いた後に火を使用したことは間違いないが、その目的が生産なのか祭祀なのかは不明である。遺物は出土しなかった。

SX6036(図22)

調査区南部に位置し、径約0.35mの平面円形で、深さ0.35mである。柱痕跡と思われる土層が認められるので、柱穴と考えられる。ただ、写真を見ると、掘形はさらに大きくなる可能性がある。遺物は出土しなかった。

SX6103(図22)

調査区を東西方向にほぼ横断する形で確認される石列で、中央部は比較的石材の残存状況が良好である。大きいもので長さ1mの石材を北側で面を揃えて積み上げている状況が確認できる。遺物は主に石列中央部の北側で出土しており、その出土状況から現地では中世のものと判断している。ただ、近世の遺物も若干出土していることから、近世の造成に伴うものの可能性も残される。

SX6103北側出土遺物(図23・24)

140～144は底部糸切の土師器小皿で、140・141には底部に板状圧痕がみられる。145～161は底部糸切の土師器杯で、146～151には底部に板状圧痕がみられる。体部外面に沈線状の調整が見られるものがあることが特徴である。144は近世に、160・161は戦国期に降る資料と思われ、その他は14世紀代とみられる。

162・163は象嵌青磁で、高麗末から朝鮮王朝初期のものと思われる。162は内面には團練を白象嵌で施している。164は白磁森田E群の皿である。

165は肥前陶器皿で、内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。166は肥前陶器灯火具で、底部糸切である。167は肥前染付磁器碗である。168は肥前陶器擂鉢で、口縁部のみに施釉するタイプである。169は瓦質土器擂鉢である。170・171は瓦質土器鍋、172は土師器鍋で、いずれも外間に煤が付着している。173は銅錢の寛永通寶で、古寛永である。

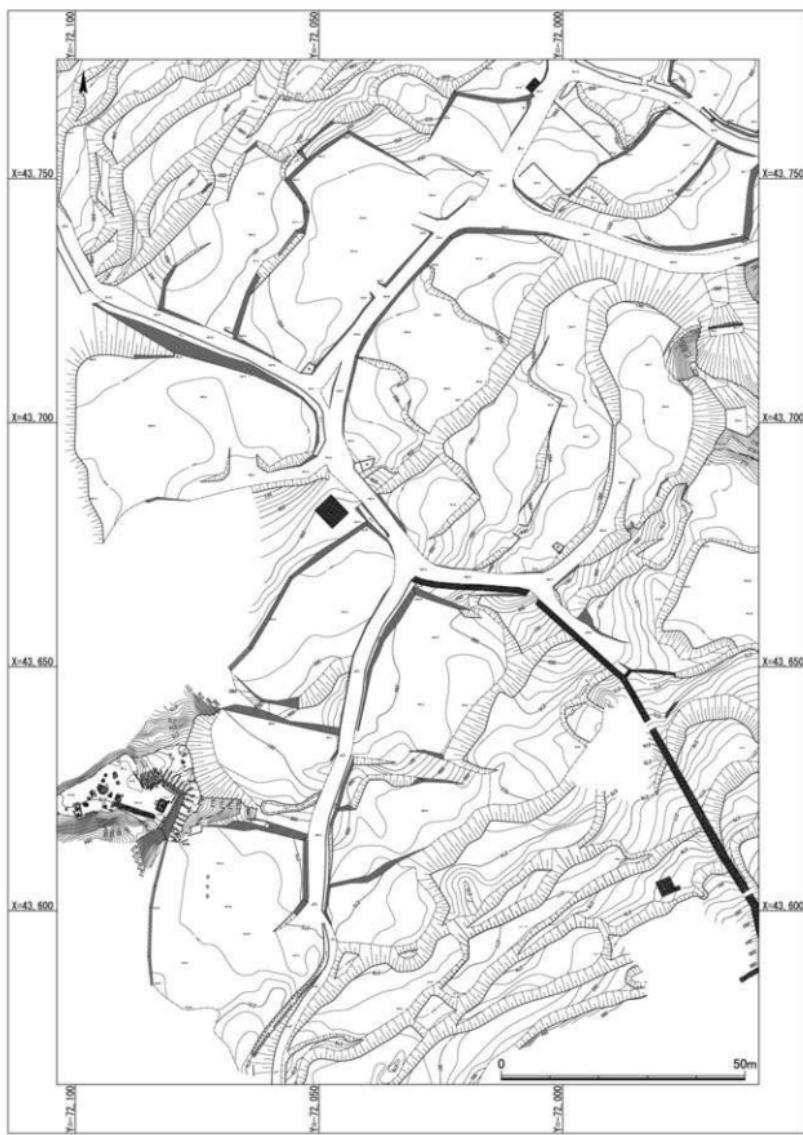


図 16 6 区の地形 (1/1,000)



図 17 6区の遺構分布 (1/1,000)

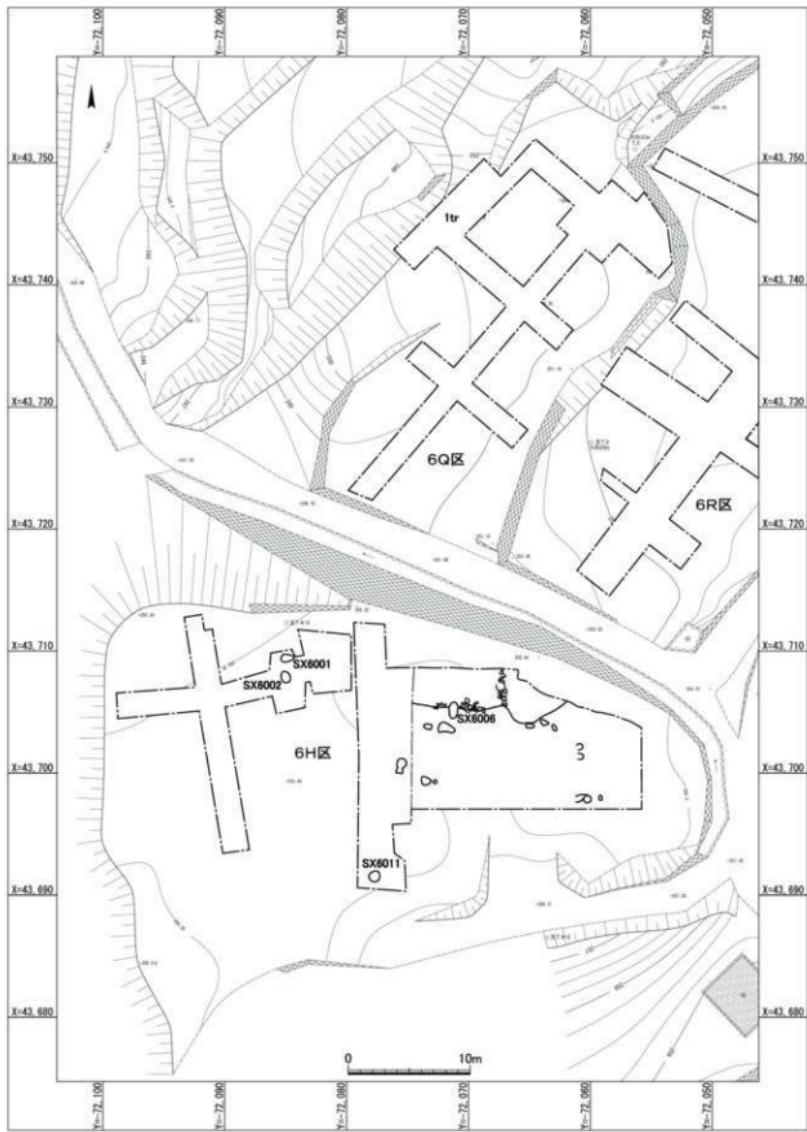


図 18 6区の遺構分布詳細 1 (1/400)

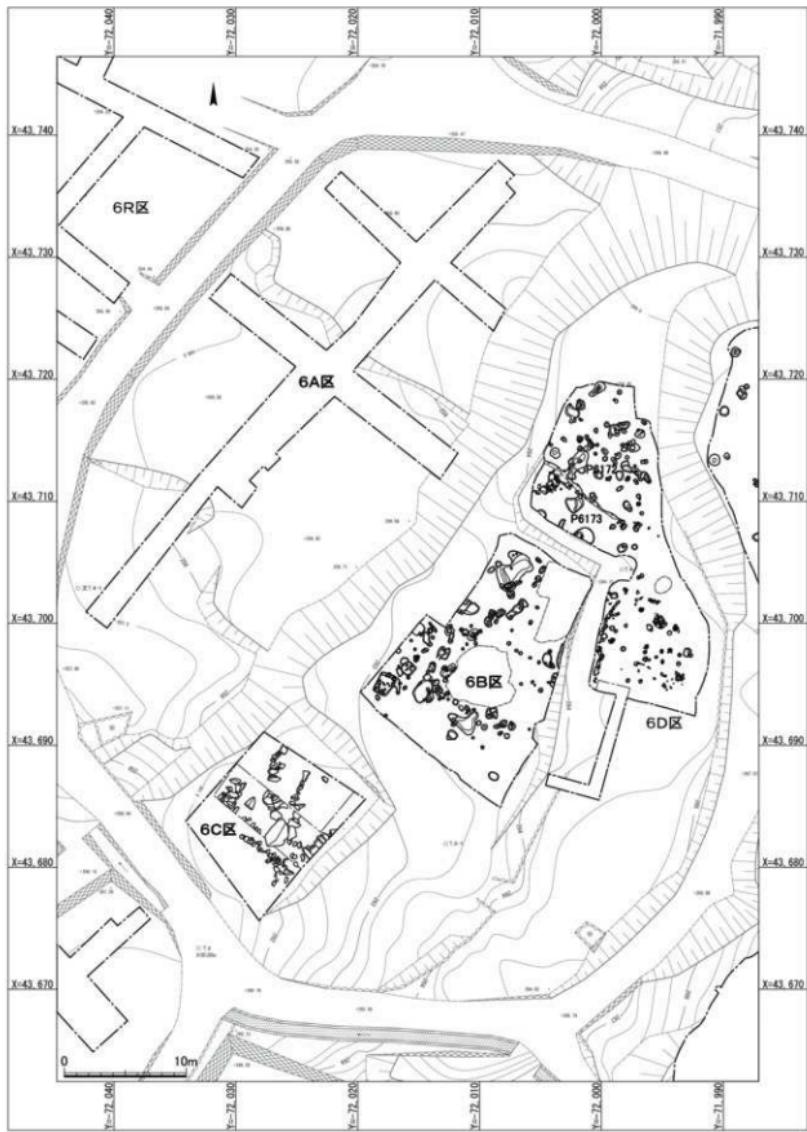


図19 6区の遺構分布詳細2 (1/400)

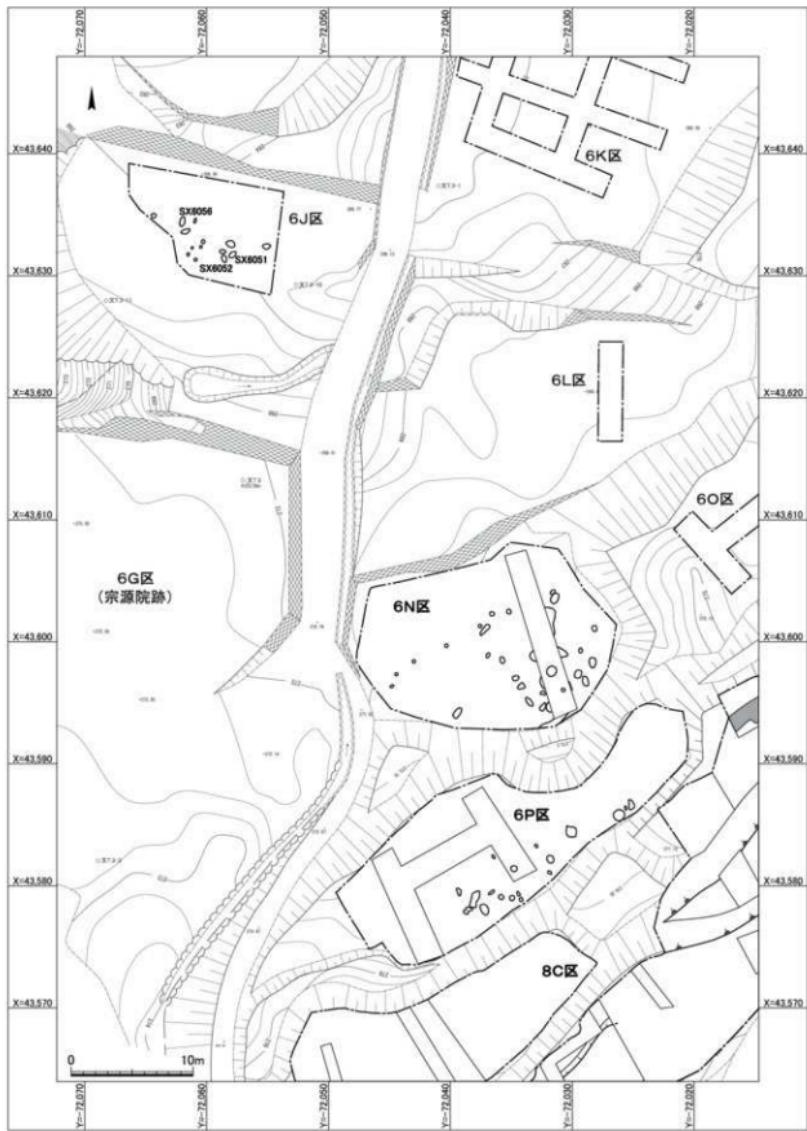


図 20 6区の遺構分布詳細 3 (1/400)

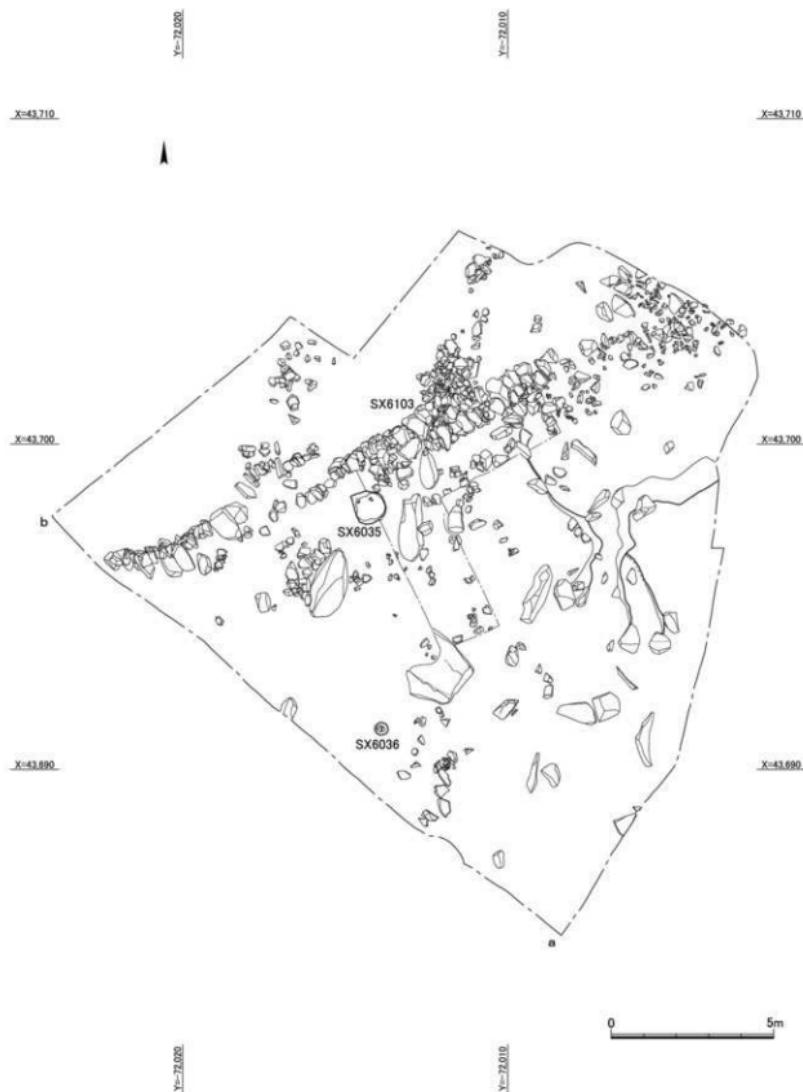


図 21 6B 区下層の遺構分布 (1/150)

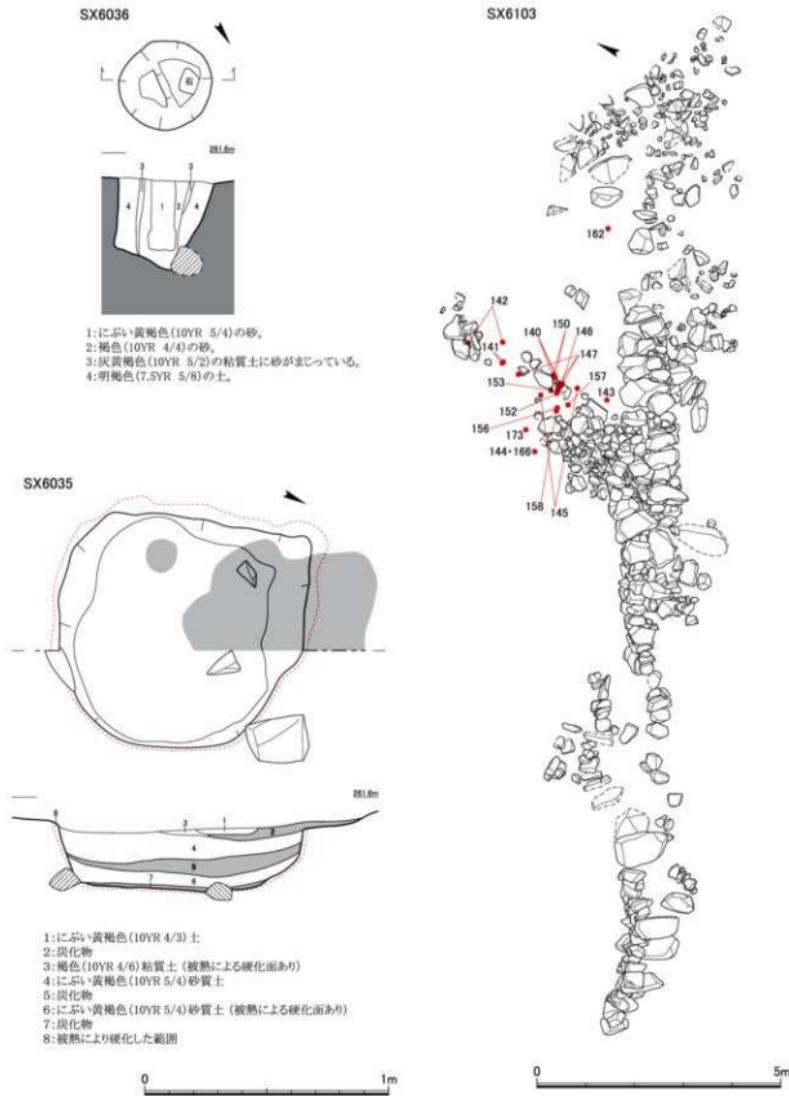


図 22 6B区下層の通構 (1/20・1/100)

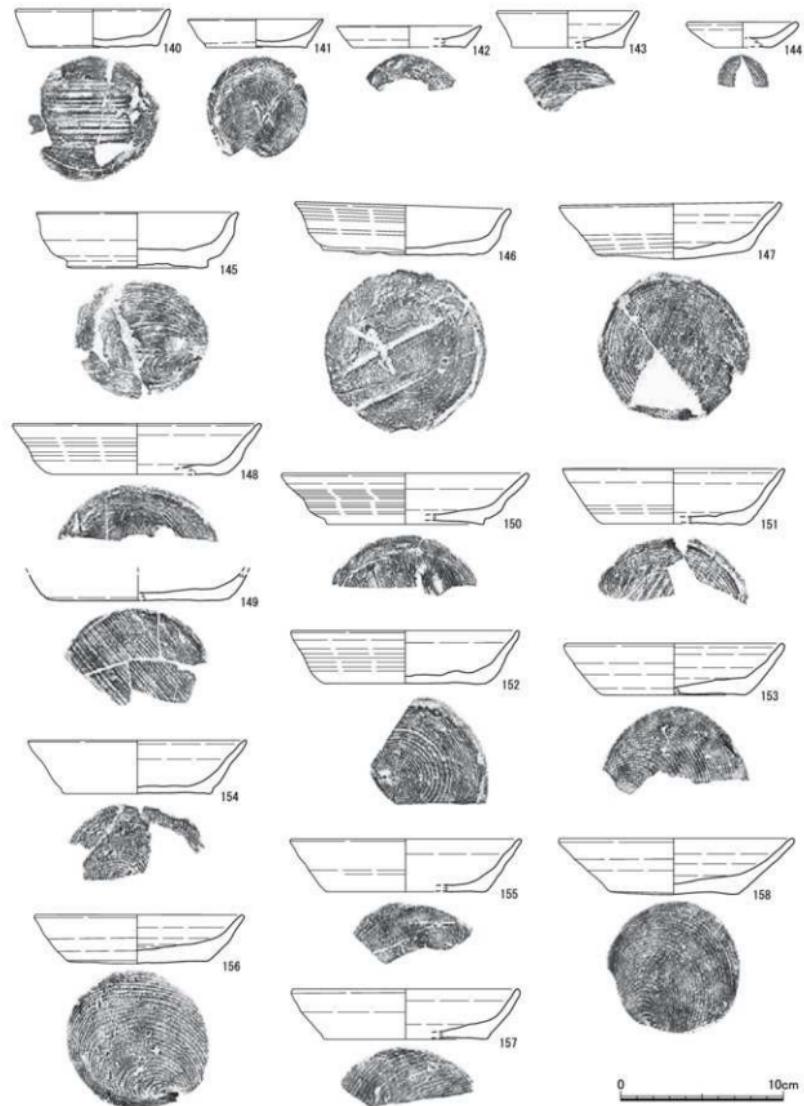


図23 6B区下層の遺物1 (1/3)

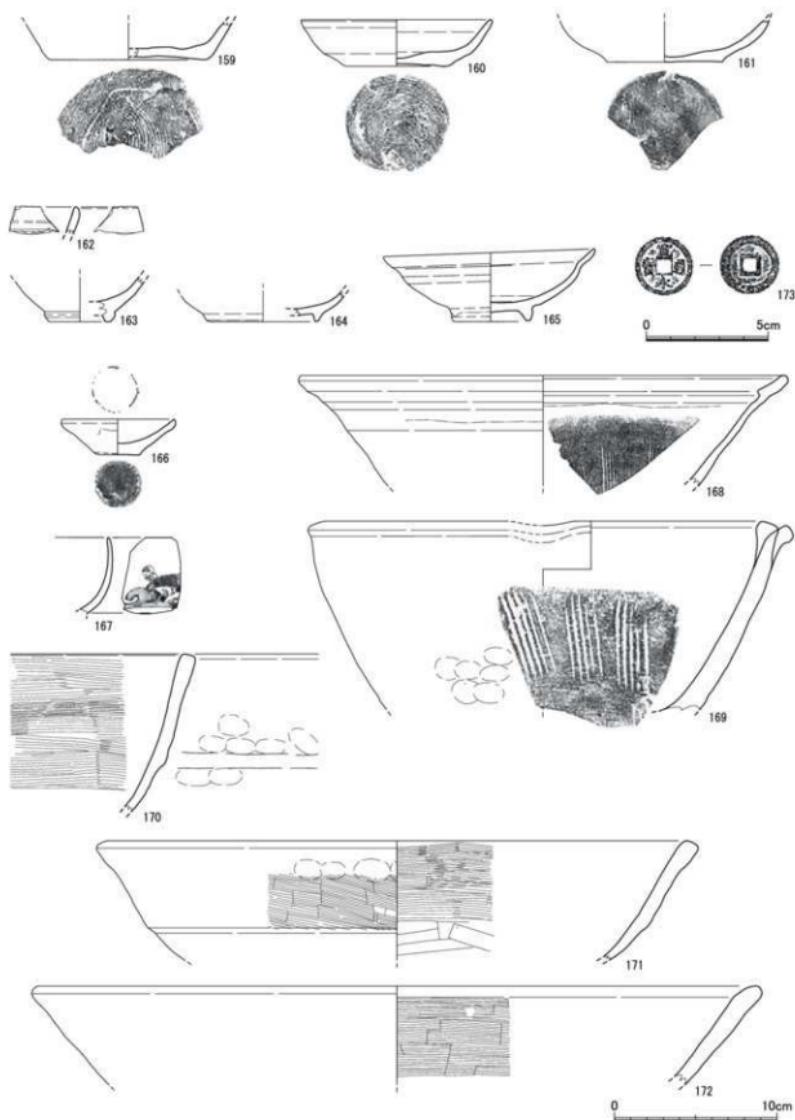


図24 6B区下層の遺物2 (1/2・1/3)

2) 6区中世の遺物（図 25）

ここでは、近世初頭の遺物がまとまって出土した 6H 区下層のものを除き、6 区から出土した主な中世の遺物について説明する。

174～179 は竜泉窯系青磁碗で、174 は幅の広い片切彫の蓮弁文が施される上田 B II 類、175 は線描蓮弁文が施される上田 B IV 類、176・177 は口縁外側に雷文帯をもつ上田 C 類である。178 は内面見込みの釉を、179 は高台内の釉を蛇の目状に焼き取っている。180 は竜泉窯系青磁盤である。

181～187 は中国産青花である。181～183 は小野皿 C 群で、181・182 が景德鎮窯系、183 が福建系である。184 は景德鎮窯系で、小野皿 B 群である。185 は景德鎮窯系小杯、186 は小野碗 C 群である。

188 は中国産の天目碗と思われる黒釉磁である。189 は中国産の褐釉壺で、鷹島海底遺跡での石原分類では II 類 - A にあたり、耳が付く可能性がある。

190・191 は象嵌青磁で、190 は碗、191 は皿で、ともに内面に白象嵌で團線や文様を施している。192・193 は朝鮮王朝期の灰青陶器皿である。

194 は東播諸窯とみられる須恵器系陶器捏鉢である。195 は備前窯の摺鉢で、内面に顯著な磨滅痕がみられる。196 は備前窯の大甕である。

197・198 は底部糸切の土師器小皿、199・200 は底部糸切の土師器杯で、14～15 世紀代のものと思われる。201 はタタキ調整を施す須恵器系陶器甕で、外側は格子タタキ、内側は粗いハケメである。202 は口縁下に飼かめぐる滑石製石鍋で、外側に煤が付着している。203・204 は口縁部が玉縁状をなす土師器鍋である。

3) 6B 区上層の遺構と遺物

6B 区では、現地表面の下約 0.5 m に造成した面を確認することができ（図 27）、この遺構面を上層として報告する。上層の遺構としては、土坑 14 基、小穴などがあるが、建物については確認できなかった。遺物から 18 世紀後半から 19 世紀前半に造成されたものと考えられる。

SX6020（図 28）

調査区西端に位置し、長軸 1.8 m、短軸 0.4 m、深さ 0.35 m で、平面はやや不整な長方形である。北側壁には長さ 0.3 ～ 0.5 m の扁平な石を置き、埋土には石材が散在しているが、性格などは不明である。遺物は染付磁器小杯（昭和か）、土師器片が出土したが、小片であり図示していない。

SX6021（図 28）

調査区西部に位置し、長軸 2.0 m、短軸 1.35 m、0.4 m の平面梢円形である。遺物は肥前陶器蓋、肥前染付磁器蓋、瓦質土器鉢、瓦器盤が出土した。

SX6021 出土遺物（図 30）

205 は陶器蓋で、急須用と思われる。206 は肥前染付磁器蓋で、端反形碗に伴うものである。207 は瓦質土器鉢、208 は表面が丁寧なミガキで、瓦器盤とすべきであろうか。

SX6022（図 28）

調査区西端に位置し、一辺約 1.05 m、深さ 0.35 m で、平面はやや不整な隅丸方形である。遺物は出土しなかった。

SX6026（図 28）

調査区西部に位置し、長軸 1.0 m、短軸 0.9 m、深さ 0.45 m の不整形である。遺物は土師器小皿、瓦質土器小片

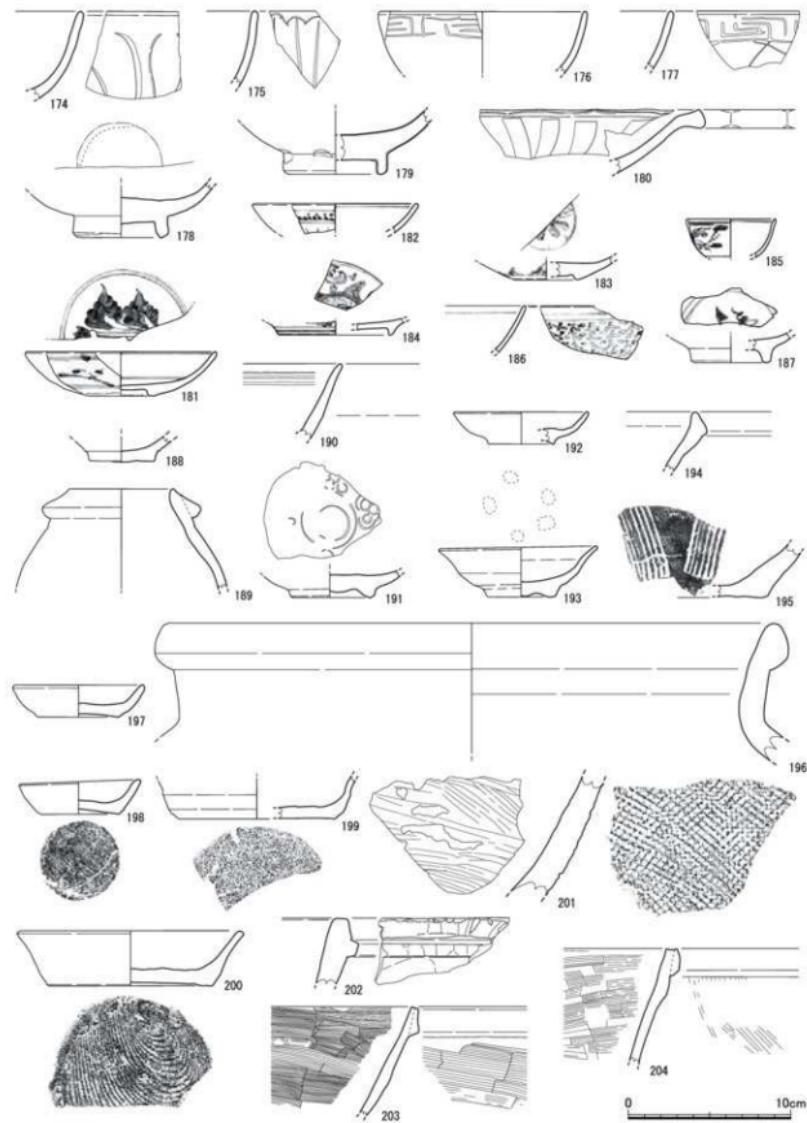


図 25 6区中世の遺物 (1/3)



図 26 6B 区上層の遺構分布 (1/125)

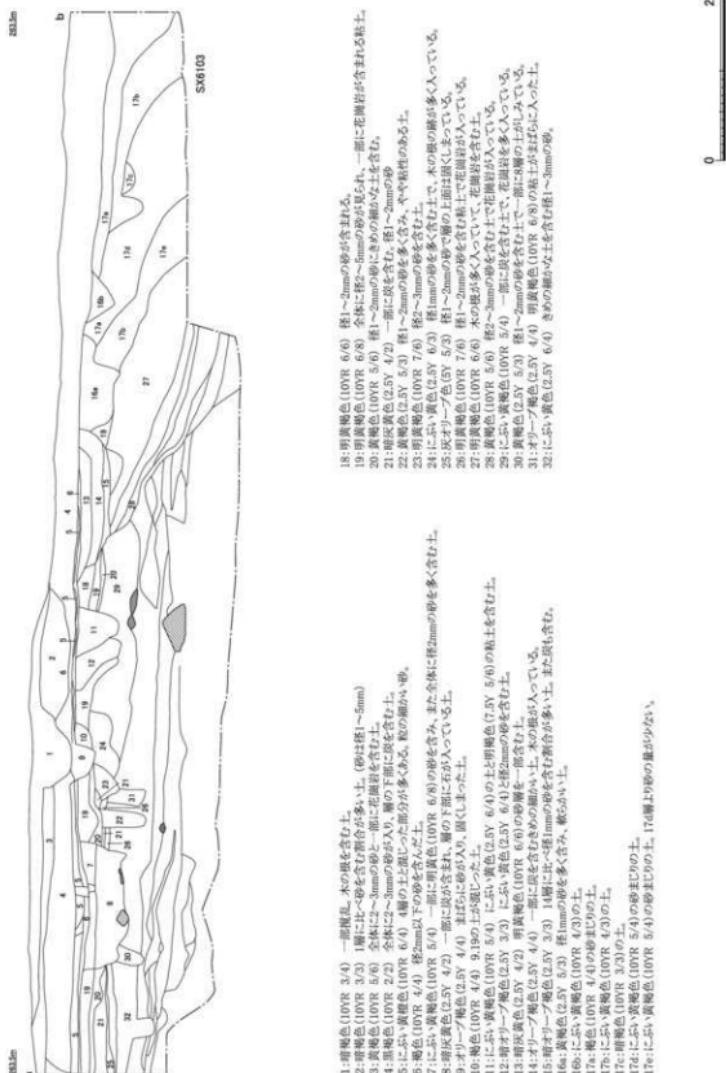


図 27 6B 区の土層 (1/60)

が出土した。

SX6026 出土遺物（図 30）

209 は底部糸切の土師器小皿で、近代以降のものと思われる。

SX6028（図 29）

調査区北端に位置し、長軸 3.05 m、短軸 2.15 m、深さ 0.85 m で、平面は不整な隅丸台形である。遺物は肥前陶器碗・皿、肥前染付磁器碗、土師器杯・小皿、瓦質土器壺・擂鉢・火鉢、竜泉窯系青磁小片が出土した。

SX6028 出土遺物（図 30）

210 は瓦質土器壺、211・212 は底部糸切の小皿で、212 は油煤が付着している。213 は肥前陶器碗で、内面見込みを蛇の目軸剥ぎしている。214 は肥前染付磁器碗で、外側の文様はコンニャク印判によるものである。

SX6029（図 29）

調査区北部に位置し、長軸 2.0 m、短軸 0.7 m、深さ 0.5 m で、平面は不整な長方形である。遺物は肥前染付磁器小片（江戸）、土師器杯・小皿、瓦質土器鍋、白磁森田 D 群杯が出土したが、小片であり図示していない。

SX6031（図 29）

調査区東端に位置し、一辺 2.0 m、深さ 0.1 m で、遺構の大部分は調査区外にあたる。遺物は肥前陶器擂鉢、土師器小皿が出土した。

SX6031 出土遺物（図 30）

215 は肥前陶器擂鉢で、高台が付き全面に施釉されるタイプである。

SX6033（図 29）

調査区南部に位置し、長軸 2.45 m、短軸 1.9 m、深さ 0.35 m で、平面は不整形である。遺物は陶器土瓶、肥前染付磁器碗、土師器小皿・壺、瓦質土器小片が出土した。

SX6033 出土遺物（図 30）

216・217 は肥前染付磁器碗である。218・219 は土師器壺で、ともに完形に近い残存状況であり、腹衣壺の可能性がある。

6B 区上層の小穴・遺構外出土遺物（図 30）

220 は P6124 出土の肥前染付磁器碗で、内面見込みを蛇の目軸剥ぎしている。221 は P6125 出土の竜泉窯系青磁碗で、外側無文の 1 類である。

222～227 は遺構外から出土した。222 は銅錢の寛永通寶で、新寛永である。223 は肥前陶器火入で、外側に灰釉を施している。224・225 は肥前陶器皿で、225 は内面見込みを蛇の目軸剥ぎしている。226 は白磁小杯、227 は肥前染付磁器小杯である。

4) 6E 区の遺構と遺物

6E 区では、調査区南部で現代の面から包含層を挟んだ下層で、部分的ではあるが SX6202 を検出できた遺構面がみられた。それ以外の遺構は花崗岩バイラン土の地山の上で確認した。遺構は 19 世紀以降のものが大部分であるが、SX6202 は江戸時代前期に、SB6200 は戦国期に遡る可能性がある。

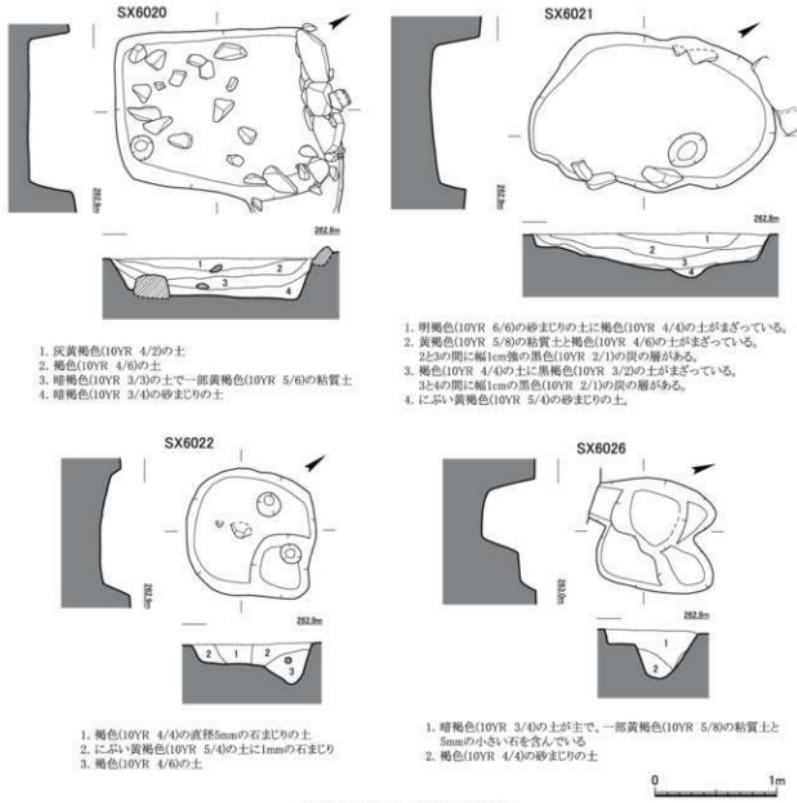
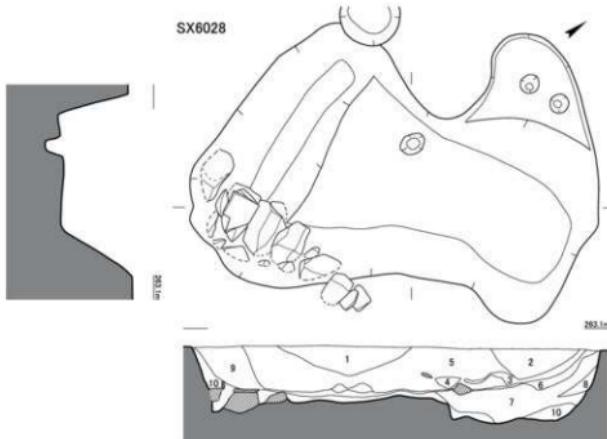
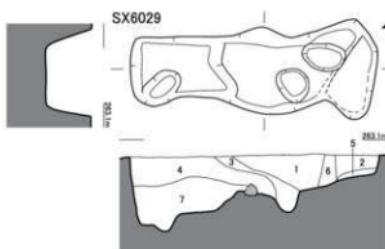


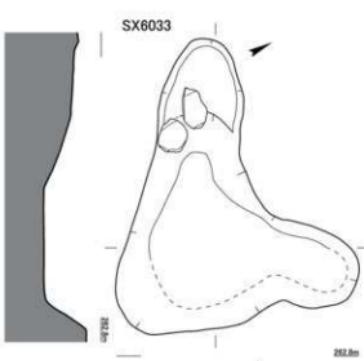
図 28 6B区上層の構造 1 (1/40)



1. にぶい黄褐色(10YR 4/3)の土
 2. にぶい黄褐色(10YR 4/3)の土に1mmの石が混じっている
 3. 明黄褐色(10YR 7/6)の砂地があり、にぶい黄褐色(10YR 4/3)の砂まじりの土
 4. 黄褐色(10YR 4/6)の粘質土
 5. 黄褐色(10YR 4/4)の砂まじりの土に暗褐色(10YR 3/4)と
 にぶい黄褐色(10YR 7/4)の砂がまじっている
 6. 黒色(10YR 2/1)の炭の層に黄褐色(10YR 5/8)の粘質土が
 まざっている
 7. にぶい黄褐色(10YR 5/4)の砂まじりの土
 8. 明黄褐色(10YR 7/6)の砂まじりの土
 9. にぶい黄褐色(10YR 4/3)の土
 10. 明黄褐色(10YR 6/6)の砂まじりの粘質土



1. にぶい黄褐色(10YR 4/3)の土に褐色(10YR 4/6)の粘質土がまざる。
 直径5mmの石と炭化物を含む。
 2. 褐色(10YR 4/4)の土
 3. 褐色(10YR 4/6)の粘質土
 4. にぶい黄褐色(10YR 4/3)の土
 5. 褐色(10YR 4/6)の粘質土
 6. にぶい黄褐色(10YR 4/3)の土に褐色(10YR 4/6)の粘質土がまざる。
 直径2mmの石と少量の炭化物を含む。
 7. 褐色(10YR 4/4)の粘質土



1. 明褐色(10YR 6/6)の粘質土
 2. 黒色(10YR 2/1)の炭まじりの土に一部明褐色(10YR 6/6)の粘質土を含む
 3. 褐色(10YR 4/6)の粘質土
 4. 黒色(10YR 2/1)の炭まじりの土に一部褐色(10YR 4/6)の粘質土を含む
 5. 褐色(10YR 4/6)の粘質土が主で、5と6の間に幅1cmの炭の層がある

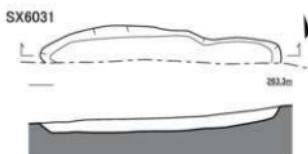


図29 6B区上層の造構2 (1/40)

0 1m

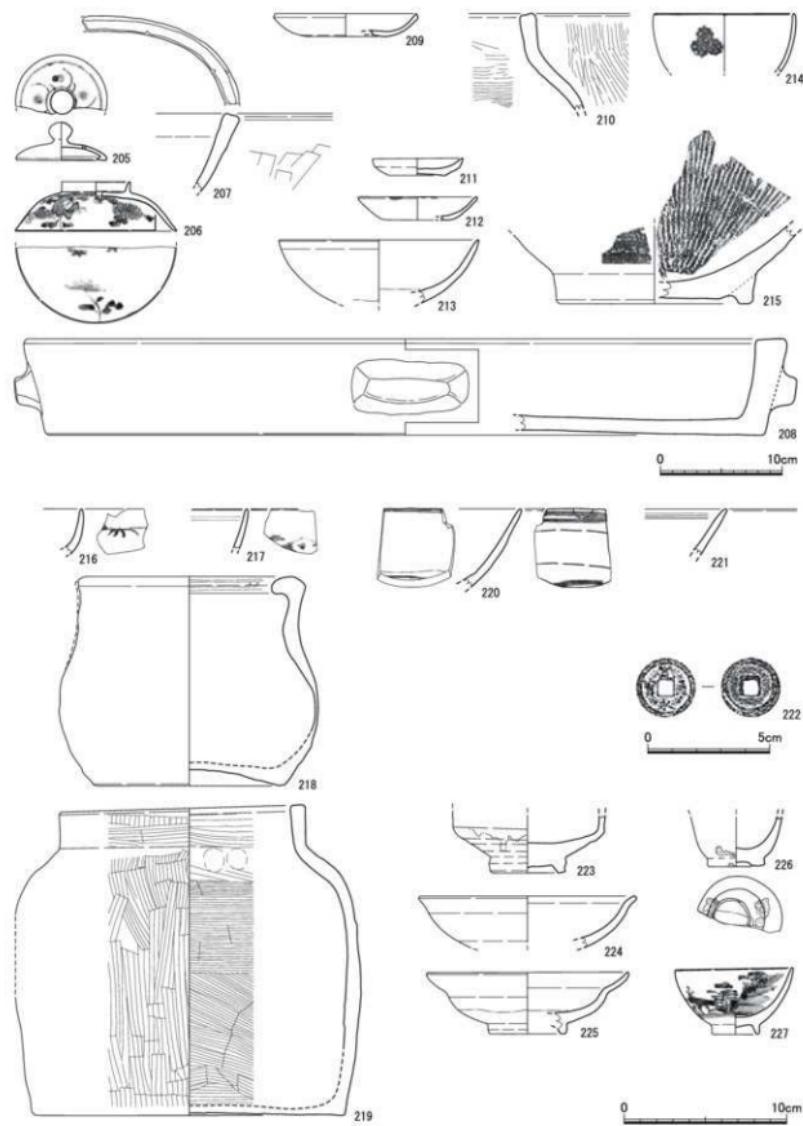


図 30 6B 区上層の遺物 (1/2・1/3・1/4)

SX6021（図 32）

調査区南部に位置し、約 1.6 m × 3.6 m の範囲に部分的に浅い穴を掘り、石材を集積した遺構で、性格は不明である。遺物は周辺から肥前染付磁器碗・皿・鉢、陶器土瓶、土師器焰口、銅錢が出土した。

SX6021 周辺出土遺物（図 34）

228 は肥前染付磁器皿である。229～231 は肥前染付磁器碗で、229・231 は丸形碗、230 は端反形碗である。232 は肥前染付磁器皿で、蛇の目凹形高台である。233 は肥前磁器鉢で、瑠璃釉が施される。234 は肥前染付磁器鉢である。235 は薩摩產とみられる陶器土瓶で、外面下部に煤が付着している。253 は銅錢の寛永通寶である。

SX6202（図 32）

調査区南部に位置し、長軸 4.55 m、短軸 3.4 m、深さ 0.45 m の平面長方形である。床面に土間状に硬化した面が中央部付近で確認できた。遺構西側に炭化物層が広がる部分があり、何らかの作業場であった可能性がある。遺物は白磁皿、青花碗・皿、肥前白磁紅皿、土師器杯が出土した。このうち、6F 区の破片と接合した青花碗（図 74-706）については 6F 区の項で説明する。

SX6202 出土遺物（図 34）

236 は白磁森田 E 群皿、237 は景德鎮窯系青花皿、238 は肥前白磁紅皿である。239 は底部糸切の土師器杯である。

SX6203（図 32）

調査区の中央西端に位置し、径 0.82 m、深さ 0.45 m の平面円形の掘形で、径約 0.4 m の木製桶のようなものを埋設していた痕跡がみられる。埋設のために赤褐色系統の粘土を用いている。遺物は出土しなかった。

SX6204（図 32）

調査区南端に位置し、径約 1.1 m、深さ 0.5 m の平面円形である。SX6203 と同様に桶状のものを埋設した痕跡が認められるが、粘土は用いられていない。遺物は土師器小片、瓦質土器鍋、竜泉窯系青磁小片が出土したが、小片であり図示していない。

SB6200（図 33）

調査区北部に位置し、南北方向 9.2 m、東西方向 9.8 m の規模で、2 間 × 2 間の総柱建物として報告する。調査当初は掘立柱建物とは認識しておらず、すべての柱穴埋土の状況は不明であるが、一部の埋土はしまりのない新しい印象を受けるものであった。ただ、後述する 8A 区の山城の直下に位置していることから、山城に伴う櫓である可能性があり、建物の構造についても検討の余地がある。遺物は出土しなかった。

6E 区の遺構外出土遺物（図 34）

240 は肥前陶器碗で、内面に砂目跡が残る。241 は肥前陶器壺、242 は陶器で燭台であろうか。243 は陶器土瓶で、鉄釉を施している。244 は肥前染付磁器小皿、245・246 は肥前染付碗、247 は肥前白磁紅皿である。248～250 は底部糸切の土師器小皿で、249 には油煤が付着している。251 は瓦質土器風がで、印刻文が施され、外面はミガキである。254～256 は銅錢の寛永通寶である。

5) 6 区近世以降の遺構と遺物

上記以外の 6 区では、近世以前の明確な遺構面や小穴以外の明確な遺構についてはほとんど確認されていない。遺構としては、6H 区の 2 基についての報告にとどめたい。遺物については、各調査区から近世を中心に多くの遺物が出

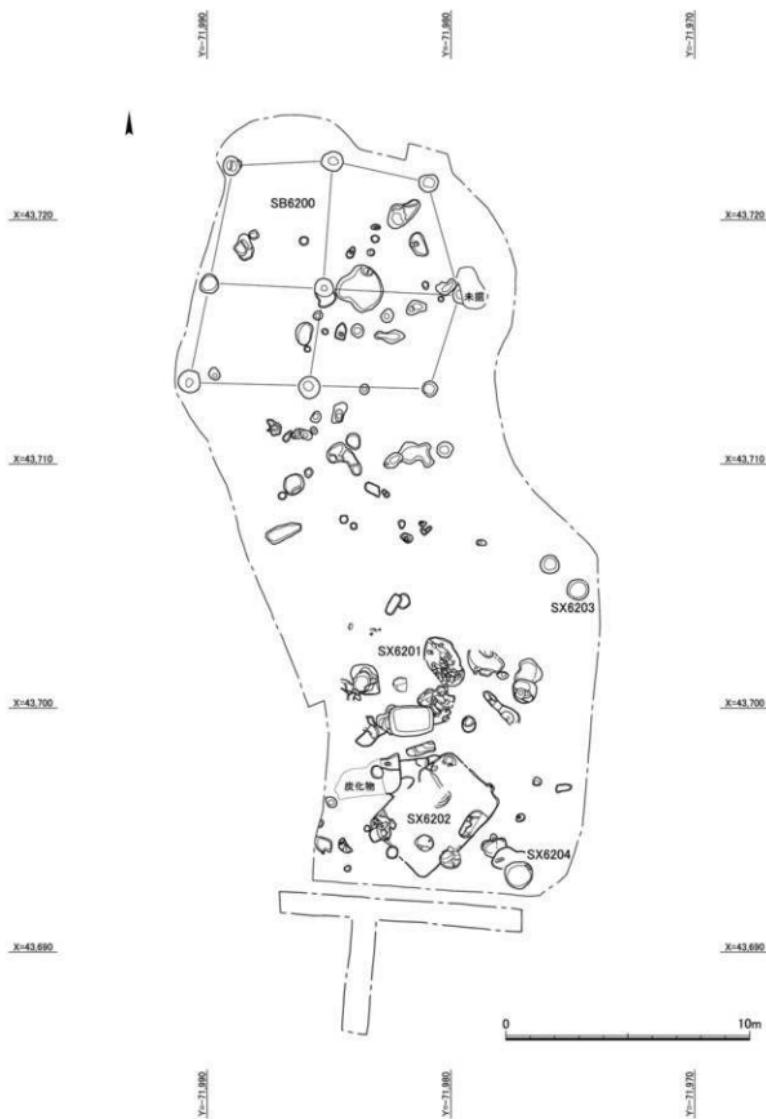
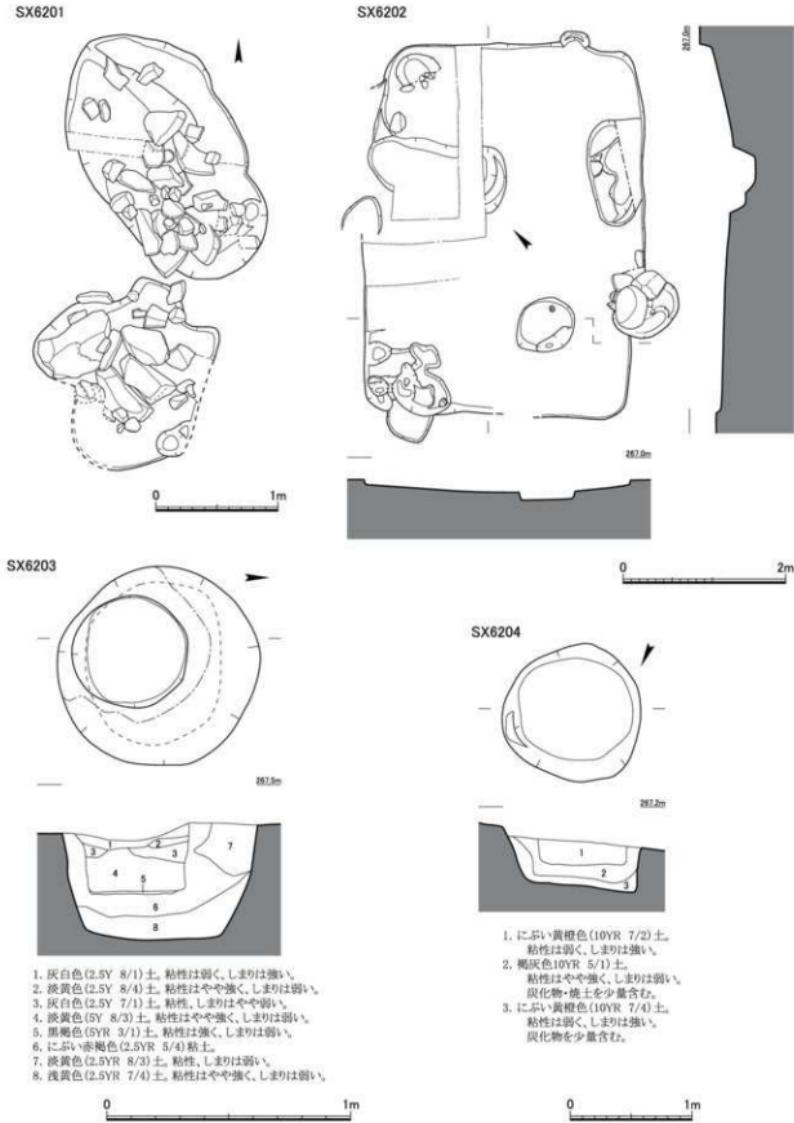


図 31 6 E 区の遺構分布 (1/200)



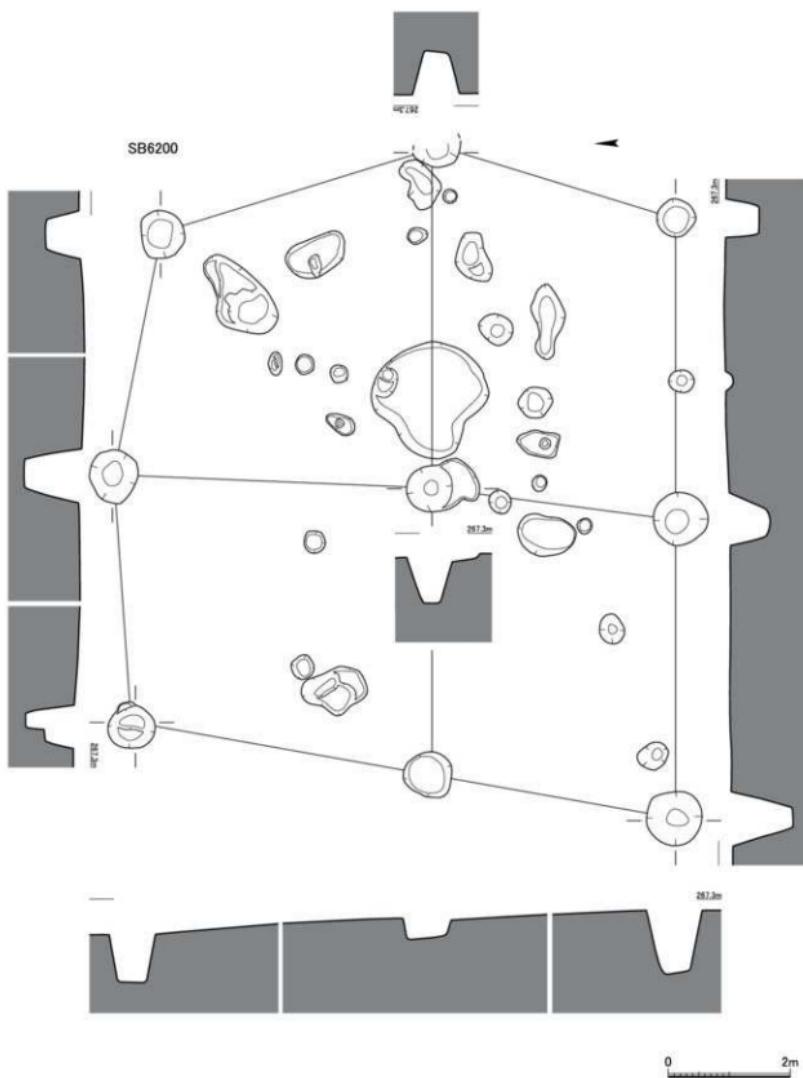


図 33 6E区の造構 2 (1/80)

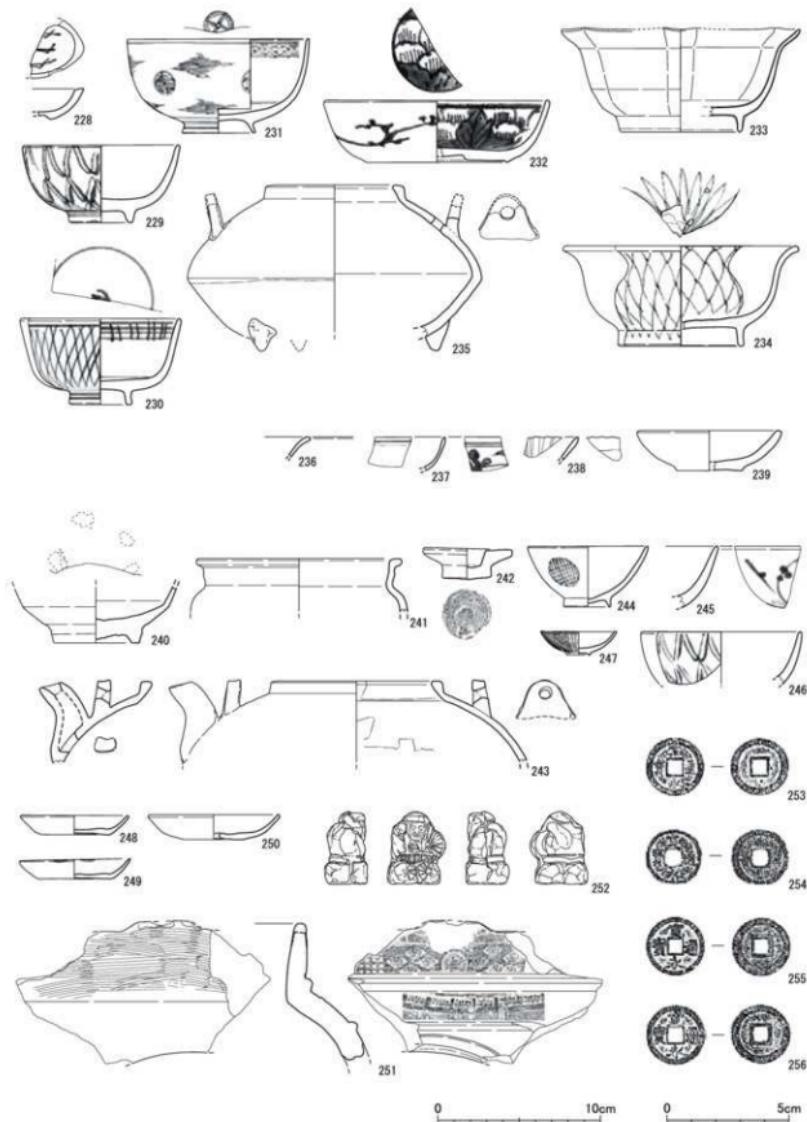


図 34 6 E 区の遺物 (1/2 + 1/3)

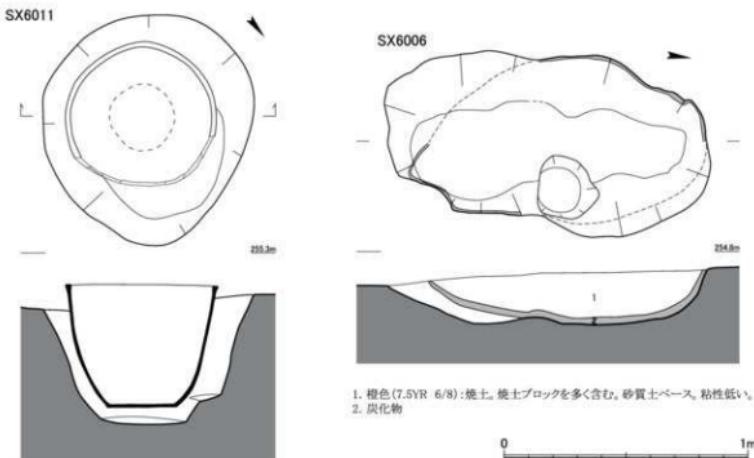


図 35 6H 区の遺構 (1/20)

土しており、調査区ごとに報告する。このうち、6H 区の下層では 16 世紀末から 17 世紀前半の遺物がまとまって出土しており、遺構面は確認できなかったものの、屋敷地などとして利用されていたことがうかがえる。6Q 区では、現代の石垣内側の石列付近から土師器小皿などがまとまって出土しており、祭祀によるものと思われる（写真図版 13）。

6H 区 SX6006 (図 35)

6H 区北部に位置し、長軸 1.2 m、短軸 0.63 m、深さ 0.2 m の平面橢円形で、底面に炭層があり、その上の理土には焼土が多量に含まれている。6H 区では同様の遺構が 10 基ほど確認されており（写真図版 12）、何らかの生産に関する遺構と考えられる。時期は近世末以降で、近代の可能性が高い。

6H 区 SX6011 (図 35)

6H 区南部に位置し、径 0.85 ~ 0.95 m、深さ 0.53 m の平面円形の掘形に、径約 62cm、高さ約 30cm の瓦質土器甕を埋置した遺構である。掘形埋土は明黄褐色砂に長さ数 cm の角礫を混在させたもので、甕内部から微量の木片、掘形埋土から土師器杯 1 点が出土した。1 基のみ単独で確認されたが、便所の可能性がある。

SX6011 出土遺物 (図 42)

358 は瓦質土器甕で、内外面ハケメである。

6A 区出土遺物 (図 36)

257 は肥前陶器碗で、外面に銅錆釉、内面に透明釉を施している。258・259 は肥前陶器灯火具で、ともに底部糸切である。260 は肥前陶器擂鉢で、全面に施釉するタイプである。

261 ~ 263 は肥前染付磁器碗で、261・262 は深めの筒丸形碗、263 は広東形碗である。264 は肥前青磁染付の筒形碗である。265・266 は肥前染付磁器皿である。265 は内面見込みに五弁花文のコンニャク印判が施され、蛇の目釉剥ぎしている。266 は蛇の目凹形高台で、内面に足付きハマの目跡が残る。267 ~ 270 は肥前白磁で、267

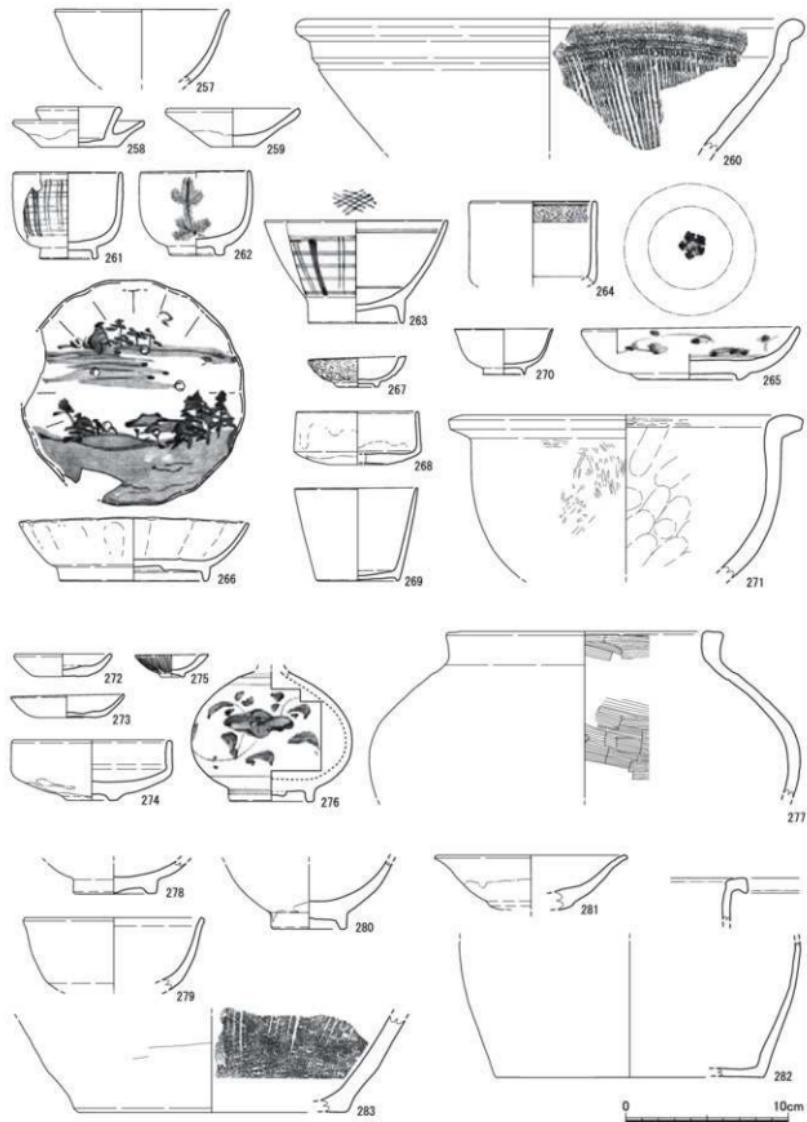


図 36 6区近世の遺物 1 (1/3)

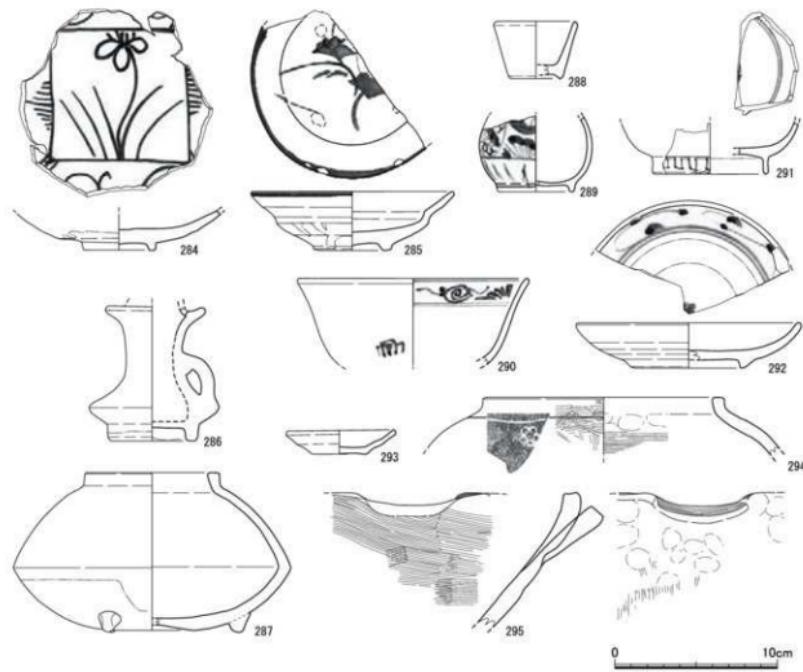


図37 6区近世の遺物2 (1/3)

は紅皿、268は小形の蓋付鉢、269は猪口、270は小杯である。

271は瓦質土器鉢である。

6C区出土遺物（図36）

272・273は底部糸切の土器小皿である。274は肥前陶器皿で、透明に近い灰釉を施している。275は肥前白磁紅皿、276は肥前染付磁器瓶で、高台内に砂が熔着している。277は瓦質土器壺である。

6D区出土遺物（図36・37）

278～280は肥前陶器碗で、278はいわゆる「青唐津」で、279は灰釉が施され、280は外面銅線釉、内面透明釉が施される。281は肥前陶器皿で、灰釉が施される。282は肥前陶器壺で、暗緑色の灰釉が内外面に施される。284・285は肥前陶器皿で、文様を鉄釉で描く絵唐津である。285の内面には胎土目跡が残る。286は陶器油差で、鉄釉が施される。287は薩摩産とみられる陶器土瓶で、外面底部に煤が付着している。

288は肥前白磁猪口、289は肥前染付磁器瓶である。290は肥前染付磁器碗、291は肥前青磁染付碗である。292は肥前染付磁器皿で、内面見込みに五弁花文のコンニャク印判が施され、蛇の目釉剥ぎしている。

283・295は瓦質土器擂鉢で、283の内面には摩滅痕が見られる。293は底部糸切の土器小皿で、内面に油煤

が付着している。294は瓦質土器茶釜で、梅花文の印刻が施される。

6H区出土遺物（図38～42）

296～349は6H区下層と判断される遺物である。296・297は白磁皿で、296は森田E群、297は森田D群である。298は竜泉窯系青磁碗で、口縁外面の雷文が波状文に退化したものと思われる。299は竜泉窯系青磁碗で、高台内は露胎である。300・301は竜泉窯系青磁棱花皿である。302～308は中国産青花で、302は景德鎮窯系の碗、303は景德鎮窯系の皿、304は碗、305・306は皿、307・308は小野皿C群である。

309～311は肥前陶器碗で、いわゆる「青唐津」である。312は肥前陶器碗で、内面透明釉で、外面には銅緑釉を流し掛けている。313～315は「青唐津」の肥前陶器皿で、315は口縁部に鉄釉を施しており、内面に4箇所胎土目跡が残る。319～320は肥前陶器皿である。319は灰釉で口縁部に鉄釉、316は灰釉、320は透明釉に近い灰釉を施しており、317・318は鉄釉で文様を描く絵唐津である。321は肥前陶器甕で、内面に同心円文の当て具痕がみられ、暗緑色の釉を施している。322は肥前陶器壺で、外面に灰釉を施している。

323～327は底部糸切の土師器小皿である。328～332は底部糸切の土師器杯で、328の内面には螺旋状の調整痕がみられる。333～335は瓦質土器擂鉢で、336も擂目の単位がはっきりしないが擂鉢であろう。337は瓦質土器火入である。338～341は瓦質土器茶釜で、肩部に印刻文が施され、338・340の外面上には煤が付着している。342は防長系の瓦質土器足鍋である。343～345・347・348は瓦質土器鍋で、いずれも外面上に煤が付着している。349は瓦質土器火鉢である。

346は銅錢の天聖元寶で、本鎬錢である。

350は肥前陶器擂鉢で、口縁部のみに施釉されるタイプである。351は肥前陶器鉢で、内面に印刻による文様が施される。352・353は肥前染付磁器碗で、352は丸形碗、353は端反形碗である。354・355は土器片を利用した土製円盤である。356は近代以降と思われる瓦器皿で、外底部に「肥前祐徳稻荷神社」の印刻がある。357は土師器焰燈で、外面上に煤が付着している。

6I区出土遺物（図42・43）

359は肥前陶器火貝で、底部糸切である。360は肥前陶器皿で、いわゆる「青唐津」である。361は焼成状態が悪い肥前染付小杯と思われる。362は肥前白磁紅皿、363・364は肥前白磁蓋である。365・366は一对のものと思われる肥前染付磁器合子で、明治以降のものである。367は肥前陶器擂鉢で、全面に施釉されるタイプである。368は磁器製窯道具ハマで、集落遺跡で出土することは珍しいのではなかろうか。375は平底で口縁部のみに施釉されるタイプの肥前陶器擂鉢で、内面底部には顯著な摩滅痕がみられる。

369・370は土師器焰燈の把手である。371は瓦質土器で、内面上に煤が付着しており、火鉢と判断した。焼成などから近代以降のものであろう。372は瓦質土器火鉢と判断した。373・374は瓦質土器擂鉢である。

6J区出土遺物（図43・44）

調査区は宗源院跡（6G区）の一段下の区画であり、出土遺物の一部は宗源院跡からの流れ込みの可能性がある。

376～378は肥前陶器碗で、いずれも灰釉が施され、376は内面上に胎土目跡を残す。378は呉器手形の碗である。379は陶器碗で、鉄釉が施される。380はいわゆる「青唐津」の肥前陶器皿で、高台内に砂が付着している。381～383は陶器皿で、381・382は肥前の灰釉溝線皿である。384は擂鉢で、陶器と思われるが焼成は不良である。385は肥前陶器擂鉢で、高台が付き全面に施釉されるタイプである。389は肥前陶器甕、390は二彩手の肥前陶器鉢で、白化粧土を剥いで刷毛目を施している。

386～388は肥前染付磁器碗で、386・387は丸形碗、388は端反形碗である。391～393は肥前染付磁器皿で、

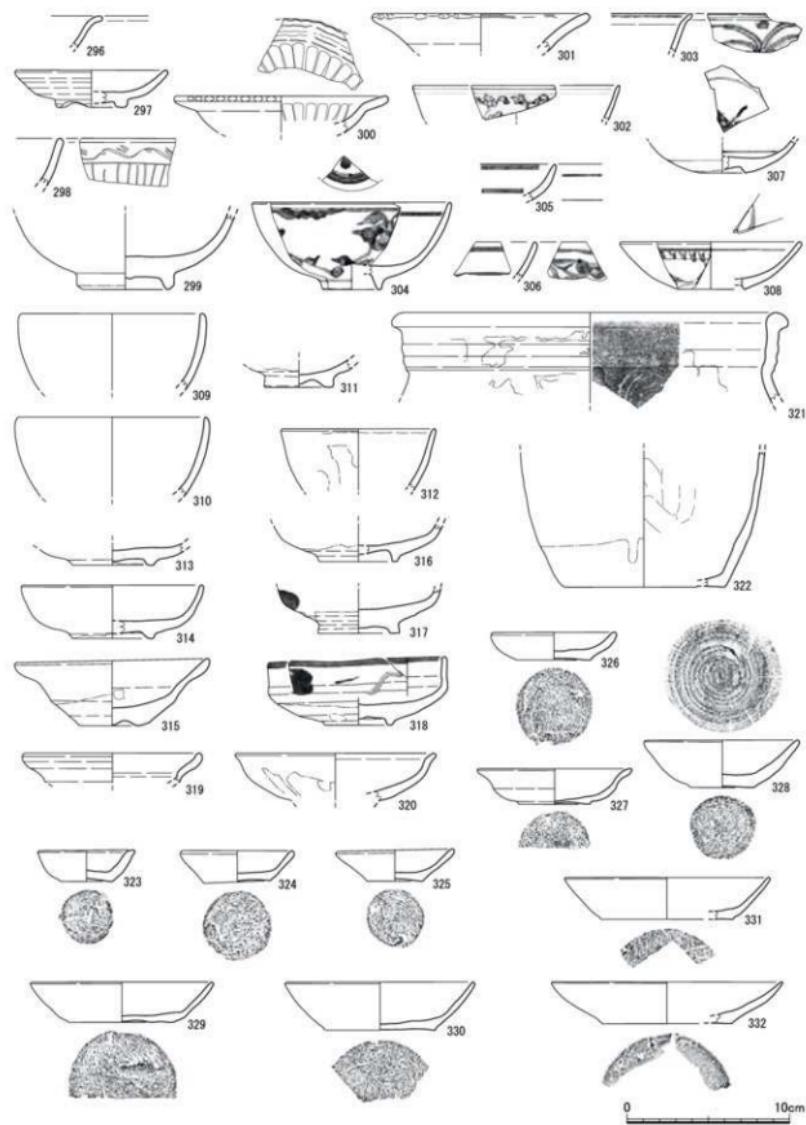


図38 6区近世の遺物3 (1/3)

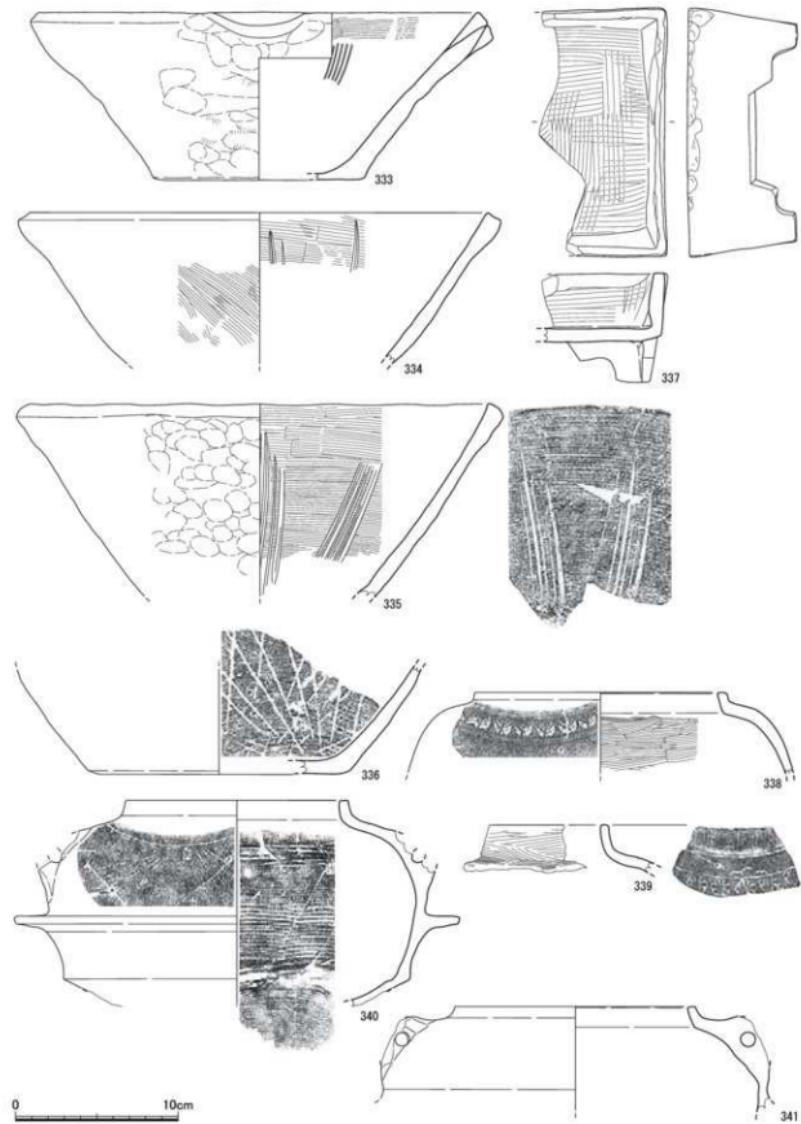


図39 6区近世の遺物4 (1/3)

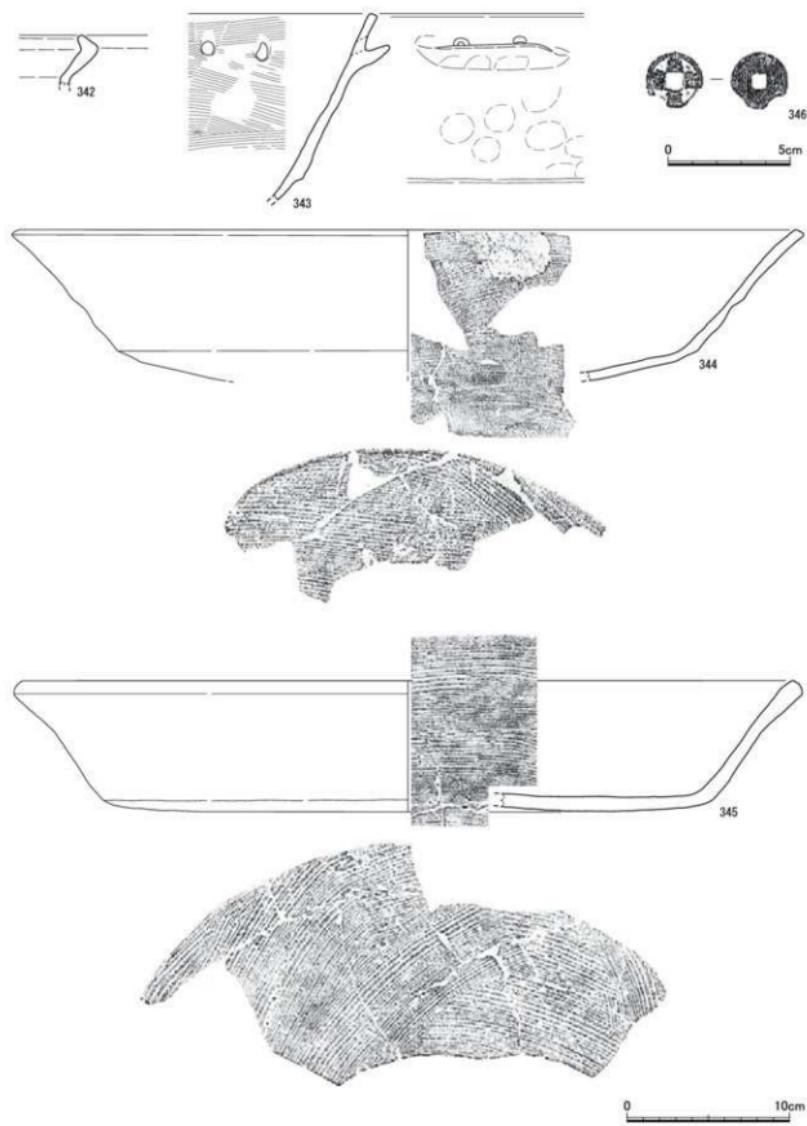


図 40 6区近世の遺物 5 (1/2・1/3)

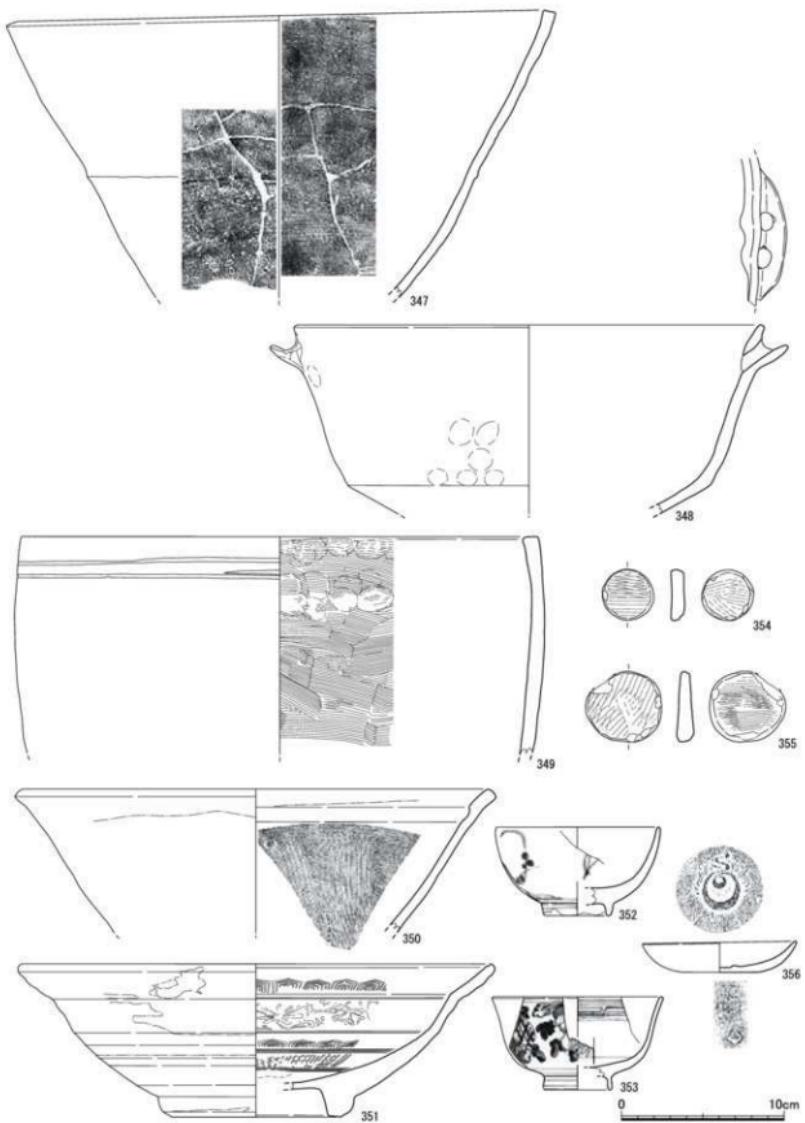


図 41 6区近世の遺物 6 (1/3)

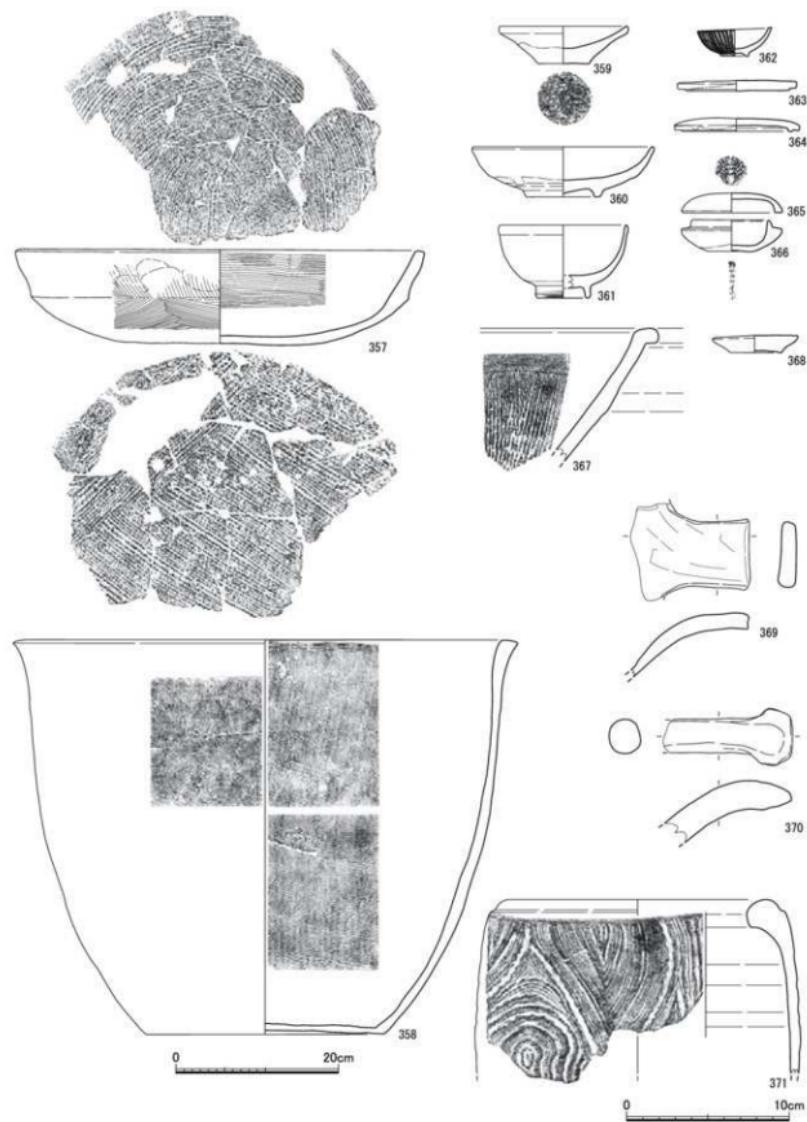


図 42 6区近世の遺物 7 (1/2・1/6)

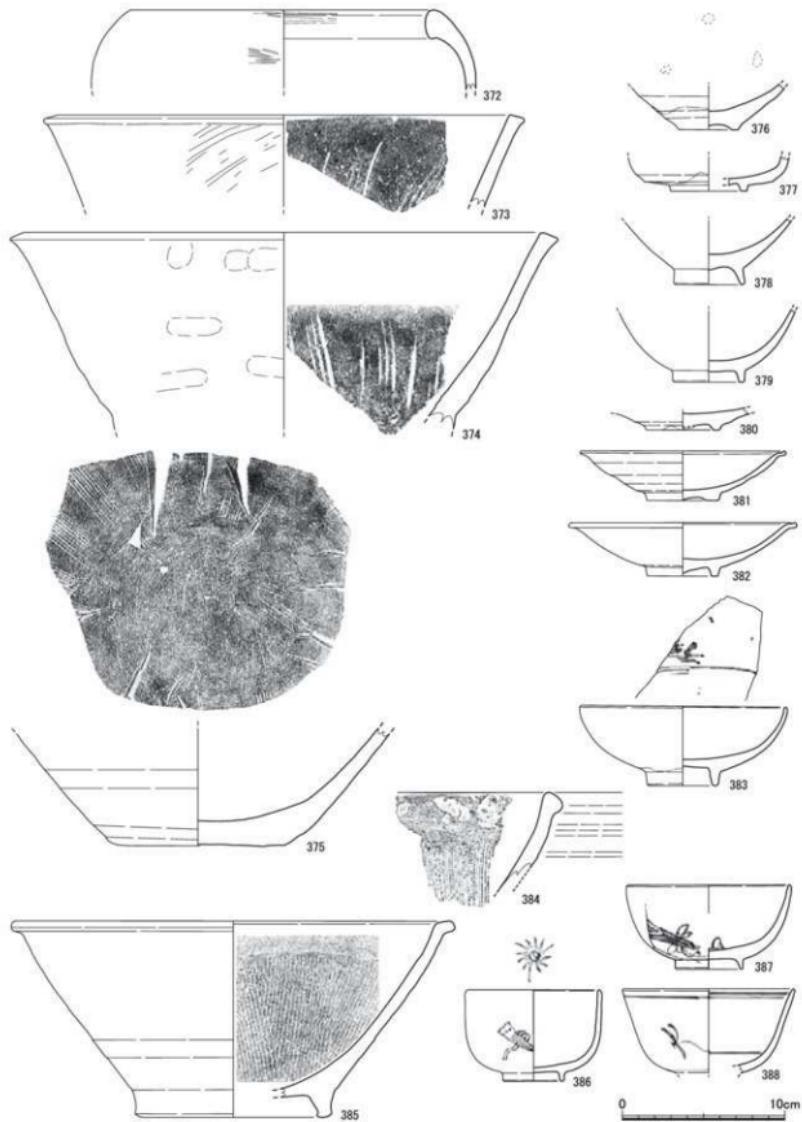


図43 6区近世の遺物8 (1/3)

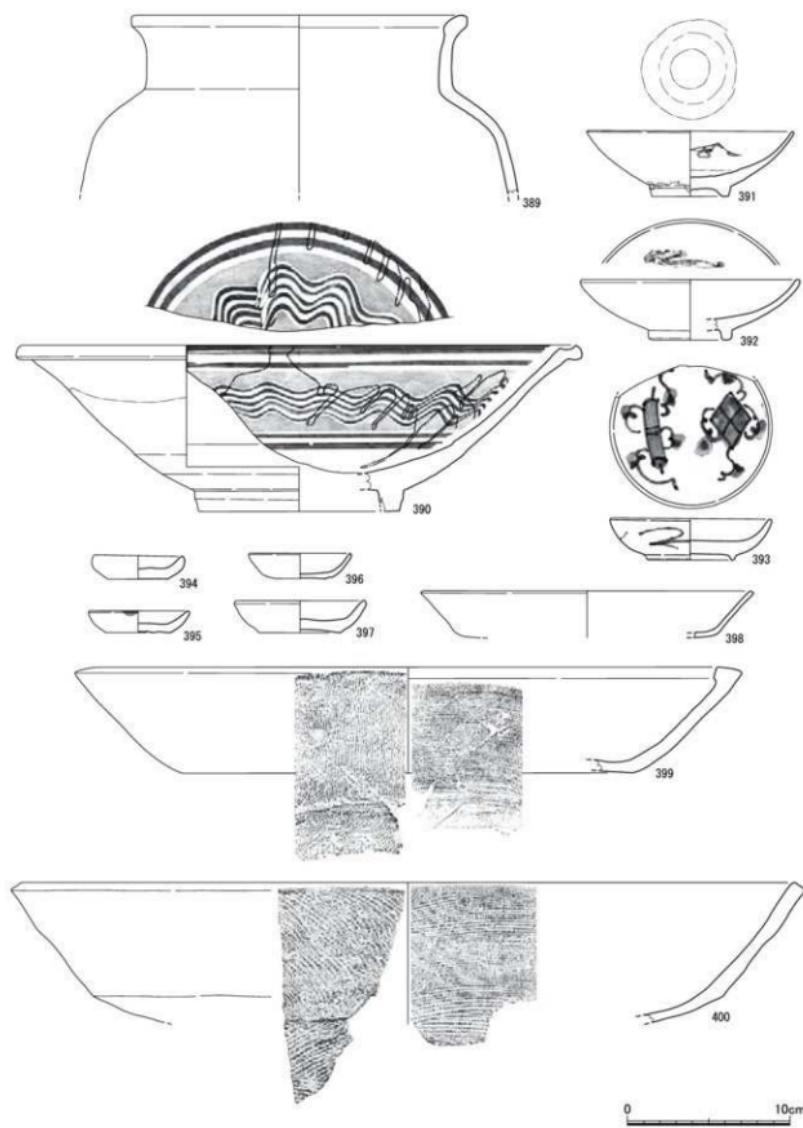


図44 6区近世の遺物9 (1/3)

391は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。

394～397は底部糸切の土師器小皿で、395は油煤が付着している。398は外面に煤が付着しており、器壁が薄いが土師器焙烙と判断した。399は瓦質土器火鉢である。400は瓦質土器鍋で、外面に煤が付着している。

6K 区出土遺物（図45・46）

401～403は肥前陶器皿である。401は蕭灰釉が施され、内面見込みに整形時の痕跡が螺旋状に残る。402は鉄釉が施され、内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。403は灰釉が施され、砂目跡が残る。404～406は肥前陶器碗である。404は京焼風陶器で、405は灰釉が施され、内面を見込み釉剥ぎしている。406は底部外面から高台内に鉄錆を塗っている。407は肥前陶器擂鉢で、口縁部のみに施釉されるタイプである。408は肥前陶器盃で、鉄釉が施されるが、むらが多く、露胎の部分もあり、内面に同心円文の當て具痕がみられる。

409・410は肥前染付磁器碗で、ともに丸形碗である。411は肥前染付磁器皿、412は肥前染付磁器瓶である。413は白磁小杯、414は肥前染付磁器とみられる仏飯具である。

415・416は底部糸切の土師器杯で、器高が高いタイプである。417・418は底部糸切の土師器杯、419～421は底部糸切の土師器小皿で、420は油煤が付着している。422は瓦質土器火鉢である。423・424は瓦質土器鍋で、ともに外面に煤が付着している。

6N 区出土遺物（図46・47）

425は肥前陶器盃で、灰釉が施される。426は陶器壺で、外面に褐釉が施される。427・428は肥前青磁香炉で、427は蛇の目凹形高台である。429～431は肥前染付磁器碗で、429は丸形碗、430は端反形碗、431は広東形碗である。432～434は肥前染付磁器皿である。432の高台内にはハリ支えの痕跡が残り、433・434は内面見込みに五弁花文のコンニャク印判が施される。435は肥前染付磁器瓶である。

436～439は底部糸切の土師器小皿で、437～439には油煤が付着している。440は瓦質土器鍋で、外面に煤が付着している。441は瓦質土器壺、442は瓦質土器火鉢である。

6O 区出土遺物（図47）

443は肥前陶器碗で、内外面に銅綠釉を施している。444は肥前染付磁器碗で、丸形碗である。445は肥前染付磁器皿で、内面見込みに五弁花文のコンニャク印判が施される。

6P 区出土遺物（図47）

446・447は肥前染付磁器皿で、446は蛇の目凹形高台である。447は瓦質土器壺としたもので、明治以降に降るものかもしれない。

6Q 区出土遺物（図48・49）

449は肥前陶器碗で、灰釉が施される。450～452は肥前陶器皿で、450は刷毛目手と思われ、451・452の内面には銅綠釉が流し掛けられ、見込み蛇の目釉剥ぎしている。453は陶器鉢で、鉄釉が施される。454・455は肥前陶器壺で、ともに褐釉が施され、454は鉄釉が流し掛けられる。456・457は肥前陶器盃である。458は肥前陶器擂鉢で、高台が付き全面に施釉されるタイプである。468は二彩手の肥前陶器鉢で、白土で波状に装飾する刷毛目である。469・470は肥前陶器鉢で、470は内面白化粧土、外面は白土で波状に装飾する刷毛目である。

459は肥前染付磁器小杯、460は肥前白磁碗、462は肥前青磁染付の筒形碗である。461・463～465は肥前染付磁器碗である。461は深めの筒丸形碗、463・464は丸形碗、465は端反形碗で、内面見込みを蛇の目釉剥ぎ

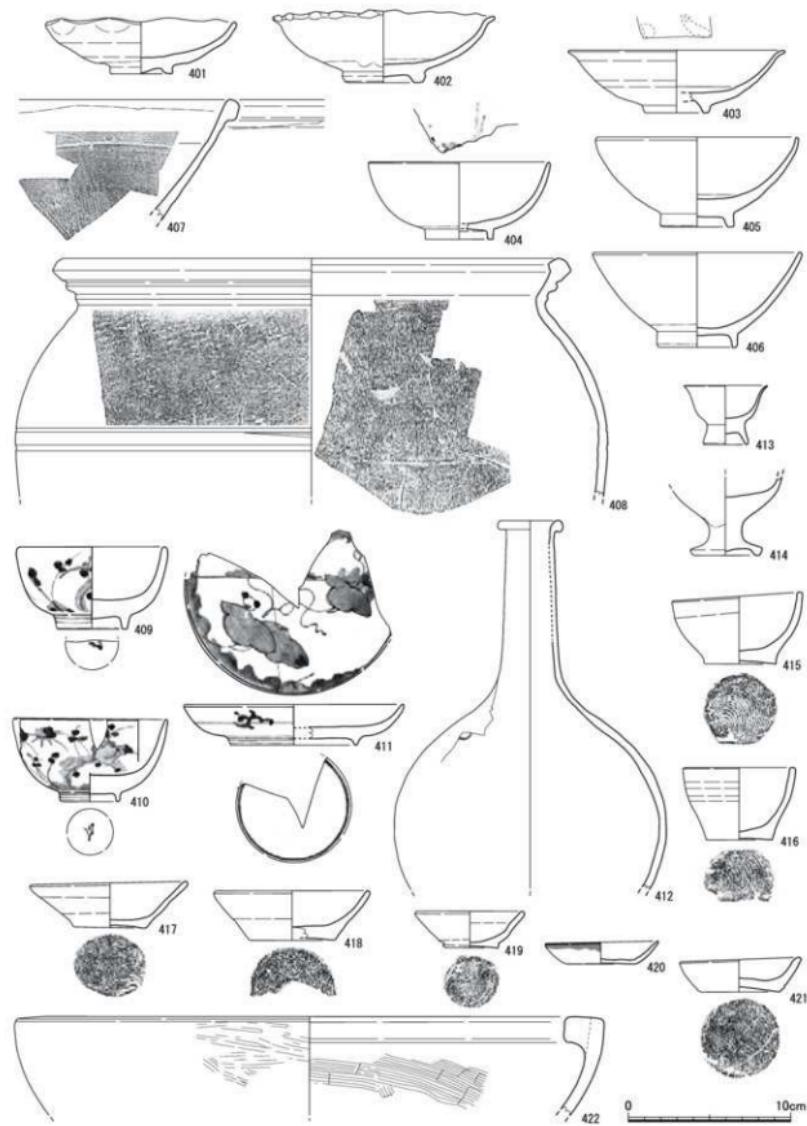


図45 6区近世の遺物 10 (1/3)

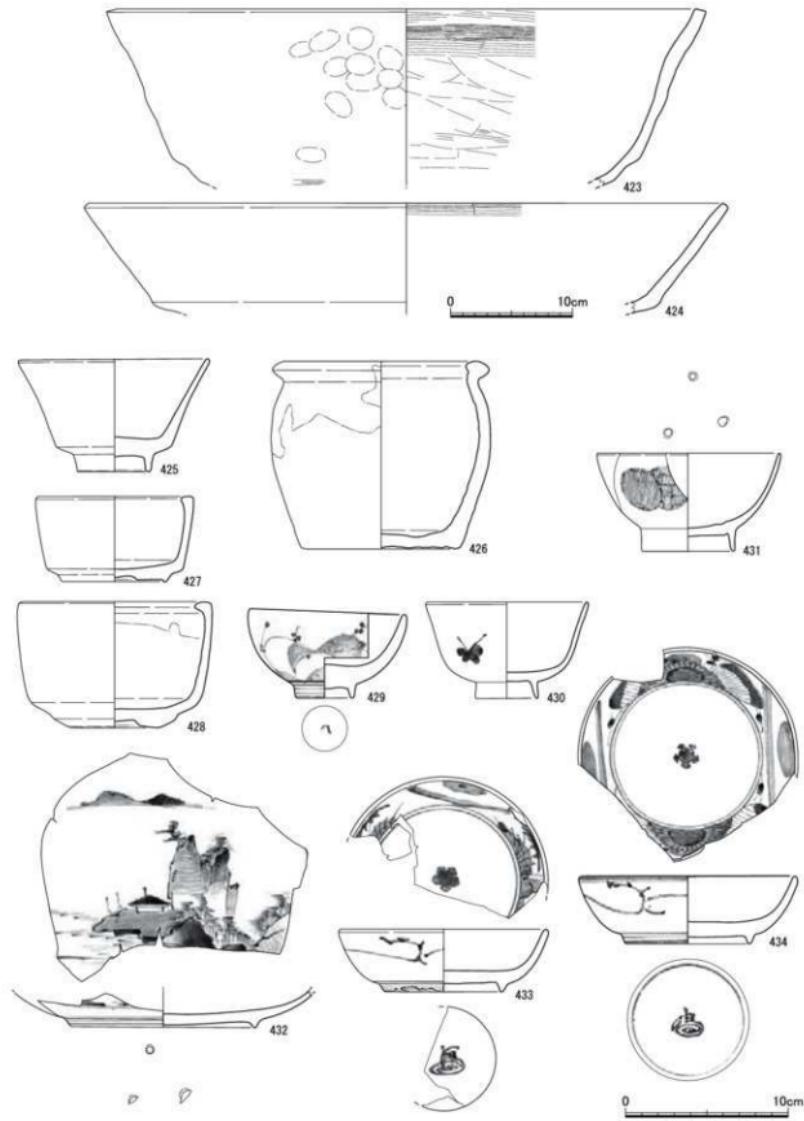


図 46 6区近世の遺物 11 (1/2 • 1/3)

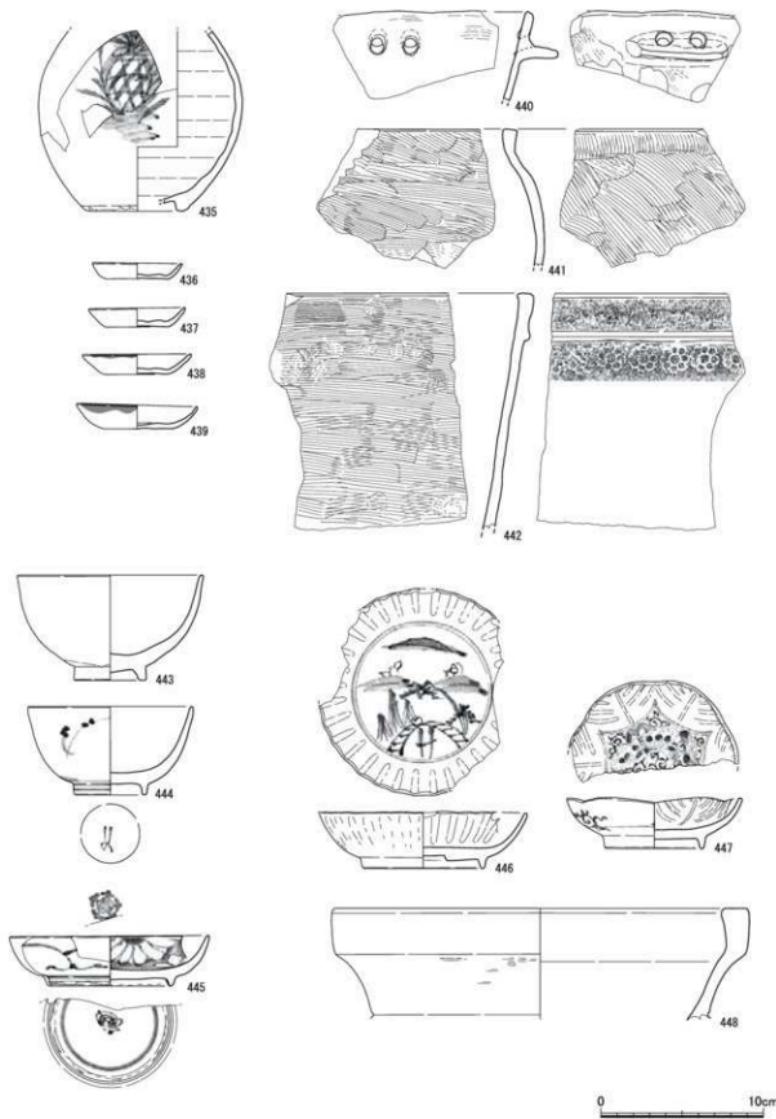


図47 6区近世の遺物 12 (1/3)

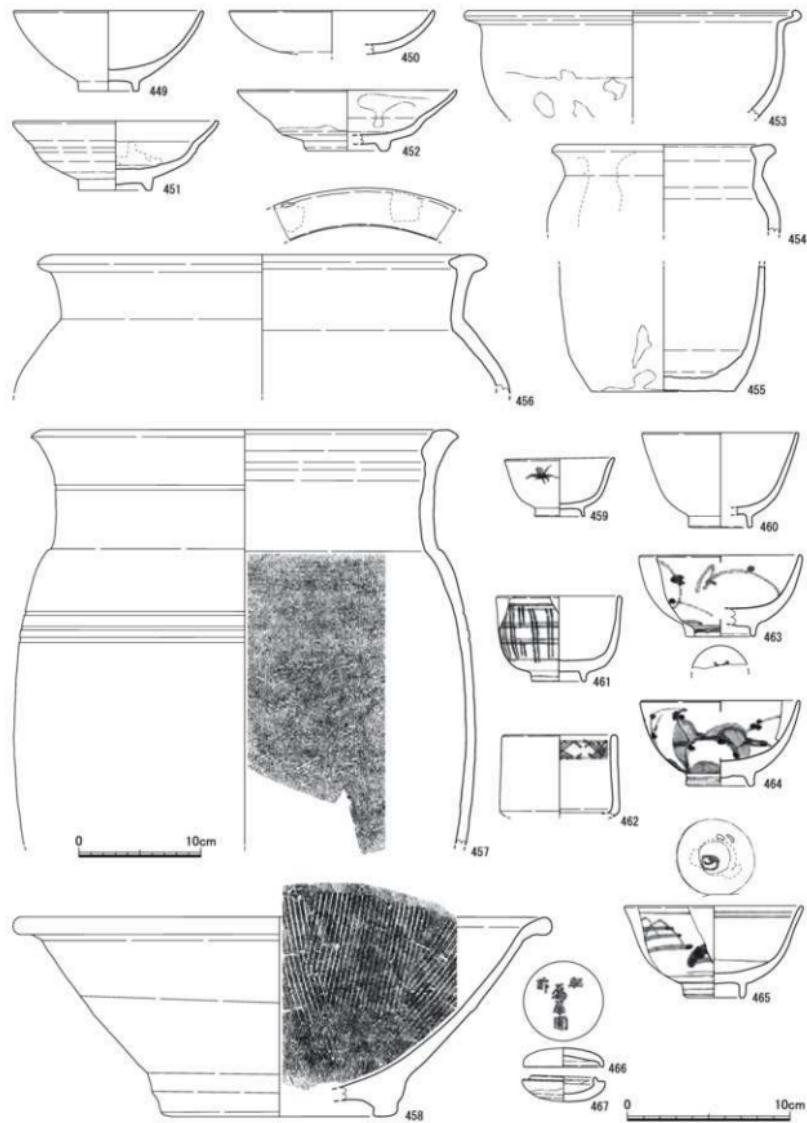


図 48 6区近世の遺物 13 (1/2・1/4)

している。466・467 は肥前染付磁器合子で、一対のものと考えられる。471・472 は肥前染付磁器皿で、471 は内面見込みを蛇の目軸剥ぎしている。

473～501 はまとまって出土した資料と見られる。473～499 は底部糸切の土師器小皿で、器形・大きさともほぼ同じものである。481 のみ油煤が付着している。500・501 は底部糸切の土師器杯で、口縁部がやや外反する形態である。18 世紀後半から 19 世紀前半のものと考えられる。502～504 は底部糸切の土師器杯で、戦国時代末まで遡る可能性がある。505 は土師器焰烙、506 は土師器火入である。

6R 区出土遺物（図 50）

507 は肥前陶器碗で、鉄軸が施される天目形碗である。508 は肥前陶器甌で、肩部に貼花文が付けられたものとみられる。509 は肥前陶器擂鉢で、全面に施釉されるタイプである。510 は肥前白磁杯である。511・513 は肥前染付磁器碗で、ともに丸形碗である。512 は肥前青磁染付の筒形碗である。514 は蛇の目凹形高台の肥前染付磁器皿で、内面に足付きハマの目跡が残る。515 は底部糸切の土師器杯である。516 は褐釉が施された陶器で、図示できなかつたが底部に穴が開いていることから、植木鉢であろう。明治以降のものと考えられる。517 は坩堝で、金属と思われるものが全面に付着しているため、材質は不確実である。

6 区その他の出土遺物（図 50）

518 は 6K 区出土の茶臼で、摩滅痕が顕著に見られる。519 は 6J 区出土の石製硯、520・521 は砥石である。522 は銅錢の元豊通寶で、本鎔錢である。523～527 は銅錢の寛永通寶（新寛永）で、526 は文錢、527 は波錢である。528 は文久永寶である。529・530 は青銅製のキセル吸口で、ともに木質が残存している。

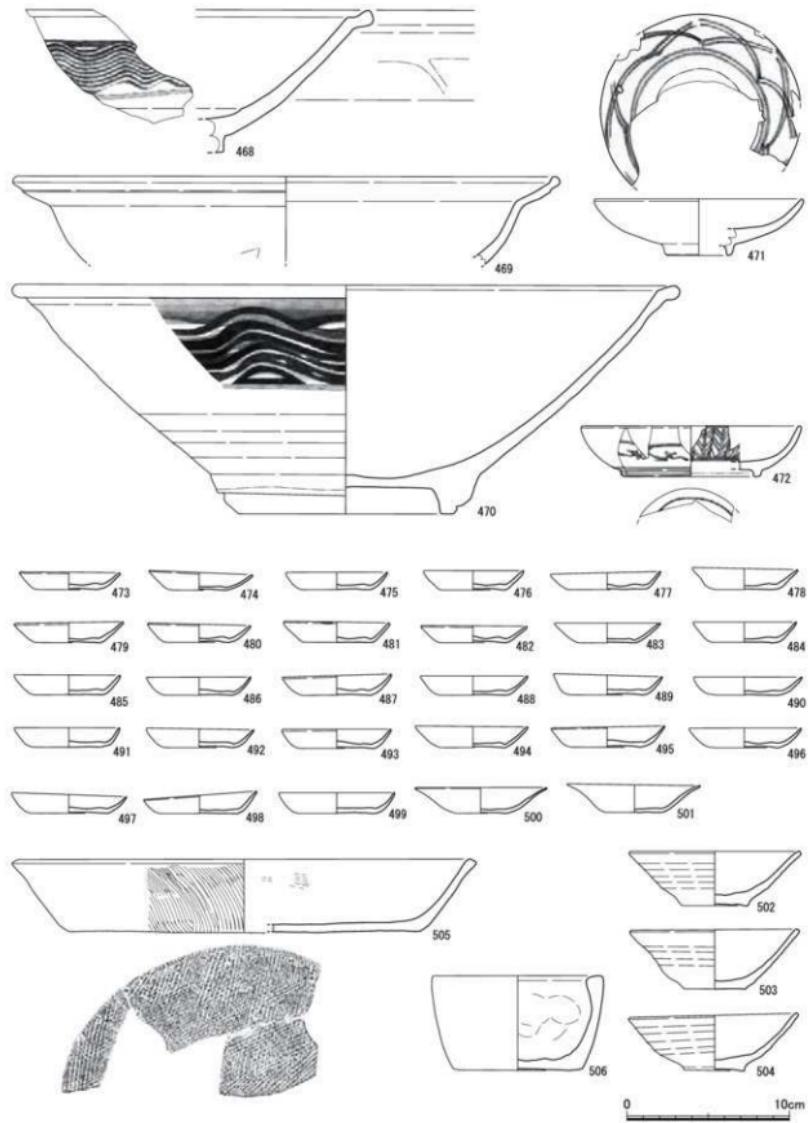


図 49 6 区近世の遺物 14 (1/3)

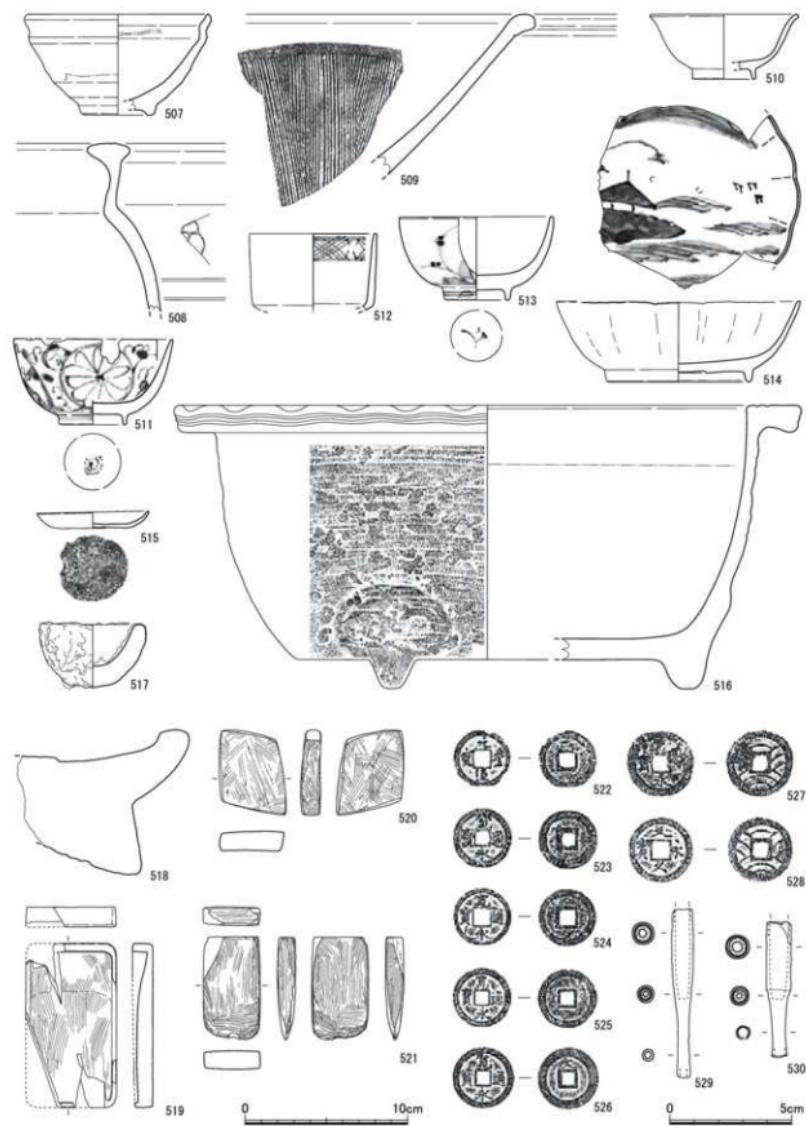


図 50 6区近世の遺物 15 (1/2・1/3)

表5 東烟瀬遺跡6区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図23-140 09002626	6B区 SX6103 北西	土師器 小皿	9.4*	8.3	2.4	浅黄褐	底部系切 板状圧痕	写真図版 14-140 20101635
図23-141 09002629	6B区 SX6103 北西	土師器 小皿	8.4*	6.4	1.8	に赤い黄褐	底部系切 板状圧痕	写真図版 14-141 20101636
図23-142 09002630	6B区 SX6103 北西	土師器 小皿	8.9*	7.0*	1.3	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 14-142 20101559
図23-143 09002628	6B区 SX6103 北西	土師器 小皿	8.6*	7.0*	2.3	褐	底部系切	写真図版 14-143 20101558
図23-144 09002627	6B区 SX6103 北西	土師器 小皿	6.7*	3.9	1.6	に赤い褐	底部系切	写真図版 14-144 20101557
図23-145 09002640	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	12.4*	8.8	3.5	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 14-145 20101642
図23-146 09002641	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	13.4	10.2	3.4	に赤い黄褐	底部系切 板状圧痕	写真図版 14-146 20101643
図23-147 09002642	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	13.6	9.6	3.4	に赤い黄褐	底部系切 板状圧痕	写真図版 14-147 20101644
図23-148 09002638	6B区 下層	土師器 杯	15.2*	11.2*	3.2	に赤い黄褐	底部系切 板状圧痕	写真図版 14-148 20101566
図23-149 09001815	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	-	11.5*	-	灰黄褐	底部系切 板状圧痕	写真図版 14-149 20101564
図23-150 09001813	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	15.2*	10.0*	3.2	に赤い黄褐	底部系切 板状圧痕	写真図版 14-150 20101717
図23-151 09001814	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	13.6*	9.2*	3.4	浅黄褐	底部系切 板状圧痕	写真図版 14-151 20101633
図23-152 09002634	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	14.0*	10.0*	3.3	褐	底部系切	写真図版 14-152 20101637
図23-153 09001812	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	13.5*	8.8	3.2*	に赤い褐	底部系切	写真図版 14-153 20101632
図23-154 09002636	6B区 下層	土師器 杯	13.4*	10.5*	3.4	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 14-154 20101638
図23-155 09002625	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	14.1*	10.2*	3.3	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 14-155 20101634
図23-156 09002644	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	12.8*	8.9	3.1	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 14-156 20101646
図23-157 09002637	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	14.0*	10.1*	3.2	褐	底部系切	写真図版 14-157 20101640
図23-158 09002643	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	14.5*	8.0	3.5	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 14-158 20101645
図24-159 09002635	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	-	9.8*	-	褐	底部系切	写真図版 14-159 20101565
図24-160 09002639	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	11.7*	7.2	2.9	に赤い褐	底部系切	写真図版 14-160 20101641
図24-161 09002624	6B区 SX6103 北西	土師器 杯	-	7.4*	-	外：に赤い褐 内：に赤い黄褐	底部系切	写真図版 14-161 20101639
図24-162 09002633	6B区 SX6103 北西	象嵌青磁 碗	-	-	-	胎土：灰	高麗末～朝鮮王朝初期	写真図版 14-162 20101552
図24-163 09002632	6B区 SX6103 北西	象嵌青磁 碗	-	4.4*	-	胎土：灰	高麗末～朝鮮王朝初期	写真図版 14-163 20101551
図24-164 09002631	6B区 SX6103 北西	白磁 盤	-	7.0*	-	胎土：灰白	森田E群	写真図版 14-164 20101550
図24-165 09002645	6B区 SX6103 北西	陶器 盤	13.0	5.0	4.3	胎土：淡黄	肥前 内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 14-165 20101649
図24-166 09002646	6B区 SX6103 北西	陶器 火灰具	6.9*	2.9	2.2	胎土：明赤褐	肥前 底部系切	写真図版 14-166 20101647
図24-167 09003410	6B区 SX6103 北西	染付磁器 碗	-	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 14-167 20101554
図24-168 09002648	6B区 SX6103 北西	陶器 盤	30.0*	-	-	胎土：に赤い赤褐	肥前	写真図版 14-168 20101568
図24-169 09002649	6B区 SX6103 北西	瓦質土器 盤	27.0*	-	-	黒褐	写真図版 14-169 20101569	
図24-170 09002647	6B区 SX6103 北西	瓦質土器 盤	-	-	-	外：灰 内：に赤い黄褐	焼付着	写真図版 14-170 20101567
図24-171 09002650	6B区 SX6103 北西	瓦質土器 盤	36.0*	-	-	灰褐・灰白	焼付着	写真図版 14-171 20101570
図24-172 09002651	6B区 下層	土師器 罐	44.6*	-	-	に赤い褐	焼付着	写真図版 14-172 20101571
図24-173 09003372	6B区 SX6103 北西	鍵孔 鏡	-	2.4	-	-	寛永通寶 2.8g	写真図版 14-173 20101428
図25-174 09003295	6R区 2tr	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	童子衆系鏡上田B II類	写真図版 15-174 20101586
図25-175 09002986	6J区 1-33 層	青磁 碗	-	-	-	胎土：黄灰	童子衆系鏡上田B IV類	写真図版 15-175 20101490

表5 東畠瀬遺跡6区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図25-176 09002988	6J区 13tr	青磁 碗	13.0*	-	-	胎土:灰白	竜泉窯系碗上田C類	写真図版 15-176 20101491
図25-177 09003297	6P区 1層	青磁 碗	-	-	-	胎土:灰白	竜泉窯系碗上田C類	写真図版 15-177 20101583
図25-178 09003000	6K区 4tr	青磁 碗	-	5.3*	-	胎土:灰・に赤い黄緑	竜泉窯系 内側丸込み・高台内輪脂	写真図版 15-178 20101738
図25-179 09003344	6Q区 1tr	青磁 碗	-	6.5*	-	胎土:灰	竜泉窯系 高台内蛇の目輪削ぎ	写真図版 15-179 20101595
図25-180 09002987	6J区 SX6056	青磁 盤	-	-	-	胎土:褐灰	竜泉窯系	写真図版 15-180 20101499
図25-181 09003397	6A区 表表	青花 盤	11.9*	3.4*	2.8	胎土:灰白	景德鎮窯系皿小野C群	写真図版 15-181 20101520・1521
図25-182 09003452	6G区 西側	青花 盤	10.3*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系皿小野C群	写真図版 15-182 20101582
図25-183 09003671	6D区 Atr	青花 皿	-	4.2*	-	胎土:灰白	福建系皿小野C群	写真図版 15-183 20101532・1533
図25-184 09003450	6J区 3層	青花 皿	-	6.8*	-	胎土:灰白	景德鎮窯系皿小野B群	写真図版 15-184 20101493・1494
図25-185 09003588	6D区 Atr	青花 小杯	5.6*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系	写真図版 15-185 20101531
図25-186 09003441	6K区 4tr	青花 皿	-	-	-	胎土:灰白	小野碗C群 2次的な被熱	写真図版 15-186 20101511
図25-187 09003587	6D区 表表	青花 皿	-	4.9	-	胎土:灰白	写真図版 15-187 20101530	
図25-188 09002668	6D区 表表	黒釉磁器	-	4.1	-	胎土:灰黄	中国 天目	写真図版 15-188 20101624
図25-189 09003670	6A区 5tr 1層	陶器 壺	6.7*	-	-	胎土:褐灰	中国	写真図版 15-189 20101525
図25-190 09003672	6D区 Atr	象嵌青磁 皿	-	-	-	胎土:灰白	写真図版 15-190 20101534	
図25-191 09003669	6A区 5tr 1層	象嵌青磁 皿	-	5.2	-	胎土:灰黄	写真図版 15-191 20101523・1524	
図25-192 09002985	6J区 SX6052	陶器 皿	8.4*	4.2*	2.0	胎土:黄灰	朝鮮王朝期 灰青陶器	写真図版 15-192 20101492
図25-193 09003350	6Q区 2tr	陶器 皿	10.0	4.4	3.2	胎土:黄灰	朝鮮王朝期 灰青陶器	写真図版 15-193 20101805
図25-194 09003296	6G区 試掘坑	須恵器系陶器 程跡	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 15-194 20101581
図25-195 09003283	6K区 4tr	陶器 程跡	-	-	-	灰	備前	写真図版 15-195 20101509
図25-196 09002655	6C区 5層	陶器 壺	37.6*	-	-	胎土:に赤い赤泥	備前	写真図版 15-196 20101541
図25-197 09002978	6J区 2層	土師器 小皿	8.2*	5.0*	2.0	に赤い相	底部糸切	写真図版 15-197 20101497
図25-198 09003281	6K区 4tr	土師器 小皿	7.3	5.2	2.0	に赤い黄緑	底部糸切	写真図版 15-198 20101744
図25-199 09003668	6C区 6層	土師器 杯	-	9.7*	-	に赤い黄緑	底部糸切	写真図版 15-199 20101623
図25-200 09001795	6A区 5tr 1層	土師器 杯	13.6*	10.4	3.4	に赤い黄緑	底部糸切	写真図版 15-200 20101608
図25-201 09003673	6C区 6層	須恵器系陶器 壺	-	-	-	灰	写真図版 15-201 20101539・1540	
図25-202 09003363	6C区 6層	滑石製品 石皿	-	-	-	-	埋付着	写真図版 15-202 20101444
図25-203 09003285	6K区	土師器 鍋	-	-	-	に赤い黄緑	埋付着	写真図版 15-203 20101507
図25-204 09003284	6K区 4tr	土師器 鍋	-	-	-	に赤い黄緑	埋付着	写真図版 15-204 20101506
図25-205 09003414	6K区 SX6021	土師器 鍋	-	-	-	に赤い黄緑	埋付着	写真図版 15-205 20101651
図30-206 09003413	6B区 SX6021	柴口沿器 蓋	10.0*	-	3.1	胎土:灰白	肥前	写真図版 15-206 20101650
図30-207 09003302	6B区 SX6021	瓦質土器 鉢	-	-	-	黒褐	写真図版 15-207 20101572	
図30-208 09003301	6B区 SX6021	瓦器 盤か	62.0*	59.0*	7.9	灰	写真図版 15-208 20101654	
図30-209 09001797	6B区 SX6026	土師器 小皿	8.8*	5.7	1.5	橙	底部糸切 近代以降か	写真図版 15-209 20101546
図30-210 09001809	6B区 SX6028	瓦質土器 壺	-	-	-	灰黄褐		写真図版 15-210 20101562
図30-211 09001796	6B区 SX6028	土師器 小皿	5.6*	3.8	1.1	橙	底部糸切	写真図版 16-211 20101629

表5 東煙瀬遺跡6区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
岡30-212 09001798	6B区 SX6028	土師器 小皿	7.2*	4.1	1.4	浅黄橙	底部系切 油燐付着	写真図版 16-212 20101547
岡30-213 09001808	6B区 SX6028	陶器 碗	12.4*	-	-	胎土：浅黄橙	肥前 内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 15-213 20101561
岡30-214 09003409	6B区 SX6028	染付磁器 碗	8.7*	-	-	胎土：灰白	肥前 口硝	写真図版 16-214 20101553
岡30-215 09001810	6B区 SX6031	陶器 瓶	-	12.2*	-	胎土：明赤褐	肥前	写真図版 16-216 20101556
岡30-216 09003412	6B区 SX6033	染付磁器 皿	-	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-217 20101555
岡30-217 09003411	6B区 SX6033	染付磁器 碗	-	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-218 20101553
岡30-218 09002652	6B区 SX6033	土師器 壺	13.0	12.0	13.0	に赤い黄橙	肥前	写真図版 16-219 20101562
岡30-219 09002653	6B区 SX6033	土師器 壺	15.3	19.6	19.1	に赤い褐	肥前	写真図版 16-219 20101562
岡30-220 09001811	6B区 P6124	染付磁器 皿	-	-	-	胎土：淡黄	肥前	写真図版 16-220 20101563
岡30-221 09001804	6B区 P6125	青磁 皿	-	-	-	胎土：灰白	電車窓系鏡 I型	写真図版 16-221 20101549
岡30-222 09003371	6B区 1-4号 組	錢貨 銅錢	-	2.5	-	-	直承通寶 29g	写真図版 16-222 20101427
岡30-223 09001800	6B区 1-4号 火人	陶器	-	4.8	-	胎土：浅黄橙	肥前	写真図版 16-223 20101630
岡30-224 09001802	6B区 表探 皿	陶器	13.4*	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-224 20101548
岡30-225 09001807	6B区 1-4号 組	陶器	12.5*	4.8*	3.8	胎土：灰白	肥前 内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 16-225 20101560
岡30-226 09001805	6B区 表探 小杯	陶器	-	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-226 20101631
岡30-227 09003408	6B区 表探 小杯	染付磁器	7.3	2.9	4.1	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-227 20101648
岡30-228 09003589	6E区 SX6201	染付磁器 皿	-	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-228 20101577
岡30-229 09003591	6E区 SX6201	染付磁器 皿	9.8	4.0	4.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-229 20101662
岡30-230 09003590	6E区 SX6201	染付磁器 皿	10.0*	3.9*	3.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-230 20101661
岡30-231 09003596	6E区 SX6201 周辺	染付磁器 皿	11.3*	4.6	5.9	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-231 20101664
岡30-232 09003594	6E区 SX6201 周辺	染付磁器 皿	14.0*	8.7	3.9	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-232 20101668
岡30-233 09003597	6E区 SX6201 周辺	染付磁器 皿	14.9*	7.4*	6.9	胎土：灰白	肥前 磁輪軸	写真図版 16-233 20101665
岡30-234 09003595	6E区 SX6201 周辺 跡	染付磁器 跡	14.6*	7.8*	6.2	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-234 20101663
岡30-235 09002684	6E区 SX6201 周辺	陶器 土瓶	8.6*	-	-	胎土：に赤い黄橙	備摩 外面燐付着	写真図版 16-235 20101667
岡30-236 09002693	6E区 SX6202	白磁 皿	-	-	-	胎土：灰白	森田E群	写真図版 16-236 20101668
岡30-237 09002936	6E区 SX6202	青花 皿	-	-	-	胎土：灰白	越後郡窯系 16c 後半～17c 初	写真図版 16-237 20101576
岡30-238 09002935	6E区 SX6202	白磁 紅皿	-	-	-	胎土：灰白	肥前 17c 後半～18c 前半	写真図版 16-238 20101575
岡30-239 09002934	6E区 SX6202	土師器 小皿	9.0*	4.0*	2.5	浅黄橙	底部系切	写真図版 16-239 20101660
岡30-240 09002680	6E区 包含層	陶器 皿	-	5.4	-	胎土：灰白	肥前 砂目	
岡30-241 09002681	6E区 包含層	陶器 壺	12.8*	-	-	胎土：灰	肥前	写真図版 16-241 20101574
岡30-242 09002677	6E区 包含層	陶器 盤	5.5	3.1	2.0	胎土：明赤褐		
岡30-243 09002683	6E区 北側検出面	陶器 土瓶	10.6*	-	-	胎土：褐灰		写真図版 16-243 20101659
岡30-244 09003600	6E区 包含層	染付磁器 小瓶	7.5	2.9	3.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-244 20101666
岡30-245 09003599	6E区 包含層	染付磁器 小瓶	-	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-245 20101579
岡30-246 09003598	6E区 包含層	染付磁器 小瓶	10.0*	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 16-246 20101578
岡30-247 09002679	6E区 包含層	白磁 紅皿	4.7	1.5	1.4	胎土：白	肥前	写真図版 16-247 20101657

表5 東畠瀬遺跡6区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図34-248 09002676	6E区 包含層	土師器 小皿	6.8*	4.3	1.2	浅黄褐	底部系切	写真図版 16-248 20101656
図34-249 09002674	6E区 包含層	土師器 小皿	6.9	4.5	1.2	浅黄褐	底部系切 油焼付着	写真図版 16-249 20101655
図34-250 09002675	6E区 包含層	土師器 小皿	8.2*	3.8*	1.6	浅黄褐・淡褐	底部系切	写真図版 16-250 20101573
図34-251 09002685	6E区 包含層	瓦質土器 瓶	-	-	-	外：灰褐 内：灰褐・にぶい褐		写真図版 16-251 20101580
図34-252 09002678	6E区 包含層	土製品 人形	長 4.5	幅 3.4	厚 2.7	にぶい黄褐	大型神	写真図版 16-252 20101658
図34-253 09003653	6E区 SXG201周辺	残瓦 片	-	2.4	-	-	直永通寶 2.4g	写真図版 16-253 20101431
図34-254 09003654	6E区 包含層	残瓦 片	-	2.4	-	-	直永通寶 1.4g	写真図版 16-254 20101432
図34-255 09003655	6E区 包含層	残瓦 片	-	2.4	-	-	直永通寶 2.1g	写真図版 16-255 20101433
図34-256 09003656	6E区 包含層	残瓦 片	-	2.5	-	-	直永通寶 3.0g	写真図版 16-256 20101434
図36-257 09001803	6A区 2tr	陶器 片	10.6*	-	-	胎土：灰	肥前 外面網目織	写真図版 17-257 20101519
図36-258 09001801	6A区 3tr	陶器 片	5.0*	4.8	2.5	胎土：明赤褐	肥前 底部系切	写真図版 17-258 20101600
図36-259 09001799	6A区 4tr	陶器 片	8.1*	3.0	2.4	胎土：相	肥前 底部系切	写真図版 17-259 20101518
図36-260 09001806	6A区 2tr	陶器 片	30.2*	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-260 20101537
図36-261 09003401	6A区 4tr1層	染付器 片	6.8*	3.6	5.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-261 20101602
図36-262 09003402	6A区 4tr1層	染付器 片	6.9	3.3	5.3	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-262 20101607
図36-263 09003400	6A区 4tr1層	染付器 片	11.4*	5.9	6.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-263 20101601
図36-264 09003403	6A区 4tr1層	青磁袋付 片	6.9*	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-264 20101522
図36-265 09003398	6A区 4tr1層	染付器 皿	13.6	6.2	3.3	胎土：灰白	肥前 内面絞の日輪割ぎ	写真図版 17-265 20101620
図36-266 09003399	6A区 4tr1層	染付器 皿	14.3	9.2	4.0	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-266 20101621
図36-267 09003407	6A区 5tr4層	白磁 紅斑	6.1	2.5	1.9	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-267 20101606
図36-268 09003404	6A区 5tr1層	白磁 器皿	7.6*	3.7*	3.3	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-268 20101603
図36-269 09003405	6A区 4tr1層	白磁 片	7.7	5.0	5.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-269 20101604
図36-270 09003406	6A区 5tr1層	白磁 小杯	6.1*	2.5	2.9	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-270 20101605
図36-271 09001794	6A区 5tr1層	瓦質土器 鉢	22.0*	-	-	黄灰		写真図版 17-271 20101536
図36-272 09002657	6C区 1層	土師器 小皿	6.0*	3.8	1.4	にぶい黄褐	底部系切	写真図版 17-272 20101609
図36-273 09002658	6C区 1層	土師器 小皿	7.0*	3.7	1.4	灰白	底部系切	写真図版 17-273 20101610
図36-274 09002659	6C区 1層	陶器 皿	9.7*	3.7	3.7	胎土：にぶい黄褐	肥前	写真図版 17-274 20101526
図36-275 09002660	6C区 1層	白磁 紅斑	4.5	1.5	1.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-275 20101611
図36-276 09003580	6C区 1層	染付器 皿	-	5.3	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-276 20101612
図36-277 09002654	6C区 1層	瓦質土器 壺	17.0*	-	-	黄灰		写真図版 17-277 20101538
図36-278 09002669	6D区 表様	陶器 片	-	5.2	-	胎土：浅黄	肥前	写真図版 17-278 20101625
図36-279 09002665	6D区 被出面	陶器 片	11.0*	-	-	胎土：浅黄褐	肥前	写真図版 17-279 20101528
図36-280 09002666	6D区 被出面	陶器 片	-	4.7*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-280 20101615
図36-281 09002664	6D区 被出面	陶器 片	11.6*	-	-	胎土：相・灰黄	肥前	写真図版 17-281 20101527
図36-282 09002672	6D区 P6173	陶器 壺	-	17.0*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-282 20101616
図36-283 09002671	6D区 Btr上層	瓦質土器 鉢	-	17.2*	-	灰白・灰		写真図版 17-283 20101542

表5 東煙瀬遺跡6区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図37-284 09003585	6D区 棟出面	陶器 盤	-	4.5	-	胎土：灰黄	肥前	写真図版 17-284 20101627
図37-285 09003586	6D区 棟出面	陶器 盤	12.6*	4.9*	3.7	胎土：褐	肥前 胎土	写真図版 17-285 20101628
図37-286 09002662	6D区 棟出面	陶器 盤	-	5.6	-	胎土：に赤褐色	肥前か	写真図版 17-286 20101613
図37-287 09002566	6D区 棟出面	陶器 土瓶	8.1*	-	9.9*	胎土：に赤褐色	肥前 外面焼付着	写真図版 17-287 20101544
図37-288 09002667	6D区 棟出面	白磁 盤	4.8*	3.4*	3.5	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-288 20101535
図37-289 09003582	6D区 棟出面	染付磁器 盤	-	4.8*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-289 20101618
図37-290 09003583	6D区 棟出面	染付磁器 碗	14.4*	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-290 20101545
図37-291 09003581	6D区 棟出面	青磁斜口 碗	-	7.2*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 17-291 20101617
図37-292 09003584	6D区 棟出面	染付磁器 盤	14.0*	7.2	2.8	胎土：灰白	肥前 内面鉢の目輪剥ぎ	写真図版 17-292 20101626
図37-293 09002663	6D区 P6172	土師器 小皿	6.6	3.7	1.5	に赤褐色	底部剥切	写真図版 17-293 20101614
図37-294 09002670	6D区 棟出面	真貫上器 茶釜	14.6*	-	-	灰		写真図版 17-294 20101529
図37-295 09002673	6D区 棟出面	瓦質上器 擂鉢	-	-	-	黄灰		写真図版 17-295 20101543
図38-296 09003246	6H区 42層	白磁 盤	-	-	-	胎土：白	森田C群	写真図版 18-296 20101465
図38-297 09003242	6H区 2層	白磁 盤	10.0*	4.4*	2.3	胎土：白	森田D群	写真図版 18-297 20101461
図38-298 09003240	6H区 12層・37層	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系	写真図版 18-298 20101459
図38-299 09003236	6H区 42層	青磁 碗	-	6.0*	-	胎土：灰白	竜泉窯系 高台内輪胎	写真図版 18-299 20101679
図38-300 09003244	6H区	青磁 桃花皿	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系	写真図版 18-300 20101463
図38-301 09003249	6H区 42層	青磁 桃花皿	13.4*	-	-	胎土：黄灰	竜泉窯系	写真図版 18-301 20101468
図38-302 09003527	6H区 11層上面	青花 碗	12.8*	-	-	胎土：灰白	景德鎮窯系	写真図版 18-302 20101448
図38-303 09003526	6H区 16層・37層	青花 碗	-	-	-	胎土：灰白	景德鎮窯系	写真図版 18-303 20101447
図38-304 09003529	6H区 37層上面	青花 碗	12.3*	3.7*	5.4	胎土：灰白	景德鎮窯系	写真図版 18-304 20101451
図38-305 09003247	6H区 42層	青花 盤	-	-	-	胎土：白		写真図版 18-305 20101466
図38-306 09003248	6H区 42層	青花 盤	-	-	-	胎土：灰白		写真図版 18-306 20101467
図38-307 09003526	6H区 47層	青花 盤	-	2.8*	-	胎土：灰白	小野田C群	写真図版 18-307 20101449・1450
図38-308 09003243	6H区 37層	青花 盤	11.2*	4.2*	2.9	胎土：灰白・に赤褐色	小野田C群	写真図版 18-308 20101462
図38-309 09003231	6H区 42層	陶器 碗	11.0*	-	-	胎土：灰	肥前 310と同一個体か	写真図版 18-309 20101454
図38-310 09003232	6H区 36層	陶器 碗	11.4*	-	-	胎土：黄灰	肥前 309と同一個体か	写真図版 18-310 20101455
図38-311 09003238	6H区 37層	陶器 碗	-	4.4*	-	胎土：に赤褐色	肥前	写真図版 18-311 20101681
図38-312 09003245	6H区 37層・42層	陶器 碗	9.6*	-	-	胎土：灰白	肥前 外面削継跡	写真図版 18-312 20101464
図38-313 09003237	6H区 37層	陶器 皿	-	5.0*	-	胎土：黄灰	肥前	写真図版 18-313 20101457
図38-314 09003230	6H区 2層・42層	陶器 皿	11.2*	4.6*	3.3	胎土：黄灰	肥前	写真図版 18-314 20101678
図38-315 09003229	6H区 37層上面	陶器 皿	11.8	4.1	4.0	胎土：に赤褐色	肥前 胎土	写真図版 18-315 20101677
図38-316 09003235	6H区 12層・42層	陶器 皿	-	4.8*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 18-316 20101456
図38-317 09003234	6H区 42層	陶器 皿	-	5.0	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 18-317 20101680
図38-318 09003530	6H区 11層	陶器 皿	11.1*	4.2	4.2	胎土：暗灰黄	肥前	写真図版 18-318 20101688
図38-319 09003241	6H区 4層	陶器 皿	10.7*	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 18-319 20101460

表5 東畠瀬遺跡6区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図38-320 09003239	6H区 11層・42号	陶器 皿	12.0*	-	-	胎土：灰・黄褐	肥前	写真図版 18-320 20101458
図38-321 09003251	6H区 10層	陶器 甕	-	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 18-321 20101469
図38-322 09003233	6H区 4tr16層	陶器 瓶	-	10.1	-	胎土：褐	肥前	
図38-323 09002955	6H区 2層	土師器 小皿	6.0	3.2	2.0	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 18-323 20101669
図38-324 09002963	6H区 42層	土師器 杯	7.1	4.2	2.0	浅黄褐	底部系切	写真図版 18-324 20101674
図38-325 09002963	6H区 37層	土師器 杯	7.5	3.6	2.1	灰白・黒	底部系切	写真図版 18-325 20101675
図38-326 09002956	6H区 4tr1-15層	土師器 小皿	7.8	4.4	1.6	褐	底部系切	写真図版 18-326 20101670
図38-327 09002965	6H区 34層	土師器 小皿	9.6*	4.4*	2.2	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 18-327 20101472
図38-328 09002964	6H区 37層	土師器 杯	9.7	4.0	3.0	褐・浅黄褐	底部系切	写真図版 18-328 20101676
図38-329 09002961	6H区 37層	土師器 杯	11.4*	6.6*	2.5	褐灰・に赤い褐	底部系切	写真図版 18-329 20101673
図38-330 09002958	6H区 14tr16層	土師器 杯	11.8*	6.8*	3.0	明赤褐	底部系切	写真図版 18-330 20101671
図38-331 09002959	6H区 14tr16層	土師器 杯	12.8*	8.2*	2.6	に赤い褐	底部系切	写真図版 18-331 20101473
図38-332 09002960	6H区 42層	土師器 杯	14.4*	8.0	2.6	に赤い褐	底部系切	写真図版 18-332 20101672
図39-333 09003315	6H区 14tr11-15層	瓦質土器 擂鉢	38.0*	13.0*	10.3	に赤い黄褐		写真図版 18-333 20101685
図39-334 09003320	6H区 37層上面	瓦質土器 擂鉢	29.8*	-	-	外：に赤い黄褐 内：に赤い褐		写真図版 18-334 20101482
図39-335 09003321	6H区 37層	瓦質土器 擂鉢	30.0*	-	-	灰		写真図版 18-335 20101486
図39-336 09003319	6H区 42層	瓦質土器 擂鉢	-	16.0*	-	外：灰黄褐 内：に赤い黄褐		写真図版 18-336 20101481
図39-337 09003317	6H区 41層	瓦質土器 火人	-	幅	6.8	に赤い褐		写真図版 18-337 20101479・1480
図39-338 09003313	6H区 4tr16層	瓦質土器 茶釜	15.5*	-	-	外：に赤い黄褐・黒 内：に赤い黄褐・褐灰	埋付着	写真図版 19-338 20101484
図39-339 09003318	6H区 42層	瓦質土器 茶釜	-	-	-	に赤い黄褐		写真図版 19-339 20101475
図39-340 09003228	6H区 37層	瓦質土器 茶釜	13.5*	-	-	に赤い黄褐	埋付着	写真図版 19-340 20101686
図39-341 09003322	6H区	瓦質土器 茶釜	14.8*	-	-	褐		写真図版 19-341 20101483
図40-342 09002966	6H区 42層	瓦質土器 足鍋	-	-	-	灰	防長系	写真図版 19-342 20101474
図40-343 09002954	6H区 37層	瓦質土器 網	-	-	-	灰黄褐	埋付着	写真図版 19-343 20101487
図40-344 09002953	6H区 37層	瓦質土器 網	49.2*	-	-	灰褐・に赤い褐	埋付着	
図40-345 09002952	6H区 4tr16層	瓦質土器 網	49.0*	37.8*	8.2	に赤い黄褐	埋付着	写真図版 19-345 20101715
図40-346 09003657	6H区 10tr	瓦質土器 網	-	径 2.4	-	-	天聖元寶 29g	写真図版 19-346 20101435
図41-347 09003226	6H区 37層	瓦質土器 網	32.3	-	-	に赤い褐	埋付着	写真図版 19-347 20101684
図41-348 09003227	6H区 37層	瓦質土器 網	29.0*	-	-	灰	埋付着	
図41-349 09003314	6H区 4tr16層	瓦質土器 火鉢	31.8	-	-	灰		写真図版 19-349 20101485
図41-350 09003250	6H区 表土下	陶器 網	29.6*	-	-	胎土：褐灰	肥前	写真図版 19-350 20101476
図41-351 09003531	6H区 2層	陶器 網	29.4*	10.4*	9.4	胎土：灰赤	肥前	写真図版 19-351 20101687
図41-352 09003533	6H区 2層	染付磁器 網	10.1*	4.1	5.5	胎土：灰白	肥前	写真図版 19-352 20101453
図41-353 09003532	6H区 表土下	染付磁器 網	10.6*	4.1*	5.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 19-353 20101452
図41-354 09002968	6H区 37層	土製品 土製鬥羅	-	径 4.5	1.0	に赤い黄褐		写真図版 19-354 20101471
図41-355 09002967	6H区 11層上面	土製品 土製鬥羅	-	径 3.1	0.9	灰黄褐		写真図版 19-355 20101470

表5 東畠瀬遺跡6区の出土遺物

件名・番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
岡4-356 09002957	6H区 4tr	瓦器 小皿	9.5	4.6	1.9	灰白	「鹿島花總稻荷神社」	写真図版 19-356 20101477・1478
岡4-357 09003316	6H区 14tr11-15層	土師器 焰壺	25.2*	-	5.8	褐灰・に赤	縁付着	写真図版 19-357 20101683
岡4-358 09002969	6H区 SN6011	瓦質上器 甕	62.2	29.4	48.5	灰		写真図版 19-358 20094984
岡4-359 09003252	6I区 11tr	陶器 灯火貝	7.7	3.4	2.3	胎土：に赤	肥前 底部斜切	写真図版 20-359 20101689
岡4-360 09003254	6I区 11tr	陶器 皿	11.0*	4.7*	3.1	胎土：に赤	肥前	写真図版 20-360 20101489
岡4-361 09003255	6I区 11tr	染付磁器 小杯	7.8*	3.4	4.5	胎土：に赤	黄緑	写真図版 20-361 20101490
岡4-362 09003258	6I区 11tr	白磁 皿	4.6	1.8	1.7	胎土：灰白	肥前	写真図版 20-362 20101690
岡4-363 09003256	6I区 11tr	白磁 蓋	7.3	-	0.7	胎土：灰白	肥前	
岡4-364 09003253	6I区 11tr	白磁 器	7.7	-	0.8	胎土：灰白	肥前	
岡4-365 09003267	6I区 12tr	染付磁器 合子蓋	6.2	-	1.2	胎土：灰白	肥前 近代以降	
岡4-366 09003267	6I区 12tr	染付磁器 合子	4.7	2.9	1.9	胎土：灰白	肥前 近代以降	
岡4-367 09003263	6I区 11tr	陶器 擂鉢	-	-	-	胎土：明赤	肥前	写真図版 20-367 20101497
岡4-368 09003261	6I区 11tr	黒道貝 八重	-	-	-	胎土：灰白		写真図版 20-368 20101691
岡4-369 09003264	6I区 11tr	土師器 焰壺把手	-	-	-	橙・に赤	相	写真図版 20-369 20101492
岡4-370 09003268	6I区 11tr	土師器 焰壺把手	-	-	-	に赤	相	写真図版 20-370 20101493
岡4-371 09003262	6I区 11tr	瓦質上器 火鉢か	16.0*	-	-	相	近代以降 内面焼付有	写真図版 20-371 20101496
岡4-372 09003257	6I区 11tr	瓦質上器 火鉢か	18.6*	-	-	相・に赤	相	写真図版 20-372 20101494
岡4-373 09003259	6I区 11tr	瓦質上器 擂鉢	28.2*	-	-	灰・暗灰		写真図版 20-373 20101491
岡4-374 09003260	6I区 11tr	瓦質上器 擂鉢	36.0*	-	-	に赤	相	写真図版 20-374 20101495
岡4-375 09003265	6I区 11tr	陶器 擂鉢	-	11.4*	-	胎土：に赤	肥前	写真図版 20-375 20101703
岡4-376 09002979	6I区 1-33層	陶器 皿	-	3.7	-	胎土：相	肥前 胎土目	写真図版 20-376 20101701
岡4-377 09002980	6I区 1層	陶器 皿	-	4.7*	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 20-377 20101489
岡4-378 09002971	6I区 1層	陶器 皿	-	4.1	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 20-378 20101693
岡4-379 09002970	6I区 1-33層	陶器 皿	-	4.6	-	胎土：淡黄		写真図版 20-379 20101692
岡4-380 09002974	6I区 1-3・3層	陶器 皿	-	4.6	-	胎土：灰白	肥前 高台内に砂付有	写真図版 20-380 20101495・1494
岡4-381 09002972	6I区 3層	陶器 皿	12.8	4.5	3.1	胎土：灰白	肥前 砂目	写真図版 20-381 20101699
岡4-382 09002973	6I区 15層	陶器 皿	14.2	4.4	3.3	胎土：灰白	肥前 砂目	写真図版 20-382 20101700
岡4-383 09003443	6I区 13tr	陶器 皿	12.9*	4.4	5.0	胎土：灰黄		写真図版 20-383 20101705
岡4-384 09002984	6I区 2層	陶器 擂鉢	-	-	-	胎土：相	燒成不良	写真図版 20-384 20101498
岡4-385 09002990	6I区 37層	陶器 擂鉢	27.6*	12.2	12.2	胎土：黄灰	肥前	写真図版 20-385 20101504
岡4-386 09003446	6I区 1-33層	染付磁器 皿	8.3*	3.8	5.7	胎土：灰白	肥前	写真図版 20-386 20101698
岡4-387 09003445	6I区 13tr	染付磁器 皿	10.2*	4.2	5.2	胎土：灰白	肥前	写真図版 20-387 20101697
岡4-388 09003444	6I区 2層	染付磁器 皿	10.7*	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 20-388 20101501
岡4-389 09002981	6I区 13tr	陶器 甕	20.9*	-	-	胎土：相	肥前	写真図版 20-389 20101704
岡4-390 09003691	6I区 2層	陶器 鉢	35.2*	12.5*	10.3	胎土：に赤	肥前 二彩手	写真図版 20-390 20101702
岡4-391 09003447	6I区 13tr	染付磁器 皿	12.9*	4.8	4.1	胎土：灰白	肥前 内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 20-391 20101706

表5 東畠瀬遺跡6区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図44-392 09003448	6J区 I-33層	染付磁器 皿	13.7*	5.2*	3.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 20-392 20101502
図44-393 09003449	6J区 2層	染付磁器 皿	10.1	5.3	2.6	胎土：灰白	肥前	写真図版 20-393 20101707
図44-394 09002977	6J区 SN6051 1-33層	土師器 小皿	5.5	3.7	1.5	橙	底部系切	写真図版 20-394 20101694
図44-395 09002975	6J区 1-33層	土師器 小皿	6.2	4.0	1.4	に赤い黄緑	底部系切 油煤付着	写真図版 20-395 20101694
図44-396 09002976	6J区 2層	土師器 小皿	6.4*	3.2*	1.6	に赤い黄緑	底部系切	写真図版 20-396 20101695
図44-397 09002978	6J区 2層	土師器 小皿	8.2*	5.0*	2.0	に赤い黄緑	底部系切	
図44-398 09002980	6J区 1-33層	土師器 焰焼か 皿	20.6*	-	-	橙	覆付着	写真図版 20-398 20101500
図44-399 09002982	6J区 2層	土師器 大鉢	41.4*	28.0*	6.6	に赤い黄緑		写真図版 20-399 20101503
図44-400 09002983	6J区 2層	土師器 鉢	49.4*	-	-	明褐色	覆付着	
図45-401 09002994	6K区 5tr	陶器 皿	11.8	3.9	3.5	胎土：明褐色	肥前	写真図版 21-401 20101733
図45-402 09002993	6K区 1tr	陶器 皿	13.8*	5.2	4.5	胎土：灰白	肥前 内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 21-402 20101730
図45-403 09002991	6K区 6tr	陶器 皿	13.6*	4.0*	3.9	胎土：灰白	肥前 砂目	写真図版 21-403 20101510
図45-404 09003442	6K区 1tr	陶器 皿	11.3*	4.2*	4.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 21-404 20101512
図45-405 09002999	6K区 5tr	陶器 皿	12.6*	4.6	5.6	胎土：灰白	肥前 内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 21-405 20101737
図45-406 09002998	6K区 1tr	陶器 皿	13.0*	4.8	5.9	胎土：灰白	肥前 口縁	写真図版 21-406 20101736
図45-407 09002992	6K区 1tr	陶器 搖籃	-	-	-	胎土：暗赤灰	肥前	写真図版 21-407 20101508
図45-408 09003173	6K区 4tr	陶器 盤	32.2*	-	-	胎土：紫灰	肥前	写真図版 21-408 20101713
図45-409 09003440	6K区 1tr	染付磁器 皿	9.2*	4.3*	5.1	胎土：灰白	肥前	写真図版 21-409 20101747
図45-410 09003439	6K区 1tr	染付磁器 皿	9.6	3.8	5.2	胎土：灰白	肥前	写真図版 21-410 20101746
図45-411 09003438	6K区 1tr	染付磁器 皿	13.7*	7.8*	2.5	胎土：灰白	肥前	
図45-412 09002997	6K区	染付磁器 皿	4.0*	-	-	胎土：灰白	肥前	
図45-413 09002996	6K区 7tr	土師器 小杯	5.2*	2.9	3.6	胎土：灰白	肥前	写真図版 21-413 20101735
図45-414 09002995	6K区 7tr	染付磁器 伝貝	-	4.1	-	胎土：灰黃緑	肥前	写真図版 21-414 20101734
図45-415 09003277	6K区 4tr	土師器 杯	7.7	4.5	4.2	浅黄緑	底部系切	写真図版 21-415 20101740
図45-416 09003276	6K区 4tr	土師器 杯	6.6*	4.2*	4.5	浅黄緑	底部系切	写真図版 21-416 20101739
図45-417 09003280	6K区 4tr	土師器 杯	9.6	4.6	2.8	浅黄緑	底部系切	写真図版 21-417 20101743
図45-418 09003279	6K区 4tr	土師器 杯	9.4*	5.4	3.1	に赤い黄緑	底部系切	写真図版 21-418 20101742
図45-419 09003278	6K区 4tr	土師器 小皿	6.5*	3.5	2.3	に赤い黄緑	底部系切	写真図版 21-419 20101741
図45-420 09003282	6K区 4tr	土師器 小皿	8.0	4.4	1.4	に赤い黄緑	底部系切 油煤付着	写真図版 21-420 20101745
図45-421 09003281	6K区 4tr	土師器 小皿	7.3	5.2	2.0	に赤い黄緑	底部系切	
図45-422 09003287	6K区 1tr	瓦質土器 大鉢	33.0*	-	-	浅黄緑		
図46-423 09003286	6K区 4tr	瓦質土器 鉢	37.2*	-	-	灰黃緑	覆付着	写真図版 21-423 20101505
図46-424 09003304	6K区 5tr	瓦質土器 鉢	52.0*	-	-	灰黃緑・黒褐	覆付着	
図46-425 09003331	6N区 表土	陶器 碗	11.9*	4.6	7.0	胎土：灰白	肥前	写真図版 21-425 20101752
図46-426 09003329	6N区 表土	陶器 壺	13.5*	9.8	11.6	胎土：淡黄・灰白		写真図版 21-426 20101758
図46-427 09003332	6N区 表土	青磁 香炉	9.8*	6.6	5.3	胎土：灰白	肥前 蛇の目形高台	写真図版 21-427 20101753

表5 東畠瀬遺跡6区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図46-428 09003333	6N区 表土	青磁 香炉	12.0*	5.4	7.9	胎土：灰白	肥前	写真図版 21-428 20101754
図46-429 09003574	6N区 表土	染付磁器 碗	9.9	3.7*	5.4	胎土：灰白・淡緑	肥前	写真図版 21-429 20101756
図46-430 09003573	6N区 表土	染付磁器 碗	10.1*	3.8*	6.0	胎土：灰白	肥前	写真図版 21-430 20101755
図46-431 09003575	6N区 表土	染付磁器 碗	11.4	5.8	6.1	胎土：灰白	肥前	写真図版 21-431 20101757
図46-432 09003577	6N区 表土	染付磁器 皿	-	11.6	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 21-432 20101516・1517
図46-433 09003576	6N区 表土	染付磁器 皿	13.0*	7.4*	3.9	胎土：灰白	肥前	写真図版 21-433 20101731
図46-434 09003578	6N区 表土	染付磁器 皿	13.7	7.9	4.2	胎土：灰白	肥前 口縁	写真図版 21-434 20101732
図47-435 09003579	SX6041 瓶	染付磁器 瓶	-	6.1	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 22-435 20101759
図47-436 09003324	6N区 表土	土師器 小皿	5.6	3.9	1.0	に赤い相	底部系切	写真図版 22-436 20101749
図47-437 09003325	6N区 1層	土師器 小皿	6.0	3.9	1.2	に赤い黄相	底部系切 油燐付着	写真図版 22-437 20101750
図47-438 09003323	6N区 表土	土師器 小皿	6.8	4.0	1.3	に赤い黄相	底部系切 油燐付着	写真図版 22-438 20101748
図47-439 09003326	6N区 4層	土師器 小皿	7.5	4.3	1.5	に赤い相	底部系切 油燐付着	写真図版 22-439 20101751
図47-440 09003327	6N区 1層	瓦質土器 鍋	-	-	-	外：褐色 内：白	焼付着	写真図版 22-440 20101513
図47-441 09003328	6N区 1層	瓦質土器 壺	-	-	-	外：灰黄・灰 内：灰黄	焼付着	写真図版 22-441 20101514
図47-442 09003330	6N区 1層	瓦質土器 火鉢	-	-	-	外：灰 内：暗灰黄	焼付着	写真図版 22-442 20101515
図47-443 09003291	6Q区 西側	陶器 皿	11.4*	4.5*	6.6	胎土：浅黄相	肥前 内外面削輪	写真図版 22-443 20101765
図47-444 09003453	6Q区 水路	染付磁器 皿	10.2*	4.5*	5.5	胎土：灰白	肥前	写真図版 22-444 20101766
図47-445 09003456	6Q区 西側	染付磁器 皿	12.5*	7.8	3.1	胎土：灰白	肥前	写真図版 22-445 20101761
図47-446 09003459	6P区 表土	染付磁器 皿	15.2*	8.9*	5.0	胎土：灰白	肥前 蛇の目四形高台	写真図版 22-446 20101763
図47-447 09003457	6P区 表土	染付磁器 皿	10.9*	6.1*	3.2	胎土：灰白	肥前	写真図版 22-447 20101762
図47-448 09003298	6P区 表土	瓦質土器 壺	25.6*	-	-	褐灰・に赤い黄相	焼付着	写真図版 22-448 20101584
図48-449 09003343	6Q区 1tr	陶器 壺	11.8*	3.8	5.0	胎土：浅黄	肥前	写真図版 22-449 20101801
図48-450 09003345	6Q区 2tr8層	陶器 皿	12.8*	-	-	胎土：暗灰黄	肥前	写真図版 22-450 20101596
図48-451 09003337	6Q区 1tr	陶器 皿	12.8*	4.6	3.8	胎土：に赤い黄相	肥前 内面蛇の目軸割ぎ	写真図版 22-451 20101815
図48-452 09003336	6Q区 1tr	陶器 皿	13.7*	5.0*	3.8	胎土：に赤い黄相	肥前 内面蛇の目軸割ぎ	写真図版 22-452 20101814
図48-453 09003339	6Q区 1tr	陶器 鉢	21.0*	-	-	胎土：灰	肥前	写真図版 22-453 20101592
図48-454 09003338	6Q区 1tr	陶器 壺	13.9*	-	-	胎土：黄灰	肥前	写真図版 22-454 20101591
図48-455 09003334	6Q区 1tr	陶器 壺	-	9.0	-	胎土：に赤い相	肥前	写真図版 22-455 20101799
図48-456 09003342	6Q区 1tr	陶器 鉢	28.0*	-	-	胎土：灰褐・に赤い黄相	肥前	写真図版 22-456 20101594
図48-457 09003303	6Q区 1tr	陶器 壺	32.4*	-	-	胎土：暗赤褐	肥前	写真図版 22-457 20101716
図48-458 09003289	6Q区 1tr	陶器 鉢	33.0*	14.7	12.4	胎土：に赤い赤褐	肥前	写真図版 22-458 20101816
図48-459 09003494	6Q区 1tr	染付磁器 小杯	6.8	3.0	3.6	胎土：灰白	肥前	写真図版 23-459 20101809
図48-460 09003346	6Q区 2tr	白磁 壺	9.8*	4.0*	5.9	胎土：白	肥前	写真図版 23-460 20101590
図48-461 09003495	6Q区 1tr	染付磁器 皿	7.8*	4.4	5.3	胎土：灰白	肥前	写真図版 23-461 20101810
図48-462 09003497	6Q区 1tr	青磁茶托 壺	7.2*	-	-	胎土：灰白	肥前	
図48-463 09003492	6Q区 1tr	染付磁器 皿	10.1*	4.3	5.1	胎土：灰白	肥前	写真図版 23-463 20101807

表5 東畠瀬遺跡6区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図48-464 09003493	6Q 区 Itr	染付磁器 碗	10.0*	4.3	5.3	胎土：灰白	肥前	写真図版 23-464 20101808
図48-465 09003491	6Q 区 Itr	染付磁器 碗	11.1*	3.8	5.7	胎土：灰白	肥前 内面艶の日輪剥ぎ	写真図版 23-465 20101806
図48-466 09003498	6Q 区 Itr	白磁 合子蓋	5.0	-	1.2	胎土：灰白	肥前	写真図版 23-466 20101812
図48-467 09003499	6Q 区 Itr	白磁 合子身	4.1	-	1.6	胎土：灰白	肥前	写真図版 23-467 20101599
図49-468 09003288	6Q 区 Itr	陶器 鉢	-	-	-	胎土：褐	肥前 二彩手	写真図版 23-468 20101597
図49-469 09003340	6Q 区 Itr	陶器 鉢	34.0*	-	-	胎土：に赤い褐	肥前	写真図版 23-469 20101593
図49-470 09003290	6Q 区 Itr	陶器 鉢	40.8*	15.6*	14.2	胎土：明赤褐	肥前	写真図版 23-470 20101817
図49-471 09003490	6Q 区 Itr	染付磁器 皿	13.1*	4.1	3.5	胎土：灰白	肥前 内面艶の日輪剥ぎ	写真図版 23-471 20101598
図49-472 09003496	6Q 区 Itr	染付磁器 皿	13.7*	8.6*	3.2	胎土：灰白	肥前 工精	写真図版 23-472 20101811
図49-473 09003197	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.3	3.7	1.1	に赤い褐	底部系切	写真図版 23-473 20101793
図49-474 09003194	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.5	3.2	1.2	に赤い褐+褐	底部系切	写真図版 23-474 20101790
図49-475 09003195	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.4	4.2	2.1	に赤い褐	底部系切	写真図版 23-475 20101791
図49-476 09003200	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.3	4.0	1.2	に赤い褐	底部系切	写真図版 23-476 20101772
図49-477 09003176	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.9	4.9	1.1	に赤い褐	底部系切	写真図版 23-477 20101773
図49-478 09003177	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.6	4.4	1.8	浅黄褐	底部系切	写真図版 23-478 20101773
図49-479 09003178	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.8	4.0	1.3	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 23-479 20101774
図49-480 09003179	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.4	3.8	1.2	浅黄褐	底部系切	写真図版 23-480 20101775
図49-481 09003180	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.6	4.4	1.3	に赤い褐	底部系切 油煤付着	写真図版 23-481 20101776
図49-482 09003181	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.6	4.3	1.1	浅黄褐	底部系切	写真図版 23-482 20101778
図49-483 09003182	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.6	3.4	1.2	に赤い褐	底部系切	写真図版 23-483 20101777
図49-484 09003183	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.4	4.0	1.3	灰白	底部系切	写真図版 23-484 20101779
図49-485 09003184	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.6	4.4	1.2	浅黄褐	底部系切	写真図版 23-485 20101780
図49-486 09003187	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.5	4.2	1.1	浅黄褐	底部系切	写真図版 23-486 20101781
図49-487 09003189	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.8	4.2	1.3	に赤い褐	底部系切	写真図版 23-487 20101785
図49-488 09003191	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.8	4.0	1.3	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 23-488 20101787
図49-489 09003196	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.8	4.5	1.3	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 23-489 20101792
図49-490 09003198	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.8	4.0	1.2	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 23-490 20101794
図49-491 09003199	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.7	4.2	1.2	橙+に赤い黄褐	底部系切	写真図版 23-491 20101795
図49-492 09003186	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.6	4.6	1.3	浅黄褐	底部系切	写真図版 23-492 20101782
図49-493 09003188	6Q 区 Itr	土師器 小皿	6.8	4.4	1.2	に赤い褐	底部系切	写真図版 23-493 20101784
図49-494 09003175	6Q 区 Itr	土師器 小皿	7.0	4.0	1.3	橙	底部系切	写真図版 23-494 20101777
図49-495 09003185	6Q 区 Itr	土師器 小皿	7.1	4.3	1.3	に赤い褐	底部系切	写真図版 23-495 20101781
図49-496 09003201	6Q 区 Itr	土師器 小皿	7.0	4.2	1.2	に赤い褐	底部系切	写真図版 23-496 20101796
図49-497 09003190	6Q 区 Itr	土師器 小皿	7.2	4.7	1.3	橙+浅黄褐	底部系切	写真図版 23-497 20101786
図49-498 09003193	6Q 区 Itr	土師器 小皿	7.0	4.8	1.4	に赤い黄褐	底部系切	写真図版 23-498 20101789
図49-499 09003192	6Q 区 Itr	土師器 小皿	7.2*	4.7	1.3	に赤い褐	底部系切	写真図版 23-499 20101788

表5 東煙瀬遺跡6区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
国49-500 09003202	6Q 区 1tr	土師器 杯	8.2	3.2	1.6	に赤い黄緑	底部系切	写真図版 23-500 20101797
国49-501 09003203	6Q 区 1tr	土師器 杯	8.3	3.5	1.8	に赤い黄緑	底部系切	写真図版 23-501 20101798
国49-502 09003349	6Q 区 2tr	土師器 杯	10.7*	4.2	3.4	に赤い黄緑	底部系切	写真図版 23-502 20101804
国49-503 09003348	6Q 区 2tr	土師器 杯	10.6	3.9	3.7	浅黄	底部系切	写真図版 23-503 20101803
国49-504 09003347	6Q 区 2tr	土師器 杯	10.6	3.8	3.6	に赤い黄緑	底部系切	写真図版 23-504 20101802
国49-505 09003341	6Q 区 1tr	瓦質土器 信楽	28.8*	22.0*	4.5	灰黄褐・褐灰		
国49-506 09003335	6Q 区 1tr	土師器 火人	10.2*	8.0*	5.9	外：褐 内：に赤い黄緑		写真図版 23-506 20101800
国50-507 09003293	6R 区 6tr	陶器 瓶	11.2*	4.6*	6.3	胎土：に赤い橙	肥前	写真図版 23-507 20101585
国50-508 09003300	6R 区 9tr	陶器 瓶	-	-	-	胎土：に赤い赤褐	肥前	写真図版 23-508 20101589
国50-509 09003299	6R 区 9tr	陶器 瓶	-	-	-	胎土：に赤い赤褐	肥前	写真図版 23-509 20101588
国50-510 09003292	6R 区 6tr	白磁 杯	9.0*	4.0*	4.0	胎土：白	肥前	写真図版 23-510 20101587
国50-511 09003455	6R 区 9tr	染付磁器 瓶	9.9*	4.2	5.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 23-511 20101768
国50-512 09003451	6R 区 9tr	青磁染付 瓶	7.9*	-	-	胎土：灰白	肥前	
国50-513 09003454	6R 区 9tr	染付磁器 瓶	9.6	4.0	5.2	胎土：灰白	肥前	写真図版 23-513 20101767
国50-514 09003458	6R 区 9tr	染付磁器 瓶	15.2*	8.9*	5.0	胎土：灰白	肥前	写真図版 23-514 20101764
国50-515 09003294	6R 区 7tr	土師器 小皿	6.9	4.0	1.0	に赤い相	底部系切	写真図版 23-515 20101770
国50-516 09003174	6Q 区 6R 区	陶器 植木鉢	39.0*	25.8*	17.6	胎土：灰白		
国50-517 09003310	6R 区 9tr	土器か 用埴	6.6	-	3.9	灰黄		写真図版 23-517 20101769
国50-518 09003667	6K 区 6tr	石製品 茶臼	-	-	-	-		写真図版 23-518 20101760
国50-519 09003362	6J 区 2層	石製品 礎	10.2	5.1	1.2	-		写真図版 23-519 20101443
国50-520 09003361	6J 区 1tr	石製品 砥石	5.2	4.1	1.2	-		写真図版 23-520 20101442
国50-521 09003352	6D 区 植出面	石製品 砥石	6.4	3.5	1.2	-	46.1g	写真図版 23-521 20101441
国50-522 09003652	6C 区 1層	鍛鉄 鋼鐵	-	往	-	-	元豊通寶 2.3g	写真図版 23-522 20101430
国50-523 09003662	6R 区 9tr	鍛鉄 鋼鐵	-	2.4	-	-	寛永通寶 2.3g	写真図版 23-523 20101440
国50-524 09003651	6C 区 1層	鍛鉄 鋼鐵	-	2.4	-	-	寛永通寶 1.8g	写真図版 23-524 20101429
国50-525 09003661	6R 区 6tr	鍛鉄 鋼鐵	-	2.4	-	-	寛永通寶 2.6g	写真図版 23-525 20101439
国50-526 09003659	6Q 区 2tr	鍛鉄 鋼鐵	-	往	-	-	寛永通寶 3.3g	写真図版 23-526 20101437
国50-527 09003660	6Q 区 2tr	鍛鉄 鋼鐵	-	2.7	-	-	寛永通寶 3.7g	写真図版 23-527 20101438
国50-528 09003658	6Q 区 1tr3層	鍛鉄 鋼鐵	-	2.7	-	-	文久永寶 4.4g	写真図版 23-528 20101436
国50-529 09003366	6R 区 6tr	青銅製品 牛七九吸口	6.9	0.9	-	-		写真図版 23-529 20101445
国50-530 09003367	6A 区 5tr7層	青銅製品 牛七九吸口	5.5	1.0	-	-		写真図版 23-530 20101446

4 6F・8区の遺構と遺物

1) 6F・8区中世の遺構と遺物

6F 区中世の遺構としては、掘立柱建物 5 棟、柵列 6 基、土塁、土坑 3 基などを検出した。主軸方向や分布状況から SB6221、SB6222 をそれぞれ主たる建物とする 2 時期に分けられるものと考えられる。8 区中世の遺構としては、8A 区で山城跡を、8B 区で掘立柱建物 1 棟を確認した。ここでは、6F 区と 8 区の概要をまず述べ、その後個々の遺構・遺物について報告していく。

6F 区の堆積状況（図 53～55）

6F 区は谷部に位置するため、山崩れなど周辺からの土砂の流入が激しい状況が判明した。調査にあたっては、まず試掘坑を掘り下げることにより堆積状況の把握をしながら面的に発掘作業を行なった。しかしながら、堆積状況が均一ではないため、遺構面を確実に把握することは困難であった。特に、調査区南西部においては、本来検出面とすべきところからかなり下がった面での調査になっている。堆積状況については、調査において基本土層とした a-b 間の土層で説明していく。

1 層は搅乱層を含む近代以降の堆積層である。調査区南部ではかなり大きな岩が散乱している状況があり、中には明らかに電動ドリルで穴を穿った石材がある（写真図版 35）など、南側ほど 1 層が厚いことが推測される。2 層は黒色系統の土で、水田の可能性が高い。3 層は安定した層で、周辺から短時間で堆積したものと思われる。出土遺物からみると（図 85）、3 層が 18 世紀代に堆積し、その上に 19 世紀前半の水田（2 層）が造成されたものと考えられる。5 層は 17 世紀代の資料を若干含むものの、大部分が戦国期の遺物で占められ、3 層が形成されるまで、戦国期の地表面が残っていた可能性が高い。逆に言えば、戦国期の面が早い段階で埋没しなかったため、検出に困難を極めた原因にもなっている。写真でみると、5b 層下に点線で示したあたりが分層可能なようで、戦国期の面であったかもしれない。なお、土塁の検出に当たっては、5 层と 7 層の間に広範囲に見られた土中の鉄分に起因すると思われる赤褐色系統の薄い層を鍵として行なっている。

6 層は戦国期の遺構埋土、7 層は SA6210 土塁に隣接する層、8 層は居館内部の造成土と考えられる層であるが、8 層は安定して広がっているわけではなく、8 層が顯著に見られるのは SA6217 付近であり、居館内部を仕切る塀の基礎に丁寧な整地を行なっている可能性がある。9 層は居館を整地する以前の層で、調査区のほぼ中央部では 8 層の下に石を多く含む黒褐色系統の土が広がっており、居館以前は自然の谷であった可能性が高い。

8A 区の山城跡（図 64・65）

6F 区北東側に位置する 8A 区では、北西方向にのびる尾根上で小規模な山城跡を確認した。崩落や搅乱がかなりみられ、特に南西側斜面は大きく崩落しており、山城当時の状況は留めていないが、尾根上から北東斜面で曲輪群・堀切・切岸・掘立柱建物・溝などを検出することができた。

堀切は鞍部地形を利用したもので、堀切から南東側の尾根上には山城関連の遺構は確認できず、堀切から北西側が城域であると考えられる。堀切北東側斜面の土層（c-d 土層）では、明確に堅堀を検出することはできない。現地では幅約 7 m 以上の堅堀として掘削しているが、土層は後世の堆積というよりは花崗岩の地山の変化ととらえられるので、その可能性を指摘するにとどめる。城の規模からみても、やや不自然である。

城域での最高所（標高約 285m）を平坦に削り出した曲輪 1 が主郭とみられ、ほぼ全周にわたり切岸が明瞭である。曲輪 1 の北東側斜面には帯曲輪（曲輪 2）があり、曲輪 1 と 2 の間にいわゆる「懸作」形式の建物が検出され、主郭の空間面積を作事により補う意図が読み取れる。曲輪 1 から北西側の尾根上には腰曲輪とみられる曲輪 3・4 があり、曲輪 4 は平坦面としてはやや粗雑である。なお、曲輪 1 の南西側は畠として利用されていたためか、帯曲輪があつ

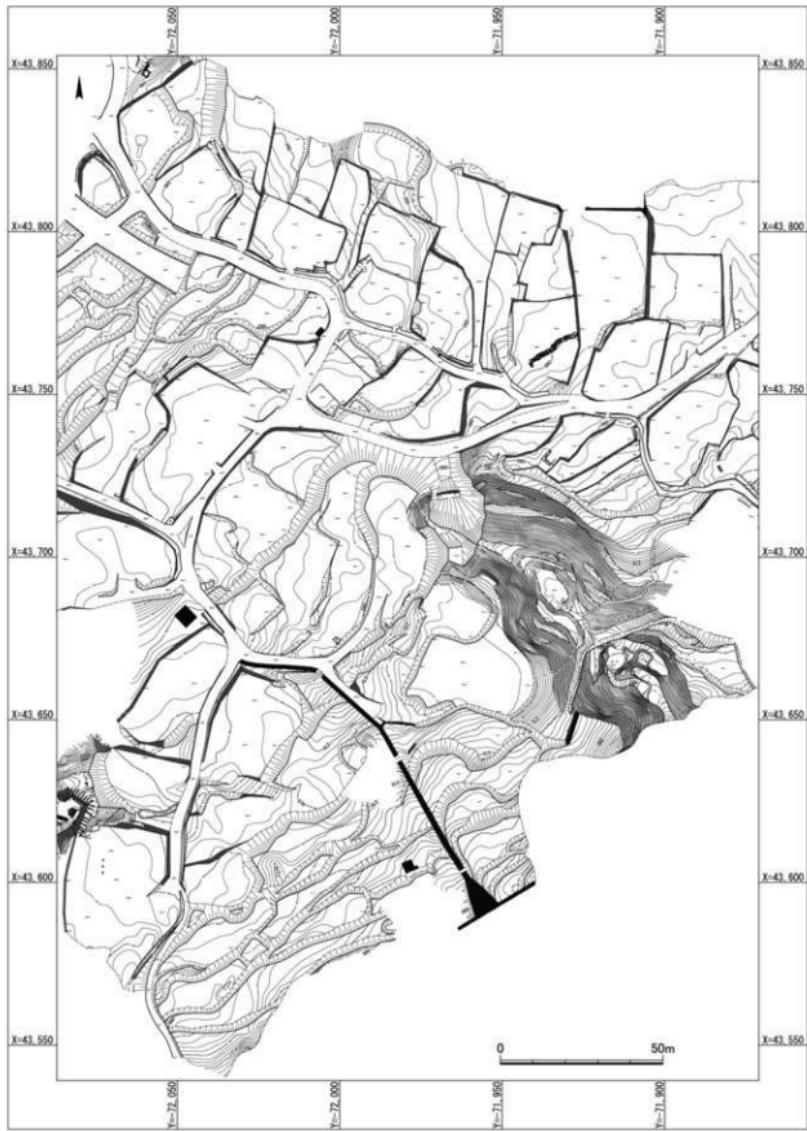


図 51 6・8区の地形 (1/1,500)

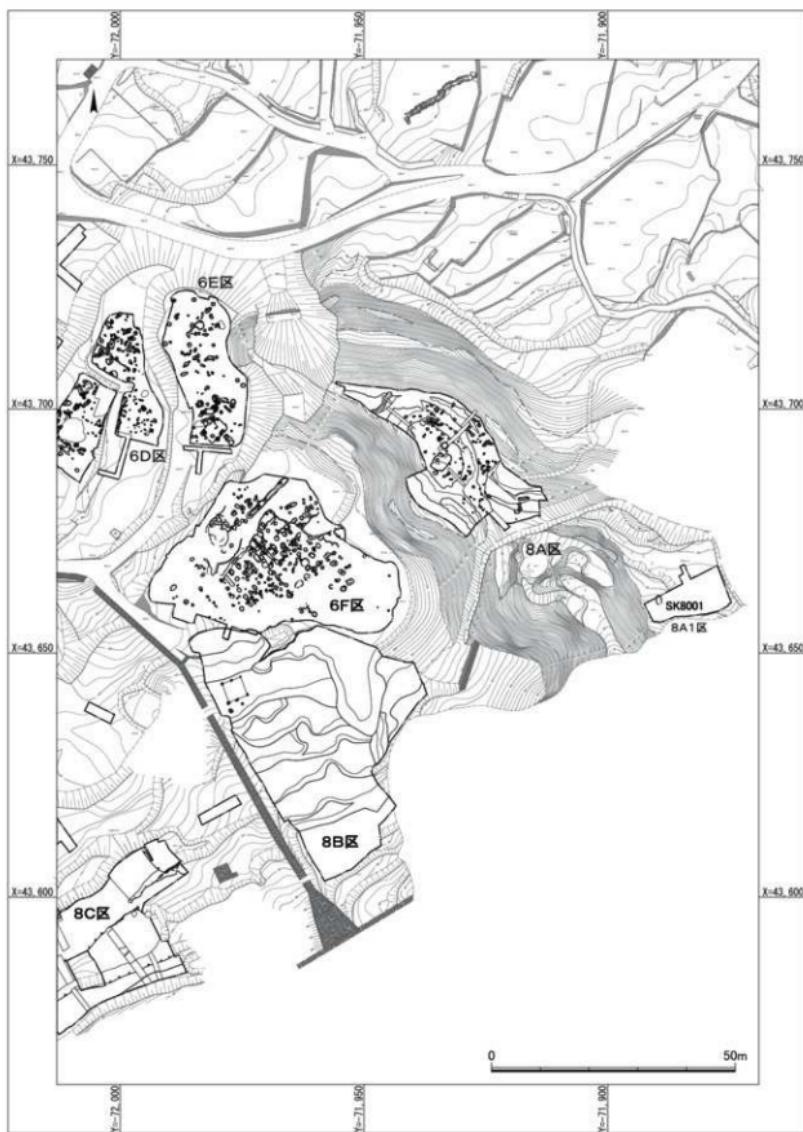


図 52 6 F • 8 A • 8 B 区の面積分布 (1/1,000)

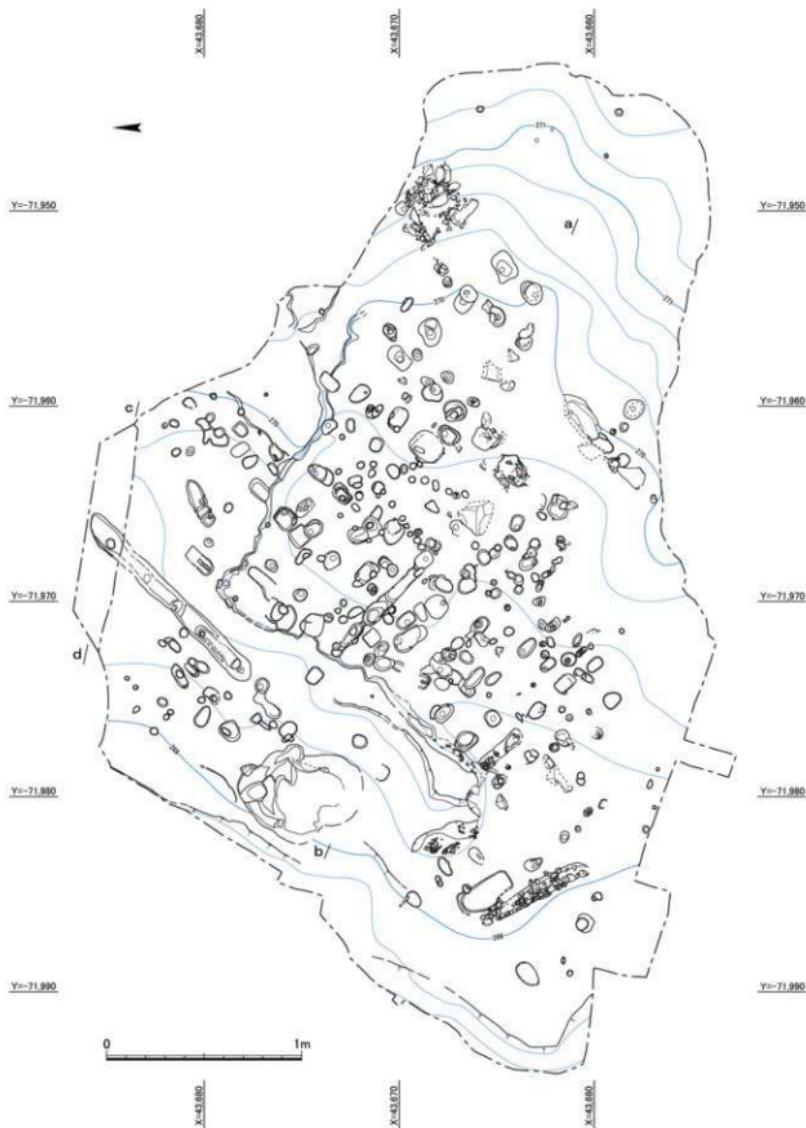


図53 6F区の遺構分布(1/250)

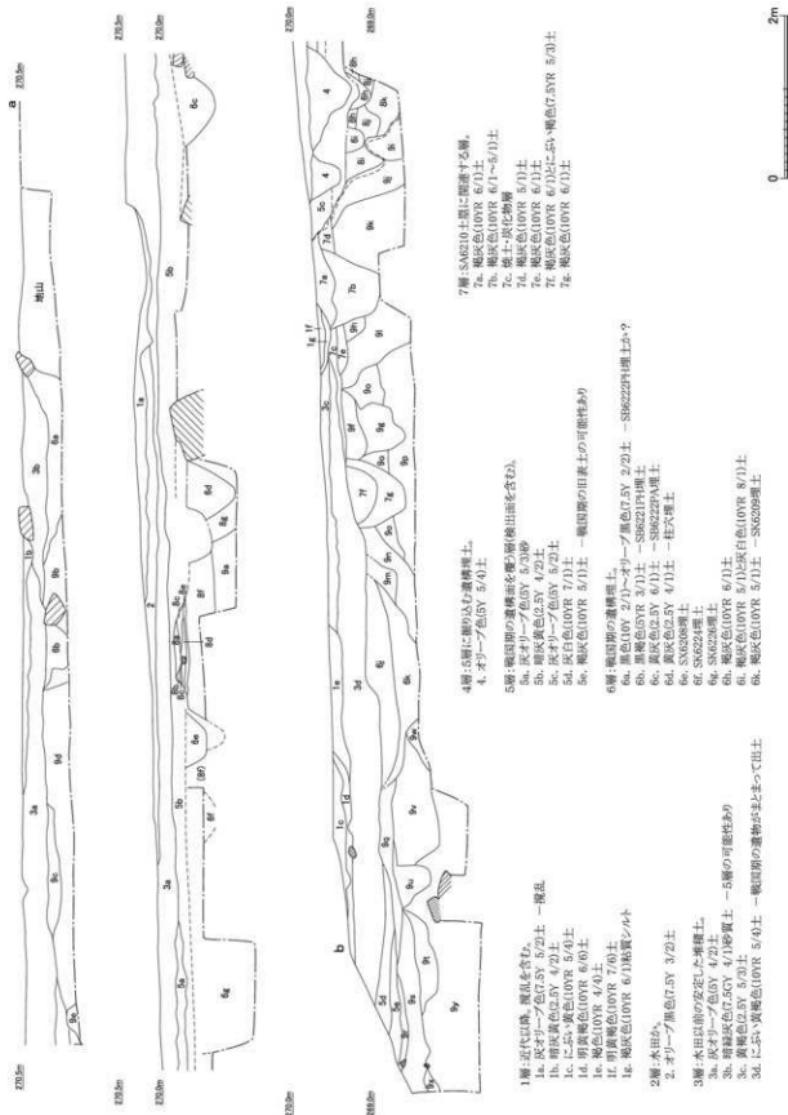


図 54 6F区の土層 1 (1/60)

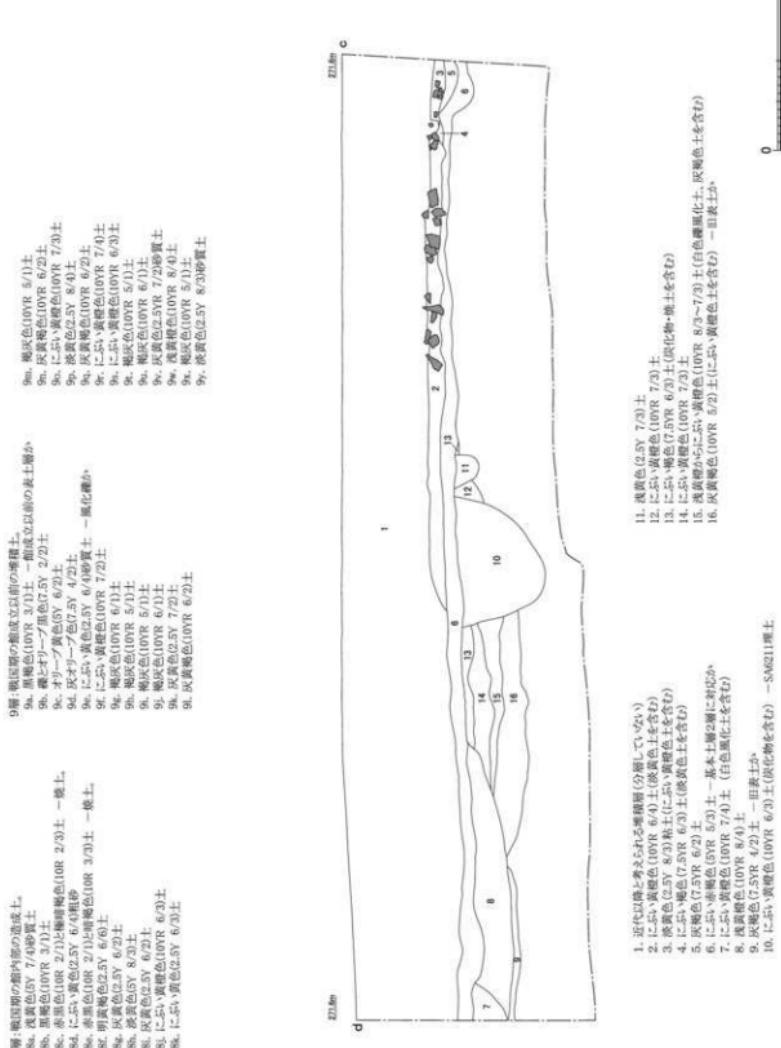


図 55 6F区の土層2 (1/60)

たとしてもその現状は留めていないものと思われる。

遺物は山城跡周辺では近世以降のものしか出土していないが、位置的な関係から 6F 区戦国期の居館北側の防御として築かれたことは明らかである。

SB6216・SX6215（図 57）

SB6216 は 6F 区西部に位置する掘立柱建物で、主軸を N48° E にとる東西棟の側柱建物である。SX6215 は長さ 2.7 m、幅 0.6 ~ 0.7 m の浅い溝状の遺構で、SB6216 の PA-PB・PE-PF 間のほぼ中央に梁行方向と平行に位置している。位置的関係から SB6216 と SX6215 は一連の遺構群と考えられる。柱穴では梁行 1 間 (1.78 m) × 衍行 2 間 (4.55m) の構造になるが、SX6215 の南東側には柱材が乗っていた痕跡があり、人工的な加工がある礎石と思われる石材が置かれており、これを加えると 1 間 × 3 間の建物になる。SX6215 北西側には礎石と思われる石材は確認できないが、根石のような石材が数個置かれており、周囲の柱穴の深さからすると、SX6215 は柱の沈下を防ぐための施設の可能性がある。建物を構成する柱穴は長軸 0.8 ~ 1.1 m、短軸 0.55 ~ 0.7 m の隅丸長方形基調で、径 0.25 m の柱痕跡を確認した。SB6216・SX6215 は SA6210 土塁の南西端の内側に位置していることから、居館の主要な門であった可能性が高い。遺物は白磁碗、土師器杯、瓦質土器鍋・火鉢が出土した。

SB6216 出土遺物（図 69）

531 は朝鮮半島産とみられる白磁碗である。

SB6220（図 57）

6F 区の中央北寄りに位置する掘立柱建物で、主軸を N44° W にとる建物である。梁行 1 間 (1.96 m) × 衍行 2 間 (4.92m) としたが、東辺の北側延長には柱痕跡が確認された P6236 が並んでおり、より大きな建物であった可能性がある。建物北東側は生活面が 1 段高くなっていると推定できるため、柱穴が確認できなかつたことも考えられる。衍行柱間は 2.36 ~ 2.56 m で、建物を構成する柱穴は長軸約 1.0 m、短軸約 0.8 m の隅丸長方形基調のものが多いが、PA・PB はやや規模が小さく、建物の構造に起因するものかもしれない。径 0.25 ~ 0.3 m の柱痕跡を確認した。遺物は輸入陶器壺、備前窯大甕、土師器杯・小皿が出土した。

SB6220 出土遺物（図 69）

536 ~ 538 は底部糸切の土師器杯で、538 は底部内面に螺旋状沈線が施される。539 は底部糸切の土師器小皿で、底部内面に凹線状の調整痕を螺旋状に残す。

SB6222（図 58）

6F 区東部に位置する掘立柱建物で、主軸を N48° E にとる側柱建物と推測されるが、すべての柱穴が確認できないので、構造には検討の余地がある。PH-PI 間から建物西隅付近にかけては、調査開始時点で設定した掘削機による試掘坑の範囲にあたり、この部分から 3 本の柱材が出土したが、いずれも位置の記録をとることはできなかつた。3 本の柱材の残存状況は PH・PI のものと近く、おそらくこの柱穴の間に並んでいたものと思われる。これらのことから、ここでは梁行 3 間 (7.0 m) × 衍行 5 間 (9.84m) の建物として報告するが、PA 南西側に明らかな柱穴が確認できないなど建物西隅の状況が不明であるので、確実ではない。ただし、建物の規模や柱材の大きさなどから、SB6222 が居館内のもっとも主要な建物であることは明らかである。PF が SB6221 と重複し、土層観察などから SB6221 より先行する建物である。梁行柱間は 2.04 ~ 2.48 m、衍行柱間は 1.6 ~ 2.2 m である。建物を構成する柱穴は長軸 1.1 ~ 1.5 m、短軸 0.9 ~ 1.0 m の梢円形基調で、径 0.1 ~ 0.25 m の柱材が出土したほか、径約 0.3 m の柱痕跡を確認した。出土した柱材のうち、PA の柱材は他のものに比べ径が小さく、材質も異なっているため（第 5 章）、やや異質である。調査時点での検出面は残存する柱材の高さより低い位置でしかないが、PI 南側には残存する柱材より上部にまで地山がみ

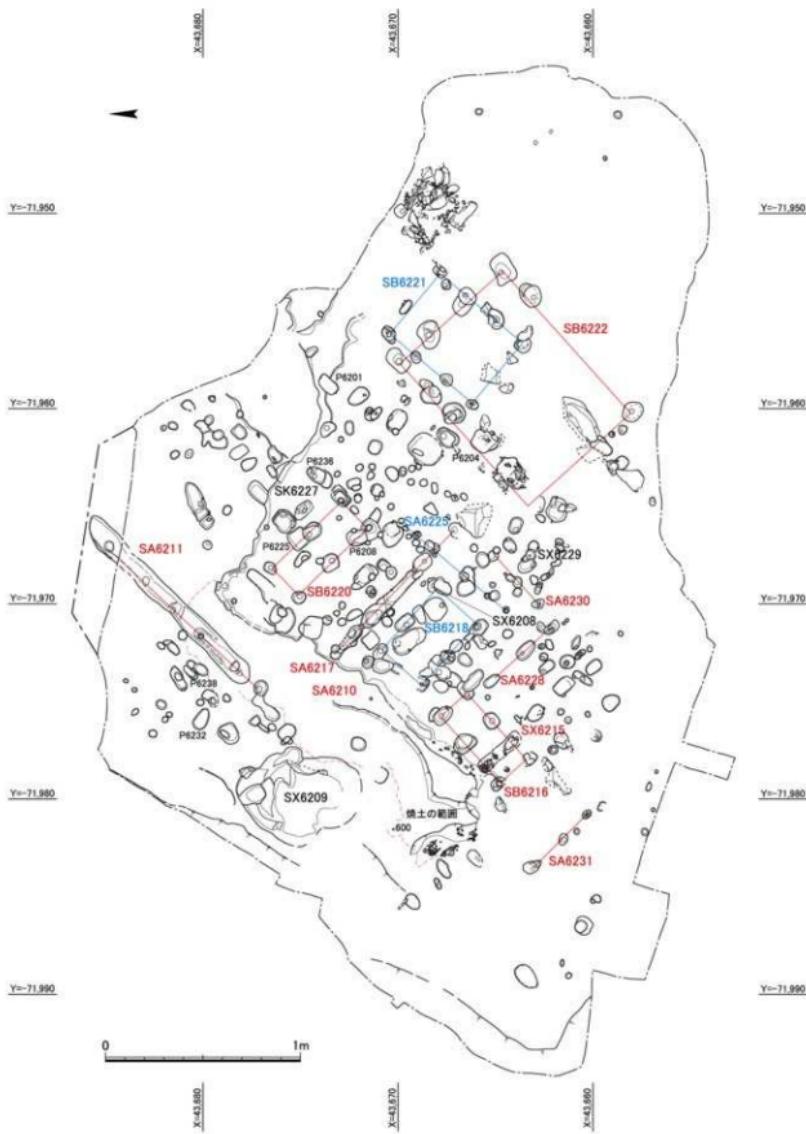


図 56 6 F 区中世の遺構分布 (1/250)

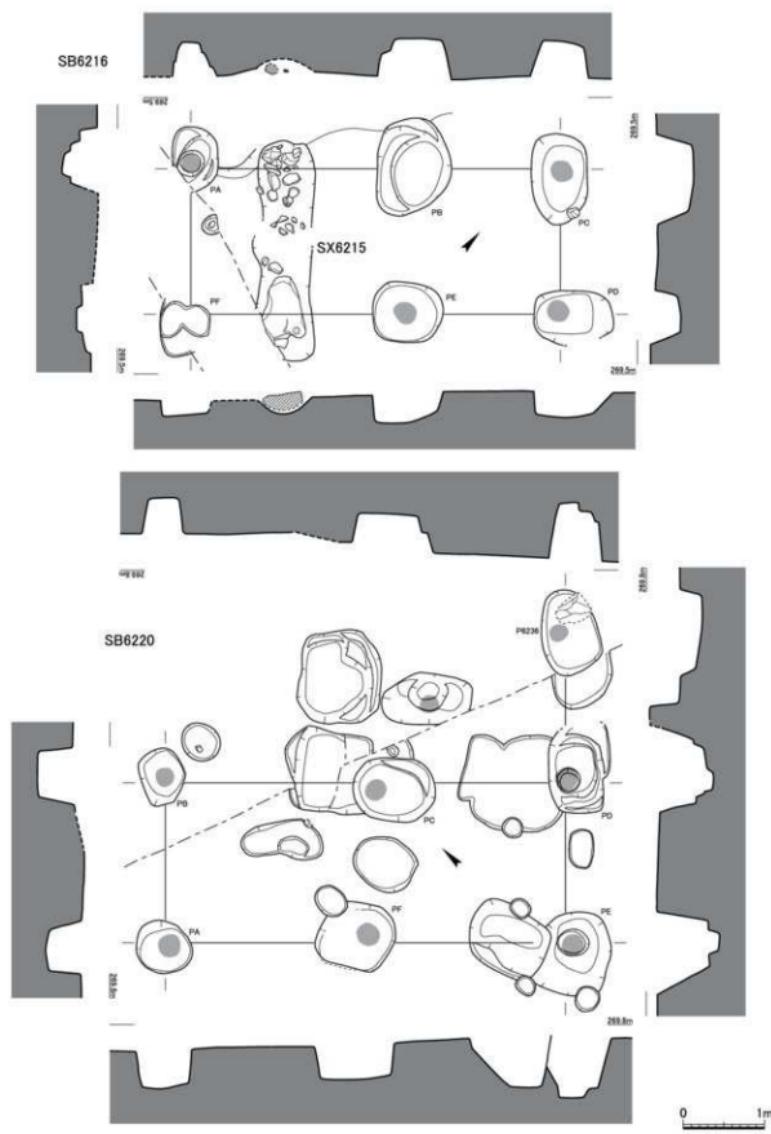


図57 6F区中世の遺構1 (1/60)

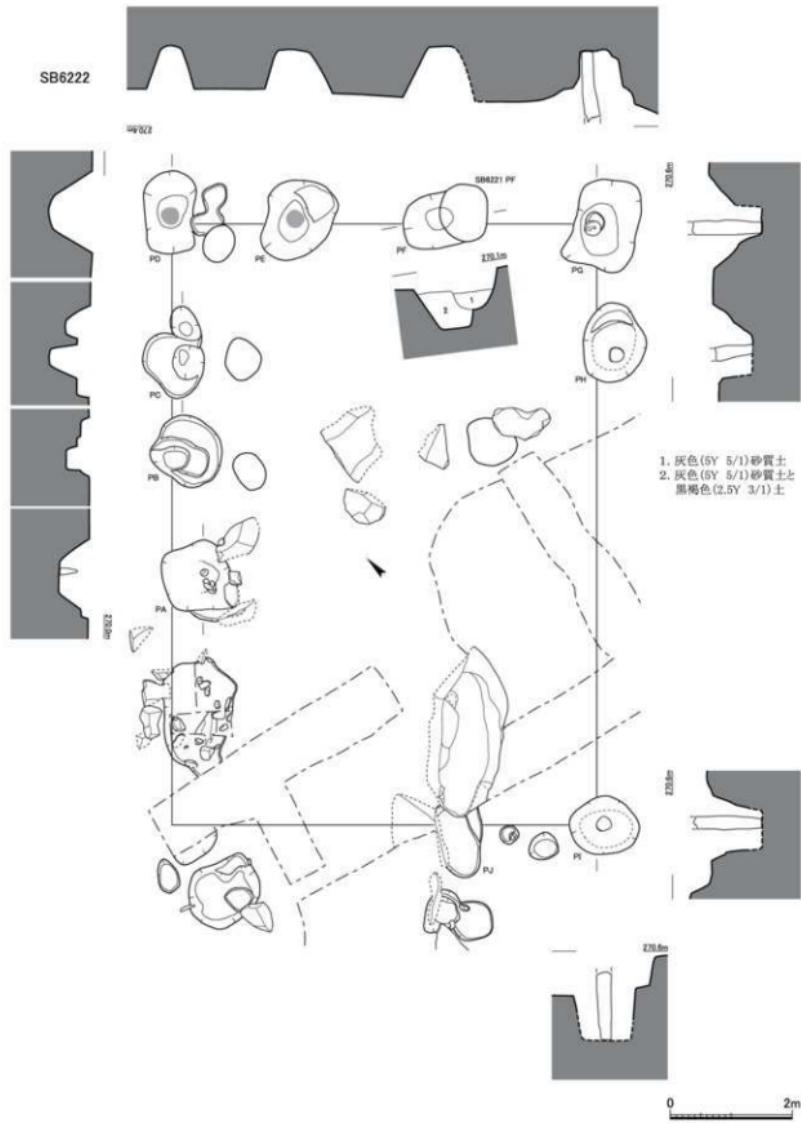


図 58 6F区中世の遺構 2 (1/80)

られることから（写真図版 34）、戦国期の地表面は残存する柱材の高さよりも上位であった可能性が高い。これは谷部に立地していることから、土砂崩れなどで地表面が安定せず、かなり掘り下げないと柱穴が確認できなかつたことによるものと思われる。遺物は土師器杯、瓦質土器鍋・茶釜・火鉢が出土した。柱材の大部分は表面に削った痕跡が明瞭に残り、断面が不整形であるが、上部については丁寧な円形に仕上げているようである（写真図版 42）。

SB6222 出土遺物（図 69）

545 は瓦質土器鍋で、口縁内面にハケメが施され、外面に煤が付着している。546・547 は瓦質土器火鉢で、546 は口縁外側に粘土貼り付けによる珠文、その下に印刷文が施される。

SA6210（図 56）

6F 区南部に位置する土壘である。削平が著しく、全体の形状を確実に知ることはできないが、土壘構築時の何らかの痕跡とみられる焼土を多く含む層の広がりからおおよそその範囲を推定でき、基底幅約 5 m の土壘があったものと考えている。谷を横断するように築かれた土壘で、居館のもっとも重要な防御施設であったと思われる。土壘南西部は明確に検出できなかつたが、おおよそ SB6212 付近が端部であろう。この付近には補強のためか礫石が土壘盛土内に多く確認される。北東部は SA6211 との関係が明らかではないが、一体となって居館の防御線をなしていたことはいえるであろう。土層観察では焼土層の下に小穴が確認され（図 54）、構築時の何らかの作為の痕跡である可能性はあるが、調査期間の都合により詳細に検討することができなかつた。遺物は白磁皿、青磁碗上田 B IV・E 類・皿・盤、青花碗・皿、灰青陶器皿、備前窯大甕、土師器杯・小皿・鉢、瓦質土器鍋・茶釜・鉢、青銅製飾金具、鉄製品が出土した。

SA6210 出土遺物（図 70・71）

564・565 は白磁森田 E 群の皿である。566～573 は竜泉窯系青磁である。566～569 は碗で、566～568 は線描蓮弁文が施される上田 B IV 類、569 は口縁部が内湾する上田 E 類である。570 は皿、571・572 は盤で、572 の内面には鏡文が施される。573 は肩部に一対の耳が付く小壺である。574 は福建系青花碗で、蓮子碗系統の小野 C 群である。575 は朝鮮王朝期の灰青陶器皿である。

576～585 は底部糸切の土師器小皿で、584 の底部内面には沈線状、585 の底部内面には凹線状の調整痕を螺旋状に残す。586～595 は底部糸切の土師器杯である。592 の底部内面には螺旋状沈線が施され、593～595 の底部内面には凹線状の調整痕を螺旋状に残す。596 は瓦質土器茶釜、597 は瓦質土器鉢である。598 は土師器で、鉢であろうか。599 は瓦質土器鍋で、外面に煤が付着している。

600 は青銅製飾金具である。回収できたすべての破片が接合するものの、土圧のためか途中で変形しているため、復元的に図示している。細長い板状の青銅製品で、直角に折り曲げられており、全体の残存長は 27.6cm である。幅 1.8cm、厚さ 0.1cm で、端部は 0.3cm それぞれ直角に折り曲げている。目釘孔が 3箇所確認できる。一面には葡萄唐草文と思われる文様を毛彫で施しているが、もう一面にはまったく文様が観察されない。木製品の側面を飾るものであろうが、その製品については不明である。なお、出土位置は図 56 に示している。

SA6211（図 59）

6F 区北部に位置する布掘りの柵列で、柱痕跡や柱を建てた痕跡と見られる底面の小穴から、南西側の柱穴を含め主軸を N43° E に沿う 5 間分の柱が 10.6 m の長さで列をなしていたものと考えられる。柱間は 1.7～2.6 m で、径 0.25～0.3 m の柱痕跡を確認した。SA6210 土壘に連続する位置で、おおよそ同じ方向であることから、土壘に連続する防御用の柵であった可能性が高い。遺物は青磁碗 II a 類？・碗上田 B II 類・皿・盤、青花碗・皿、中国産と思われる陶器壺・甕、備前窯大甕、土師器杯・小皿、瓦質土器鍋・擂鉢が出土した。

SA6211 出土遺物（図 69）

548 は景德鎮窯系と思われる青花碗で、高台内は露胎である。549 は景德鎮窯系青花皿で、甚簡状底部の小野 C

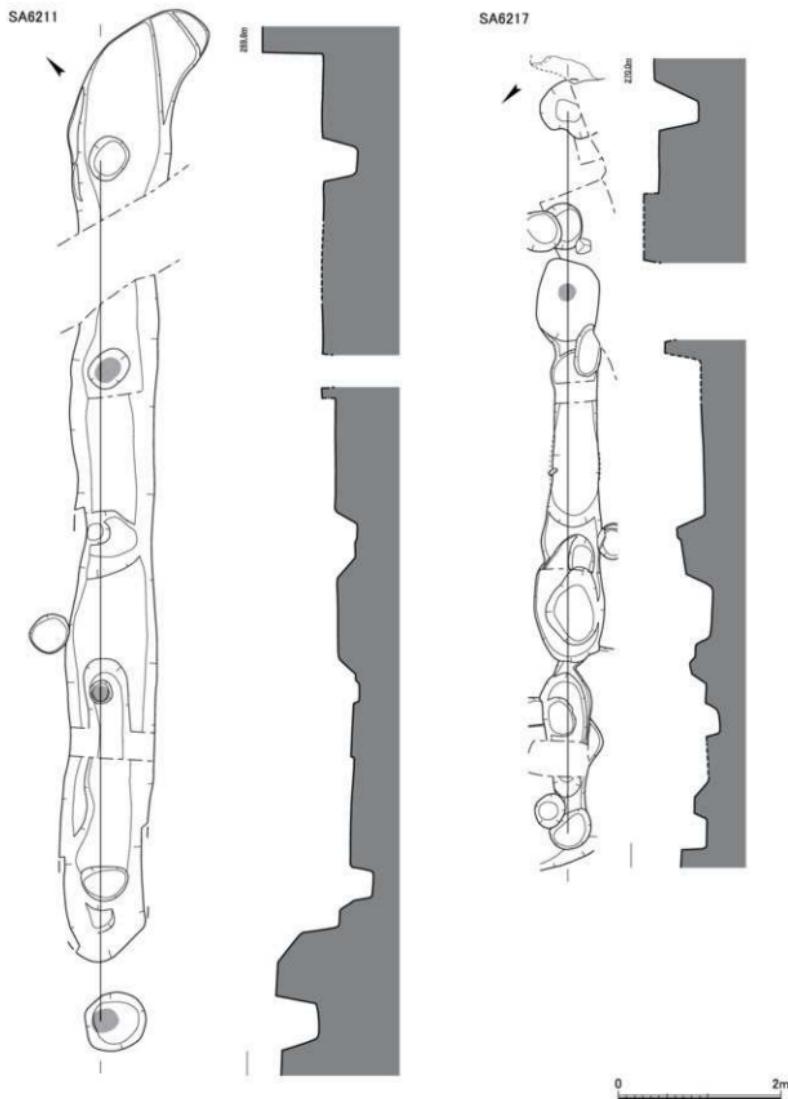


図59 6F区中世の遺構3 (1/60)

群である。550 は竜泉窯系青磁皿である。551・552 は底部糸切の土師器小皿である。553～557 は底部糸切の土師器杯で、554・555 は底部内面に螺旋状沈線が施される。558・559 は瓦質土器鍋で、ともに口縁内面にハケメが施される。

SA6217 (図 59)

6F 区のほぼ中央に位置する柵列である。調査当初は長さ 6.14 m、幅 0.4～0.85 m の布掘りの部分のみを指していたが、調査終了時にはこれに連続する南東側の 2 基の柱穴も含めて SA6217 とした。布掘りの部分では明確に柱の痕跡を確認できないが、主軸を N46° W にとり、約 1.4 m の間隔で 4 間分の柱が列をなしていたものと考えている。連続する 2 基の柱穴の間隔は 2.2 m で、径 0.2 m の柱痕跡を確認した。これらの状況から、布掘りの部分が居館内部を仕切る柵、柱穴部分がそれに連続する門の可能性がある。遺物は土師器杯、瓦質土器鍋が出土した。

SA6217 出土遺物 (図 69)

560 は土師器杯、561・562 は底部糸切の土師器杯で、ともに底部内面に螺旋状沈線が施される。563 は瓦質土器鍋で、口縁内面のハケメはナデにより消されていない。

SA6228 (図 60)

6F 区の中央南寄りに位置する柵列で、主軸を N42° W の北西—南東方向にとる 2 間分の柱穴が 3.9 m の長さで列をなす。柱間は 1.95 m で、柱穴は長軸 0.9～1.1 m、短軸 0.45～0.6 m の隅丸長方形基調である。径 0.15～0.2 m の柱痕跡を確認した。西側の SB6216 と東側の SA6230 とはほぼ直交する関係にあり、配置状況から有機的に関連する遺構群と考えられる。遺物は出土しなかった。

SA6230 (図 60)

6F 区の中央南寄りに位置する柵列で、主軸を N48° E の北東—南西方向にとる 2 間分の柱穴が 3.5 m の長さで列をなす。柱間は 1.6～1.9 m で、柱穴は径 0.5 m の円形基調である。西側の SA6228 とは L 字形にはほぼ直交する関係にあり、関連する遺構群と考えられる。遺物は出土しなかった。

SA6231 (図 60)

6F 区南西部に位置する柵列で、主軸を N45° W の北西—南東方向にとる 2 間分の柱穴が 3.95 m の長さで列をなす。柱間は 1.85～2.1 m で、柱穴は長軸 0.5～1.0 m、短軸 0.45～0.6 m の楕円形基調である。PA の北側に同じ規模の小穴があり、この中間にあたる柱穴が確認できなかったが、北側の小穴と合わせて全体で L 字形の柵列になる可能性がある。北東側の SB6216 との配置状況から、門に関連する柵列と考えられる。遺物は青花皿、土師器杯、瓦質土器鍋・搖鉢が出土した。

SA6231 出土遺物 (図 69)

540 は瓦質土器鍋で、外面に煤が付着している。

SB6221 (図 61)

6F 区東部に位置する掘立柱建物で、主軸を N40° E にとる南北棟の側柱建物である。PF が SB6222 と重複し、SB6222 より新しい。北辺の PD と PE の間に小穴があり、建物に関連する可能性がある。梁行 1 間 (4.0 m) × 桁行 3 間 (5.68 m) で、桁行柱間は 1.8～2.0 m である。建物を構成する柱穴は長軸 0.6～0.9 m、短軸 0.5～0.75 m の楕円形基調である。径 0.1～0.18 m の柱材が残存しており、樹皮を残し、先端部分のみ加工しているものが多い (写真図版 42)。遺物は青花碗、土師器杯、瓦質土器鍋・鉢が出土した。

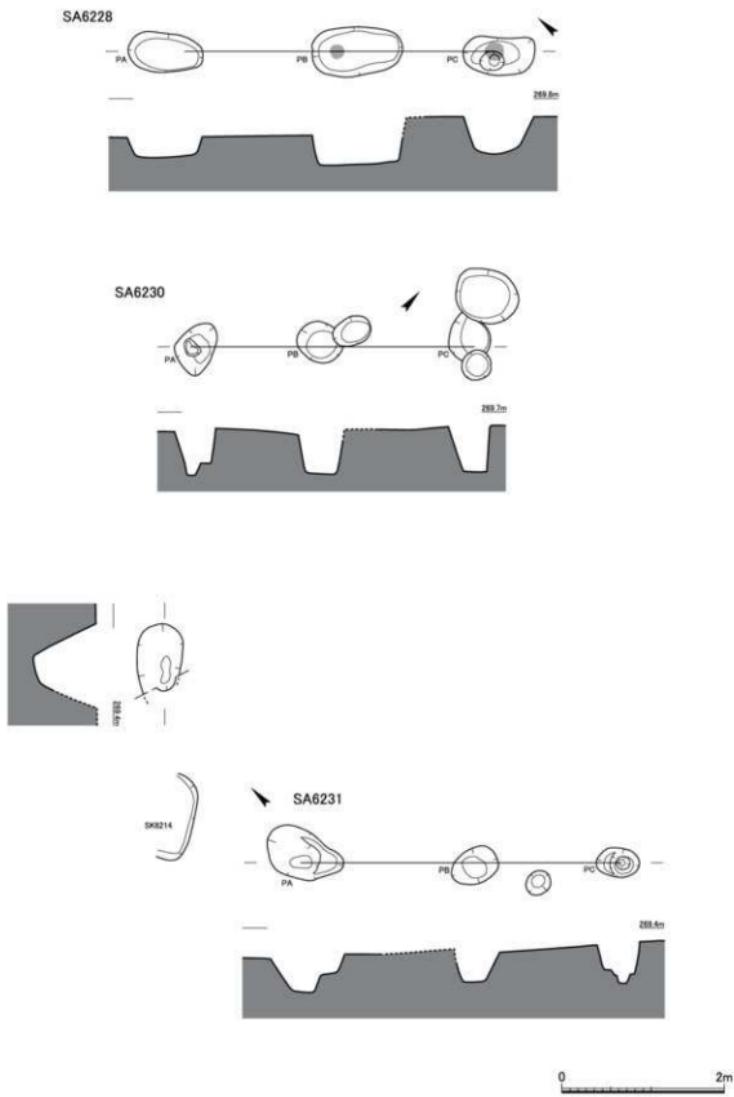


図 60 6 F 区中世の遺構 4 (1/60)

SB6221 出土遺物（図 69）

541 は底部糸切の土師器杯である。542 は瓦質土器鍋、543 は瓦質土器鉢である。544 は福建系青花碗で、蓮子碗系統の小野 C 群とみられる。

SB6218（図 62）

6F 区西部に位置する掘立柱建物で、主軸を N48° W にとる東西棟の側柱建物である。PD が土師器杯・小皿が多数出土した SX6208 と重複し、SX6208 に先行するものと判断した。梁行 1 間（2.7 m）× 柱行 2 間（4.2 m）で、柱行柱間は 1.85 ~ 2.15 m である。建物を構成する柱穴は長軸 0.7 ~ 1.05 m、短軸 0.5 ~ 0.7 m の隅丸長方形基調で、径 0.2 ~ 0.3 m の柱痕跡を確認した。遺物は白磁杯、青磁碗、土師器小皿が出土した。

SB6218 出土遺物（図 69）

532 は白磁森田 D 群の杯、533 は竜泉窯系青磁碗で、口縁外面に雷文帯をもつ上田 C 類である。

SA6225（図 62）

6F 区のほぼ中央に位置する柵列で、主軸を N40° E の南北方向にとる 5 間分の柱穴が 7.1 m の長さで列をなす。柱間は 1.0 ~ 2.0 m で、柱穴は径 0.3 ~ 0.5 m の円形基調である。径約 0.2 m の柱痕跡を確認した。西側の SB6218 とほぼ主軸を揃えることから、関連する遺構群と考えられる。遺物は白磁皿、土師器小皿が出土した。

SA6225 出土遺物（図 69）

534 は土師器小皿、535 は白磁森田 E 群の皿である。

SX6208（図 62）

6F 区のほぼ中央に位置し、径約 0.7 m、深さ 0.25 m の平面円形であったものと考えられる。南半部は試掘坑のため明確ではないことと調査期間の問題などから、遺物の出土状況が実測できなかった。SB6218 と重複するが、わずかに残る部分から、SB6218 より後出するものと判断した。遺物は確認できたもので土師器小皿 25 個体分、土師器杯 10 個体分、その他に瓦質土器鍋片が出土した。小皿・杯はほとんどが完形のもので、祭祀行為に伴うものであろう。

SX6208 出土遺物（図 71）

601 ~ 620 は底部糸切の土師器小皿である。620 を除き、ほぼ同じ形態・大きさのもので、底部の器壁がやや厚いことが特徴である。一連の作業で製作された個体群であろうか。621 ~ 629 は底部糸切の土師器杯で、体部外面に沈線状の調整を残すものが見られる。

SK6209（図 63）

6F 区西部に位置し、長軸 6 m 以上、短軸 4.5 m、深さ 1.12 m で、南側は試掘坑により不明であるが、平面は不整な楕円形になるものと思われる。大型の土坑で、土壁のすぐ外側に位置し、重なった銅錢が出土していることなどから居館の廃絶時の祭祀行為に伴うものであろうか。遺物は白磁森田 D 群・E 群皿、竜泉窯系青磁碗・上田 B IV・D 類・皿・盤、青花小野碗 C 群・小野皿 B 1 群、備前窯大甕、肥前陶器皿、土師器杯・小皿、瓦質土器鍋・茶釜・火鉢・鉢・播鉢、銅錢が出土した。16 世紀末から 17 世紀初頭の肥前陶器などが出土しているが、出土状況が明確ではないものの、土坑が完全に埋没していない状態での流れ込みによるものとみて、戦国期の遺構と判断した。18 世紀代とみられる 3 層よりも下層であることは、土層観察から確定である。

SK6209 出土遺物（図 72）

630 は白磁森田 E 群の皿、631 は竜泉窯系青磁皿で、口縁外面の雷文が退化して波状文になったものと思われる。632・633 は景德鎮窯系青花皿で、633 は端反形の小野 B 1 群である。634 は景德鎮窯系青花碗で、蓮子碗系統の

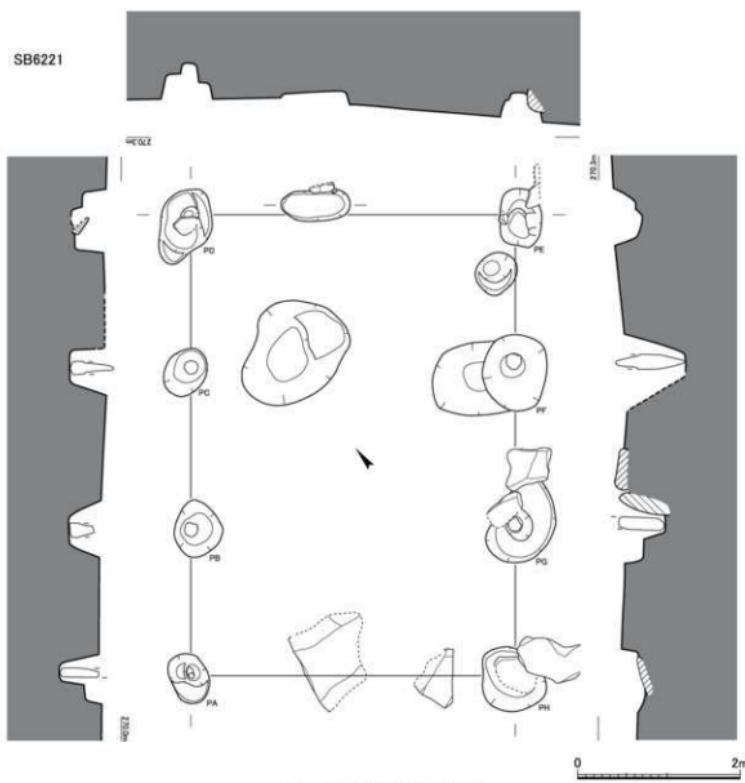


図 61 6F 区中世の遺構 5 (1/60)

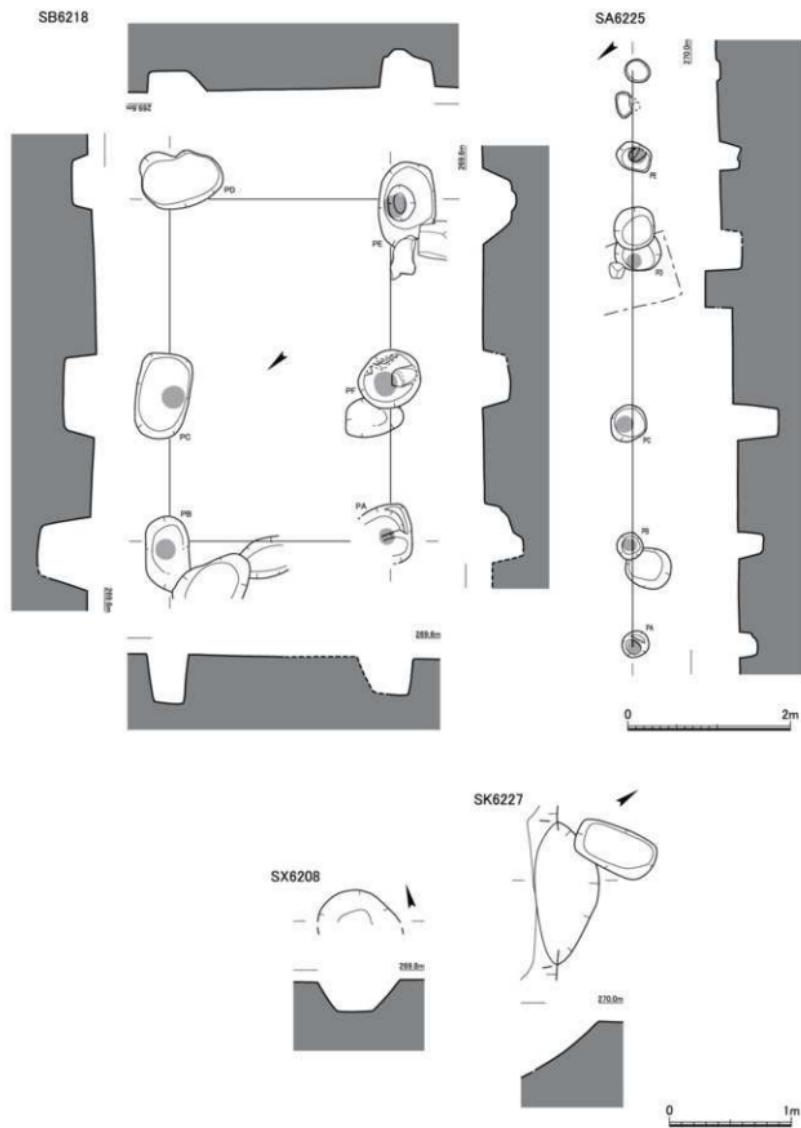


図62 6F区中世の遺構6 (1/60・1/40)

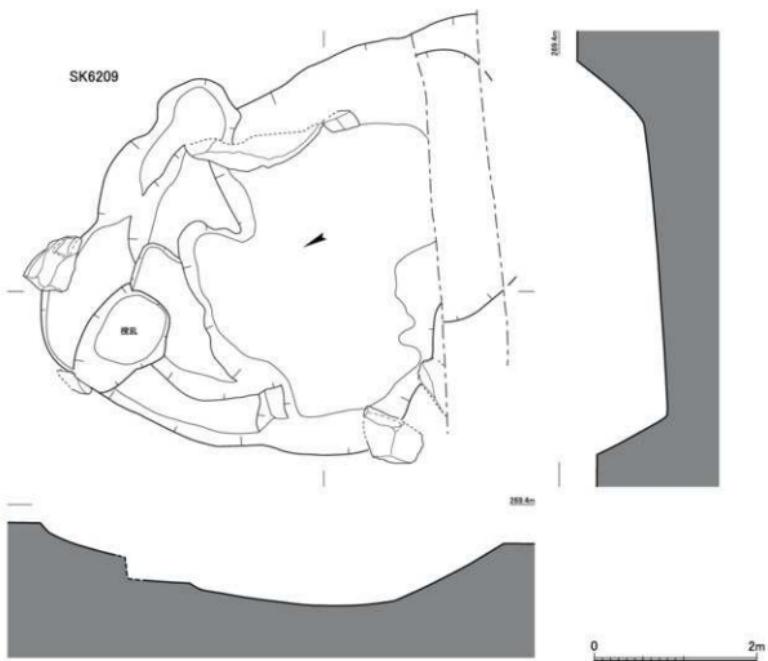


図 63 6F 区中世の遺構 7 (1/60)

小野 C 群である。635 は肥前陶器皿で、灰釉で口縁部に鉄釉が施される。

636～639 は底部糸切の土師器小皿である。640～643 は底部糸切の土師器杯で、643 は杯としては大型のもので、底部内面に螺旋状沈線が施される。644 は備前窯の大甕である。645 は瓦質土器鉢、646・647 は瓦質土器鍋で、646 は外面に煤が付着している。

648・649 は銅錢が銷などにより重なったままの状態となったものである。648 は 4 枚の銅錢がくついたもので、文字が見える面でもっとも上にある銭は、鉄錢のようにもみえるが、銅錢としておく。文字が判読できず、種類について不明であるが、やや径が小さいため、洪武通寶か私鑄錢の可能性がある。649 は 7 枚の銅錢がくついたもので、文字が判読できるものは聖宋元寶で、本鑄錢である。

SK6227 (図 62)

6F 区北部に位置し、長軸 1.16 m、短軸 0.52 m、深さ 0.4 m の部分がわずかに検出できただけである。遺物は鉄砲玉鋳型が出土した。

SK6227 出土遺物 (図 81)

852 は鉄砲玉の鋳型と考えられ、滑石製である。長さ 3.5cm、幅 3.3cm、厚さ 1.6cm の板状の石材に、径 1.2cm の玉の鋳型が表裏に 1 個分ずつ彫り込まれており、それぞれに湯口がある。一面にはガス抜きと思われる沈線が彫り込

まれている。明らかに湯を注いだ痕跡は観察できず、実際に鋳造したかどうかは不明である。

SX6229（写真図版 35）

6F 区の中央やや南寄りに位置する。径約 0.55 m の石材で、上面に人為的な加工によるくぼみがある。この周辺での戦国期の地表面は不明であり、擾乱を受けている可能性もあるが、庭園に関係するものかもしれない。

SD8002（図 64）

8A 区西部に位置し、曲輪 3 と曲輪 4 の間に施された切岸の直下に尾根を横断するように掘削された溝である。幅約 0.9 m、深さ 0.35 m で、排水と区画のためのものであろうか。

SB8003（図 66）

8A 区のほぼ中央に位置し、曲輪 1 の北東辺に並ぶ柱穴と曲輪 2 の切岸直下の柱穴がほぼ対応することから掘立柱建物と認定した。曲輪 1 で 8 間、曲輪 2 で 6 間の柱穴列を検出し、長さ約 8 m、幅約 1.8 m の規模である。建物を構成する柱穴は径 0.1 ~ 0.55 m の円形基調であるが、小さなもののは柱痕跡のみ掘り下げている可能性がある。いわゆる「懸作」形式の構造物であったと考えられる。遺物は出土しなかった。

SB8004（図 66）

8A 区のほぼ中央に位置し、SB8003 と同じく「懸作」形式の構造物であったと考えられる。曲輪 1 の東辺で 1 間、切岸で 2 間の柱穴を検出し、長さ 1.9 m、幅 1.4 m の規模である。SB8003 との間には明らかな柱穴が検出されていないが、連続した構造であった可能性もある。遺物は出土しなかった。

SX8005（図 66）

8A 区の中央やや北寄りに位置する。長軸 0.3 ~ 0.8m、短軸 0.25 ~ 0.6m の楕円形基調の小穴が長さ 3.5 m ほど連続しているもので、曲輪 2 から曲輪 1 への階段状の通路であった可能性がある。

SX8006（図 64）

8A 区南東部に位置する堀切である。尾根上の鞍部地形を利用したもので、堀底での幅は 8 m、断面形は箱形である。堀底には数基の小穴が確認されており、乱杭など何らかの施設があった可能性がある。

SB8011（図 68）

8B 区北西部に位置する掘立柱建物で、主軸を N69° E にとる東西棟の側柱建物である。梁行 1 間（4.03 m）×桁行 2 間（4.06m）で、桁行柱間は 1.9 ~ 2.16 m である。建物を構成する柱穴は径 0.25 ~ 0.45 m の円形基調で、径 0.1 m の柱材を確認した。遺物は出土しなかったが、近接する P8001 から備前窯大甕の破片が出土しており、建物の時期を示唆している。柱材の放射性炭素年代は 15 世紀前半から中頃であり（第 5 章）、柱穴が円形基調であることと合わせて、6F 区の居館よりも遅った時期の建物である可能性が高い。

6F 区小穴出土遺物（図 72）

650・651 は P6201 出土で、650 は底部糸切の土師器杯、651 は瓦質土器鍋である。652 は P6204 出土の底部糸切の土師器小皿である。653 は P6232 出土の底部糸切の土師器小皿である。654 は P6236 出土の底部糸切の土師器杯である。655・656 は P6208 出土である。655 は底部糸切の土師器小皿で、油煤が付着している。656 は景

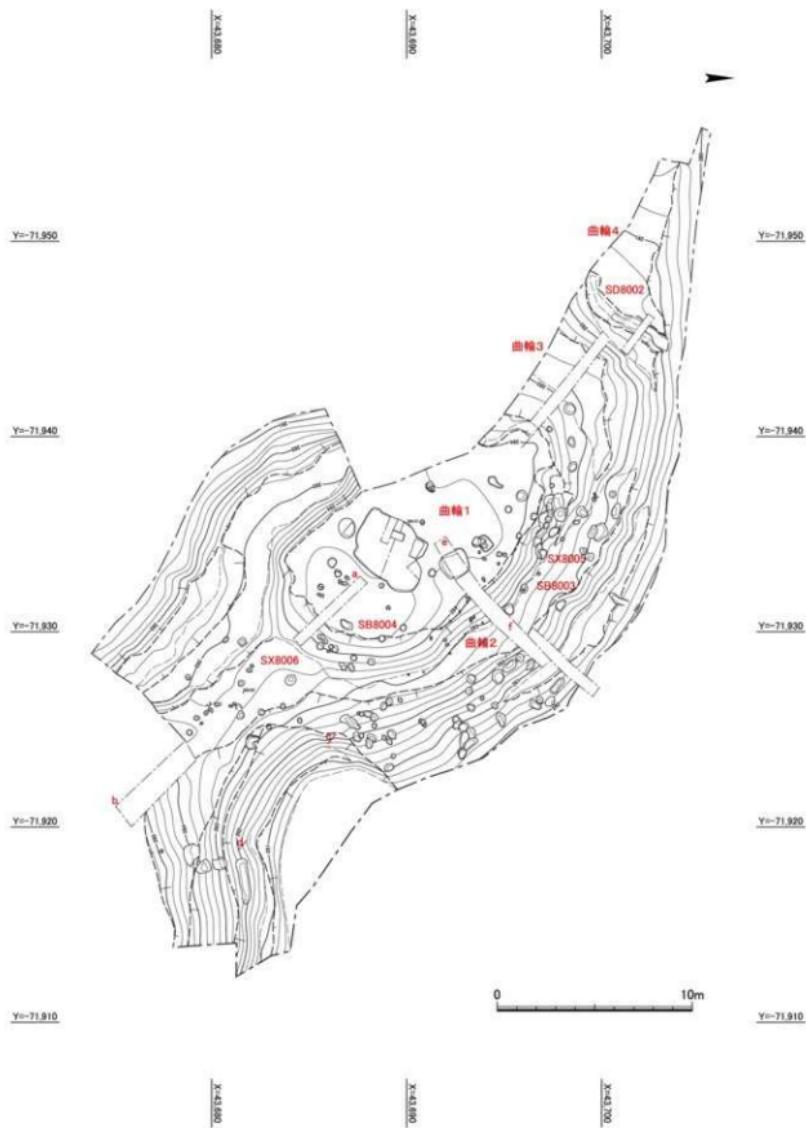


図 64 8 A区の遺構分布 (1/250)



図 65 8 A区の土層 (1/60・1/100)

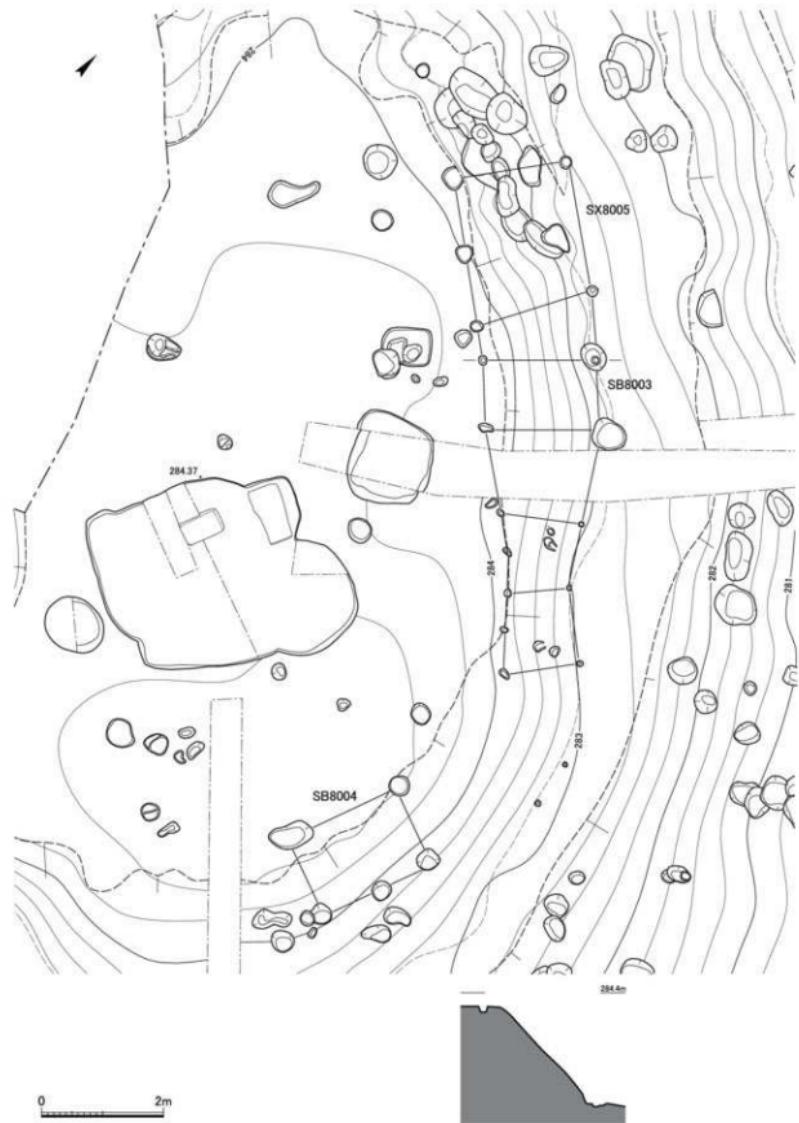


図 66 8 A区中世の遺構 (1/80)



図 67 8B 区中世の遺構分布 (1/400)

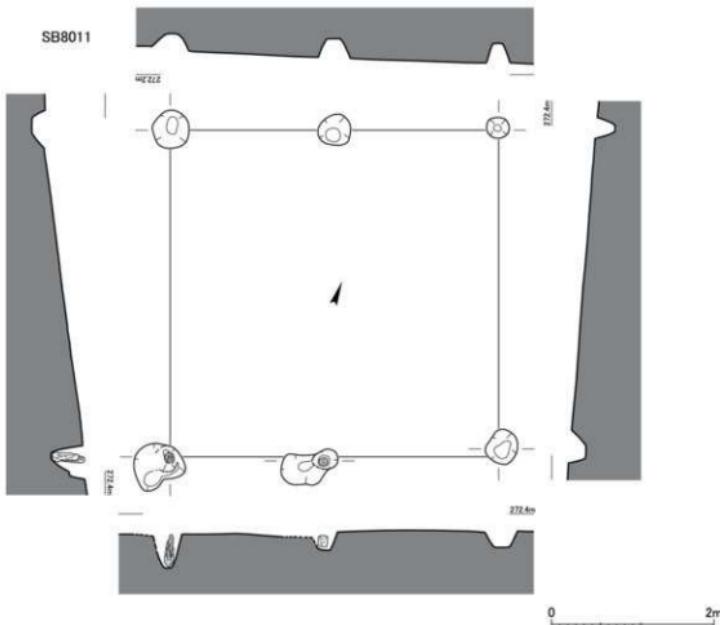


図68 8B区中世の遺構 (1/60)

徳窯系青花皿で、高台が付く小野B群である。657・658はP6225出土である。657は底部糸切の土師器小皿で、体部に焼成前穿孔がある。658は福建系青花碗で、蓮子碗系統の小野C群である。659はP6238出土の瓦質土器風炉で、口縁外面と肩部に印刻文が施され、外面はミガキである。

6F区中世の出土遺物（図73～81）

6F区の遺構以外から出土した遺物は、陶磁器類などについては種別ごとに、土器類は層位ごとに説明していく。

660は同安窯系青磁碗で、外面に柳目文が施されている。661～685は竜泉窯系青磁で、661～676は碗である。661は幅の広い片切彫の蓮弁文が施される上田B II類で、内面見込みと高台内の軸を搔き取っている。662～666は線描蓮弁文が施される上田B IV類。667～672は口縁部が外反する上田D類。673は口縁部が内湾する上田E類である。674～676は内面見込みにスタンプによる花文が施され、高台内は露胎である。677～680は皿で、679は稜花皿、677・678の高台内は露胎である。681は酒会壺のような大型壺の底部である。682は碗か皿の底部である。683～685は盤で、高台覆まで施釉され、高台内は露胎である。

686は白磁皿である。687は口禿の白磁碗IX類である。688は底部平底の白磁皿VII類。689は高台が付く白磁皿で、内面見込みの軸を蛇の目状に搔き取っている。神埼市神埼町下六丁遺跡などに類例がある。690・691は白磁森田D群で、690は皿、691は杯である。692～699は白磁森田E群の皿である。

700～720は景德鎮窯系青花である。700～705は蓮子碗系統の小野碗C群、706は慢頭心碗系統の小野碗E

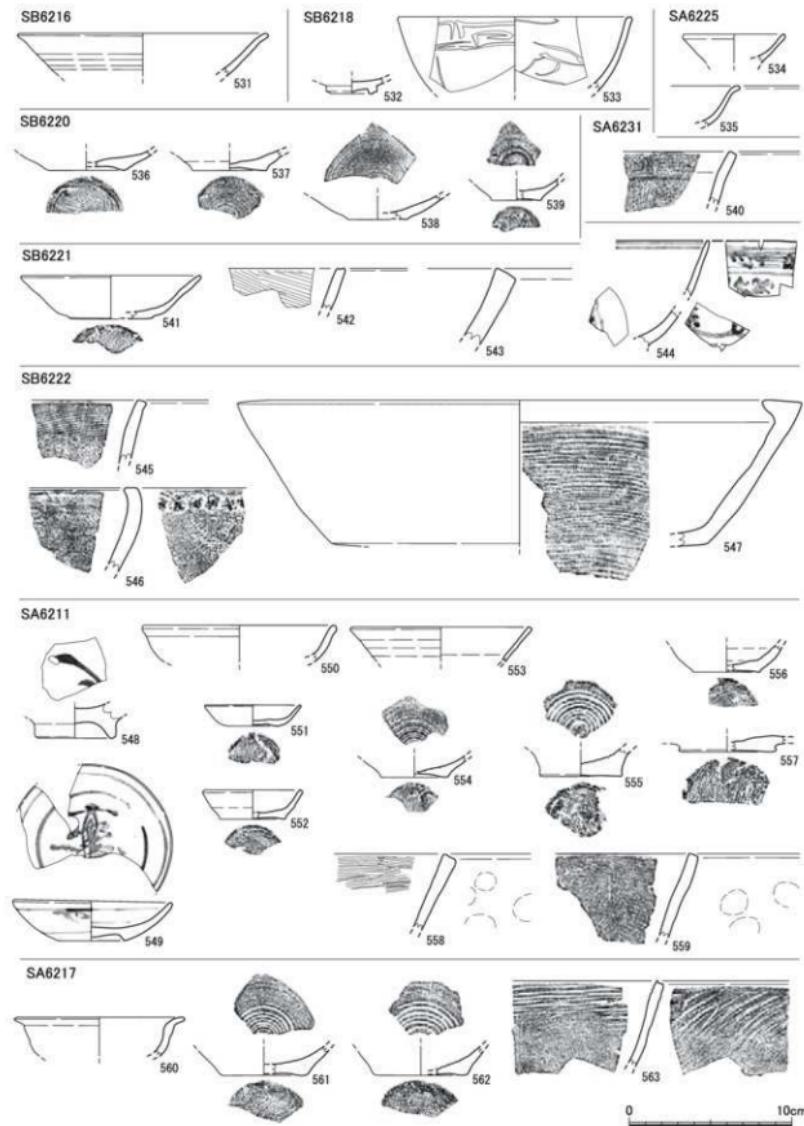


図69 6F区中世の遺物1 (1/3)

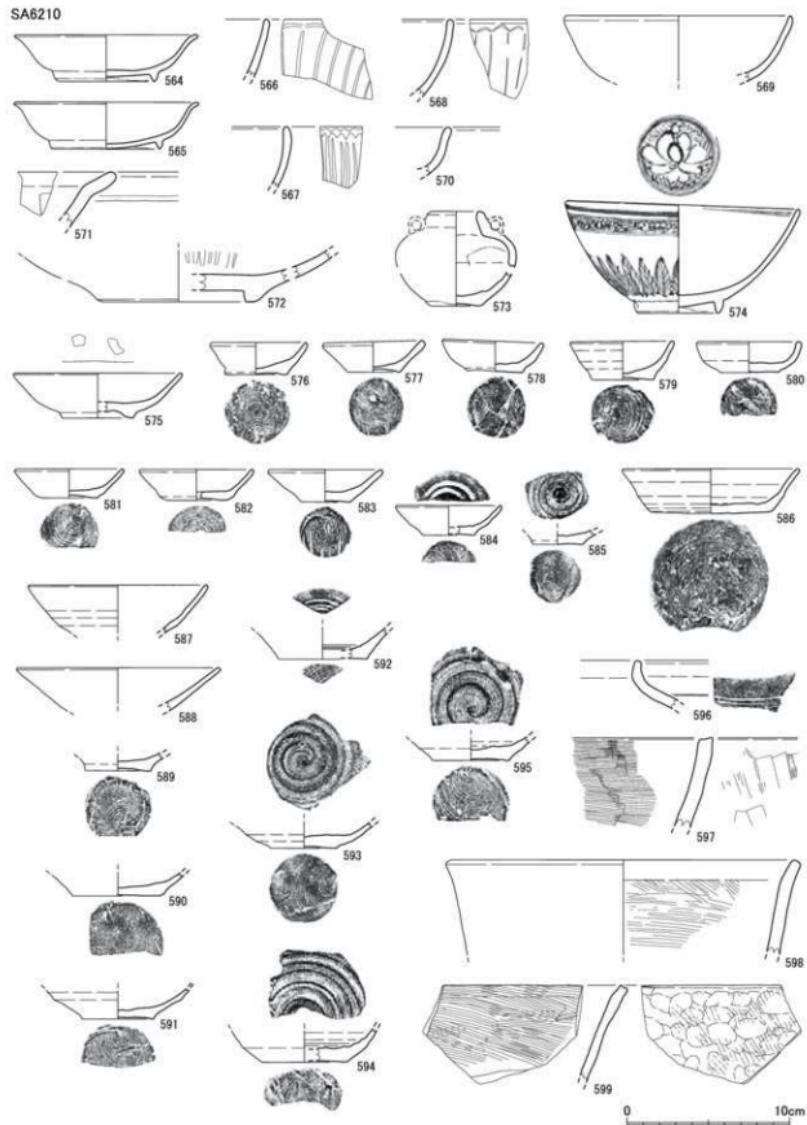


図 70 6 F 区中世の遺物 2 (1/3)

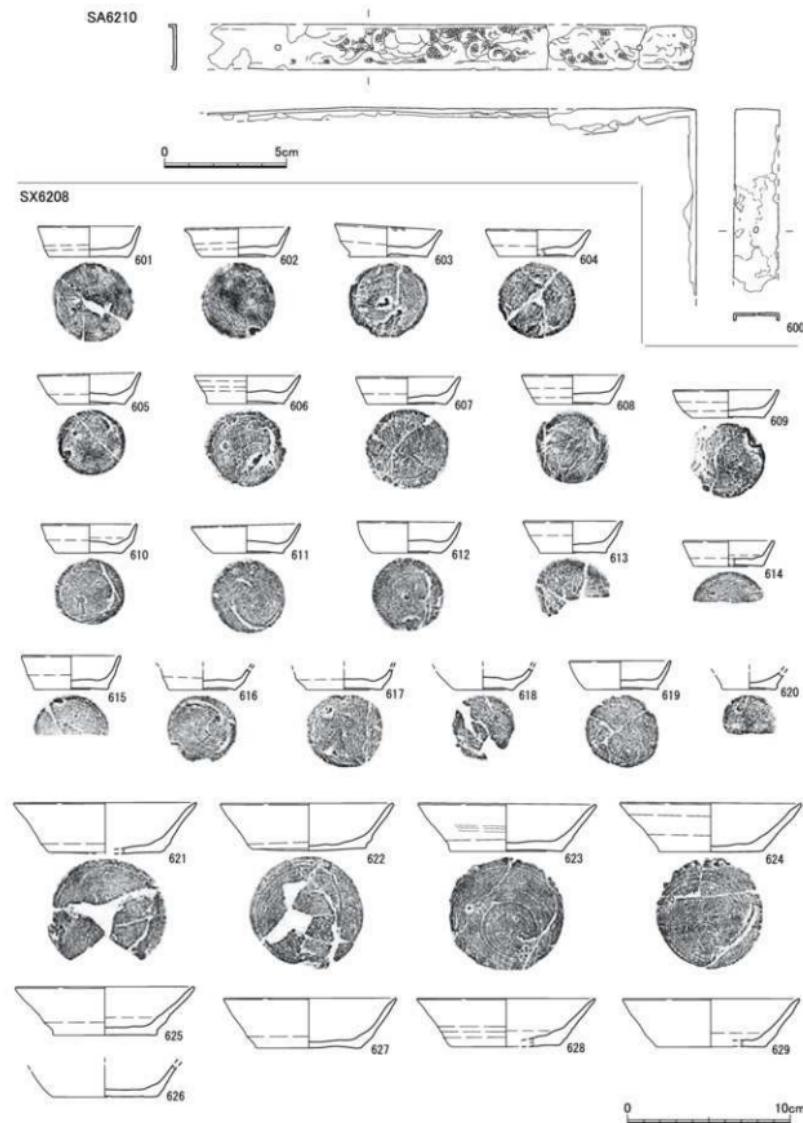


図 71 6F 区中世の遺物 3 (1/3 + 1/2)

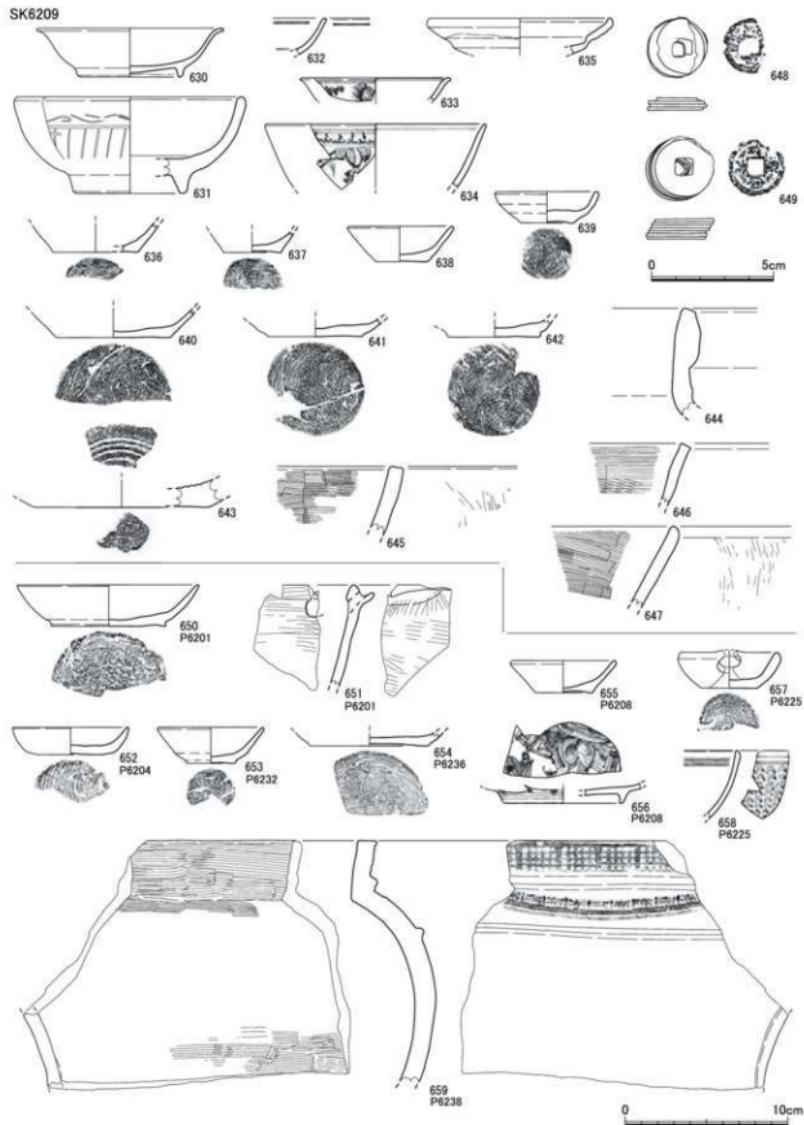


図 72 6F 区中世の遺物 4 (1/3 + 1/2)

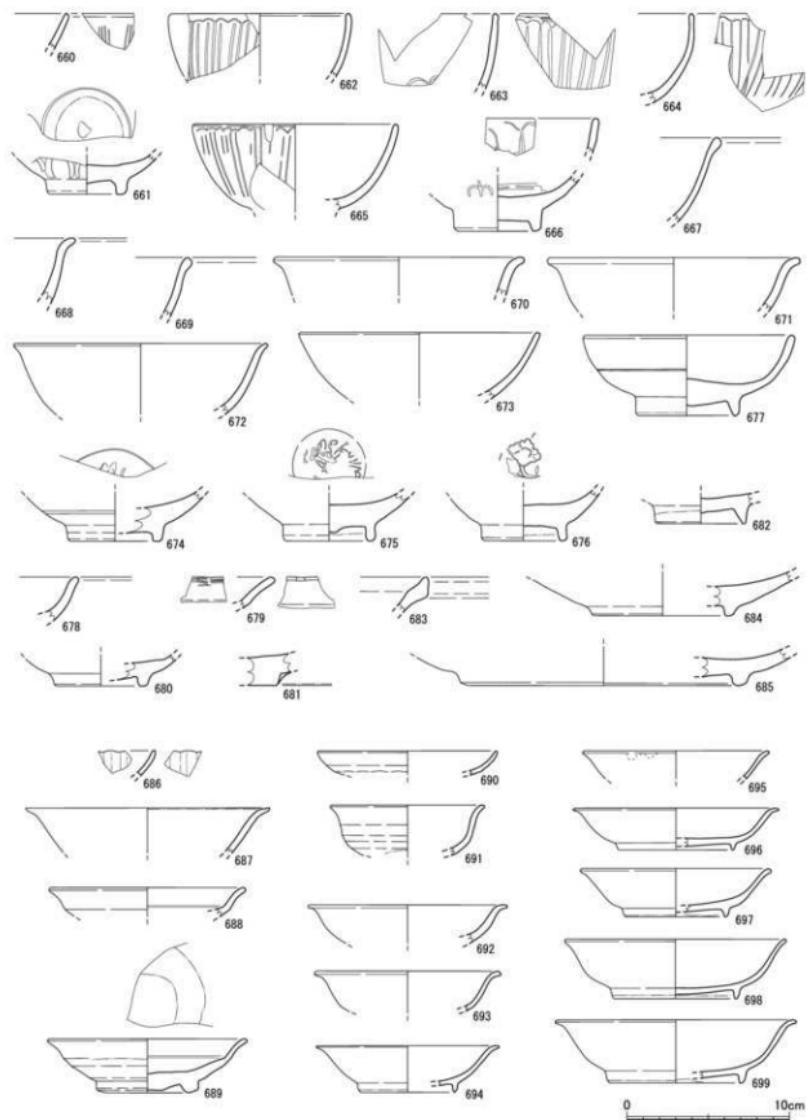


図73 6F区中世の遺物5 (1/3)

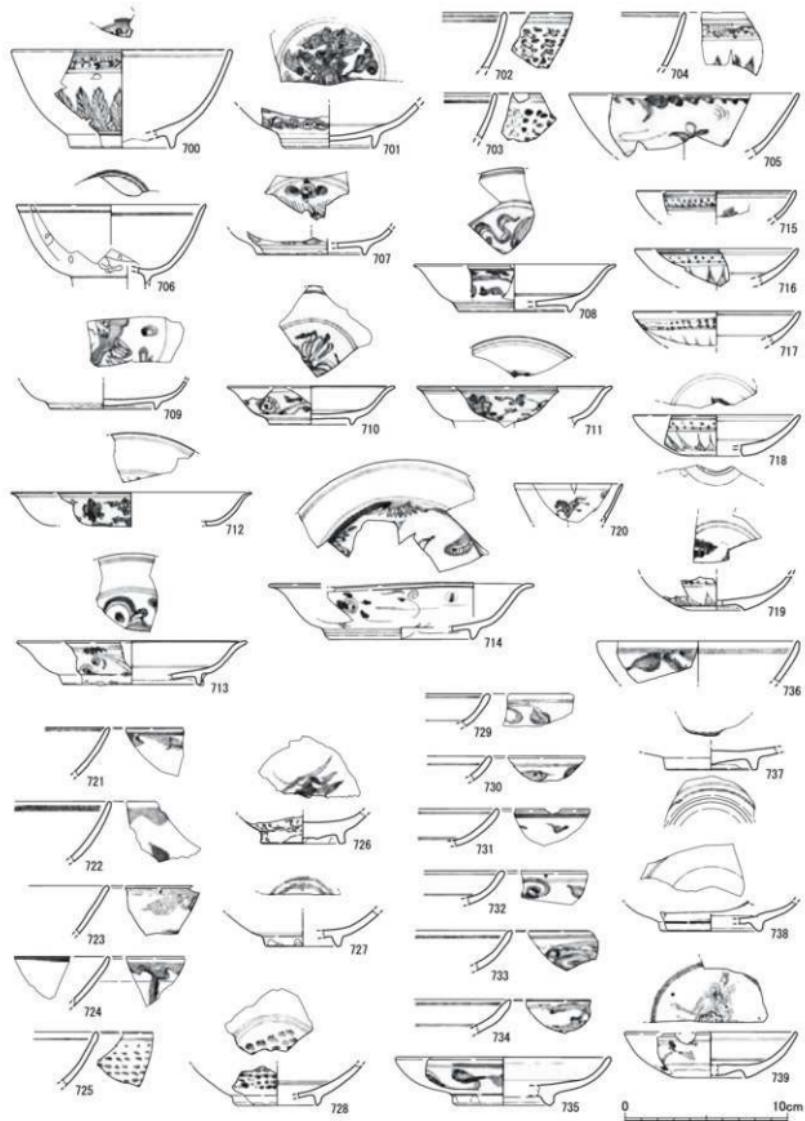


図 74 6 F 区中世の遺物 6 (1/3)

群で、外面に暗花文が施される。707～714は高台が付き端反形の小野皿B群で、口縁部が判明するものはいずれもB1群である。715～719は甚筋状底部の小野皿C群である。720は小杯である。

721～739は福建系青花である。721～728は碗で、大部分が蓮子碗系統の小野C群とみられる。729～739は皿で、738は内面見込みの軸を輪状に搔き取っており、739は甚筋状底部の小野C群である。

740は景德鎮窯系磁器碗で、外面に璫螭軸を施している。741は華南彩釉陶小壺で、外面に紫系統の軸を施している。底部に墨書きがみられるが、判読できていない。742は中国産の天目碗と思われる黒釉磁である。

743～747は朝鮮王朝期の灰青陶器皿で、743の内面には目跡が残る。748は朝鮮半島産の陶器瓶で、暗緑色の灰軸を施している。749は朝鮮半島産と思われる陶器壺で、暗緑色の灰軸を施している。750は朝鮮半島産の陶器鉢と思われ、暗緑色の灰軸を施している。751は朝鮮半島産と思われる陶器瓶で、いわゆる船便利であるが、中国産の可能性もある。内面に何らかの付着物が見られ、油壺のようなものであったかもしれない。

752は中国南部産の陶器壺で、灰軸が施される。753は中国南部産と思われる陶器壺で、底部付近にしほったような痕跡が見られ、灰軸が施される。754は中国南部産の陶器盤で、黄軸が施される。

755・756は備前窯の壺である。757・758は備前窯の大甕で、ともに同一個体かどうか確実ではないが、底部も図示している。

759～763は9層出土の遺物である。759は防長系の瓦質土器擂鉢である。760は底部糸切の土師器小皿、761～763は底部糸切の土師器杯で、761の底部内面には螺旋状沈線が施されている。

764～768は8層あるいは9層から出土した遺物である。764～766は底部糸切の土師器杯で、765・766の底部内面には螺旋状沈線が施される。767・768は瓦質土器鍋である。

769～773は8層出土の遺物である。769は土師器杯、770・771は底部糸切の土師器杯である。772は瓦質土器鉢、773は瓦質土器鍋である。

774～778はSK6224出土遺物である。遺構は土坑であるが、掘り方を誤っており、遺物は9層の可能性がある。774は底部糸切の土師器杯、775・777は底部糸切の土師器小皿で、775は底部内面に四線状の調整痕を螺旋状に残す。776は器面調整にミガキがみられるため、瓦質土器とした小皿で、口縁端部に刻目を施している。778は瓦質土器鉢である。

779～789・791～795は5層あるいは8層出土の遺物である。779・782は底部糸切の土師器小皿である。780は土師器小皿で、口縁端部に刻目を施している。781・783～789は底部糸切の土師器杯で、781は底部内面に四線状の調整痕を螺旋状に残し、787～789は底部内面に螺旋状沈線を施している。791は防長系の瓦質土器足鍋である。792・793は瓦質土器鍋である。794・795は瓦質土器火鉢で、外面に印刻文を施している。

790・796～845は5層出土の遺物である。790は景德鎮窯系青花碗で、内面に花文を施しており、17世紀前半代の資料と思われる。796～808・810は底部糸切の土師器小皿である。797は油煤が付着しており、798は口縁部の一部をつまみ状にしている。802は底部内面に四線状の調整痕を螺旋状に残す。803は底部に焼成後穿孔を施している。809は土師器杯で、器高の高いタイプである。811～829は底部糸切の土師器杯である。812・814は底部に圧痕のようないいものが見られ、内底にナデ調整が施されるが、中世前期の板状圧痕とはやや異なるようである。816は底部に穿孔があるかもしれない。821・823は底部内面に螺旋状の調整痕を残す。824は底部に穿孔があり、焼成前の可能性がある。822・825・826・828・829は内面に螺旋状沈線を施している。830は瓦質土器鉢である。831～834は瓦質土器鍋で、いずれも口縁内面のハケメを意識的に使い分けており、外面に煤が付着している。835は土師器鍋である。836は防長系の瓦質土器足鍋で、外面に煤が付着している。837は瓦質土器焰烙の把手である。838～840は瓦質土器火鉢で、外面に印刻文を施している。841は瓦質土器火鉢の脚部と思われる。842は土師器鉢と判断した。843・844は瓦質土器茶釜である。845は土師器で、皿と思われ、底部内外面ハケメである。

846～848は防長系の瓦質土器足鍋で、848は外面に煤が付着している。849は底部糸切と思われる土師器杯で、

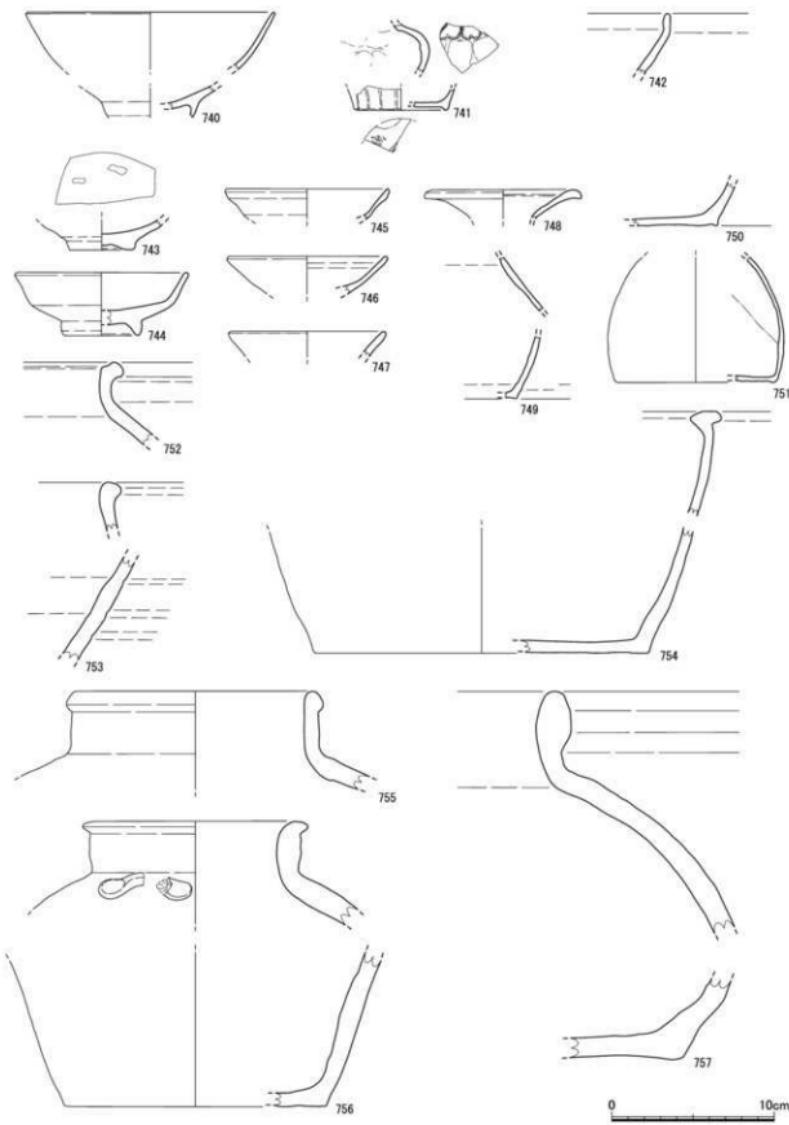


図75 6F区中世の遺物7 (1/3)

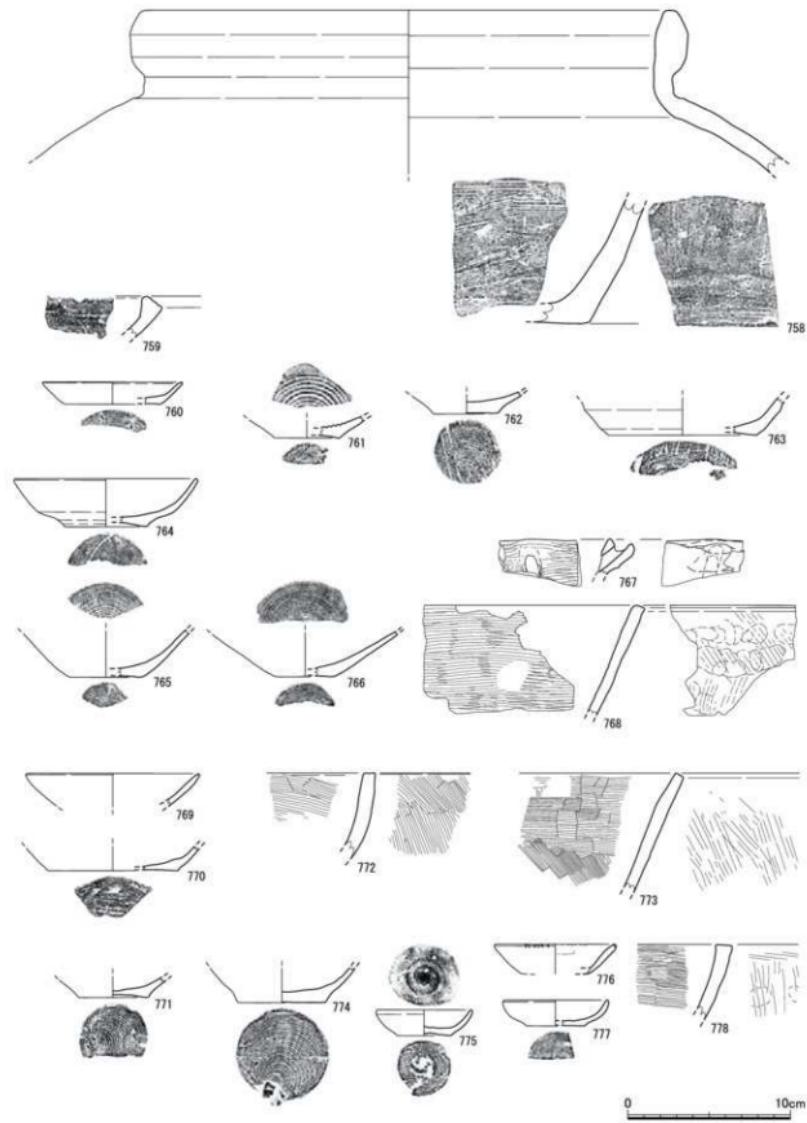


図 76 6F区中世の遺物8 (1/3)

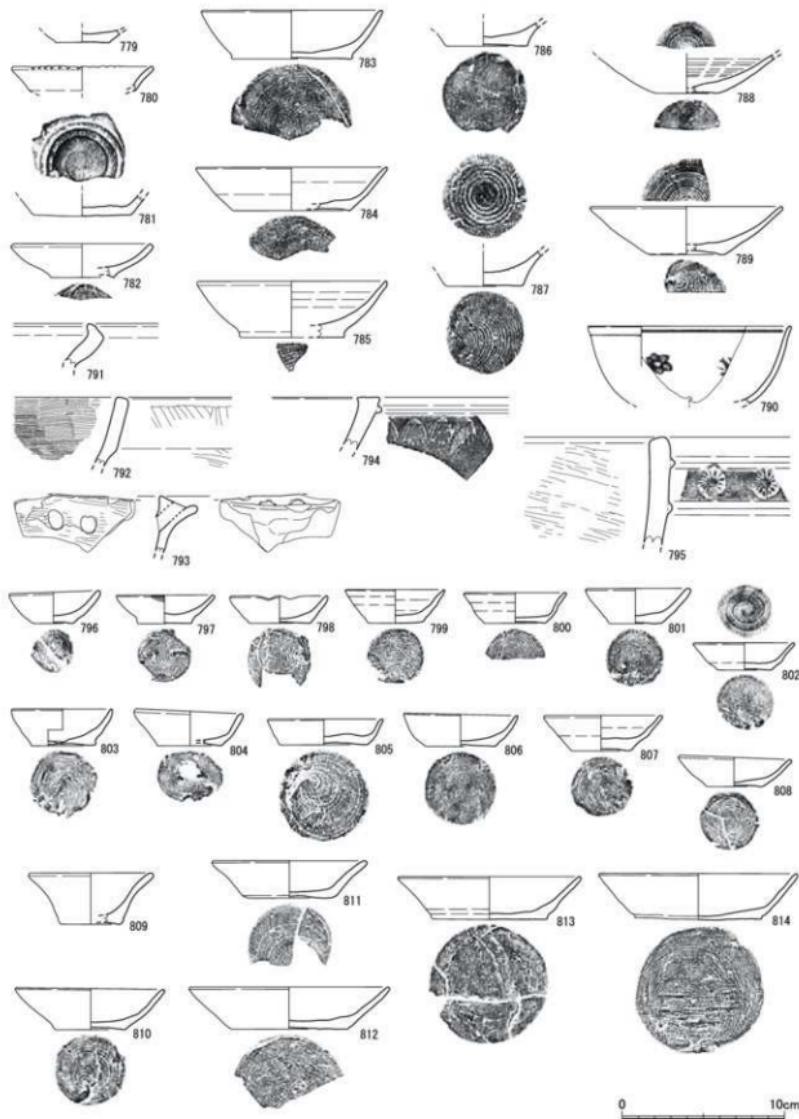


図77 6F区中世の遺物9 (1/3)

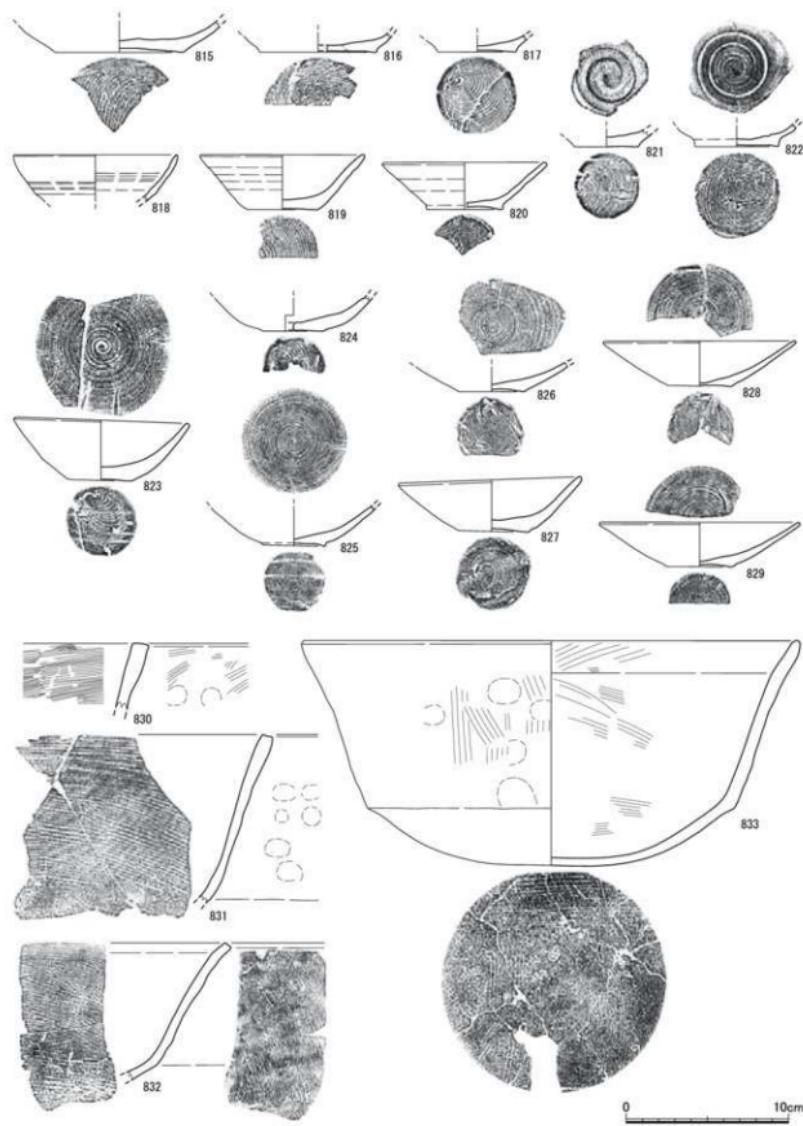


図 78 6F区中世の遺物 10 (1/3)

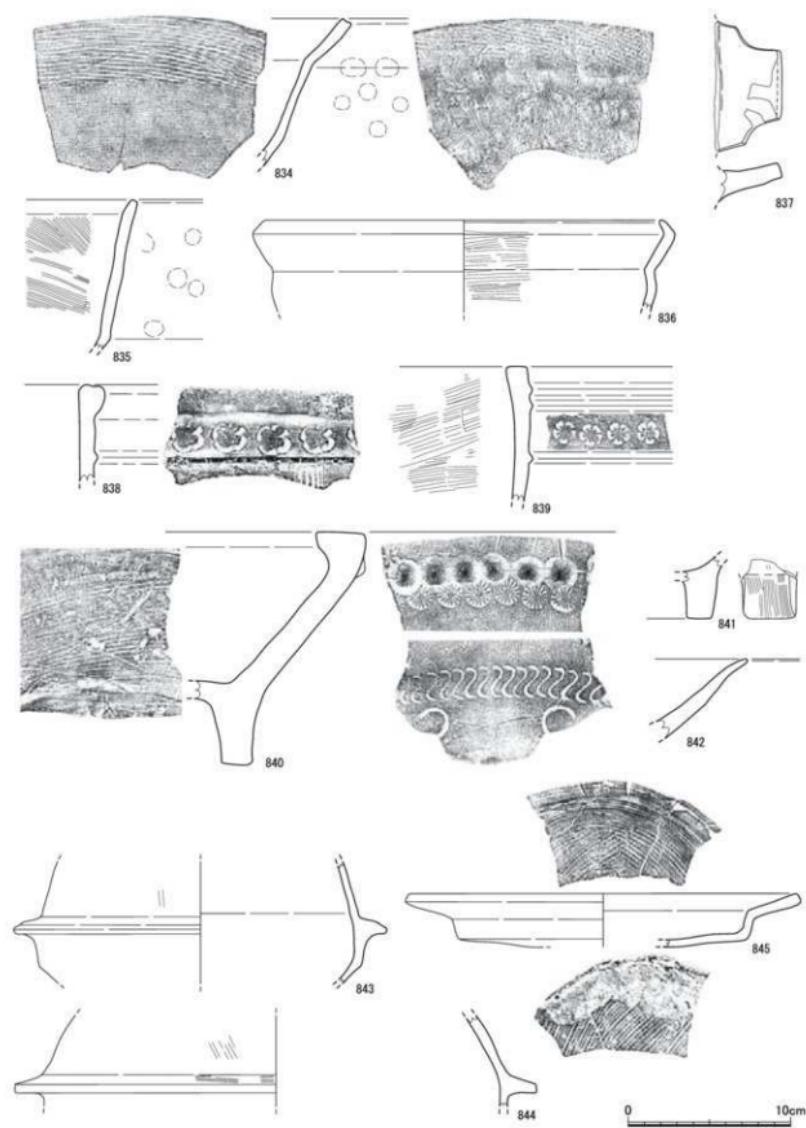


図79 6F区中世の遺物 11 (1/3)

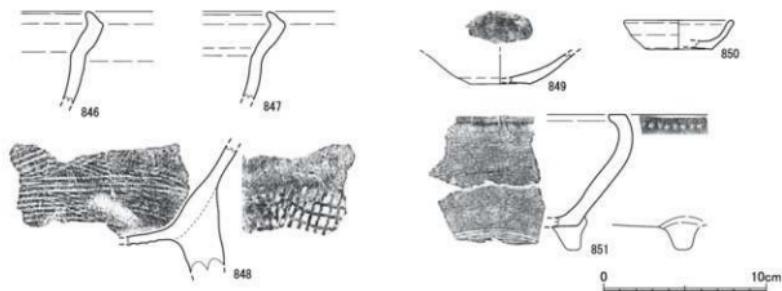


図 80 6F 区中世の遺物 12 (1/3)

底部内面に螺旋状沈線を施している。851は瓦質土器火鉢で、口縁外側に印刻文を施している。

853～856は磁石である。855は表面に擦痕があり磁石としたが、滑石製であり、何らかの製品を製作するための原料かもしれない。857・858は茶臼の受け部である。859は石鉢で、内面に摩滅痕が顕著に見られる。860は滑石製石鍋で、外側に煤が付着している。861は石臼である。

862・863は鉄製釘とみられ、862には木質が残存しているようであるが、明確ではない。864は性格不明の鉄片である。

8区中世以前の出土遺物（図 86）

888は繩文土器で、外面に梢円形の押型文が施される。

889は白磁森田D群の皿で、陶胎である。890は白磁杯、891は竜泉窯系青磁皿である。892～895は竜泉窯系青磁碗で、892～894は口縁部が外反する上田D類である。896は景徳鎮窯系青花皿で、高台が付き端反形の小野B1群である。897は底部糸切の土師器杯である。898は備前窯の大甕の脚部である。899は防長系の瓦質土器足鍋の脚部である。900・901は口縁部が玉縁状をなす土師器鍋で、ともに外側に煤が付着している。

2) 6F・8区近世の遺構と遺物

6F区近世の遺構としては、土坑3基、石積1基を検出した。土坑は時期を明確に示す遺物が出土していないが、SX6212がSA6210土壙に掘り込んでおり、戦国時代のものとは考えにくく、3基とも埋土に炭が多く含まれるという共通点をもっていることなどから、いずれも近世のものと判断した。8区近世の遺構としては、8A区東部の谷部に設定した8A1区（図52）で土坑1基、8C区で烟の造成に伴う石積2基などを検出したが（図83）、石積については写真記録のみにとどめている。なお、8A区では近世からの墓地が展開していたが、本格的な考古学的調査は行なっていない。墓石では、8A1区西側の墓地で延宝・正徳年間のものがあり、江戸時代前期にまで遡るが、尾根上の墓地では江戸時代後期以降が主体となるようである（写真図版41）。

SX6207（図84）

6F区西部に位置し、西側に面を揃えて石を積んでいる南北方向の石積を長さ6mほど確認した。遺物は石積の内側から陶器皿・土瓶・擂鉢・甕、肥前染付磁器皿、土師器小皿、瓦質土器・茶釜・火鉢が出土した。遺物から19世紀代のものと考えられ、水田と思われる2層と時期的に同じであるので、水田の造成に伴う石垣の痕跡と推測される。

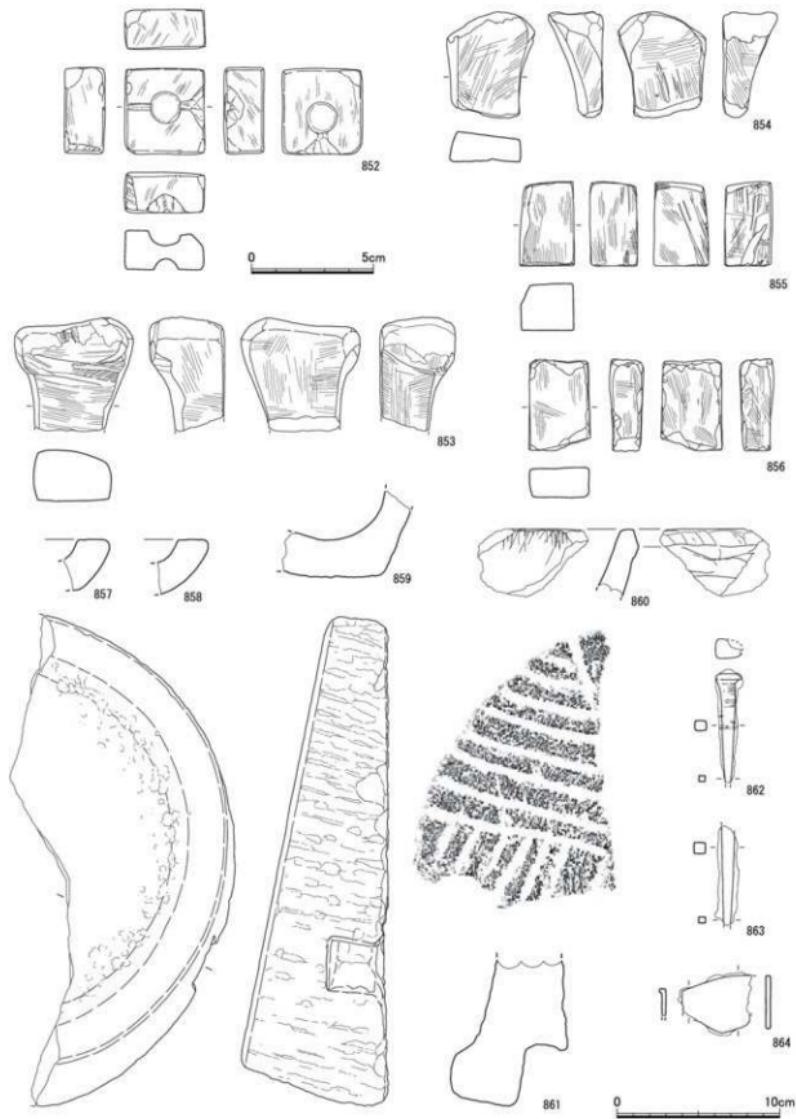


図 81 6F 区中世の遺物 13 (1/3・1/2)

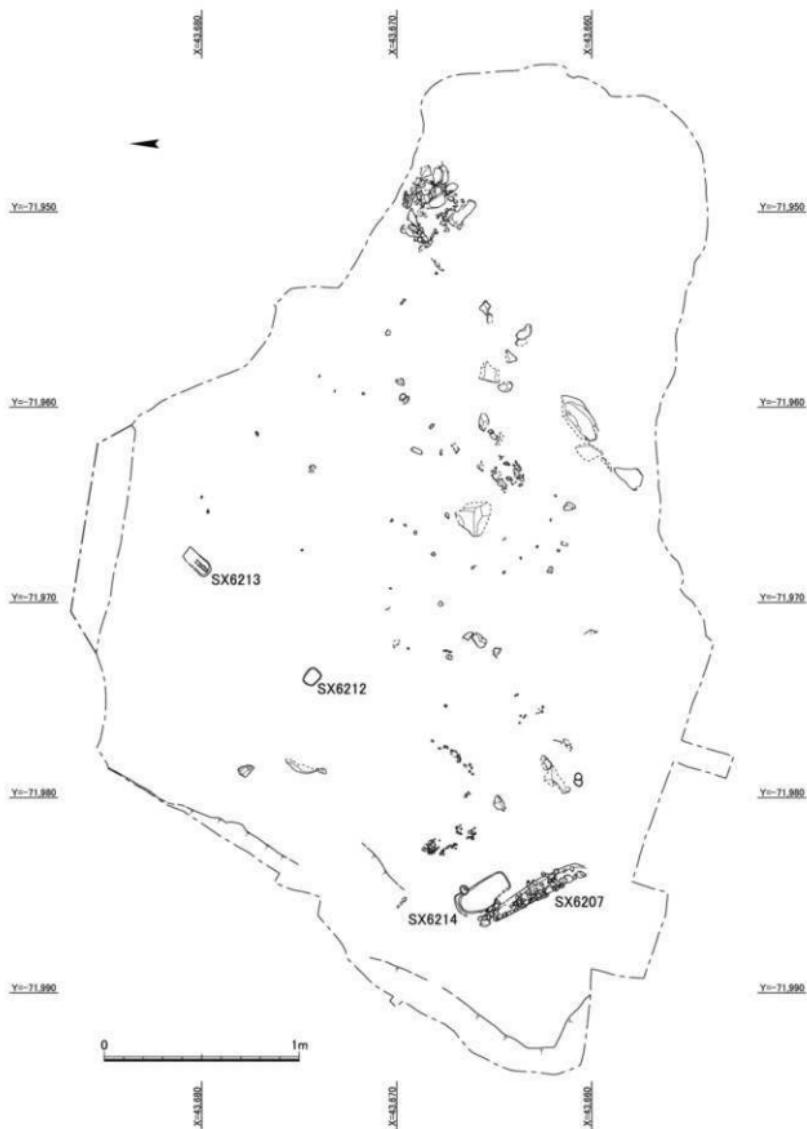


図 82 6F 区近世の遺構分布 (1/250)

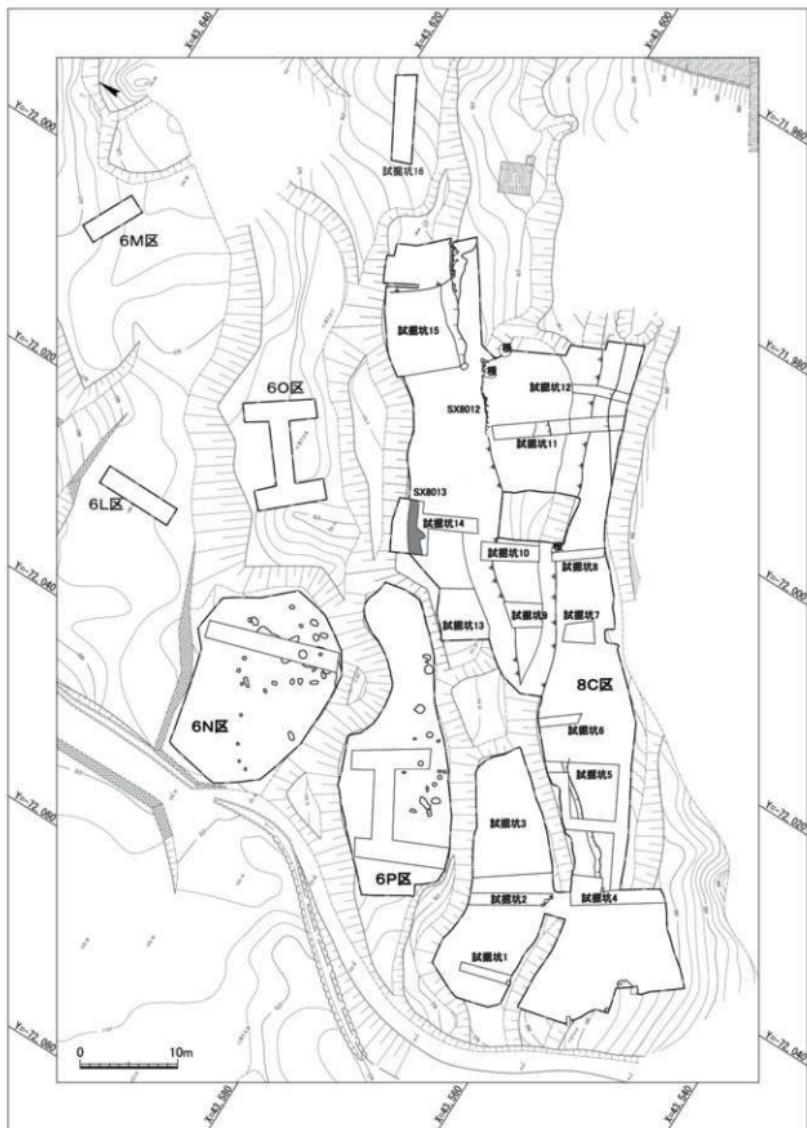


図83 8C区の遺構分布 (1/500)

SX6207 出土遺物（図 85）

884・885 は SX6207 外側、886・887 は内側から出土した。884 は肥前染付磁器鉢で、蛇の目凹形高台である。885 は肥前染付磁器瓶である。886 は薩摩の陶器土瓶である。887 は福岡の陶器擂鉢で、灰釉で口縁部には銅線釉を施している。

SX6212（図 84）

6F 区の中央西寄りに位置し、長軸 0.92 m、短軸 0.73 m、深さ 0.15 m で、平面隅丸長方形と考えられる。埋土に炭が充填されており、壁面は被熱により赤化している。遺物は出土しなかった。

SX6213（図 84）

6F 区北部に位置し、長軸 1.6 m、短軸 0.75 m、深さ 0.2 m で、平面はやや不整な隅丸長方形である。埋土下層に炭が充填されており、壁面は一部被熱により赤化している。底面には長軸方向に幅約 0.15 m の浅い溝状の掘り込みがみられる。遺物は内底に螺旋状沈線が施される土師器杯が出土したが、小片であり図示していない。

SX6214（図 84）

6F 区西部に位置し、長軸 2.98 m、短軸 1.36 m、深さ 0.3 m のやや不整な隅丸長方形として調査したが、同種・同規模の遺構が 2 基重複していたものと思われる。埋土下層に炭が充填されている。土層の観察から SX6207 より先行するものであり、江戸時代前期に遡る可能性がある。遺物は出土しなかった。

SK8001（図 84）

8AI 区西部に位置し、長軸 1.8 m 以上、短軸 1.04 m、深さ 0.45 m で、平面は不整な梢円形であると思われる。当初は完形の陶器皿が出土したことから墓として認識していたが、出土状況の写真を見る限り検出面近くから皿が出土していることや、墓にしては掘形が不整であるため、土坑として報告する。埋土はにぶい黄褐色土である。

SK8001 出土遺物（図 86）

902 は肥前陶器皿で、灰釉が施され、内面には胎土目跡が残る。

6F 区近世の出土遺物（図 85）

865～875 は 3 層出土の遺物である。865 は肥前と思われる陶器碗で、灰釉が施される。866 は朝鮮半島産と思われる白磁皿で、内面に砂目跡が残り、肥前の可能性もある。867 は肥前陶器皿で、透明釉に近い灰釉が施される。868 は景德鎮窯系青花碗で、17 世紀前半代の資料である。869 は肥前染付磁器皿である。870 は肥前陶器灯火具で、底部糸切である。871 は底部糸切の土師器小皿、872・873 は底部糸切の土師器杯で、戦国期に遡る可能性が高い。874 は土製鉢である。875 は瓦質土器火鉢である。

876～881 は 2 層出土の遺物である。876 は肥前陶器瓶である。877 は肥前陶器碗で、灰釉が施される。878 は閩西系の陶器鍋で、褐釉が施される。879 は染付磁器酒杯である。880 は波佐見系の染付磁器皿で、内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。881 は肥前染付磁器碗で、茶飲み用のものである。

882 は底部糸切の土師器小皿である。883 は輪羽口で、近代以降のものであろうか。

8 区近世以降の出土遺物（図 86・87）

903・904 は肥前陶器皿である。903 は灰釉が施され、内面に胎土目跡が残る。904 は外透明釉、内面銅線釉が施され、内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。905 は肥前陶器碗で、異器手形碗である。906 は肥前陶器小杯で、

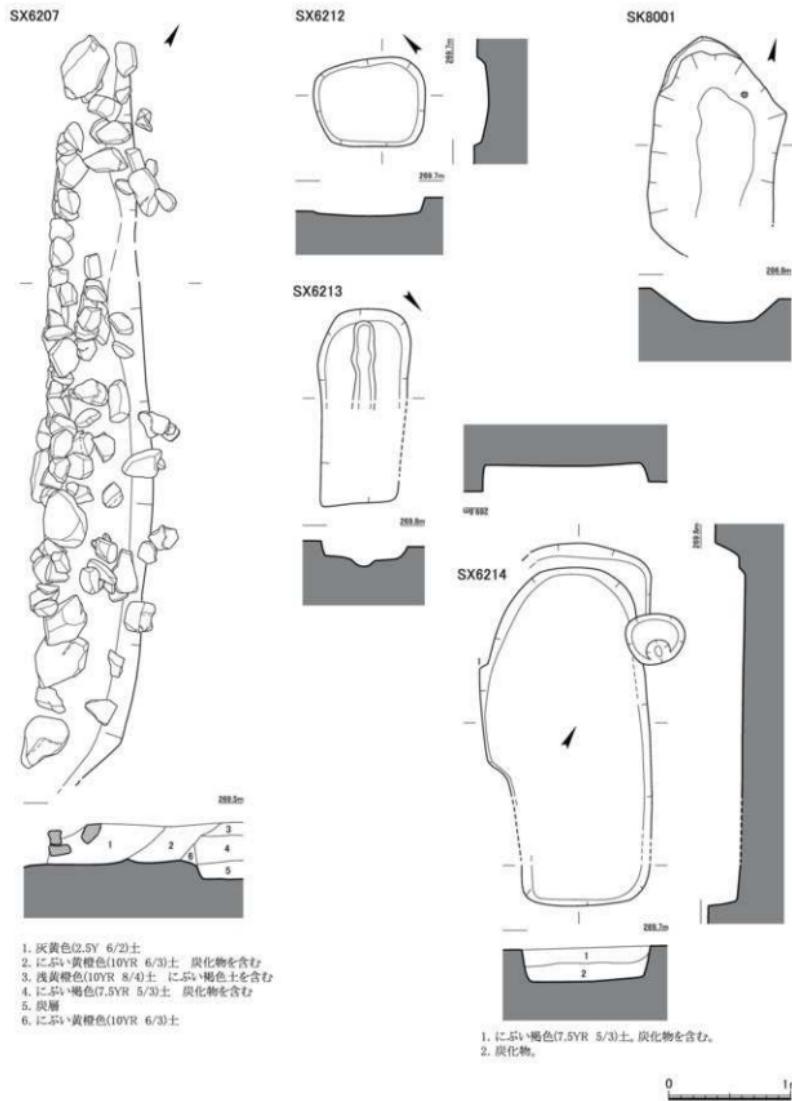


図 84 6F・8区近世の遺構 (1/40)

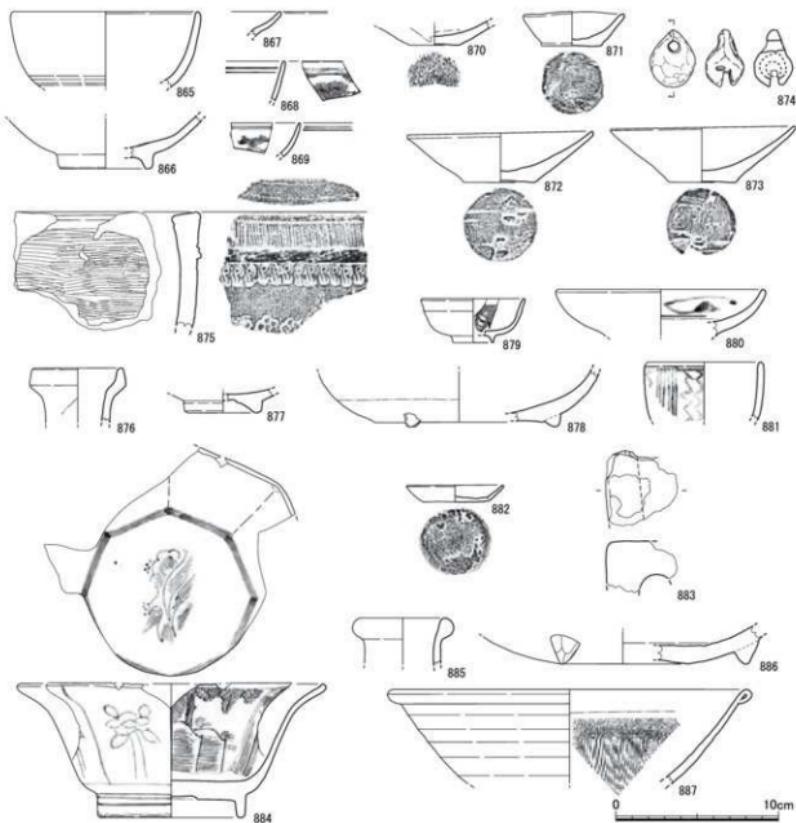


図 85 6 F 区近世の遺物 (1/3)

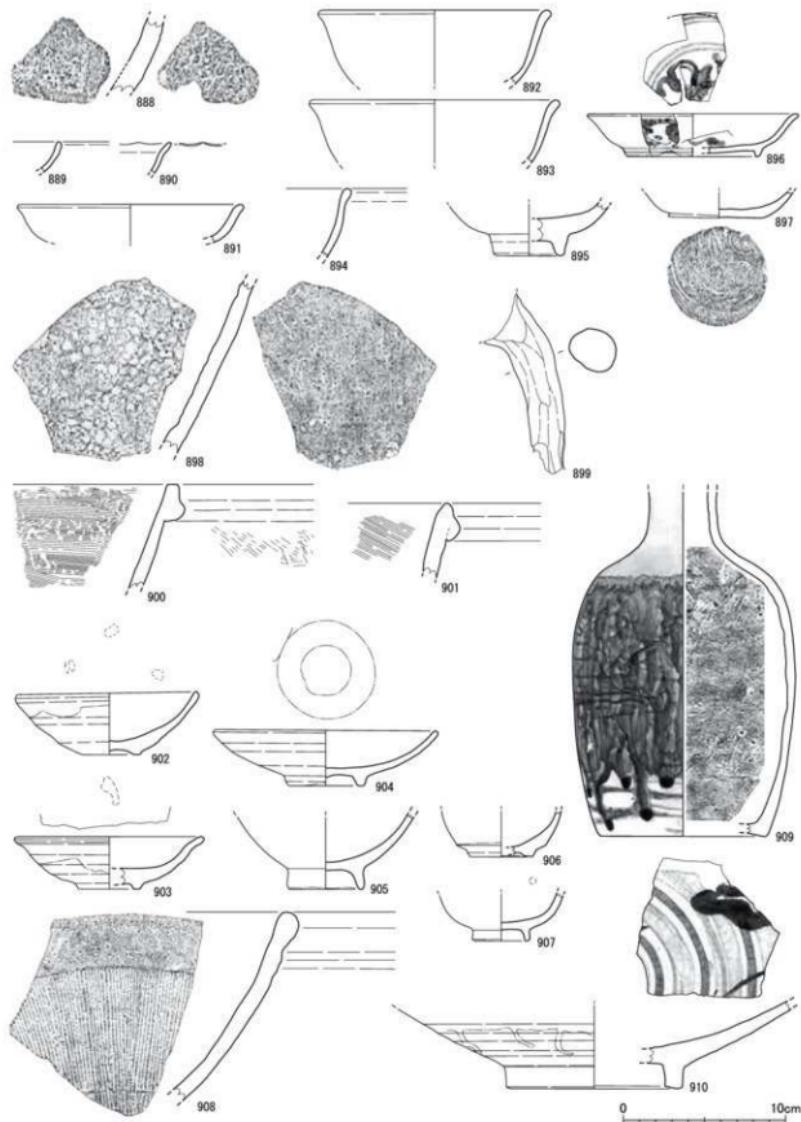


図 86 8区中世～近世の遺物 (1/3)

暗緑色の灰釉が施される。907は陶器小碗で、鉄軸が施され、内面に目跡が残る。908は肥前陶器擂鉢で、全面に施釉されるタイプである。909は肥前陶器瓶で、外面鉄軸の上に颈部から肩部にかけて薺灰釉を施している。内面に同心円文の當て具痕がみられる。910は二彩手の肥前陶器鉢である。

911は肥前青磁染付の筒形碗で、内面見込みに五弁花文のコンニャク印判が施される。912・914～919は肥前染付磁器碗である。912・914は丸形碗、915～917は広東形碗、918・919は端反形碗で、919は明治に降るものである。913は肥前色絵磁器碗で、丸形碗である。920は肥前染付磁器小碗で、「烟瀬 村用 佑」と記されており、明治以降のものである。921は青磁蓋付壺である。922～924は肥前染付磁器皿である。922は内面見込みに五弁花文のコンニャク印判が施され、924は内面見込みを蛇の目軸剥ぎしている。925は肥前青磁皿で、内面に鉄軸で文様が描かれ、蛇の目凹形高台である。

926は瓦質土器鉢である。927～937は底部糸切の土師器小皿で、大部分は近世墓に伴うものであろう。930・931は口縁部に油煤が付着している。

938～940は銅錢の寛永通寶で、938・940は古寛永、939は新寛永である。

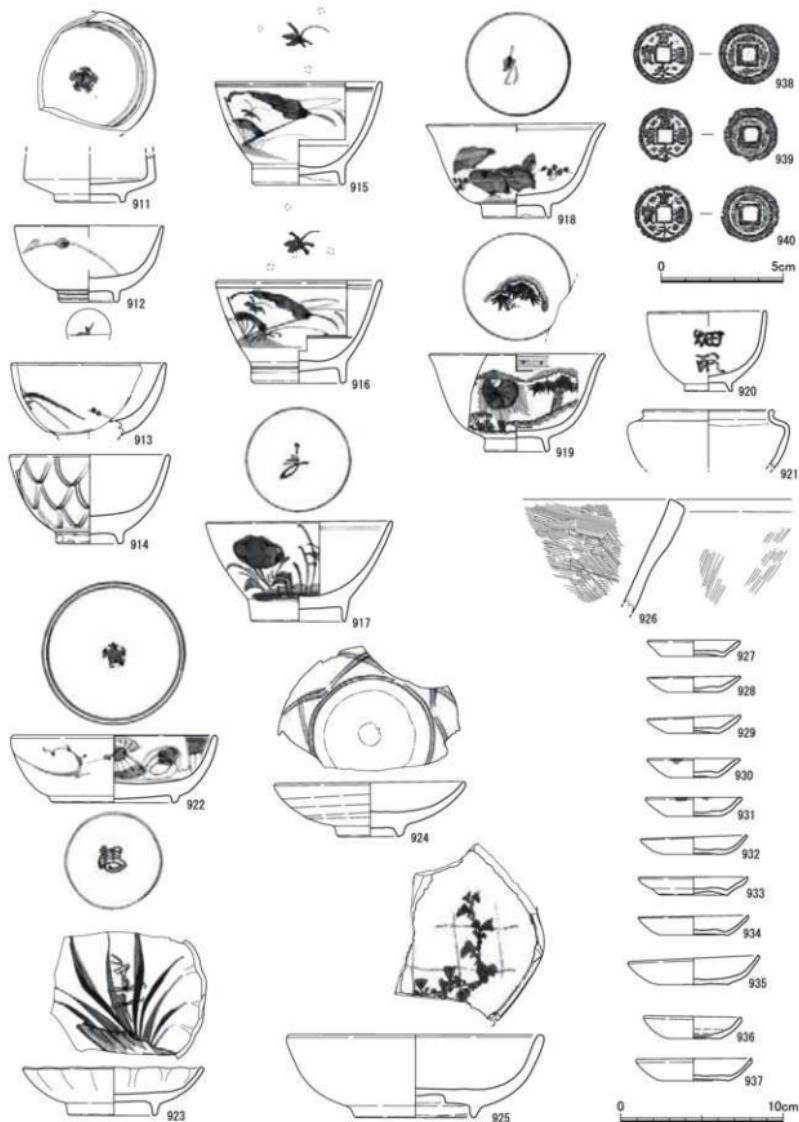


図 87 8区近世の遺物 (1/3・1/2)

表6 東畠瀬遺跡6F区の出土遺物

件名 登錄番号	出土位置	種別 器種	寸法cm 口径 底径 高さ			色調	備考	写真回数 写真登録号
			口径	底径	高さ			
岡69-531 09002942	SB6216 PA	白磁 碗	15.6*	-	-	胎土:灰白	朝鮮か 16c	写真回数 42-531 20101311
岡69-532 09002945	SB6218 PB	白磁 杯	-	3.2*	-	胎土:灰白	森田D群	写真回数 42-532 20101315・1316
岡69-533 09002817	SB6218 PB	青磁 碗	14.6*	-	-	胎土:灰白	竜泉窯系碗上田C類	写真回数 42-533 20101040
岡69-534 09002787	SA6225 PD	土師器 小皿	6.4*	-	-	浅黄褐		写真回数 42-534 20101040
岡69-535 09002947	SA6225 PB	白磁 皿	-	-	-	胎土:灰白	森田E群	写真回数 42-535 20101318
岡69-536 09002780	SB6220 PC	土師器 杯	-	4.8*	-	に赤・黄褐・褐灰	底部糸切	写真回数 42-536 20101037
岡69-537 09002781	SB6220 PD	土師器 杯	-	4.0*	-	に赤・黄褐	底部糸切	写真回数 42-537 20101033
岡69-538 09002782	SB6220 PD	土師器 杯	-	3.6*	-	灰白	底部糸切 内底螺旋状沈線	写真回数 42-538 20101034
岡69-539 09002779	SB6220 PE	土師器 小皿	-	3.0*	-	浅黄褐	底部糸切	写真回数 42-539 20101032
岡69-540 09002790	SA6231 PA	瓦質土器 鉢	-	-	-	に赤・黄褐	覆付着	写真回数 42-540 20101041
岡69-541 09002783	SB6221 PH	土師器 杯	11.2*	5.2*	2.7	に赤・褐		写真回数 42-541 20101035
岡69-542 09002784	SB6221 PH	瓦質土器 鉢	-	-	-	に赤・褐・に赤・褐		写真回数 42-542 20101036
岡69-543 09002785	SB6221 PH	瓦質土器 鉢	-	-	-	褐灰・に赤・褐		写真回数 42-543 20101039
岡69-544 09003426	SB6221 PB	青花 碗	5.5 南 1層	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 42-544 20101239
岡69-545 09002789	SB6222 PH	瓦質土器 鉢	-	-	-	に赤・褐・褐灰	覆付着	写真回数 42-545 20101042
岡69-546 09002788	SB6222 PB	瓦質土器 火鉢	35.0*	-	-	に赤・褐		写真回数 42-546 20101048
岡69-547 09002786	SB6222 PA	瓦質土器 火鉢	-	-	-	明赤褐		写真回数 42-547 20101038
岡69-548 09003219	SA6211	青花 碗	-	5.0	-	胎土:灰白	景徳鎮系か 明代初~前半か	写真回数 42-548 20101018・1019
岡69-549 09003383	SA6211	青花 皿	10.0*	4.1	2.6	胎土:灰白	景德鎮系小皿C群	写真回数 42-549 20101049
岡69-550 09002847	SA6211	青磁 皿	12.0*	-	-	胎土:灰白	竜泉窯系	写真回数 42-550 20101298
岡69-551 09002770	SA6211	土師器 小皿	6.0*	3.0*	1.3	褐	底部糸切	写真回数 42-551 20101025
岡69-552 09002773	SA6211	土師器 小皿	6.3*	4.4*	1.8	浅黄褐		写真回数 42-552 20101028
岡69-553 09002778	SA6211	土師器 杯	11.3*	-	-	に赤・黄褐	底部糸切	写真回数 42-553 20101031
岡69-554 09002772	SA6211	土師器 杯	-	4.1*	-	灰白	底部糸切 内底螺旋状沈線	写真回数 42-554 20101027
岡69-555 09002775	SA6211	土師器 杯	-	5.3*	-	外:に赤・黄褐 内:灰褐	底部糸切 内底螺旋状沈線	写真回数 42-555 20101030
岡69-556 09002771	SA6211	土師器 杯	-	4.2*	-	に赤・黄褐	底部糸切	写真回数 42-556 20101026
岡69-557 09002774	SA6211	土師器 杯	6.0*	-	-	に赤・褐	底部糸切	写真回数 42-557 20101029
岡69-558 09002776	SA6211	瓦質土器 鉢	-	-	-	褐灰		写真回数 42-558 20101046
岡69-559 09002777	SA6211	瓦質土器 鉢	-	-	-	外:淡赤褐 内:灰黄		写真回数 42-559 20101047
岡69-560 09002763	SA6217	土師器 杯	10.6*	-	-	灰白・明褐灰		写真回数 42-560 20101022
岡69-561 09002761	SA6217	土師器 杯	-	5.8*	-	灰白	底部糸切 内底螺旋状沈線	写真回数 42-561 20101020
岡69-562 09002762	SA6217	土師器 杯	-	5.8*	-	灰白	底部糸切 内底螺旋状沈線	写真回数 42-562 20101021
岡69-563 09002764	SA6217	瓦質土器 鉢	-	-	-	褐褐・に赤・褐		写真回数 42-563 20101043
岡70-564 09002855	SA6210	白磁 皿	11.6*	6.0	2.9	胎土:灰白	森田E群	写真回数 42-564 20101056
岡70-565 09002852	SA6210	白磁 皿	11.5*	6.6*	2.9	胎土:灰白	森田E群	写真回数 42-565 20101055
岡70-566 09002818	SA6210	青磁 碗	-	-	-	胎土:灰	竜泉窯系碗上田B IV類	写真回数 42-566 20101269

表6 東塙瀬遺跡6F区の出土遺物

種類、番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			色調	備考	写真回数 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
Ⅵ-70-567 09002821	SA6210 7層	青磁 瓶	-	-	-	胎土:灰白	竈泉窯系碗上田B IV類	写真回数 42-567 20101272
Ⅵ-70-568 09002820	SA6210 7層	青磁 瓶	-	-	-	胎土:灰白	竈泉窯系碗上田B IV類	写真回数 42-568 20101271
Ⅵ-70-569 09002827	SA6210 7・9層	青磁 瓶	14.2*	-	-	胎土:灰白	竈泉窯系碗上田E類	写真回数 42-569 20101295
Ⅵ-70-570 09002844	SA6210 7・9層	青磁 瓶	-	-	-	胎土:灰白	竈泉窯系	写真回数 42-570 20101278
Ⅵ-70-571 09002841	SA6210 7・9層	青磁 盤	-	-	-	胎土:灰白	竈泉窯系	写真回数 42-571 20101291
Ⅵ-70-572 09002843	SA6210 7層 5層	青磁 盤	-	9.4*	-	胎土:灰白・に赤い槽	竈泉窯系	写真回数 42-572 20101293・1294
Ⅵ-70-573 09002848	SA6210 7層	青磁 小壺	2.8*	3.0*	-	胎土:灰白	竈泉窯系	写真回数 42-573 20101299・1300
Ⅵ-70-574 09003373	SA6210 P6216	青花 瓶	14.6*	5.0*	7.0	胎土:灰白	福建系窯小野C群	写真回数 42-574 20101052・1170
Ⅵ-70-575 09002865	SA6210 7・9層	陶器 皿	10.5*	4.4*	2.8	胎土:青灰・黄褐	側脚王朝期 灰青陶器	写真回数 42-575 20101168・1169
Ⅵ-70-576 09002902	SA6210	土師器 小瓶	5.9*	3.9	2.0	に赤い槽	底部糸切	写真回数 42-576 20101120
Ⅵ-70-577 09002893	SA6210 7層	土師器 小瓶	6.0	3.5	1.9	浅黄褐	底部糸切	写真回数 42-577 20101119
Ⅵ-70-578 09002720	SA6210 7・9層	土師器 小瓶	6.4	3.7	2.0	灰黄	底部糸切	写真回数 42-578 20101128
Ⅵ-70-579 09002898	SA6210 7・9層	土師器 小瓶	6.3	3.8	2.4	浅黄褐	底部糸切	写真回数 42-579 20101122
Ⅵ-70-580 09002717	SA6210 7・9層	土師器 小瓶	6.5*	3.6*	1.9	浅黄褐	底部糸切	写真回数 42-580 20101127
Ⅵ-70-581 09002894	SA6210 7層	土師器 小瓶	6.8*	3.8	1.9	浅黄褐	底部糸切	写真回数 42-581 20101121
Ⅵ-70-582 09002707	SA6210 7層	土師器 小瓶	7.1*	3.6*	1.9	外:浅黄褐 内:灰黄	底部糸切	写真回数 42-582 20101395
Ⅵ-70-583 09002716	SA6210 7・9層	土師器 小瓶	7.1*	3.1*	2.0	灰黄	底部糸切	写真回数 42-583 20101126・1407
Ⅵ-70-584 09002900	SA6210 7・9層	土師器 小瓶	6.4*	3.2*	1.9	外:灰黄褐 内:に赤い黄褐	底部糸切	写真回数 42-584 20101386
Ⅵ-70-585 09002897	SA6210 7・9層	土師器 小瓶	-	3.2	-	灰白	底部糸切	写真回数 42-585 20101382・1383
Ⅵ-70-586 09002892	SA6210 7・9層	土師器 杯	11.0*	7.5*	2.8	槽	底部糸切	写真回数 43-586 20101118
Ⅵ-70-587 09002890	SA6210	土師器 杯	11.0*	-	-	灰白	底部糸切	写真回数 43-587 20101378
Ⅵ-70-588 09002718	SA6210 7・9層	土師器 杯	12.6*	-	-	灰黄	底部糸切	写真回数 43-588 20101407
Ⅵ-70-589 09002719	SA6210 7・9層	土師器 杯	-	4.1	-	黄灰	底部糸切	写真回数 43-589 20101409
Ⅵ-70-590 09002901	SA6210	土師器 杯	-	5.8*	-	灰白	底部糸切	写真回数 43-590 20101387
Ⅵ-70-591 09002706	SA6210	土師器 杯	-	4.5*	-	外:黒・灰黄褐 内:灰灰	底部糸切	写真回数 43-591 20101394
Ⅵ-70-592 09002903	SA6210 7・9層	土師器 杯	-	5.4*	-	に赤い黄褐	底部糸切 内底螺旋状旋紋	写真回数 43-592 20101388
Ⅵ-70-593 09002899	SA6210 7層	土師器 杯	-	4.2	-	淡黄	底部糸切	写真回数 43-593 20101384・1385
Ⅵ-70-594 09002709	SA6210	土師器 杯	-	5.3*	-	灰黄褐	底部糸切	写真回数 43-594 20101397・1398
Ⅵ-70-595 09002710	SA6210	土師器 杯	-	4.8	-	に赤い黄褐・褐灰	底部糸切	写真回数 43-595 20101399・1400
Ⅵ-70-596 09002708	瓦質土器 茶釜	-	-	-	-	明赤灰・褐灰	底部糸切	写真回数 43-596 20101396
Ⅵ-70-597 09002896	SA6210 7・9層	瓦質土器 鉢	-	-	-	外:に赤い黄褐 内:灰黄褐	底部糸切	写真回数 43-597 20101381
Ⅵ-70-598 09002895	SA6210 7・9層	土師器 鉢	21.4*	-	-	槽	底部糸切	写真回数 43-598 20101380
Ⅵ-70-599 09002721	SA6210 7・9層	瓦質土器 鉢	-	-	-	外:灰黄褐・黑褐 内:灰黄	覆付着	写真回数 43-599 20101410
Ⅵ-71-600 09003500	青銅製品 飾金具	SA6210	-	幅 1.9	厚 0.1	-	-	写真回数 43-600 20101186・87・93・95
Ⅵ-71-601 09002722	SX6208	土師器 小瓶	6.4*	5.0	1.9	に赤い黄褐	底部糸切	写真回数 43-601 20101101
Ⅵ-71-602 09002723	SX6208	土師器 小瓶	6.4*	4.6	1.9	に赤い黄褐	底部糸切	写真回数 43-602 20101100

表6 東畠瀬遺跡 6F区の出土遺物

件名、番号 登錄番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真回数 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
Ⅵ71-603 09002724	SX6208	土師器 小皿	6.7	5.0	2.0	にぶい黄柾	底部系切	写真回数 43-603 20101068
Ⅵ71-604 09002725	SX6208	土師器 小皿	6.5	4.7	1.7	柾	底部系切	写真回数 43-604 20101069
Ⅵ71-605 09002726	SX6208	土師器 小皿	6.4	4.2	2.0	にぶい黄柾	底部系切	写真回数 43-605 20101070
Ⅵ71-606 09002727	SX6208	土師器 小皿	6.6	4.8	1.8	柾	底部系切	写真回数 43-606 20101071
Ⅵ71-607 09002728	SX6208	土師器 小皿	6.4*	5.0	1.7	にぶい黄柾	底部系切	写真回数 43-607 20101072
Ⅵ71-608 09002729	SX6208	土師器 小皿	6.3*	4.5	1.8	にぶい黄柾	底部系切	写真回数 43-608 20101073
Ⅵ71-609 09002730	SX6208	土師器 小皿	6.6	4.5	1.7	にぶい黄柾	底部系切	写真回数 43-609 20101074
Ⅵ71-610 09002731	SX6208	土師器 小皿	6.0*	4.1	1.8	にぶい黄柾	底部系切	写真回数 43-610 20101075
Ⅵ71-611 09002732	SX6208	土師器 小皿	6.8	4.3	1.8	柾	底部系切	写真回数 43-611 20101076
Ⅵ71-612 09002733	SX6208	土師器 小皿	6.5	4.3	2.0	柾	底部系切	写真回数 43-612 20101077
Ⅵ71-613 09002734	SX6208	土師器 小皿	6.2*	4.2	2.0	にぶい黄柾	底部系切	写真回数 43-613 20101078
Ⅵ71-614 09002735	SX6208	土師器 小皿	5.7*	4.2	1.6	にぶい黄柾	底部系切	写真回数 43-614 20101079
Ⅵ71-615 09002736	SX6208	土師器 小皿	6.0*	4.5*	2.1	にぶい黄柾	底部系切	写真回数 43-615 20101080
Ⅵ71-616 09002737	SX6208	土師器 小皿	-	4.1	-	柾	底部系切	写真回数 43-616 20101081
Ⅵ71-617 09002738	SX6208	土師器 小皿	-	4.7	-	にぶい柾	底部系切	写真回数 43-617 20101082
Ⅵ71-618 09002739	SX6208	土師器 小皿	-	3.9	-	柾	底部系切	写真回数 43-618 20101083
Ⅵ71-619 09002740	SX6208	土師器 小皿	6.3*	4.5	1.8	にぶい柾	底部系切	写真回数 43-619 20101084
Ⅵ71-620 09002741	SX6208	土師器 小皿	-	3.4	-	柾	底部系切	写真回数 43-620 20101085
Ⅵ71-621 09002792	SX6208	土師器 杯	11.4*	6.8	3.2	にぶい柾	底部系切	写真回数 43-621 20101060
Ⅵ71-622 09002791	SX6208	土師器 杯	10.8	7.0	3.0	にぶい柾	底部系切	写真回数 43-622 20101059
Ⅵ71-623 09002793	SX6208	土師器 杯	11.1	7.0	3.0	にぶい柾	底部系切	写真回数 43-623 20101061
Ⅵ71-624 09002794	SX6208	土師器 杯	11.3	6.5	3.1	にぶい柾	底部系切	写真回数 43-624 20101062
Ⅵ71-625 09002795	SX6208	土師器 杯	11.1*	6.5	3.0	にぶい柾	底部系切	写真回数 43-625 20101063
Ⅵ71-626 09002798	SX6208	土師器 杯	-	6.4	-	にぶい柾	底部系切	写真回数 43-626 20101066
Ⅵ71-627 09002796	SX6208	土師器 杯	10.7*	6.4	3.1	柾	底部系切	写真回数 43-627 20101064
Ⅵ71-628 09002797	SX6208	土師器 杯	11.1*	6.6	3.0	にぶい柾	底部系切	写真回数 43-628 20101065
Ⅵ71-629 09002799	SX6208	土師器 杯	11.0*	6.8*	3.0	にぶい黄柾	底部系切	写真回数 43-629 20101067
Ⅵ72-630 09002851	白磁 皿	11.6*	6.2	3.0	胎土：灰白	森田E群		写真回数 43-630 20101054
Ⅵ72-631 09002838	青磁 皿	14.4*	7.0*	6.0	胎土：灰白	竜泉窯系		写真回数 43-631 20101321
Ⅵ72-632 09003218	青花 皿	-	-	-	胎土：白	景德镇窑系 16c後半～17c初		写真回数 43-632 20101014
Ⅵ72-633 09003387	青花 皿	9.4*	-	-	胎土：灰白	景德镇窑系 小野B1群		写真回数 43-633 20101216
Ⅵ72-634 09003385	青花 皿	13.8*	-	-	胎土：灰白	景德镇窑系 小野C群		写真回数 43-634 20101212
Ⅵ72-635 09003217	陶器 皿	11.6*	-	-	胎土：灰	肥前 1590～1610年代		写真回数 43-635 20101013
Ⅵ72-636 09002912	SK6209	土師器 小皿	-	5.4*	-	にぶい柾	底部系切	写真回数 43-636 20101353
Ⅵ72-637 09002909	SK6209	土師器 小皿	-	3.5*	-	灰白	底部系切	写真回数 43-637 20101351
Ⅵ72-638 09002907	SK6209	土師器 小皿	6.5*	3.2	2.2	浅黄柾	底部系切	写真回数 43-638 20101726

表6 東塙瀬遺跡6F区の出土遺物

種類、番号 登錄番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真回数 写真登録号
			口径	底径	高さ			
図72-639 09002911	SK6209	土師器 小瓶	6.4*	3.2	2.0	に赤い黄柾	底部系切	写真回数 43-639 20101727
図72-640 09002905	SK6209	土師器 杯	-	7.0*	-	柾・に赤い黄柾	底部系切	写真回数 43-640 20101348
図72-641 09002910	SK6209	土師器 杯	-	5.9*	-	に赤い柾	底部系切	写真回数 43-641 20101352
図72-642 09002913	SK6209	土師器 杯	-	5.8	-	に赤い柾	底部系切	写真回数 43-642 20101354
図72-643 09002915	SK6209	土師器 杯	-	11.2*	-	外：に赤い黄柾 内：灰黄柾	底部系切 内底螺旋状比較	写真回数 43-643 20101356
図72-644 09003308	SK6209	陶器 壺	-	-	-	胎土：灰・褐灰	彫前	写真回数 43-644 20101201
図72-645 09002919	瓦質土器 鉢	-	-	-	-	に赤い黄柾		写真回数 44-645 20101359
図72-646 09002917	瓦質土器 鉢	-	-	-	-	に赤い柾・黄灰	焼付着	写真回数 44-646 20101357
図72-647 09002918	瓦質土器 鉢	-	-	-	-	に赤い柾		写真回数 44-647 20101358
図72-648 09003365	SX6209	銭貨 銅錢	-	-	-	-	銅錢 4 枚 9.8g	
図72-649 09003364	SX6209	銭貨 銅錢	-	-	-	-	銅錢 7 枚 18.3g 表は聖宋元宝	
図72-650 09003673	P6201	土師器 杯	11.3*	7.2*	2.6	柾	底部系切	写真回数 44-650 20101102
図72-651 09003674	P6201	瓦質土器 鉢	-	-	-	灰白		写真回数 44-651 20101341
図72-652 09003679	P6204	土師器 杯	7.2*	4.0*	1.7	に赤い柾	底部系切	写真回数 44-652 20101105
図72-653 09003681	P6232	土師器 杯	6.6	3.0	2.3	に赤い柾	底部系切	写真回数 44-653 20101106
図72-654 09003678	P6236	土師器 杯	-	7.4*	-	柾・に赤い黄柾	底部系切	写真回数 44-654 20101342
図72-655 09003677	P6208	土師器 小瓶	6.6	3.4	2.0	浅黄柾	底部系切 油漆付着	写真回数 44-655 20101104
図72-656 09003394	P6208	青花 皿	-	7.1*	-	胎土：灰白	景德镇窑系小野B群	写真回数 44-656 20101225・1226
図72-657 09003676	P6225	土師器 小瓶	-	-	2.2	浅黄柾	底部系切 烧成前穿孔	写真回数 44-657 20101103
図72-658 09003427	P6225	青花 瓶	-	-	-	胎土：に赤い黄柾	福建系小野C群	写真回数 44-658 20101240
図72-659 09003680	P6238	瓦質土器 瓶炉	-	-	-	に赤い柾・灰褐		写真回数 44-659 20101347
図73-660 09002849	5層 1層	青磁 瓶	-	-	-	胎土：灰白	同安窯系	写真回数 44-660 20101301
図73-661 09002835	青磁 瓶	-	4.9	-	-	胎土：灰白	龍泉窯系碗上田B II類 内面込み・高台内側新削	写真回数 44-661 20101164・1165
図73-662 09002816	2層	青磁 瓶	11.4*	-	-	胎土：灰白	龍泉窯系碗上田B IV類	写真回数 44-662 20101268
図73-663 09002823	南1層	青磁 瓶	-	-	-	胎土：灰白	龍泉窯系碗上田B IV類	写真回数 44-663 20101274
図73-664 09002819	5・8層 南1層	青磁 瓶	-	-	-	胎土：灰白	龍泉窯系碗上田B IV類	写真回数 44-664 20101270
図73-665 09002828	5層 5・8層	青磁 瓶	12.7*	-	-	胎土：灰白	龍泉窯系碗上田B IV類	写真回数 44-665 20101183
図73-666 09002837	南1層	青磁 瓶	-	5.4	6.8*	胎土：に赤い柾	龍泉窯系碗上田B IV類 高台内側削	写真回数 44-666 20101053
図73-667 09002824	9層	青磁 瓶	-	-	-	胎土：灰白	龍泉窯系碗上田D類	写真回数 44-667 20101275
図73-668 09002826	5層 1・2層	青磁 瓶	-	-	-	胎土：灰白	龍泉窯系碗上田D類	写真回数 44-668 20101276
図73-669 09002822	5層	青磁 瓶	-	-	-	胎土：灰	龍泉窯系碗上田D類	写真回数 44-669 20101273
図73-670 09002820	5層	青磁 瓶	15.6*	-	-	胎土：灰白	龍泉窯系碗上田D類	写真回数 44-670 20101277
図73-671 09002830	5・8層 1・2層	青磁 瓶	15.7*	-	-	胎土：灰白	龍泉窯系碗上田D類	写真回数 44-671 20101279
図73-672 09002829	8・9層 1・2層	青磁 瓶	15.8*	-	-	胎土：灰	龍泉窯系碗上田D類	写真回数 44-672 20101184
図73-673 09002831	SK6210 5層	青磁 瓶	15.0*	-	-	胎土：灰白	龍泉窯系碗上田E類	写真回数 44-673 20101280
図73-674 09002834	3層	青磁 瓶	-	5.5*	-	胎土：灰白	龍泉窯系 高台内側削	写真回数 44-674 20101281・1287

表6 東畠瀬遺跡 6F区の出土遺物

種類、番号 登錄番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			色調	備考	写真回数 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
Ⅳ 73-675 09002833	南1層	青磁 盤	-	5.4*	-	胎土:灰白	竈泉窯系 高台内露胎	写真回数 44-675 20101285・1286
Ⅳ 73-676 09002832	Str3層	青磁 盤	-	5.0	-	胎土:灰白	竈泉窯系 高台内露胎	写真回数 44-676 20101177・1178
Ⅳ 73-677 09003220	3層 南1層	青磁 盤	13.1*	6.5	5.0*	胎土:灰白	竈泉窯系 16c 高台内露胎	写真回数 44-677 20101129
Ⅳ 73-678 09002845	焼出面	青磁 盤	-	-	-	胎土:灰白	竈泉窯系	写真回数 44-678 20101296
Ⅳ 73-679 09002850	南1層	青磁 楓花皿	-	-	-	胎土:灰	竈泉窯系	写真回数 44-679 20101302
Ⅳ 73-680 09002846	Str5層	青磁 盤	-	5.5*	-	胎土:灰白	竈泉窯系 高台内露胎	写真回数 44-680 20101297
Ⅳ 73-681 09002946	1層	青磁 盤	-	-	-	胎土:灰白	竈泉窯系	写真回数 44-681 20101317
Ⅳ 73-682 09002836	5層	青磁 碗	-	5.4	-	胎土:にぶい相	竈泉窯系	写真回数 44-682 20101282・1283
Ⅳ 73-683 09002842	5層	青磁 盤	-	-	-	胎土:灰白	竈泉窯系	写真回数 44-683 20101292
Ⅳ 73-684 09002840	3層 南1層	青磁 盤	-	8.5*	-	胎土:灰白	竈泉窯系	写真回数 44-684 20101290
Ⅳ 73-685 09002839	南1層	青磁 盤	-	17.8*	-	胎土:灰白	竈泉窯系	写真回数 44-685 20101288・1289
Ⅳ 73-686 09002949	7層	白磁 盤	-	-	-	胎土:灰白	写真回数 44-686 20101319	
Ⅳ 73-687 09002943	表探	白磁 盤	15.2*	-	-	胎土:灰白	写真回数 44-687 20101312	
Ⅳ 73-688 09002940	5・8層	白磁 盤	12.2*	-	-	胎土:灰白	写真回数 44-688 20101309	
Ⅳ 73-689 09002944	5・8層	白磁 盤	12.4*	6.4*	3.4	胎土:灰白	内面蛇の目軋割ぎ	写真回数 44-689 20101313・1314
Ⅳ 73-690 09002941	南1層	白磁 盤	11.2*	-	-	胎土:灰白	森田D群	写真回数 44-690 20101310
Ⅳ 73-691 09002939	7・9層	白磁 件	9.6*	-	-	胎土:灰白	森田D群	写真回数 44-691 20101308
Ⅳ 73-692 09002863	1・2層	白磁 盤	12.4*	-	-	胎土:灰白	森田E群	写真回数 44-692 20101262
Ⅳ 73-693 09002858	5・8層	白磁 盤	11.6*	-	-	胎土:灰白	森田E群	写真回数 44-693 20101259
Ⅳ 73-694 09002857	5層	白磁 盤	11.4*	5.8*	2.9	胎土:灰白	森田E群	写真回数 44-694 20101258
Ⅳ 73-695 09002854	8・9層 5層 南1層	白磁 盤	11.6*	-	-	胎土:灰白	森田E群	写真回数 44-695 20101257
Ⅳ 73-696 09002860	5層	白磁 盤	12.8*	7.0*	2.6	胎土:灰白	森田E群	写真回数 44-696 20101261
Ⅳ 73-697 09002859	5層	白磁 盤	11.9*	6.2*	3.0	胎土:灰白	森田E群	写真回数 44-697 20101260
Ⅳ 73-698 09002853	5層	白磁 盤	13.8*	7.7*	3.7	胎土:灰白	森田E群	写真回数 44-698 20101322
Ⅳ 73-699 09002856	5層 1・2層	白磁 盤	15.0*	8.2*	3.9	胎土:灰白	森田E群	写真回数 44-699 20101057
Ⅳ 74-700 09003374	3層 南1層	青花 盤	13.8*	6.3*	6.1	胎土:灰白	景德鎮窯系碗小野C群	写真回数 45-700 20101176
Ⅳ 74-701 09003396	5層	青花 盤	-	5.6*	-	胎土:灰白	景德鎮窯系碗小野C群	写真回数 45-701 20101051・1171
Ⅳ 74-702 09003381	南1層	青花 盤	-	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系碗小野C群	写真回数 45-702 20101209
Ⅳ 74-703 09003382	1・2層	青花 盤	-	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系碗小野C群	写真回数 45-703 20101210
Ⅳ 74-704 09003375	5層	青花 盤	-	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系碗小野C群	写真回数 45-704 20101204
Ⅳ 74-705 09003384	5層	青花 盤	14.3*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系碗小野C群	写真回数 45-705 20101211
Ⅳ 74-706 09002938	9層 SX6223	青花 盤	11.8*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系 小野碗E群 GE1 SX6202と接合	写真回数 45-706 20101307
Ⅳ 74-707 09003393	SX6219	青花 盤	-	6.7*	-	胎土:灰白	景德鎮窯系碗小野B群	写真回数 45-707 20101223・1224
Ⅳ 74-708 09003386	5層	青花 盤	12.6*	6.9*	3.0	胎土:灰白	景德鎮窯系碗小野B 1群	写真回数 45-708 20101213・1214
Ⅳ 74-709 09003395	5層 3層	青花 盤	-	6.5*	-	胎土:灰白	景德鎮窯系碗小野B群	写真回数 45-709 20101227
Ⅳ 74-710 09003388	1・3層 5層	青花 盤	10.4*	5.1*	2.4	胎土:灰白	景德鎮窯系碗小野B 1群	写真回数 45-710 20101217・1218

表6 東焼瀬遺跡6F区の出土遺物

碑名、番号 登錄番号	出土位置	種別 器種	寸法cm 口径 底径 高さ			色調	備考	写真回数 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図74-711 09003391	3層	青花 皿	12.1*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系小野B1群	写真回数 45-711 20101221
図74-712 09003392	8tr・9層	青花 皿	15.0*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系小野B1群	写真回数 45-712 20101222
図74-713 09003390	5・8層	青花 皿	14.3*	7.6*	2.7	胎土:灰白	景德鎮窯系小野B1群	写真回数 45-713 20101219・1220
図74-714 09003389	SA6211 P6233	青花 皿	16.5*	9.0*	3.5	胎土:灰白	景德鎮窯系小野B1群	写真回数 45-714 20101181・1182
図74-715 09003380	5層	青花 皿	10.0*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系小野C群	写真回数 45-715 20101208
図74-716 09003376	5層	青花 皿	10.2*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系小野C群	写真回数 45-716 20101205
図74-717 09003377	8層 5層	青花 皿	10.4*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系小野C群	写真回数 45-717 20101206
図74-718 09003378	P6218 5層	青花 皿	10.4*	3.3*	2.5	胎土:灰白	景德鎮窯系小野C群	写真回数 45-718 20101163
図74-719 09003379	5層 3層	青花 皿	-	3.4*	-	胎土:灰白	景德鎮窯系小野C群	写真回数 45-719 20101207・1215
図74-720 09003325	8層 5層	青花 小杯	6.8*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系 16c後半	写真回数 45-720 20101306
図74-721 09003416	5層	青花 碗	-	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-721 20101229
図74-722 09003419	5層	青花 碗	-	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-722 20101232
図74-723 09003421	1層	青花 碗	-	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-723 20101234
図74-724 09003424	5層	青花 碗	-	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-724 20101237
図74-725 09003428	Str2層	青花 碗	-	-	-	胎土:灰白	福建系 小野C群	写真回数 45-725 20101241
図74-726 09003432	4層	青花 碗	-	5.2*	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-726 20101248・1249
図74-727 09003430	5層	青花 碗	-	4.6*	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-727 20101244・1245
図74-728 09003429	5層	青花 碗	-	5.0*	-	胎土:灰白	福建系 小野C群	写真回数 45-728 20101242・1243
図74-729 09003417	5層	青花 皿	-	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-729 20101230
図74-730 09003418	5層	青花 皿	-	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-730 20101231
図74-731 09003420	5層	青花 皿	-	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-731 20101233
図74-732 09003422	2層	青花 皿	-	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-732 20101235
図74-733 09003423	1tr1層	青花 皿	-	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-733 20101236
図74-734 09003425	3層 1・2層	青花 皿	-	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-734 20101238
図74-735 09003435	3層	青花 皿	13.4*	5.8*	3.0	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-735 20101255・1256
図74-736 09003415	4tr3層	青花 瓶	12.6*	-	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-736 20101228
図74-737 09003431	5層	青花 皿	-	5.7*	-	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-737 20101246・1247
図74-738 09003434	5層	青花 皿	-	6.0*	-	胎土:灰白	福建系 内面輪状軸測ぎ	写真回数 45-738 20101253・1254
図74-739 09003433	5層 1tr3層	青花 皿	10.7*	4.3*	2.9	胎土:灰白	福建系	写真回数 45-739 20101250・1251
図75-740 09003436	5層	磁器 碗	15.5*	-	-	胎土:灰白	景德鎮窯系 外面環形輪	写真回数 46-740 20101179
図75-741 09003437	SA6217 3層	草ぬれ釉陶 小壺	-	5.8	-	胎土:灰黄褐	外底に墨書	写真回数 46-741 20101180
図75-742 09003221	9層 5層	黒釉磁器 碗	-	-	-	胎土:灰白	中国 天目	写真回数 46-742 20101015
図75-743 09002867	SK6203	陶器 皿	-	4.0	-	胎土:灰	朝鮮王朝期 灰青陶器	写真回数 46-743 20101264・1265
図75-744 09002864	5層	陶器 皿	10.8*	4.6*	3.9	胎土:灰白	朝鮮王朝期 灰青陶器	写真回数 46-744 20101058
図75-745 09002869	P6203 5層	陶器 皿	10.2*	-	-	胎土:灰白	朝鮮王朝期 灰青陶器	写真回数 46-745 20101267
図75-746 09002866	1・2層	陶器 皿	10.0*	-	-	胎土:灰	朝鮮王朝期 灰青陶器	写真回数 46-746 20101263

表6 東畠瀬遺跡 6F区の出土遺物

種類、番号 登錄番号	出土位置	種別 器種	寸法(cm)			色調	備考	写真回数 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
銅75-747 09002868	5層 5tr3層	陶器 壺	9.8*	-	-	胎土:灰白	朝鮮王朝期 灰青陶器	写真回数 46-747 20101266
銅75-748 09003306	5層 南1層	陶器 壺	9.8*	-	-	胎土:褐灰	朝鮮	写真回数 46-748 20101199
銅75-749 09003309	5層 3層 南1層	陶器 壺	-	-	-	胎土:灰	朝鮮か	写真回数 46-749 20101202
銅75-750 09003311	5層	陶器 鉢	-	-	-	胎土:褐灰	朝鮮	写真回数 46-750 20101203
銅75-751 09003305	4tr3層	陶器 壺	-	9.8*	-	胎土:褐灰	朝鮮か(中国の可能性あり)	写真回数 46-751 20101131
銅75-752 09003307	5層 SK6209 SB6220 PD	陶器 壺	-	-	-	胎土:灰褐色	中国南部 明代	写真回数 46-752 20101200
銅75-753 09003224	5層	陶器 壺	-	-	-	胎土:黄灰	中国南部か 明代	
銅75-754 09003222	5層 3層 P6205	陶器 盤	-	21.0*	-	胎土:黄灰	中国南部 13~14c	写真回数 46-754 20101135
銅75-755 09003225	5~8層	陶器 壺	16.0*	-	-	胎土:灰	縄前 14~15c	写真回数 46-755 20101134
銅75-756 09003223	1層 南1層	SA6211 陶器 壺	14.0*	16.4*	-	胎土:赤灰	縄前 14~15c	写真回数 46-756 20101133
銅75-757 09002951	8~9層 南1層	陶器 壺	-	29.3*	-	胎土:灰赤	縄前	写真回数 46-757 20101137
銅76-758 09002950	5層 1層	SA6210 陶器 壺	34.7*	-	-	胎土:赤褐色~赤灰	縄前	写真回数 46-758 20101136
銅76-759 09002715	9層	瓦質土器 壺	-	-	-	灰	防長系	写真回数 46-759 20101406
銅76-760 09002711	7tr9層	土師器 小皿	8.7*	5.9*	1.4	相	底部糸切	写真回数 46-760 20101401
銅76-761 09002712	9層	土師器 杯	-	4.0*	-	灰白	底部糸切 内底螺旋状沈線	写真回数 46-761 20101402
銅76-762 09002713	9層	土師器 杯	-	4.0	-	浅黄褐	底部糸切	写真回数 46-762 20101403~1404
銅76-763 09002714	9層	土師器 杯	-	9.4*	-	にぶい黄褐色~褐灰	底部糸切	写真回数 46-763 20101405
銅76-764 09002701	8~9層	土師器 杯	11.4*	5.2*	3.0	灰黄	底部糸切	写真回数 46-764 20101389
銅76-765 09002703	8~9層	土師器 杯	-	4.4*	-	外:灰 内:浅黄褐	底部糸切 内底螺旋状比輪	写真回数 46-765 20101391
銅76-766 09002702	8~9層	土師器 杯	-	3.7*	-	外:灰白~黄灰 内:灰白	底部糸切 内底螺旋状沈線	写真回数 46-766 20101390
銅76-767 09002704	8~9層	瓦質土器 壺	-	-	-	外:褐 内:灰	写真回数 46-767 20101392	
銅76-768 09002705	8~9層	土師器 壺	-	-	-	外:にぶい黄褐色~褐灰 内:褐灰	写真回数 46-768 20101393	
銅76-769 09002887	8層	土師器 杯	10.6*	-	-	にぶい黄褐色	写真回数 46-769 20101375	
銅76-770 09002889	8層	土師器 杯	-	8.2*	-	にぶい相	底部糸切	写真回数 46-770 20101377
銅76-771 09002886	8層	土師器 杯	-	4.4*	-	灰白	底部糸切	写真回数 46-771 20101374
銅76-772 09002891	8層	瓦質土器 鉢	-	-	-	外:相 内:にぶい黄褐色	写真回数 46-772 20101379	
銅76-773 09002888	8層	瓦質土器 鉢	-	-	-	にぶい黄褐色	写真回数 46-773 20101376	
銅76-774 09002767	SK6224	土師器 杯	-	5.6	-	にぶい黄褐色	底部糸切	写真回数 46-774 20101045
銅76-775 09002768	SK6224	土師器 小皿	6.0*	3.3	1.6	にぶい相	底部糸切	写真回数 46-775 20101129
銅76-776 09002766	瓦質土器 小皿	7.6*	4.3*	-	-	褐灰	写真回数 46-776 20101023	
銅76-777 09002767	SK6224	土師器 小皿	6.6*	3.6*	1.6	にぶい相	底部糸切	写真回数 46-777 20101024
銅76-778 09002765	瓦質土器 鉢	-	-	-	-	灰白~にぶい黄褐色	写真回数 46-778 20101044	
銅77-779 09002875	5~8層	土師器 小皿	-	3.4	-	にぶい黄褐色	底部糸切	写真回数 46-779 20101364
銅77-780 09002876	5~8層	土師器 小皿	8.8	-	-	にぶい黄褐色	写真回数 46-780 20101365	
銅77-781 09002874	5~8層	土師器 杯	-	6.0	-	にぶい黄褐色	底部糸切	写真回数 46-781 20101363
銅77-782 09002877	5~8層	土師器 小皿	8.8	3.9	2.1	にぶい黄褐色	底部糸切	写真回数 46-782 20101366

表6 東塙瀬遺跡6F区の出土遺物

種類、番号 登錄番号	出土位置	種別 器種	寸法cm 口径 底径 高さ			色調	備考	写真回数 写真登録号
			口径	底径	高さ			
銅77-783 09002881	5・8層	土師器 杯	11.0*	7.5*	3.0	にぶい緑	底部糸切	写真回数 46-783 20101124
銅77-784 09002870	5・8層	土師器 杯	12.0*	7.2	2.7	緑	底部糸切	写真回数 46-784 20101125
銅77-785 09002871	5・8層	土師器 杯	11.8*	6.4	3.5	にぶい緑	底部糸切	写真回数 46-785 20101360
銅77-786 09002872	5・8層	土師器 杯	-	5.0	-	にぶい黄緑	底部糸切	写真回数 46-786 20101361
銅77-787 09002873	5・8層	土師器 杯	-	4.9	-	外：にぶい緑 内：淡赤緑	底部糸切 内底螺旋状比縫	写真回数 46-787 20101362
銅77-788 09002883	5・8層	土師器 杯	-	4.0*	-	灰白	底部糸切 内底螺旋状比縫	写真回数 46-788 20101371
銅77-789 09002882	5・8層	土師器 杯	11.8*	4.8*	3.0	灰白	底部糸切 内底螺旋状比縫	写真回数 46-789 20101370
銅77-790 09003524	5層	青花 壺	12.7*	-	-	釉上：灰白	景徳鎮窯系 17c 前半分	写真回数 47-790 20101305
銅77-791 09002879	5・8層	瓦質土器 足鍋	-	-	-	外：灰 内：灰白	防長系	写真回数 47-791 20101368
銅77-792 09002880	5・8層	瓦質土器 鍋	-	-	-	黄灰		写真回数 47-792 20101369
銅77-793 09002885	5・8層	瓦質土器 鍋	-	-	-	緑		写真回数 47-793 20101373
銅77-794 09002878	5・8層	瓦質土器 火鉢	-	-	-	外：にぶい緑 内：赤い赤緑		写真回数 47-794 20101367
銅77-795 09002884	5・8層	瓦質土器 火鉢	-	-	-	にぶい黄緑		写真回数 47-795 20101372
銅77-796 09002754	5層	土師器 小皿	5.7	2.4	2.0	にぶい緑	底部糸切	写真回数 47-796 20101097
銅77-797 09002751	5層	土師器 小皿	6.1*	3.3	1.7	灰黄	底部糸切 油煙付着	写真回数 47-797 20101094
銅77-798 09002753	5層	土師器 小皿	6.1*	3.8	1.7	灰黄・灰黄	底部糸切	写真回数 47-798 20101096
銅77-799 09002755	5層	土師器 小皿	6.5*	3.4	2.2	閑灰	底部糸切	写真回数 47-799 20101098
銅77-800 09002752	5層	土師器 小皿	6.4*	3.3*	1.9	明閑灰・緑	底部糸切	写真回数 47-800 20101095
銅77-801 09002743	5層	土師器 小皿	6.5	3.2	2.2	灰黄	底部糸切	写真回数 47-801 20101087
銅77-802 09002750	5層	土師器 小皿	6.3*	3.4	1.7	にぶい黄緑	底部糸切	写真回数 47-802 20101093
銅77-803 09002756	5層	土師器 小皿	6.3*	4.0	2.3	暗灰黄	底部糸切	写真回数 47-803 20101099
銅77-804 09002746	5層	土師器 小皿	6.8	4.0	2.3	灰白	底部糸切	写真回数 47-804 20101090
銅77-805 09002744	5層	土師器 小皿	7.2*	5.5	1.7	にぶい緑	底部糸切	写真回数 47-805 20101088
銅77-806 09002747	5層	土師器 小皿	7.1	4.4	2.1	にぶい黄緑	底部糸切	写真回数 47-806 20101091
銅77-807 09002742	5層	土師器 小皿	7.4*	3.6	2.2	にぶい黄緑	底部糸切	写真回数 47-807 20101086
銅77-808 09002745	5層	土師器 小皿	7.1	3.7	2.0	灰白	底部糸切	写真回数 47-808 20101089
銅77-809 09002749	5層	土師器 杯	7.8*	3.7*	3.2	灰		写真回数 47-809 20101328
銅77-810 09002748	5層	土師器 杯	9.0	4.0	2.0	灰白	底部糸切	写真回数 47-810 20101092
銅77-811 09002691	5層	土師器 小皿	9.7*	5.1*	2.3	にぶい黄緑	底部糸切	写真回数 47-811 20101113
銅77-812 09002692	5層	土師器 杯	12.5*	7.2*	2.6	緑	底部糸切 板状圧痕	写真回数 47-812 20101114
銅77-813 09002696	5層	土師器 杯	11.4*	7.2	2.7	外：緑・黄灰 内：緑	底部糸切か	写真回数 47-813 20101116
銅77-814 09002693	5層	土師器 杯	12.4*	7.9	2.9	外：にぶい黄緑・灰黄 内：にぶい黄緑・閑灰	底部糸切 板状圧痕か	写真回数 47-814 20101115
銅78-815 09002690	5層	土師器 杯	-	8.0*	-	外：にぶい黄緑・灰黄 内：灰黄・黄灰	底部糸切	写真回数 47-815 20101335
銅78-816 09002759	5層	土師器 杯	-	7.2*	-	にぶい緑	底部糸切 穿孔か	写真回数 47-816 20101331
銅78-817 09002757	5層	土師器 杯	-	4.8	-	閑灰	底部糸切	写真回数 47-817 20101329
銅78-818 09002695	5層	土師器 杯	10.2*	-	-	灰黄緑・閑灰		写真回数 47-818 20101337

表6 東畠瀬遺跡 6F区の出土遺物

種類、番号 登錄番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真回数 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
図78-819 09002694	5層	土師器 杯	10.2*	4.4*	3.4	外：灰黄褐 内：灰い黄褐・灰灰	底部系切	写真回数 47-819 20101336
図78-820 09002689	5層	土師器 杯	10.2	4.8	2.9	外：灰い黄褐・灰褐 内：褐色	底部系切	写真回数 47-820 20101112
図78-821 09002758	5層	土師器 杯	-	4.0	-	灰い黄褐	底部系切	写真回数 47-821 20101334
図78-822 09002688	4tr5層	土師器 杯か	-	5.2	-	灰い相・灰い黄褐	底部系切 内底螺旋状沈線	写真回数 47-822 20101334
図78-823 09002687	5層	土師器 杯	11.0	4.1	3.9	外：灰い黄褐 内：灰い黄褐・灰黄褐	底部系切	写真回数 47-823 20101111
図78-824 09002760	5層	土師器 杯	-	3.6*	-	浅黄褐	底部系切 穿孔	写真回数 47-824 20101332
図78-825 09002699	5層	土師器 杯	-	3.8	-	灰い黄褐	底部系切 内底螺旋状沈線	写真回数 47-825 20101340
図78-826 09002698	5層	土師器 杯	-	4.1*	-	外：灰白・黄灰 内：浅黄褐・灰灰	底部系切 内底螺旋状沈線	写真回数 47-826 20101339
図78-827 09002686	5層	土師器 杯	11.4	4.4	3.4	浅黄	底部系切	写真回数 47-827 20101123
図78-828 09002700	5層	土師器 杯	12.0	3.9	2.8	灰白	底部系切 内底螺旋状沈線	写真回数 47-828 20101117
図78-829 09002697	5層	土師器 杯	12.5*	3.8*	2.7	灰白	底部系切 内底螺旋状沈線	写真回数 47-829 20101338
図78-830 09002805	5層	瓦質土器 鉢	-	-	-	灰白・黄灰		写真回数 47-830 20101411
図78-831 09002801	5層	瓦質土器 鉢	-	-	-	灰白・黄灰	埋付着	
図78-832 09002803	5層	瓦質土器 鉢	-	-	-	浅黄・灰	埋付着	写真回数 47-832 20101416
図78-833 09002800	4tr5層	瓦質土器 鉢	31.0*	-	-	灰白・黄褐・灰灰	埋付着	写真回数 47-833 20101138
図79-834 09002802	5層	瓦質土器 鉢	-	-	-	灰褐・黑灰	埋付着	写真回数 47-834 20101415
図79-835 09002811	5層	土師器 鉢	-	-	-	相		写真回数 47-835 20101421
図79-836 09002807	5層	瓦質土器 定鍋	26.2*	-	-	灰い黄褐・灰灰	防長系 埋付着	写真回数 48-836 20101175
図79-837 09002814	5層	瓦質土器 定鍋	-	-	-	灰い相・灰		写真回数 48-837 20101414
図79-838 09002804	5層	瓦質土器 火鉢	-	-	-	浅黄		写真回数 48-838 20101417
図79-839 09002806	5層	瓦質土器 火鉢	-	-	-	灰白		写真回数 48-839 20101418
図79-840 09002810	5層	瓦質土器 火鉢	-	-	14.5	褐灰		写真回数 48-840 20101185
図79-841 09002812	5層	瓦質土器 火鉢	-	-	-	灰い相・相		写真回数 48-841 20101412
図79-842 09002813	5層	土師器 鉢	-	-	-	浅黄褐・相		写真回数 48-842 20101413
図79-843 09002809	5層	瓦質土器 茶釜	-	-	-	灰		写真回数 48-843 20101420
図79-844 09002808	5層	瓦質土器 茶釜	-	-	-	相		写真回数 48-844 20101419
図79-845 09002815	5層	土師器 能力	24.6*	-	-	外：相・火口 内：灰い黄褐・相		写真回数 48-845 20101412
図80-846 09003682	南1層	瓦質土器 定鍋	-	-	-	灰白・黄灰	防長系	写真回数 48-846 20101343
図80-847 09003683	南1層	瓦質土器 定鍋	-	-	-	外：黄灰 内：灰白	防長系	写真回数 48-847 20101344
図80-848 09003684	南1層	瓦質土器 足鍋	-	-	-	外：相 内：灰白・黄灰	防長系 埋付着	
図80-849 09002906	土師器 小皿	-	3.7*	-	-	灰白	底部系切か 内底螺旋状沈線	写真回数 48-849 20101349
図80-850 09002908	土師器 小皿	6.6*	4.3*	1.8	-	褐灰	底部系切	写真回数 48-850 20101350
図80-851 09002948	瓦質土器 火鉢	-	-	-	-	灰い相・灰い相		写真回数 48-851 20101320
図81-852 09000456	石製品 鉄砲玉鉗型	長 3.5	幅 3.3	厚 1.6	-	-	42.9g 滑石製	写真回数 48-852 20101155
図81-853 09003356	石製品 砥石	長 7.1+	幅 7.4	厚 4.7	-	-		写真回数 48-853 20101424
図81-854 09003355	石製品 砥石	長 6.6+	幅 5.3	厚 3.4	-	-		写真回数 48-854 20101423

表6 東焼瀬遺跡6F区の出土遺物

件名、番号 登錄番号	出土位置	種別 器種	寸法cm			色調	備考	写真回数 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
国81-855 09003353	5層	石製品	長 5.2	幅 3.4	厚 2.9	-	125.0g 砥石製	写真回数 48-855 20101722
国81-856 09003354	1層	石製品 砥石	長 5.7+	幅 3.8	厚 2.1	-	-	写真回数 48-856 20101422
国81-857 09003359	5tr3層	石製品 茶臼	-	-	-	-	-	写真回数 48-857 20101425
国81-858 09003358	5・8層	石製品 茶臼	-	-	-	-	-	写真回数 48-858 20101728
国81-859 09003357	7・9層	石製品 石臼	-	-	-	-	-	写真回数 48-859 20101723
国81-860 09003360	1層	石製品 石鍋	-	-	-	-	滑石製 煙付着	写真回数 48-860 20101426
国81-861 09003666	5層	石製品 石臼	-	-	-	-	-	写真回数 48-861 20101721
国81-862 09003368	S6210	鉄器 釘	長 7.2+	幅 1.1	-	-	-	写真回数 48-862 20101718
国81-863 09003369	S6210	鉄器 釘か	長 6.2+	幅 0.8	-	-	-	写真回数 48-863 20101719
国81-864 09003370	5層	鉄器 不明	-	-	-	-	-	写真回数 48-864 20101720
国85-865 09003216	1tr3層	陶器 瓶	11.8*	-	-	胎土:灰白	肥前か 18c か	写真回数 48-865 20101012
国85-866 09003214	3層	陶器 瓶	-	5.8*	-	胎土:灰白	朝鮮か 16c か 砂目	写真回数 48-866 20101010
国85-867 09003215	3層	陶器 瓶	-	-	-	胎土:灰白	-	写真回数 48-867 20101011
国85-868 09003522	3層	青花 瓶	-	-	-	胎土:灰白	並掛罫条系 17c 前半	写真回数 48-868 20101303
国85-869 09003523	4tr3層	染付磁器 皿	-	-	-	胎土:灰白	肥前 17c 後半	写真回数 48-869 20101304
国85-870 09003213	4tr3層	陶器 灯火具	-	3.2*	-	胎土:にふい黄柾	肥前 18c～幕末 底部剥切	写真回数 48-870 20101009
国85-871 09003685	5tr3層	土師器 小皿	6.3	3.8	2.2	にふい黄柾・褐灰	底部剥切	写真回数 48-871 20101107
国85-872 09003688	5tr3層	土師器 杯	11.6	4.5	3.2	浅黄	底部剥切	写真回数 48-872 20101109
国85-873 09003689	5tr3層	土師器 杯	11.5	4.2	3.5	にふい黄柾	底部剥切	写真回数 48-873 20101110
国85-874 09003687	3層	土製品 土踏	-	-	-	にふい黄柾	-	写真回数 48-874 20101345
国85-875 09003690	5tr3層	瓦質土器 火鉢	-	-	-	暗灰黃	-	写真回数 48-875 20101346
国85-876 09003211	2層	陶器 瓶	5.7*	-	-	胎土:褐灰	肥前 17c	写真回数 48-876 20101008
国85-877 09003212	2層	陶器 瓶	-	4.8*	-	胎土:淡黄	肥前 17c 後半～18c	写真回数 48-877 20101132
国85-878 09003210	2層	陶器 瓶	-	10.4*	-	胎土:灰白	開西系 18c 後半～幕末	写真回数 48-878 20101007
国85-879 09003207	2層	染付磁器 杯	6.4*	2.6*	2.8	胎土:白	三内丸大坂 1840～1860年代	写真回数 48-879 20101004
国85-880 09003209	5tr2層	染付磁器 皿	13.1*	-	-	胎土:灰白	波佐見系 18c 前半～中頃	写真回数 48-880 20101006
国85-881 09003208	2層	染付磁器 皿	7.4*	-	-	胎土:浅黄柾・黄灰	肥前 1820～60年代	写真回数 48-881 20101005
国85-882 09003686	1層	土師器 小皿	6.0	4.0	1.0	にふい黄柾	底部剥切	写真回数 48-882 20101108
国85-883 09003312	南1層	土製品 糞箕輪	-	-	-	橙・黒	-	-
国85-884 09003521	SX6207 外	染付磁器 鉢	19.3*	8.8*	8.4	胎土:灰白	肥前 19c 前半～中頃	-
国85-885 09003204	SX6207 外	染付磁器 皿	6.3*	-	-	胎土:白	肥前 19c か	写真回数 48-885 20101001
国85-886 09003206	SX6207 内	陶器 土瓶	-	8.0*	-	胎土:にふい黄柾	薩摩 19c	写真回数 48-886 20101003
国85-887 09003205	SX6207 内	陶器 擂钵	22.6*	-	-	胎土:灰白	福岡 19c	写真回数 48-887 20101002

表7 東畠瀬遺跡8区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
国86-888 09003483	8C区	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：に赤い黄褐 内：に赤い黄	縄文	写真図版 49-888 20101865
国86-889 09003466	8C区 SK8014周辺	白磁 盤	-	-	-	胎土：に赤い黄褐	森田D群 陶陶	写真図版 49-889 20101865
国86-890 09003467	8C区 3tr	白磁 杯	-	-	-	胎土：灰白		写真図版 49-890 20101852
国86-891 09003468	8C区 3tr	青磁 皿	14.1*	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系	写真図版 49-891 20101853
国86-892 09003469	8C区 3tr	青磁 碗	14.5*	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系椀上田D類	写真図版 49-892 20101854
国86-893 09003470	8C区 3tr	青磁 碗	15.6*	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系椀上田D類	写真図版 49-893 20101855
国86-894 09003517	8A1区	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系椀上田D類	写真図版 49-894 20101846
国86-895 09003481	8C区 検出面	青磁 碗	-	4.3*	-	胎土：灰白	竜泉窯系	写真図版 49-895 20101862
国86-896 09003482	8C区 検出面	青花 皿	13.1*	8.1*	2.7	胎土：灰白	足利鍋窯系小野B1類 外底施釉	写真図版 49-896 20101863・1864
国86-897 09003462	8C区 3tr	土師器 杯	-	6.0	-	に赤い槽	直部切	写真図版 49-897 20101848
国86-898 09003489	8B区 P8001	陶器 甕	-	-	-	閑	前	写真図版 49-898 20101869
国86-899 09003465	8C区 3tr	瓦質土器 足踏	-	-	-	外：灰白 内：に赤い黄褐	防長系	写真図版 49-899 20101866
国86-900 09003518	8A1区	土師器 瓶	-	-	-	外：に赤い黄褐 内：灰黄褐	保付着	写真図版 49-900 20101847
国86-901 09003463	8C区 3tr	土師器 瓶	-	-	-	外：に赤い褐 内：に赤い褐	保付着	写真図版 49-901 20101849
国86-902 09003519	8A区 SK8015	陶器 皿	11.4	3.4	3.8	胎土：槽	肥前	写真図版 49-902 20101836
国86-903 09003472	8C区 3tr	陶器 皿	11.8*	3.8	3.3	胎土：に赤い黄褐	肥前	写真図版 49-903 20101857・1858
国86-904 09003476	8C区 SK8013	陶器 皿	14.0*	4.7*	3.5	胎土：浅黄	肥前 内面側脚輪 内面蛇の目軸彫	写真図版 49-904 20101829
国86-905 09003511	8A区 表土	陶器 皿	-	4.8*	-	胎土：灰黄	肥前	写真図版 49-905 20101832
国86-906 09003473	8C区 3tr	陶器 小杯	-	3.9*	-	胎土：浅黄	肥前	写真図版 49-906 20101859
国86-907 09003474	8C区 3tr	磁器 小碗	-	3.6*	-	胎土：に赤い黄褐		写真図版 49-907 20101860
国86-908 09003488	8B区 表探	陶器 擂钵	-	-	-	胎土：に赤い槽	肥前 内面ねじねじ跡	写真図版 49-908 20101868
国86-909 09003520	8A区	陶器 瓶	-	10.3	-	胎土：黄灰	肥前	写真図版 49-909 20101818
国86-910 09003475	8C区 検出面	陶器 鉢	-	11.0*	-	胎土：黄灰	肥前 二彩手	
国87-911 09003510	8A区 表土	青磁染付 表土	-	4.4	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-911 20101821
国87-912 09003480	8区 15tr 東部	染付磁器 皿	9.3*	3.7*	4.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-912 20101828
国87-913 09003479	8C区 15tr 東部	色々染付 皿	9.7*	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-913 20101861
国87-914 09003513	8A区	染付磁器 皿	10.0*	4.2*	5.6	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-914 20101833
国87-915 09003515	8A区 表探	染付磁器 皿	10.4	5.8	6.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-915 20101814
国87-916 09003516	8A区 表探	染付磁器 皿	10.3	5.9	6.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-916 20101835
国87-917 09003486	8A区 表探	染付磁器 皿	11.6	5.9	6.3	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-917 20101826
国87-918 09003485	8A区 底部近世層	染付磁器 皿	11.1	4.2	5.9	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-918 20101825
国87-919 09003487	8B区 表探	染付磁器 皿	10.9*	3.9	6.1	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-919 20101827
国87-920 09003484	8A区 表土	染付磁器 小碗	7.5	3.0*	5.0	胎土：灰白	肥前 明治以降 「領瀬村用」	写真図版 49-920 20101824
国87-921 09003471	8区 検出面	青磁 壺	8.2*	-	-	胎土：灰白		写真図版 49-921 20101856
国87-922 09003514	8A区	染付磁器 皿	12.8	7.8	4.2	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-922 20101819
国87-923 09003478	8B区 表探	染付磁器 皿	11.3*	5.5*	3.1	胎土：灰白	肥前	写真図版 49-923 20101823

表7 東煙瀬遺跡8区の出土遺物

件名・番号 登録番号	出土位置	種類 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
岡87-924 09003477	8B区 表採	染付鏡器 皿	12.0*	4.1*	3.4	胎土:灰白	肥前 内面蛇の目軸割ぎ	写真図版 49-924 20101822
岡87-925 09003512	8A区 表土	青磁 皿	16.0*	7.6*	5.2	胎土:灰黄褐	肥前 蛇の口凹形高台	写真図版 49-925 20101820
岡87-926 09003464	8C区 3tr	瓦質土器 鉢	-	-	-	外:浅黄 内:灰黄褐		
岡87-927 09003505	8A区 底部近世墓	土師器 小皿	5.8	3.8	1.0	にぶい黄褐	底部系切	写真図版 49-927 20101841
岡87-928 09003506	8A区 底部近世墓	土師器 小皿	5.8	3.3	1.0	にぶい黄褐	底部系切	
岡87-929 09003507	8A区 底部近世墓	土師器 小皿	5.8	3.1	1.1	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄褐・浅黄褐	底部系切	写真図版 49-929 20101843
岡87-930 09003509	8A区 表採	土師器 小皿	5.8	3.0	1.2	褐	底部系切 油燐付着	写真図版 49-930 20101845
岡87-931 09003508	8A1区	土師器 小皿	6.0	3.4	1.2	浅黄褐・にぶい黄	底部系切 油燐付着	写真図版 49-931 20101844
岡87-932 09003504	8A区 底部近世墓	土師器 小皿	6.7	3.9	1.1	外:浅黄褐・にぶい黄 内:にぶい物・にぶい黄褐	底部系切	
岡87-933 09003503	8A区 底部近世墓	土師器 小皿	6.8	4.0	1.1	外:褐 内:褐・にぶい褐	底部系切	写真図版 49-933 20101839
岡87-934 09003502	8A区 底部近世墓	土師器 小皿	6.8	4.2	1.2	にぶい褐・褐	底部系切	
岡87-935 09003501	8A区 底部近世墓	土師器 小皿	8.2	4.4	1.6	にぶい黄褐・にぶい黄褐	底部系切	
岡87-936 09003460	8B区	土師器 小皿	6.1	3.2	1.5	にぶい黄褐	底部系切	
岡87-937 09003461	8B区 表採	土師器 小皿	7.2	4.3	1.4	にぶい黄褐	底部系切	
岡87-938 09003665	8C区 検出面	錢貨 銅錢	-	2.5	-	-	直永通寶 2.7g	
岡87-939 09003663	8A1区	錢貨 銅錢	-	2.3	-	-	直永通寶 1.7g	
岡87-940 09003664	8A1区	錢貨 銅錢	-	2.4	-	-	直永通寶 2.9g	

5 まとめ

東畠瀬遺跡 2・4・5・6・8 区では、縄文時代の遺物、中世～近世の遺構・遺物を調査した。畠瀬城全体に関わることについては、第4章に譲るとして、ここでは 6F 区の居館跡と 6 区の近世集落の様相を中心簡単にまとめておきたい。

1) 6F 区 戦国時代の居館跡について

6F 区では戦国時代の居館跡が確認され、隣接する調査区では居館に関連する確実な遺構は山城以外に確認できなかったため、ほぼ居館全城を完掘したことになる。残存状況が良好ではないため、不明確な点も多いが、およその様相は把握できる。

居館は北西方向に開く谷部に立地し、谷を横断するように築かれた土塁 (SA6210) と堀 (SA6211) によって北西側が外界から防衛・区画されている。現代では 6F 区南西隅に向って上ってくる道があるが、江戸時代後期の絵図にも描かれていることから、戦国期もまた居館へ向う道であったものと推測される。その場合、居館南西側にも何らかの防衛施設があった可能性が高いが、擾乱が著しいため確認できなかった。

居館内部は掘立柱建物と柵列が主体であり、SB6221、SB6222 をそれぞれ主殿とする 2 時期の遺構群であると考えられ、SB6222 が古い時期のものである。SB6222 は構造が確実ではないものの、規模は他の建物より明らかに大きなものである。SB6222 と同時期と考えられる遺構は、居館の主要な門と推測される SB6216、SB6220、敷地内に仕切る堀・門と推測される SA6217、SA6228・6230・6231 である。SB6216 をぐるると、SA6217・6228・6230 で仕切られた空間があり、SA6217 に設けられた門を抜け、SB6222 の前面に出るという構造の屋敷地であったと推測される。SB6221 と同時期と考えられる遺構は、SB6218、SA6225 である。居館には庭園が付属する場合が多いが、検出できなかった。ただ、加工がある石材 (SX6229) を庭園に関連するものとすれば、SB6222 西側がその候補となろう。

6F 区から出土した遺物は、白磁森田 E 群の皿、線描蓮弁文の青磁碗上田 B IV 類、青花小野碗 C 群・皿 B1・C 群が主体を占め、戦国期に特徴的な内底に螺旋状沈線を施す土器器皿も多いことから、16 世紀前半代のものが大部分であるといえる。したがって、SB6221 と SB6222 の間にはあまり時間差がないものと推定され、柱材の放射性炭素年代もこれを支持している（第 5 章）。

出土遺物のうち、特徴的なものとして滑石製の鉄砲玉錠型（852）がある。両面に型が彫り込まれているが、湯口の方向が異なるため、1 個ずつ鋳造するものである。共伴遺物はないが、居館の時期のものであろう。類例としては長崎県大村市寿古遺跡（大村市文化財保護協会 1992）、長崎県松浦市梶谷城跡（松浦市教委 2003）などにあり、寿古遺跡は片面に 1 個分、梶谷城跡は片面に 2 個分の型が彫り込まれおり、852 のような両面に型を彫り込むものは今のところないようである。いずれも戦国期のものと思われ、この時期の鉄砲使用の様相を知る上で貴重な資料である。滑石という石材が使用されていることから、西北九州が分布の中心であるかもしれない。興味深い史料として「神代家伝記」には、薩摩から来て神代勝利に仕えた山伏が弘治 3 年（1557 年）の金鯱峰合戦で鉄砲を使用して佐嘉勢を苦しめたという記事がある（1）。

神代勝利は、永禄 7（1564）年に嫡子長良に家督を譲り、隠居所として畠瀬城を築いたが、翌年畠瀬城で病死したとされる。6F 区で確認された居館跡のうち、SB6222 を主殿とする建物群はこの隠居所として相応しい規模と構造であると考えられ、時代的にも符合することから、勝利が隠居後に居住した館と比定してよいであろう。また、勝利の死後 1 ヶ月後には、長良が千布城で龍造寺隆信の奇襲を受け、畠瀬城に逃れ、さらに筑前まで落ち延びているが、SB6221 を主殿とする建物群はこの時のものかもしれない。SB6221 の柱材に樹皮を残したもののが使用されているのは、急造の建物であったことを示しているのだろうか。

今回の東畠瀬遺跡 6F 区の調査によって、山内における戦国時代の領主クラスの居館の実態を知ることができる貴重

な調査成果を得られた。近年の中近世城館跡分布調査において、山内の城館の様相が把握されるようになってきており、今後の研究の進展が期待される。

2) 東畠瀬地区近世集落の展開について

今回の調査では、近世の屋敷地の内容が判明した例はなかったが、出土遺物の点から近世集落の展開について概観してみたい。

もっとも遡るまとまった資料が6H区下層の出土遺物で、初期伊万里を含んでいない16世紀末から17世紀初頭の様相を示す貴重なものである。瓦質土器鍋なども出土していることから、検出できなかったものの当時の屋敷地があつたものと思われる。この他でも6D・6J・6K区など主に宗源院へ上る道の周辺にこの時期の資料が目立っている。宗源院跡の調査では、この時期に本格的な寺院が建立されるようで、関連があるかもしれない。また、6F区の炭を充填した土坑群や6E区SX6202は17世紀前半代の可能性がある。

6区では17世紀後半から18世紀前半の資料は宗源院跡の周辺を除き少ない。再び資料が増えるのは18世紀後半以降で、本格的に開発が行なわれるのは19世紀に入ってからのようである。この頃のまとまった資料としては、6Q区の土器小皿の一群がある。石垣に関係すると思われる石積の周辺から出土しているので、造成時の何らかの祭祀行為の痕跡であることが推測される。6B区上層もこの時期の所産であろう。

このように、6区では16世紀末から17世紀初頭に集落が一定規模で展開しており、その後一旦廃絶した後、18世紀後半から開発が再開され、19世紀に現在まで続く集落の基礎ができあがったものと考えられる。6F区の堆積状況でも同様の傾向が見られるようである。また、第4章で報告する畠瀬城跡3区に展開する近世墓地は6区の集落のものである可能性が高いが、ここでも陶磁器類は19世紀代のものがほとんどである。これと同じように17世紀後半から18世紀前半の資料が少ない傾向が西畠瀬遺跡でも指摘されている。東畠瀬遺跡6区の場合、宗源院という江戸時代を通じて存在した寺院跡があるため、より詳しい検討が必要であるが、畠瀬地区でみられた集落の展開の様相が山内地域全体の傾向を示しているのが興味あるところである。

このような様相の中で、やや特異な様相を示しているのが5区の出土遺物である。肥前陶器擂鉢・甕には17世紀代のものが一定量あり、肥前染付磁器は18世紀代の資料を中心として、19世紀代まで降る資料がほとんどみられない。遺物の出土量や内容からみて、5区に18世紀代の集落が展開していた可能性が高く、東畠瀬地区の集落の展開を知る上で貴重な資料であろう。5区と谷を挟んで西側にある8A1区周辺の1670年代にまで遡る近世墓地が、5区の集落と対応するものかもしれない。なお、19世紀に描かれた絵図「佐賀郡佐賀山内図」には、5区周辺に集落の表現がなされておらず、出土遺物の様相と符合する。

以上のように、詳細な分析ができなかったものの、東畠瀬地区的近世集落の展開を知る上で貴重な資料を提示することができた。来年度以降、宗源院跡（6G区）、宗源院墓地（9区）が報告される予定であり、これらの調査成果を合わせると、これまで知られていなかった山内地域の近世の様相が明らかになるものと考えられる。

注

1) 「神代家伝記上巻」十二金屬合戦付小川筑後守最後並二千輩と当家二来ル事

『頃日薩州ヨリ來リテ鷹利公ヘ仕レシ例含功ト云ヘル山伏、身長七尺ニ及ブガ力量人超ヘ禿禿ノ如キモノヲ揉ミ立テ熊ト甲ツハ着ズ、跡卷シテ其比稀ナル鉄砲ノ上手ニテ大木ノ筋ヨリ見レ出デ、能キ歟ア見澄シ揉ビ打ニ矢弾ヲ外サ射タリケレバ、大勢ノ佐喜勢射倒セ色メキ立テ見ケル也ヲ』

第3章参考・引用文献

上田秀夫（1982）「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

大村市文化財保護協会（1992）『寺古遺跡』県宮園場整備事業福重地区にかかる道路発掘調査報告

小野正敏（1982）「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

畠瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『畠瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』富士町教育委員会

- 九州近世陶磁学会（2000）『九州陶磁の編年』
- 佐賀県教育委員会（1989）「下六ヶ道跡」〔筑後川下流用水事業に係る文化財調査報告書2〕佐賀県文化財調査報告書第 93 集
- 佐賀県教育委員会（2007）『東畠瀬道路1・大野道路1』佐賀県文化財調査報告書第 170 集
- 佐賀県教育委員会（2008）『西畠瀬道路1』佐賀県文化財調査報告書第 176 集
- 佐賀県教育委員会（2009）『西畠瀬道路2・大井道路』佐賀県文化財調査報告書第 180 集
- 瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間充・松原哲志（2007）「沖縄における貿易陶磁研究」「沖縄埋文研究」5 沖縄県立埋文文化財センター 全国埋文研究会（1980）『神代家伝記』『神代家とその一族』1 号
- 鹿児島市教育委員会（1992）『鹿島海底道路』
- 太宰府市教育委員会（2000）『太宰府築防跡XV—陶磁器分類編一』太宰府市の文化財第 49 集
- 徳永貴紀（1990）「肥前ににおける中世後期の在地土器」『中世土器の基礎研究VI』日本中世土器研究会
- 富士町教育委員会（2003）『富士町内遺跡発掘調査報告書平成7年度～13年度』富士町文化財調査報告書第2集
- 富士町史編纂委員会（2000）『富士町史』上巻富士町
- 松浦市教育委員会（2003）『松浦市内遺跡確認調査（4）』松浦市文化財調査報告書第 19 集
- 三瀬村史編さん委員会（1977）『三瀬村誌』三瀬村民館
- 森山勉（1982）「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会
- 森本朝子・片山まび（2000）「博多出土の高麗・朝鮮陶磁の分類試案」「博多研究会誌」第 8 号博多研究会
- 山本信夫（1990）「統計上の土器—歴史時代土器の編年研究によせて—」『九州上代文化論集』乙益重隆先生古稀記念論文集刊行会

第4章 番瀬城跡2・3区

第4章 畠瀬城跡 2・3 区

1 畠瀬城跡 2・3 区の概要

畠瀬城跡は、佐賀県佐賀市富士町大字閑屋に所在する（図 88）。

遺跡は、嘉瀬川中流域の左岸に位置し、東畠瀬集落南東側にある標高約 440 m の部分を最高所として、主に北西方向にのびる尾根上に展開している山城である。第3章で報告したように、神代勝利が隠居所として築いた「畠瀬城」の居館部分は東畠瀬遺跡 6F 区に推定できるが、東畠瀬遺跡 8 区にみられる山城跡を含め、周辺には「畠瀬城」に関連すると考えられる城郭遺構が残存している。近世以前の基幹道は遺跡の北側の谷部を東西に通っており、戦略的に重要な場所に位置しているといえる。また、勝利の畠瀬城以前にも畠瀬氏が城を築いていたことが後世の文献からうかがえる。畠瀬氏は、三瀬氏・杠氏・松瀬氏・菖蒲氏とともに神代五人衆に数えられる神代氏の重臣とされるが、関連する史料は乏しく、その詳細は不明な点が多い。

畠瀬城跡では、平成 16 年度に富士町教育委員会（当時）が最高所付近を発掘調査しており、これを 1 区とした。この調査では、堅壁以外の明確な山城関連の遺構を認定できていないが、小穴が多数検出されており、何らかの施設の痕跡である可能性が高い。いずれにせよ、最高所付近に曲輪を造成していることは明らかであり、その規模や構造などから畠瀬城の主要部にあたることは疑いのないところである。

畠瀬城跡 2 区は、最高所から北西方向にのびる尾根上に位置し、この尾根の延長上には居館跡に付随すると考えられる東畠瀬遺跡 8 区の山城跡があり、2 区は最高所の山城跡と 8 区の山城跡のほぼ中間地点に当たる。調査では標高 382 ~ 386 m の尾根上を中心とし、表土を人力で除去して、遺構・遺物の確認に努めたが、崩落や樹木による搅乱などの影響もあって、曲輪など山城関連の遺構を明確に確認することはできず、遺物も出土しなかった。ただ、標高約 386 m の地点から北東方向に派生する尾根上には階段状に連続した平坦面が確認され、柵列などは認定できなかったもの的小穴が検出できたことから、簡易な施設や小規模な地形改変など城郭に関連する何らかの作為が行われた可能性は残る（図 90・91）。

畠瀬城跡 3 区は、やはり最高所から北西方向にのびる尾根上のはば先端部分（標高 294 ~ 305 m）に位置し、2 区が位置する尾根との間の谷部に居館跡や宗源院、集落が立地している。調査前から曲輪と考えられる平坦面や堅壁などが確認されていたが、平坦面には近世～現代の墓地が展開しており、発掘調査はこの墓地の改葬作業の後で行われた。このような状況もあって、調査では試掘坑を 7 箇所設定して、山城関連の遺構の確認を行った。この結果、残存状況は非常に悪いものの、切岸や土塁の痕跡、溝などを検出し、中世の遺物もわずかではあるが出土した。これらのことから、2 箇所の主要な曲輪に帶曲輪や腰曲輪などが付随する形態の山城であったものと推定される（図 93）。南側の曲輪 A は長さ約 30 m、幅約 10 m の部分を平坦に造成して曲輪とし、その周囲に切岸を施し、西側には土塁があつた可能性がある。北側の曲輪 B は残存状況が悪いが、長さ約 25 m、幅約 10 m の部分を平坦に造成したものと推測される。曲輪 A と曲輪 B の間の長さ約 15 m、幅約 15 m の部分は、それぞれの曲輪から約 2 m の段差があり、墓地による擾乱が激しいが、ここも曲輪と認定できよう。曲輪 A の南西側には帶曲輪があり、曲輪 C への連絡道としての機能もあったものと考えられる。曲輪 B の北側と西側には、やや傾斜があるものの腰曲輪と思われる平坦面も存在している。また、おそらく東畠瀬遺跡 8 区と同じく、曲輪 A の南側に尾根の鞍部地形を利用した堀切があり、防御としていたものと思われる。

近世以降は、前述のように墓地として曲輪であった平坦面を利用している。出土遺物からすると、18 世紀後半から始まり、19 世紀以降盛んに墓がつくられたものとみられる。



図 88 畠瀬城跡周辺の地形 (1/5,000)



図 89 烟瀬城跡 2・3 区の位置 (1/2,000)

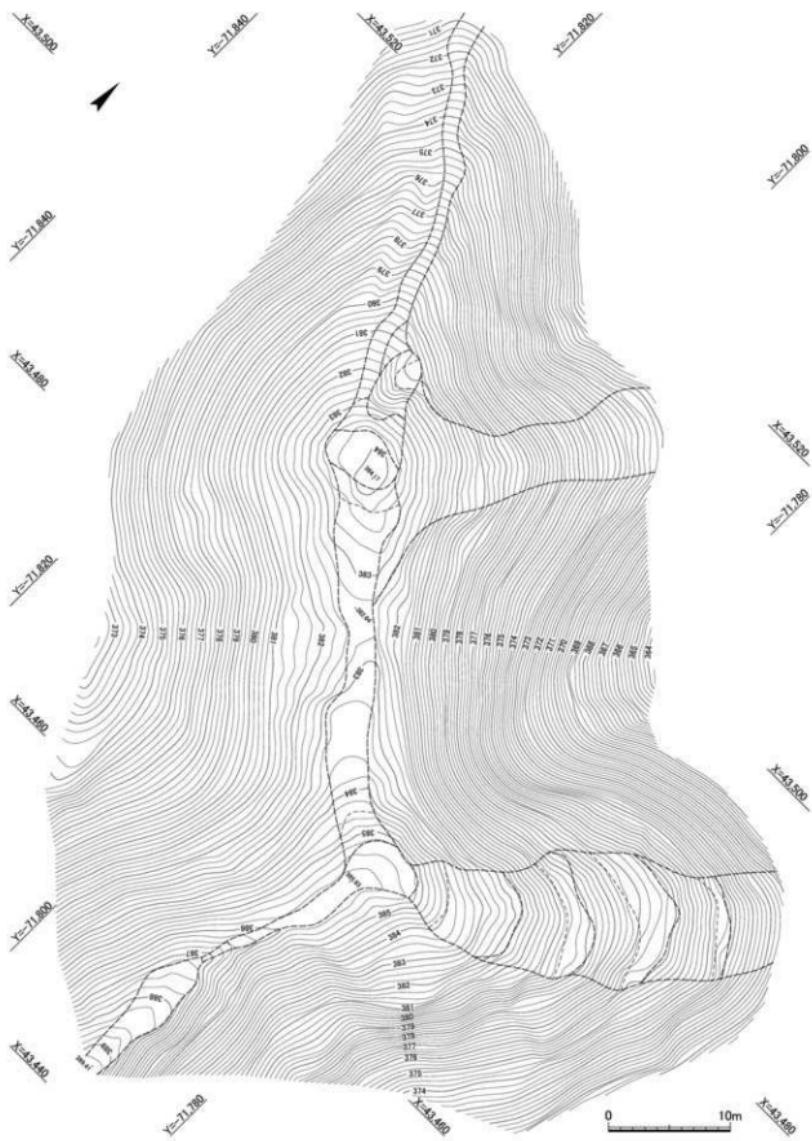


図90 2区調査前の地形 (1/400)

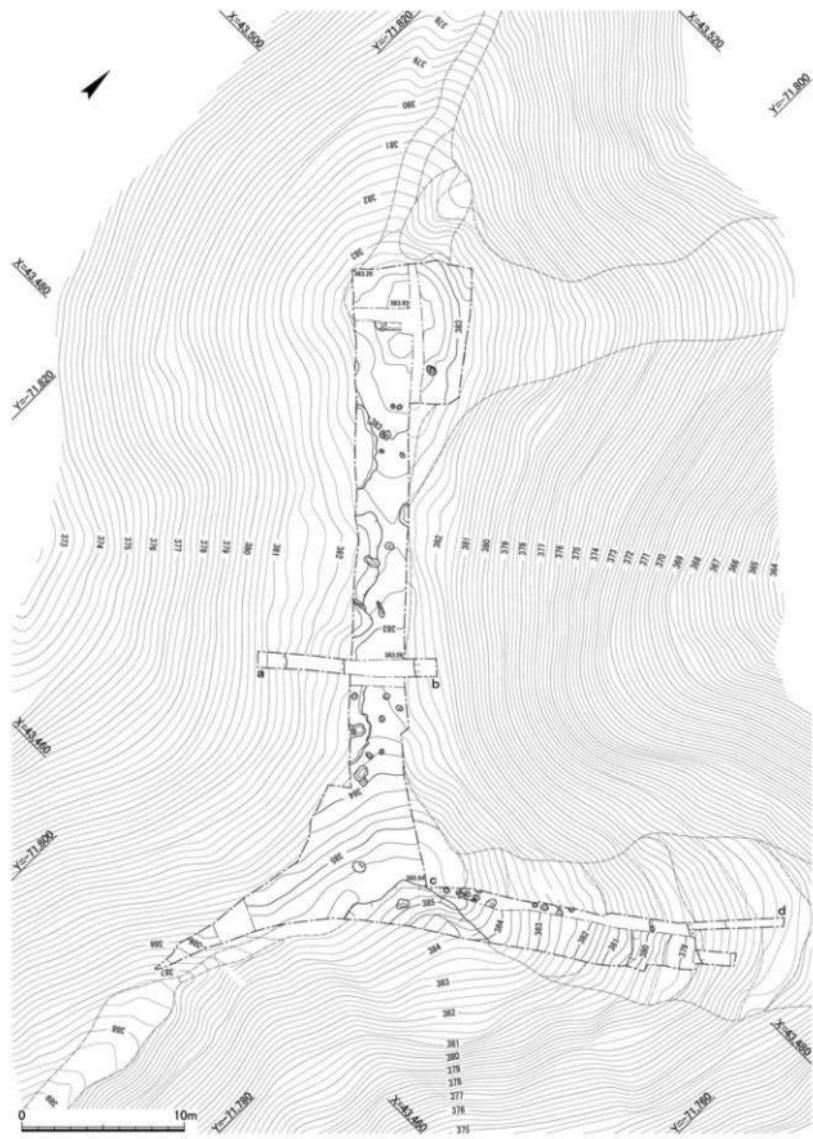
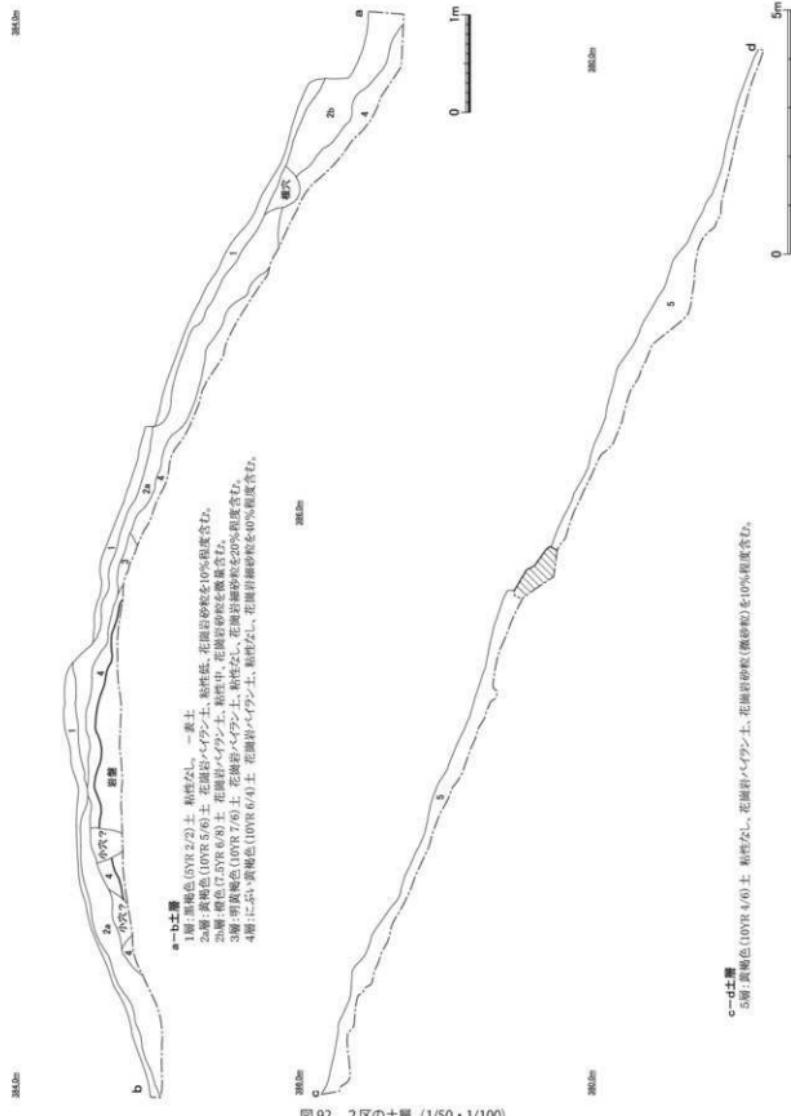


図 91 2区遺構の分布 (1/300)



2 3 区の遺構と遺物

1) 遺構（図 94～97）

3 区の遺構については、各試掘坑ごとにその状況を説明していく。試掘坑 1 は調査前から堅堀と認識されていた部分に設定したものであるが、設定位置が良くなかったためか、明確に堅堀を認識することはできなかった。ただ、5 層から中世の遺物が出土していることから、6 層が中世段階の旧表土層であった可能性は高い。地形からみると、ちょうど堀切中央の位置に試掘坑を設定したため、試掘坑内で堅堀などを確認することができなかつたではないだろうか。調査前の所見と合わせると、やはり堀切から南西方向に堅堀が存在したものと思われる。試掘坑 2 では、特に遺構などは確認できなかつたが、隣接する試掘坑の状況から 2 层が地山かどうかの疑問が残る。

試掘坑 3 では、溝状の遺構（6 层）が確認された。現地では水みちの可能性を考えたため、試掘坑の拡張は行っていない。確かに、戦後の航空写真ではこの試掘坑周辺は畠として開墾されているが、写真で判断する限り、埋土の状況からそれほど新しい時代のものとは認識できない。地形的にみて、この部分に山城関連の遺構があつたとしても不自然ではなく、堅堀や堀切の可能性をまったく否定することはできない。また、戦国期と考えられる青花がこの試掘坑から出土していることは示唆的である。

試掘坑 4 では、2 层が土塁の可能性を残す。近世の土師器が出土しているが、1 層と確実に分離できていたのかどうかは確認できない。少なくとも、墓地の造成などで曲輪内部を面的に掘り下げるは考えられないで、切岸に沿った高まりは土塁の存在を示唆している。

試掘坑 5 では、切岸の痕跡を明確に確認することができたが、試掘坑 6・7 では山城の痕跡を確認することはできなかつた。

試掘坑 8 は、帶曲輪あるいは腰曲輪にあたる部分と思われ、明確に柵列などを認定できないものの、小穴が検出されており、何らかの簡易な施設があつた可能性がある。小穴からは中世の遺物が出土している。

2) 遺物（図 98・99）

1 は試掘坑 1 出土の白磁碗で、内面見込みの釉を蛇の目状に掻き取っている。2 は P3001 出土の竜泉窯系青磁で、口折の皿とすべきか。外面に線描による蓮弁文を施す。3 は試掘坑 5 出土の景德鎮窯系と考えられる青花楓で、いわゆる蓮子碗の系統に属するもの可能性がある。4 は P3014 出土の底部糸切の土師器小皿で、内面に整形時の段を残す。5 は P3015 出土の底部糸切の土師器杯である。6 は試掘坑 1 出土の瓦質土器茶釜で、外面に印刻文が施される。

7～9 は陶器碗で、7・9 は鉄釉に白色系統の釉を重ねており、8 は透明釉に近い灰釉が施される。いずれも内面に目跡が残る。10～13 は陶器皿で、10 は鉄釉、12・13 は灰釉が施され、いずれも内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。14 は肥前青磁染付碗である。15～22 は肥前染付磁器碗である。15 は浅い丸形碗、16・17 は広東形碗、18～20 は端反形碗、21 は丸形碗、22 は深めの筒丸形で、15・18 は内面を蛇の目釉剥ぎしている。23 は肥前染付磁器小碗である。24・25 は肥前染付磁器蓋で、24 は広東形碗、25 は端反形碗に伴うものと考えられる。

26～29 は底部糸切の土師器小皿で、26・29 は口縁部に油煤が付着している。31・32 はセットと考えられる陶器土瓶とその蓋で、外面に銅緑釉が施される。32・33 はセットと考えられる軟質陶器行平鍋とその蓋で、ともに内面全体に透明釉、33 の把手部のみに灰釉が施される。34・35 は青銅製キセルで、ともに木質が残存している。

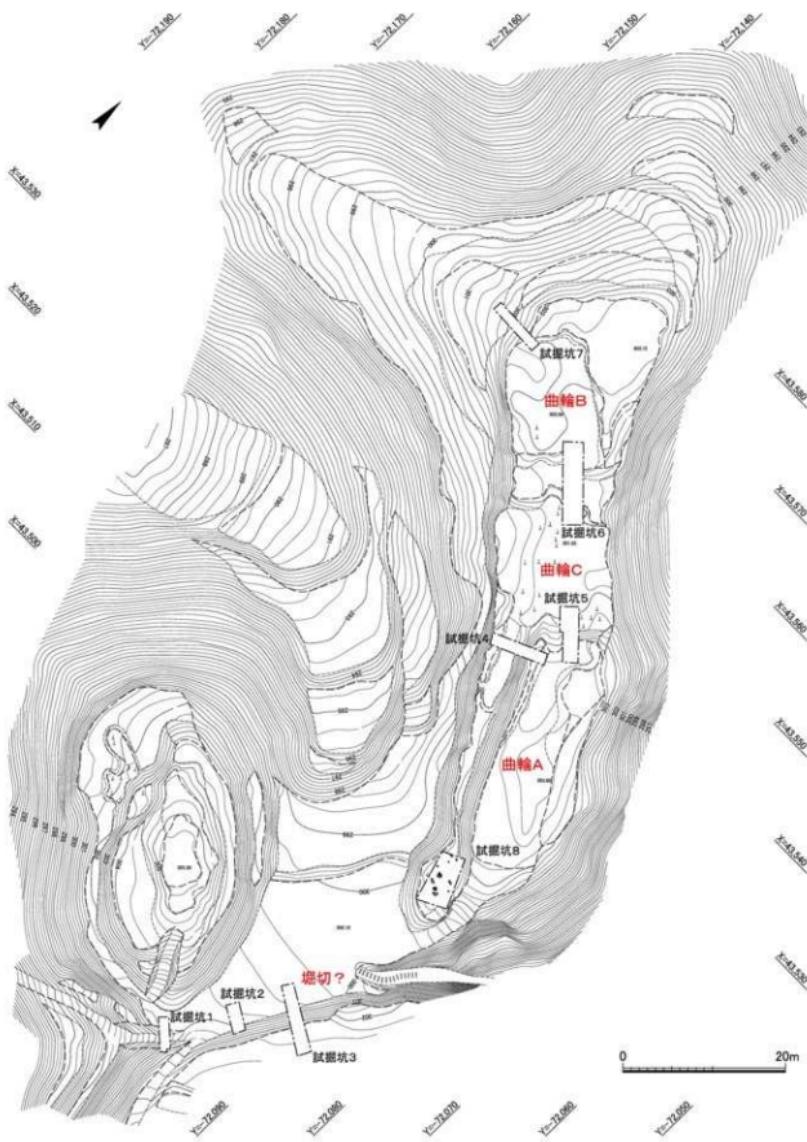
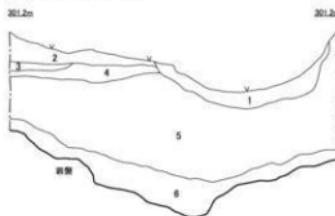


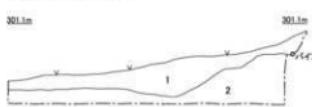
図 93 3区の地形 (1/400)

試掘坑1 北壁土層



- 1層:暗オーリープ灰土色(2.5Gr 4/1) 表土。しまり強い。道として使用されていたと思われ、構状になっている。
 2層:明黄褐色土(10YR 7/6) 表土。花崗岩風化土。西側が屋根状に高まっており、そちらからの流れ込み。
 3層:灰黄色土(5Y SYR 6/2) 花崗岩風化土。2層と同じく西側からの流れ込み。
 4層:灰色土(5Y 6/2) しり弱。東西の斜面からの流れ込み、特に西側からの流れ込みが多い。
 5層:灰黄色土(2.SYR 6/2) しり弱。東西の斜面からの流れ込み、特に西側からの流れ込みが多い。
 この層の下部は花崗岩の風化した小礫が含まれる。中世と思われる出土遺物あり。
 6層:黄灰色土(2.5YR 5/1) 小礫が多く含む。(花崗岩の風化したもの) 旧表土層の可能性あり。

試掘坑2 北壁土層



- 1層:黒褐色砂質土(10YR 3/2)
 表土及び、パイプを埋設した際の埋土。
 2層: 黃褐色粘土土(10YR 5/6) 粘性強。わずかに砂粒を含む。

試掘坑3 北壁土層



- 1層:黒褐色土(10YR 3/1) 表土。
 2層:灰黃褐色土(10YR 5/2) 少し砂感が強い。表土。
 3層:褐灰色土(10YR 5/1) パイプ埋設時の掘り込み及び埋土(現代)。
 4層:褐色土(7.SYR 5/1) しまり有り、粘性なし。炭化物をごく少量含む。
 5層:灰黃褐色土(10YR 6/2) しまり有り、粘性なし。炭化物をごく少量含む。
 6層:灰褐色土(2.5YR 4/1) しまり強、粘性強い。構状を呈している。
 7層:明褐色土(7.SYR 5/8) しまり強、粘性強い。オーリープ風(5Y 3/2)色土を斑状に含む。地山層。

試掘坑8 西壁土層

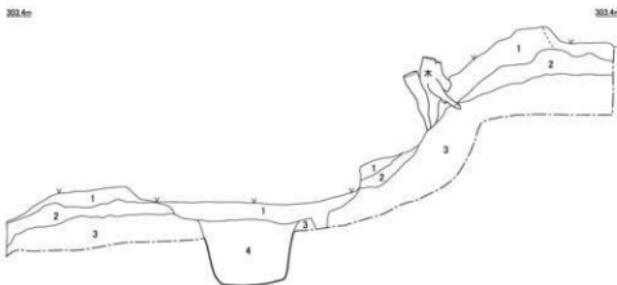


- 1層:褐灰色土(Hue7.5YR 4/1) 表土。
 2層:灰色土(Hue5Y 4/1) 捜乱(木の根など)。
 3層:灰褐色土(Hue2.5Y 6/2) ややしまり有り。炭化物を少量含む。小穴の埋土はこの3層と同様。
 亂構造は3層から4層に掘り込まれている。中世の生活面が存在していたようであるが近世以降の掘り込みが混じっている可能性もある。
 4層:浅黄色土(Hue2.5Y 7/3) 花崗岩風化土(地山)及び岩盤。

0 2m

図 94 3区の土層 1 (1/60)

試掘坑4 西壁土層



1層:褐灰色土(5YR 4/1)及び灰黃褐色土(10YR 6/2) 表土及び混亂。

1層と一括りにしてしまったが、右上の点範囲より右は近世から近代墓の改葬作業などに伴う埋土。

墓の副葬品類(銭、陶磁器、土師器など)が出土。

2層:にがい黄褐色土(10YR 6/3) しまり有り、粘性やや有り。

土壌状に複数 斜面には流れ込んだ状態で堆積する。中世山城に伴う土塁の可能性はある。

しかし、出土した土師器小皿片などは、近世のものと考えられるため可能性にとどまる。

近世から近代墓はこの層を掘り込んで造営されている。

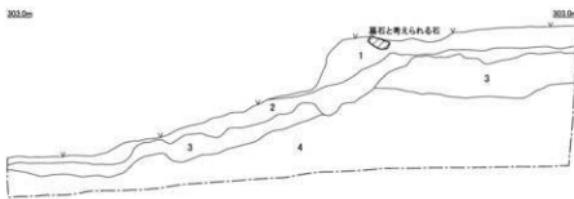
3層:明褐色粘質土(7.5YR 5/8) しまり有り、花崗岩風化土。地山層。

4層:明褐色粘質土(7.5YR 5/6)に褐灰色土(7.5YR 5/1)が細かい斑状に全体的に入る。しまり有り。

3層を掘り込んでおり、近世墓なのか、それよりも古い時期の遺構かは判断しかねる。

トレンチ内に2基確認。大走り状の部分に並んでいる可能性もある。近世の土師器片出土。

試掘坑7 北壁土層



1層:黄褐色土(7.5YR 7/8)(土質)。やや砂感が強い。しまり有り。

改葬等行った後、埋めだと考えられる、ビニールや墓石とされる石を含む。近世から近代の陶磁器あり。

2層:褐灰色土(10YR 5/1)に明褐色土(7.5YR 5/8)(やや粘質)が斑状に入る。

表土及び旧表土。墓石等を捨て込んだり掘り込みはこの層から始まる。

3層:明褐色粘質土(10YR 6/8) しまり有り、粘性有り。

中世山城に關わる整地、墓上とも考えられるが可能性は低いだろう。近世の遺物が出土。

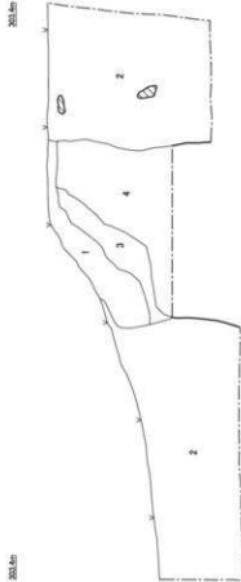
4層:明褐色粘質土(7.5YR 5/8) しまり強、粘性有り。

遺物はなし。地山層。3層に比べると花崗岩風化土(長石、石英粒)を多く含む。



図 95 3区の土層 2 (1/60)

試掘坑5 北壁土層



- 1層 黄褐色土(10YR 4/1, 10YR 5/1) 基土
近世、近代植生の堆積物。土壌腐殖化合せ。
2層 黄褐色花崗岩風化土(2.5Y 4/2) 棕色粘土質土(7.5YR 6/8) 明顯灰色花崗岩風化土(7.5YR 7/1)などが混在する。
3層 黄褐色花崗岩風化土(2.5Y 4/2) 棕色粘土質土(7.5YR 6/8) と黑色粘土質土(5YR 6/2)が混在する。
4層 黄褐色花崗岩風化土(10YR 7/6) 4箇所地山崩に盛り立たる上部に現存。
5層 黄褐色花崗岩風化土(10YR 8/4) 地山崩
近世から近代植生によるものに覆われている。

試掘坑6 北壁土層



- 1層 黄褐色土(7.5YR 7/8) に明顯黄色粘土(10YR 6/3)と褐色粘土(7.5YR 5/1)が斑状に入る。しまり感、粘性を有する。
改修作業による植生上、巣穴壁。近世、近現代の墓石や瓦、骨なども見られる。
2層 黄褐色土(7.5YR 4/1) やや土っぽい。粘性を有する。
3層 に於ける明顯花崗岩風化土(10YR 6/3) しかし、粘性がない。
改修作業による植生の痕跡。墓石、近世墓の跡方で堆積物を含む。近世墓の跡方に改修作業による堆積みが認められる。
4層 に於ける明顯花崗岩風化土(10YR 7/4) やや土っぽい。地山崩。近世墓はこの層を礫層として営まれる。

図 96 3区の土層 3 (1/60)

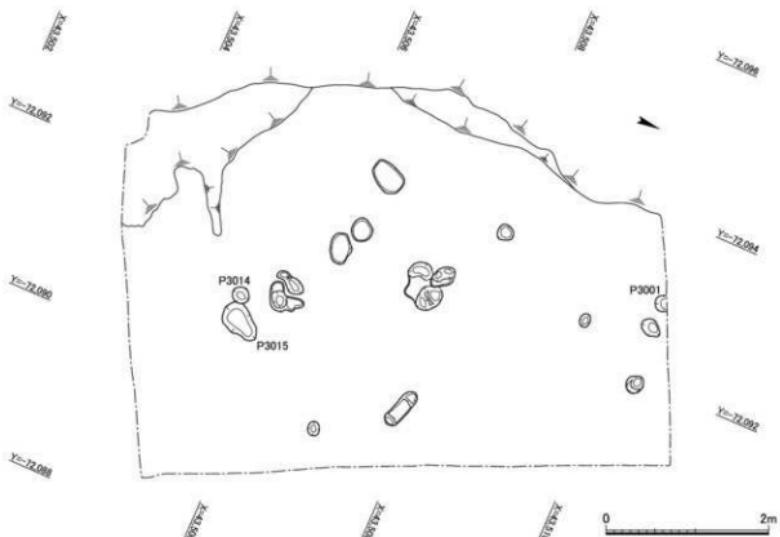


図 97 3区試掘坑8の遺構分布 (1/60)

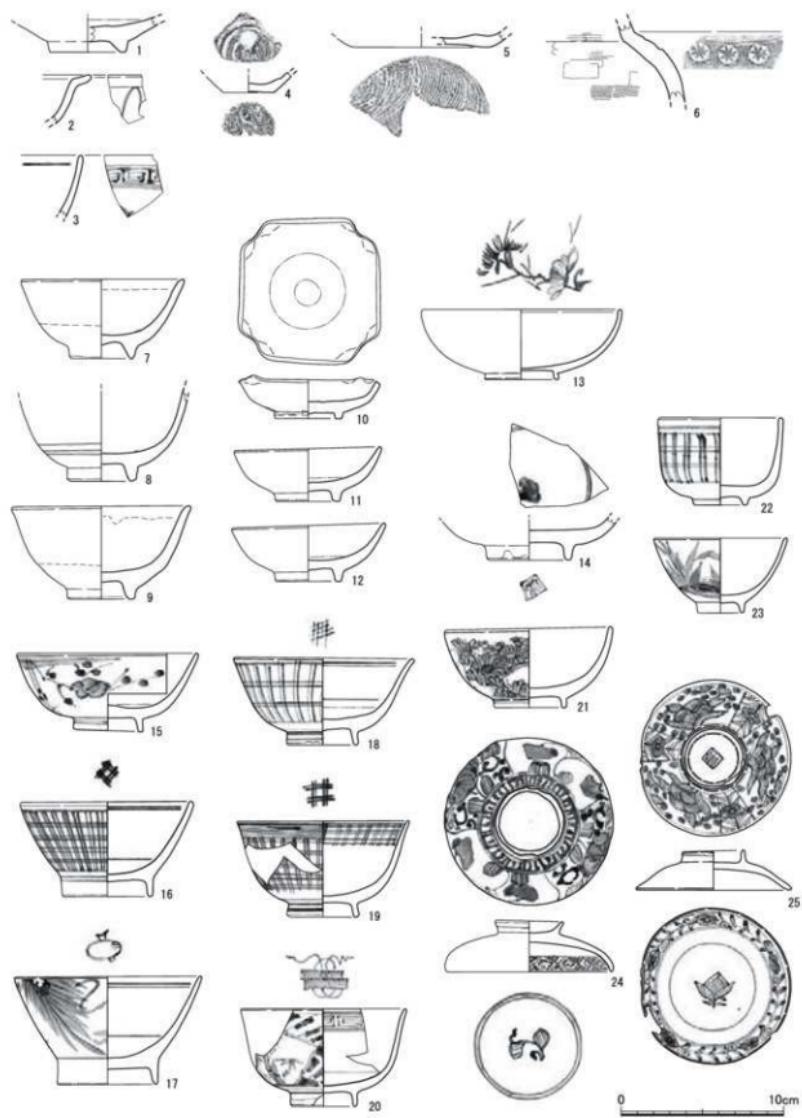


図 98 3区中世・近世の遺物 (1/3)

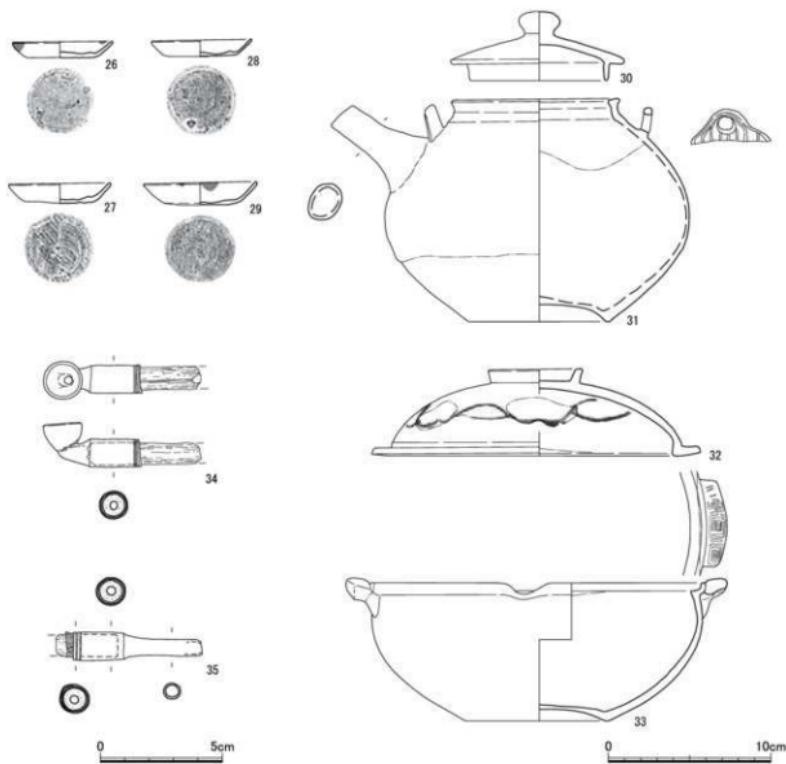


図 99 3 区近世の遺物 (1/3 + 1/2)

表 8 畠瀬城跡 3 区の出土遺物

件名、番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	高さ			
W98-1 09003697	試掘坑3 4層	白磁 碗	-	4.6*	-	胎土：白	内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 53-1 20101898
W98-2 09004582	P3001	青磁 皿	-	-	-	胎土：灰白	竜皇窯系	写真図版 53-2 20101871
W98-3 09004594	試掘坑3 4層	青花 碗	-	-	-	胎土：白	施釉鉄斑系	写真図版 53-3 20101873
W98-4 09004581	P3014	土器部 小皿	-	3.1	-	に赤い模様	底部角切	写真図版 53-4 20101870
W98-5 09003698	P3015	土器部 杯	-	8.6*	-	に赤い模様	底部角切	写真図版 53-5 20101872
W98-6 09003699	試掘坑1 5層	直径土器 茶碗	-	-	-	に赤い模様		写真図版 53-6 20101873
W98-7 09004577	試掘坑7 1層	陶器 碗	10.0	4.0	4.9	胎土：に赤い赤褐色		写真図版 53-7 20101885
W98-8 09004578	試掘坑7 1層	陶器 碗	-	4.3	-	胎土：浅黄褐色		写真図版 53-8 20101886
W98-9 09003696	試掘坑7 3層	陶器 皿	11.1	4.2	5.7	胎土：灰		写真図版 53-9 20101878
W98-10 09004583	試掘坑5 2層	陶器 皿	9.0	4.1	2.6	胎土：に赤い赤褐色	内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 53-10 20101887
W98-11 09004576	試掘坑7 3層	陶器 皿	9.1	4.0	3.3	胎土：に赤い赤褐色	内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 53-11 20101884
W98-12 09004575	試掘坑5 1層	陶器 皿	9.5	4.1	3.4	胎土：に赤い赤褐色	内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 53-12 20101883
W98-13 09004591	試掘坑5 2層	陶器 皿	12.4*	4.6	4.3	胎土：灰白		写真図版 53-13 20101893
W98-14 09004590	試掘坑6 1層	青磁樂付 碗	-	5.2*	-	胎土：白	樂付	写真図版 53-14 20101876
W98-15 09004586	試掘坑7 3層	染付磁器 皿	11.2	4.3	4.8	胎土：灰白	肥前	写真図版 53-15 20101890
W98-16 09004589	試掘坑5 2層	染付磁器 皿	10.7	5.8	5.6	胎土：灰白	肥前	写真図版 53-16 20101892
W98-17 09004593	試掘坑7 1層	染付磁器 皿	11.1	6.2	6.7	胎土：白	肥前	写真図版 53-17 20101895
W98-18 09004587	試掘坑5 1層	染付磁器 皿	10.1	4.4	5.4	胎土：灰白	肥前 内面蛇の目軸剥ぎ	写真図版 53-18 20101891
W98-19 09004596	試掘坑4 5層	染付磁器 皿	10.6	4.5	5.9	胎土：灰白	肥前	写真図版 53-19 20101897
W98-20 09004584	試掘坑6 1層	染付磁器 皿	10.2*	3.8*	6.0	胎土：白	肥前	写真図版 53-20 20101888
W98-21 09004595	試掘坑5 2層	染付磁器 皿	10.3	4.5	4.9	胎土：白	肥前	写真図版 53-21 20101896
W98-22 09004585	試掘坑7 1層	染付磁器 皿	7.7*	3.3	5.4	胎土：灰白	肥前	写真図版 53-22 20101889
W98-23 09004592	試掘坑8 2層	染付磁器 小皿	8.2*	2.9	4.6	胎土：白	肥前	写真図版 53-23 20101894
W98-24 09004597	試掘坑5 2層	染付磁器 皿	10.4	4.2	3.2	胎土：灰白	肥前	写真図版 53-24 20101900
W98-25 09004588	試掘坑7 3層	染付磁器 皿	9.6	3.8	2.4	胎土：白	肥前	写真図版 53-25 20101889
W98-26 09003700	試掘坑5 1層	土器部 小皿	6.1	4.1	1.0	模様付	底部角切 油墨付着	写真図版 53-26 20101879
W98-27 09004572	試掘坑5 3層	土器部 小皿	6.2	4.2	1.2	に赤い模様	底部角切	写真図版 53-27 20101880
W98-28 09004573	試掘坑4 1層	土器部 小皿	6.2	4.4	1.0	に赤い模様	底部角切	写真図版 53-28 20101881
W98-29 09004574	試掘坑4 1層	土器部 小皿	6.9	4.4	1.4	浅黄褐色	底部角切 油墨付着	写真図版 53-29 20101882
W98-30 09003694	試掘坑7 3層	陶器 土器部	8.6	-	4.2	胎土：灰白		写真図版 53-30 20101904
W98-31 09003695	試掘坑7 3層	陶器 土器	10.4	8.8	13.7	胎土：灰白	外面保付着	写真図版 53-31 20101902
W98-32 09003692	試掘坑6 1層	陶器 行楽圖	20.2	-	5.3	胎土：浅黄褐色		写真図版 53-32 20101903
W98-33 09003693	試掘坑6 1層	陶器 行楽圖	21.0	9.2	8.8	胎土：浅黄褐色	外面保付着	写真図版 53-33 20101901
W98-34 09004579	試掘坑4 1層	青磁樂付 キセル嘴付	長 4.0	粗 12	-	-		写真図版 53-34 20101874
W98-35 09004580	試掘坑4 1層	青磁樂付 キセル嘴口	長 5.2	粗 12	-	-		写真図版 53-35 20101875

3　まとめ

烟瀬城跡2・3区では、中世の城郭の調査を行なった。東烟瀬遺跡の調査成果を含め、神代勝利が隠居所として築いた烟瀬城の実態が明らかとなりつつある。ここでは、東烟瀬遺跡と合わせて烟瀬城全体について簡単にまとめておきたい。

この地区で、明確に山城として確認できるのは、烟瀬城跡1・3区と東烟瀬遺跡8A区である。このうち、立地や規模・構造などから標高約440mの山頂部、烟瀬城跡1区とその周辺に展開する山城（図100）が主要部とみられる。烟瀬城跡3区と東烟瀬遺跡8A区の山城は出城としての役割を持つもので、それぞれ東烟瀬遺跡6F区居館跡の北東と南西の防衛のためとみてよいであろう。明らかな遺構は確認できなかったが、烟瀬城跡2区は山頂部の山城と東烟瀬遺跡8A区の出丸の中間点にあたり、連絡道やそれに付随する何らかの簡易な施設があった可能性は残る。これらの山城群を有機的に関連するものとみれば、かなり大規模な城郭であることは明らかである。

永禄7（1564）年に神代勝利が烟瀬城を築いているが、神代氏の家臣として「烟瀬山城主烟瀬兵部少輔盛政」などの名が「神代家伝記」などの文献上にみられるため、勝利の烟瀬城以前にも何らかの城館が存在した可能性がある。ただ、近年の中世城館跡分布調査の成果によれば、在地領主のものと考えられる山城は規模・構造とも簡素なものが多いことが判明しており（図102）、東烟瀬地区で確認される山城とはやや異なる様相である（1）。勝利が築いたとされる谷田城や熊川城と比べると、山頂部の山城は規模・構造がやや劣っているが、築城からわずか1年で勝利が死亡していることから、整備する時間がなかったことが推測される。

これらのことから、やはり東烟瀬地区の一連の城郭は神代勝利が築いた烟瀬城である可能性が高い。烟瀬氏の城館については明らかにすることはできないが、烟瀬城跡3区で14～15世紀代とみられる資料（2・5）が出土していることから、戦国期以前から城郭があった可能性があり、これが烟瀬氏の詰城であったのかもしれない。烟瀬氏の居館については、烟瀬地区的発掘調査では確認できていない。ただ、東烟瀬遺跡8B区SB8011が出土遺物はないものの、柱材の放射性炭素年代で15世紀前半から中頃とされており、東烟瀬遺跡6区の調査では勝利の居館跡（6F区）で出土していない口縁外面に雷文帯をもつ青磁碗が出土していることなど、やはり15世紀代の資料もみられることから、東烟瀬地区にあった可能性がある。聞き取り調査によれば、東烟瀬遺跡6E区（6F区のすぐ下の段）を「ウエンタチ」と呼んでいたようで、下にも「タチ」があった可能性があり、示唆的である。

二つの出丸を比較すると、東烟瀬遺跡8A区に比べ烟瀬城跡3区の方が、規模も大きく、構造も複雑である。中世から近世の基幹道は8A区のすぐ北側を通っており、山城の構造からすると一見矛盾するように見える。ただ、佐賀からこの基幹道を進んでくれば、谷田城・熊川城・木山城などの既存の城郭があり、烟瀬まで進行することは困難である。それに比べ、南北方向は勝利の勢力範囲ともいえず、この方面からの敵の侵入に対する防御をより厳戒にしていた可能性がある。天正元（1573）年に龍造寺隆信が神代長良とともに浜玉の草野氏を攻めた際には、小城岩蔵から石台越えをして市川に入っていることが一次史料から判明しており、永禄7年の段階ですでに隆信は千葉氏を掌握しているので、古湯方面からの隆信の侵入は十分に予想されることであろう。このような状況が8A区と3区の差異に表れている可能性がある。

このようなことから、神代勝利が隠居所として築いた烟瀬城は戦略的にも龍造寺氏との境界線上にある重要な位置を占めており、規模からみても単なる「楽隱居」をする目的で城を築いたわけではなさそうである。戦国大名は、織田信長・豊臣秀吉などに代表されるように家督は譲るが火種は握って、気楽な立場で政治を行なうことがよくみられ、龍造寺隆信もまた白石町須古城に隠居している。勝利も同じく隠居という立場で、新しい行動を起こそうとしていたのかもしれない。烟瀬地区は勝利の勢力範囲でも南西端に当たり、平野部で勢力を確実に伸ばしつつあった隆信への防御とする目的もあったかもしれない、また勝利自身も西方への勢力拡大を意図していたのかもしれない。

これまで山内の戦国時代の様相は不明な点が多くたが、嘉瀬川ダムに伴う一連の発掘調査や中近世城館跡分布調査などで徐々にその内容が明らかになりつつある。これらの成果は単に脊振山地内の特徴を明らかにするだけではなく、不明な点が多くた中世の山岳地域での様相を知る上で重要なものになろう。

注

- 1) 山城の評議会中近世城館跡分布調査の成果などについて宮武正登氏から数多くの御教示を頂き、図 100～102 の補圖についても、本書への掲載にあたり快諾していただいた。

第 4 章参考・引用文献

- 小野正敏 (1982) 「15、16 世紀の染付碗、磁の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会
九州伝世陶磁学会 (2000) 「九州陶磁の編年」
佐賀県教育委員会 (2007) 「東鍋瀬遺跡 I・大野遺跡」佐賀県文化財調査報告書第 170 集
佐賀県教育委員会 (2008) 「西鍋瀬遺跡 I」佐賀県文化財調査報告書第 176 集
佐賀市史編さん委員会 (1977) 「佐賀市史」第 1 卷佐賀市
瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城乳磨・安斎開允・松原哲志 (2007) 「沖縄における貿易陶磁研究」「沖縄理文研究」5 沖縄県立埋蔵文化財センター
全国神代ゆかりの会 (1980) 「神代家伝記」「神代家とその一族」1 号
太宰府市教育委員会 (2000) 「太宰府築跡 XV—陶磁器分類編—」太宰府市の文化財第 49 集
池木直紹 (1990) 「肥前ににおける中世後期の在地土器」「中近世土器の基礎研究 VI」日本中世土器研究会
富士町教育委員会 (2005) 「須崎城跡」富士町文化財調査報告書第 4 集
富士町史編さん委員会 (2000) 「富士町史」上巻富士町
三瀬村史編さん委員会 (1977) 「三瀬村誌」三瀬村公民館
山本信夫 (1990) 「統計上の土器—歴史時代土器の編年研究によせて—」『九州上代文化論集』乙益重隆先生古稀記念論文集刊行会

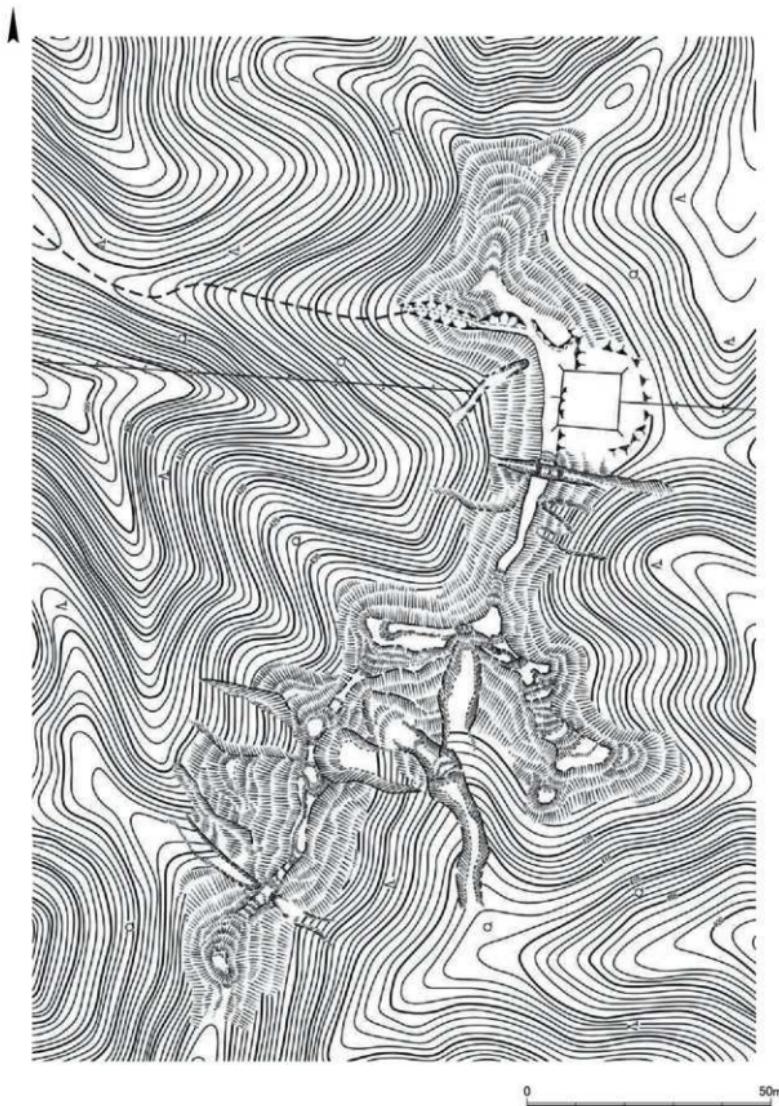
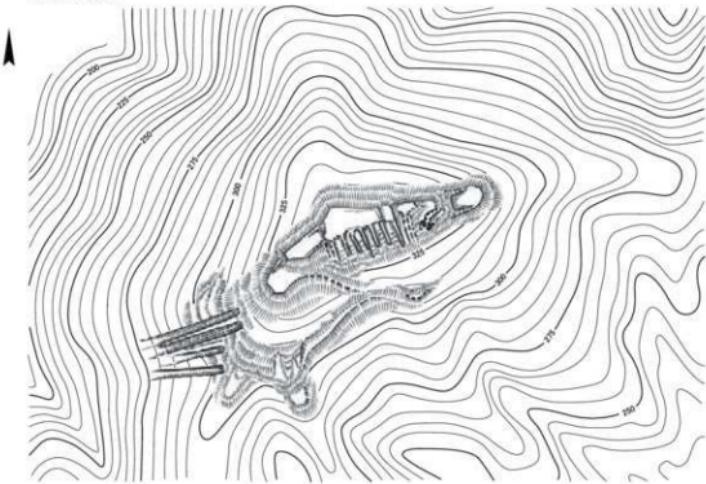


図100 煙瀬城跡（山頂部）縹張り図（1/1,000）

熊の川城跡



谷田城跡

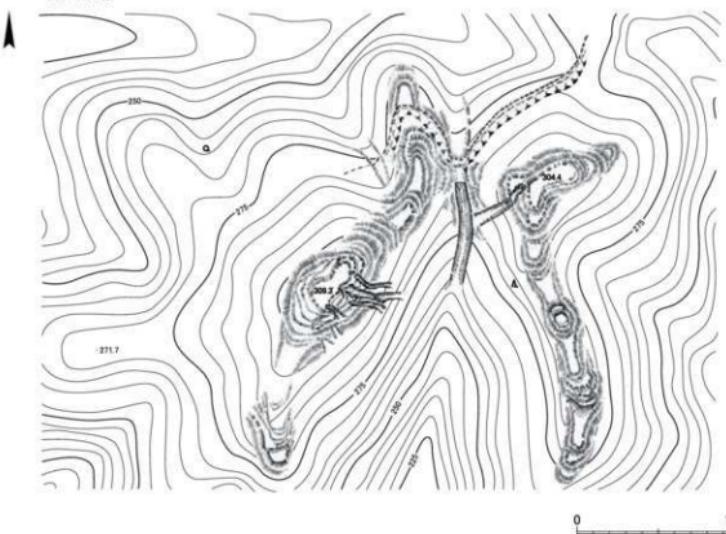
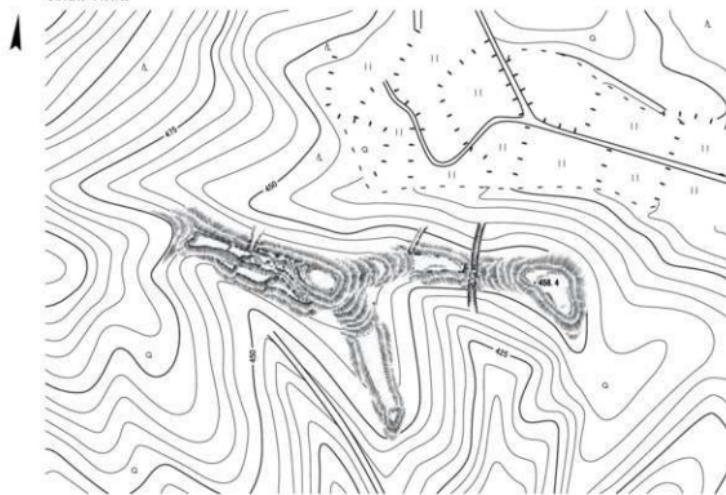


図 101 谷田城跡・熊の川城跡縦張り図 (1/3,000)

合瀬山城跡



菖蒲山城跡



図102 合瀬山城跡・菖蒲山城跡補張り図 (1/3,000)

第5章 自然科学分析

1 東畠瀬遺跡出土木製品の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

1)はじめに

佐賀県佐賀市東畠瀬遺跡の戦国時代の城館跡から検出された柱材 10 点と加工木 1 点の樹種同定結果を報告する。なお、仮 200704・仮 200706・仮 200708・仮 200709・仮 200711 の 5 点について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定が実施されている（本章 2 参照）。

2) 試料と方法

柱材は、城館跡の主殿と考えられる SB6222 挖立柱建物から検出された 4 点、SB6222 より新しい SB6221 挖立柱建物の 5 点、SB8011 の 1 点である。加工木 1 点は、SB6222 の柱穴 PA から出土したものである。

同定は材の 3 方向（横断面・接線断面・放射断面）の薄い切片を、剃刀を用いて剥ぎ取り、スライドガラスに並べ、ガムクロールで封入し、永久プレパラート（材組織標本）を作成した。この材組織標本を、光学顕微鏡で 40 ~ 400 倍に拡大し観察した。

材組織標本は、パレオ・ラボに保管されている。

3) 結果

表 8 に各試料の同定結果を示した。

SB6222 の柱材 4 点はアカマツ 1 点・マツ属複雜管束亞属 2 点・シイノキ属 1 点、加工木 1 点はシイノキ属であった。

SB6221 の柱材 5 点はクリ 3 点、シイノキ属 2 点であった。

SB8011 の柱材 1 点はシイノキ属であった。

表 9 東畠瀬遺跡出土柱材の樹種同定結果一覧

試料番号	地区	出土位置	樹種	組織	木取り	時期	年代測定	備考
仮 200701	6F 区	SB6222_PA	シイノキ属	柱材	芯丸木	戰国時代		
仮 200704	6F 区	SB6222_PG	マツ属複雜管束亞属	柱材	芯丸木	戰国時代	PLD-7282	
仮 200705	6F 区	SB6222_PH	アカマツ	柱材	芯丸木	戰国時代		
仮 200706	6F 区	SB6222_PL	マツ属複雜管束亞属	柱材	芯丸木	戰国時代	PLD-7283	
仮 200707	6F 区	SB6222_PA	シイノキ属	加工木	みかん割り	戰国時代		鶴居か
仮 200708	6F 区	SB6221_PA	クリ	柱材	芯丸木	戰国時代	PLD-7284	一部削皮残存
仮 200702	6F 区	SB6221_PB	シイノキ属	柱材	芯丸木	戰国時代		
仮 200703	6F 区	SB6221_PC	シイノキ属	柱材	芯丸木	戰国時代		
仮 200709	6F 区	SB6221_PF	クリ	柱材	芯丸木	戰国時代	PLD-7285	削皮残存
仮 200710	6F 区	SB6221_PG	クリ	柱材	芯丸木	戰国時代		一部削皮残存・崩落
仮 200711	8B 区	SB8011_PA	シイノキ属	柱材	芯丸木	戰国時代	PLD-7286	削皮残存

樹種記載

(1) アカマツ *Pinus densiflora Siebold et Zucc.* マツ科 写真図版 5-1 1a-1c (仮 200705)

垂直と水平の樹脂道がある針葉樹材。分野壁孔は横状、上下端に放射状道管がありその内壁に剥離状肥厚が顯著である。

(2) マツ属複雜管束亞属 *Pinus subgen. Diploxylon*

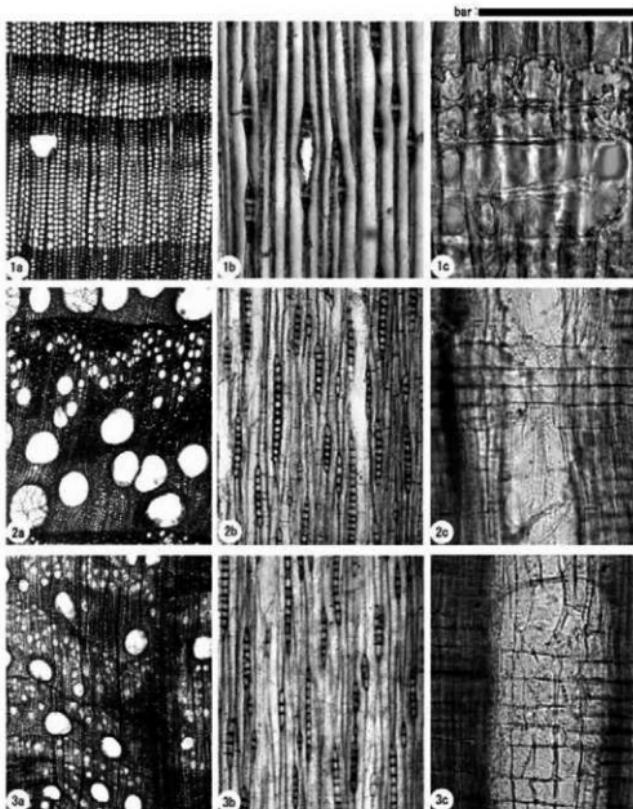
マツ属の材で放射柔細胞の内壁は肥厚していることから複雜管束亞属であるが、細胞壁が腐朽していることもあり、アカマツとクロマツの識別ができなかった試料である。

(3) クリ *Castanea crenata Siebold et Zucc.* ブナ科 写真図版 5-1 2a-2c (仮 200708)

年輪の前に大型の管孔が配列し隣となり枝を減じゆき、木材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交叉状、穿孔は単穿孔である。放射組織は單列同心性、道管との壁孔は孔口が大きく交叉状である。

(4) シイノキ属 *Castanopsis* ブナ科 写真図版 5-1 3a-3c (仮 200711)

年輪の前に中型の管孔が間隔を開けて配列し、その後は急または中型管孔が数層放射方向に配列し、晚材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交叉状、穿孔は単穿孔である。放射組織は單列同心性、道管との壁孔は孔口が大きく交叉状である。



図版1 東畠瀬遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真

1a-1c: アカマツ(仮200705) 2a-2c: クリ(仮200708) 3a-3c: シイノキ属(仮200711)
a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面 bar:a=1.0mm, b=0.4mm, c=0.2mm.

4) 考察

戦国時代の城館跡から検出された掘立柱建物3軒の柱材10点からは、アカマツ(1点)・マツ属複雑管束亞属(2点)・クリ(3点)・シイノキ属(4点)が同定された。建物ごとに樹種構成を見ると、城館跡の主殿と考えられるSB6222ではアカマツとマツ属複雑管束亞属が多かった。SB6222より新しいSB6221掘立柱建物は、クリとシイノキ属であり、同定試料中にマツ属はなかった。また、年代測定を実施した試料中で最も値が古いSB8011の仮200711は、シイノキ属であった。シイノキ属は当地域の自然植生である照葉樹林の主要な構成樹種である。一方、アカマツやマツ属複雑管束亞属は、二次林の主要樹種である。したがって、古い建物にはシイノキ属を使用していたが、時期が新しくなるに従い森林伐採の影響で拡大した二次林要素のマツ属の利用が増加した可能性が考えられる。

2 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

佐々木由香・小林穂一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹

瀬谷薫・Zaur Lomtadze・Inez Jorjoliani

1)はじめに

佐賀県佐賀市東畠瀬遺跡より検出された試料 5 点について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。試料の採取と観察は佐々木、試料調製は山形、瀬谷、Lomtadze、Jorjoliani が、測定は小林、丹生、伊藤が行い、本文は佐々木、伊藤が作成した。

2) 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 9 のとおりである。

試料は柱材から直接採取した。すべて生材で、木取りは芯持ち丸木である。試料は 6F 区から検出された SB6222 挖立柱建物の柱材が 2 点（仮 200704・仮 200706）、SB6221 挖立柱建物の柱材が 2 点（仮 200708・仮 200709）、8B 区から検出された SB8011 建物の柱材が 1 点（仮 200711）の計 5 点である。試料の採取部位は、最外年輪が 4 点、最外年輪ではないが樹皮に近い部分と思われる部位が 1 点である。また年代測定試料と同一試料で樹種同定が行われた（詳細は本章 1 参照）。想定年代は戦国時代で、SB6222 より SB6221 挖立柱建物の方が新しいとされている。遺跡内から出土している戦国時代の遺物は 16 世紀前半から中頃までのものが大部分で、16 世紀末以降のものはごく少量である。なお、遺構の性格として、SB6222 挖立柱建物は館の主殿と考えられている。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、曆年代を算出した。

表 10 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	処理	測定
PLD-7282	位置：6F 区 遺構：SB6222PG 遺物 No：仮 200704	試料の種類：生材（木材：マツ属複数個年輪） 試料の性状：最外年輪 状態：wet カビ：無	超音波煮沸洗浄 醸・アルカリ・醸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7283	位置：6F 区 遺構：SB6222PI 遺物 No：仮 200706	試料の種類：生材（木材：マツ属複数個年輪） 試料の性状：最外以外皮に近い部分を採取 状態：wet カビ：無	超音波煮沸洗浄 醸・アルカリ・醸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7284	位置：6F 区 遺構：SB6221PA 遺物 No：仮 200708	試料の種類：生材（木材：クリ） 試料の性状：最外年輪 状態：wet カビ：無	超音波煮沸洗浄 醸・アルカリ・醸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7285	位置：6F 区 遺構：SB6221PF 遺物 No：仮 200709	試料の種類：生材（木材：クリ） 試料の性状：最外年輪 状態：wet カビ：無	超音波煮沸洗浄 醸・アルカリ・醸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7286	位置：8B 区 遺構：SB8011PA 遺物 No：仮 200711	試料の種類：生材（木材：シノノキ） 試料の性状：最外年輪 状態：wet カビ：無	超音波煮沸洗浄 醸・アルカリ・醸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH

3) 結果

表 10 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行い、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を曆年代に較正した年代範囲、曆年較正に用いた年代値を、図 5-1 に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後曆年

較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて曆年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1 \sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示すものである。

なお、曆年較正の詳細は以下の通りである。

曆年較正

曆年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年)を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の曆年較正には OxCal3.10 (較正曲線データ: INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 曆年範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の曆年範囲であり、同様に 2σ 曆年範囲は 95.4% 信頼限界の曆年範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に曆年が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。それぞれの曆年範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表 11 放射性炭素年代測定及び曆年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1 \sigma$)	^{14}C 年代を曆年年代に較正した年代範囲		曆年較正用年代 (yrBP $\pm 1 \sigma$)
			1σ 曆年範囲	2σ 曆年範囲	
PLD-7282	-29.29 \pm 0.15	350 \pm 20	1480AD(32.7%)1530AD 1570AD(35.5%)1630AD	1450AD(43.9%)1530AD 1540AD(51.5%)1640AD	352 \pm 22
PLD-7283	-29.86 \pm 0.33	315 \pm 25	1520AD(53.3%)1600AD 1620AD(14.7%)1640AD	1480AD(95.4%)1650AD	316 \pm 23
PLD-7284	-30.37 \pm 0.20	370 \pm 20	1460AD(49.0%)1520AD 1590AD(19.2%)1620AD	1450AD(58.2%)1530AD 1550AD(37.2%)1640AD	368 \pm 22
PLD-7285	-33.68 \pm 0.45	350 \pm 25	1480AD(28.9%)1530AD 1550AD(39.3%)1630AD	1450AD(65.4%)1640AD	350 \pm 27
PLD-7286	-28.36 \pm 0.14	450 \pm 20	1430AD(68.2%)1450AD	1420AD(95.4%)1465AD	448 \pm 21

4) 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び曆年較正を行った。得られた曆年範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

SB6222 据立柱建物 PG から出土した柱材（仮 200704、PLD-7282）の曆年較正年代は、 2σ (95.4%) の確率で 1540–1640calAD (51.5%)、1450–1530calAD (43.9%) の年代範囲であった。同 PI から出土した柱材（仮 200706、PLD-7283）は、 2σ の確率で 1480–1650calAD (95.4%) の年代範囲であった。双方とも 15 世紀中頃から 17 世紀中頃の年代範囲に含まれる。

SB6221 据立柱建物 PA から出土した柱材（仮 200708、PLD-7284）の曆年較正年代は、 2σ の確率で 1450–1530calAD (58.2%)、1550–1640calAD (37.2%) の年代範囲であった。同 PF から出土した柱材（仮 200709、PLD-7285）は、 2σ の確率で 1450–1640calAD (95.4%) の年代範囲であった。双方とも 15 世紀中頃から 17 世紀中頃の年代範囲に含まれる。

SB8011 据立柱建物 PA から出土した柱材（仮 200711、PLD-7286）の曆年較正年代は、 2σ の確率で 1420–1465calAD (95.4%) であった。15 世紀前半から中頃の年代範囲に含まれる。

今回測定を行った部位は最外年輪または最外年輪近い部分であるので、測定結果は試料とした柱材の伐採年代を示していることになる。しかし、曆年較正曲線が 1450–1600calAD 前後では平坦であるため、この時期に含まれる ^{14}C

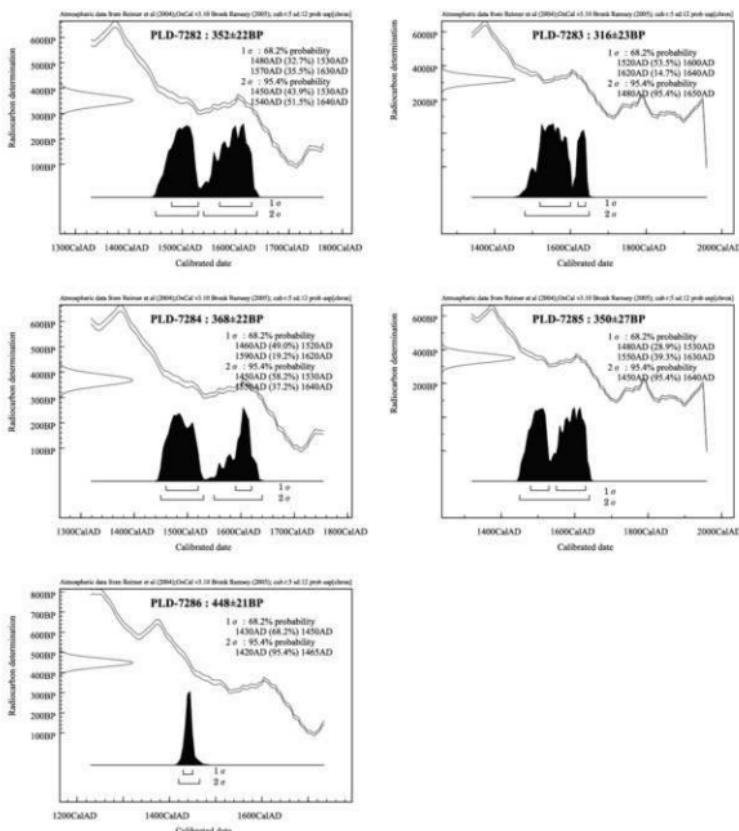


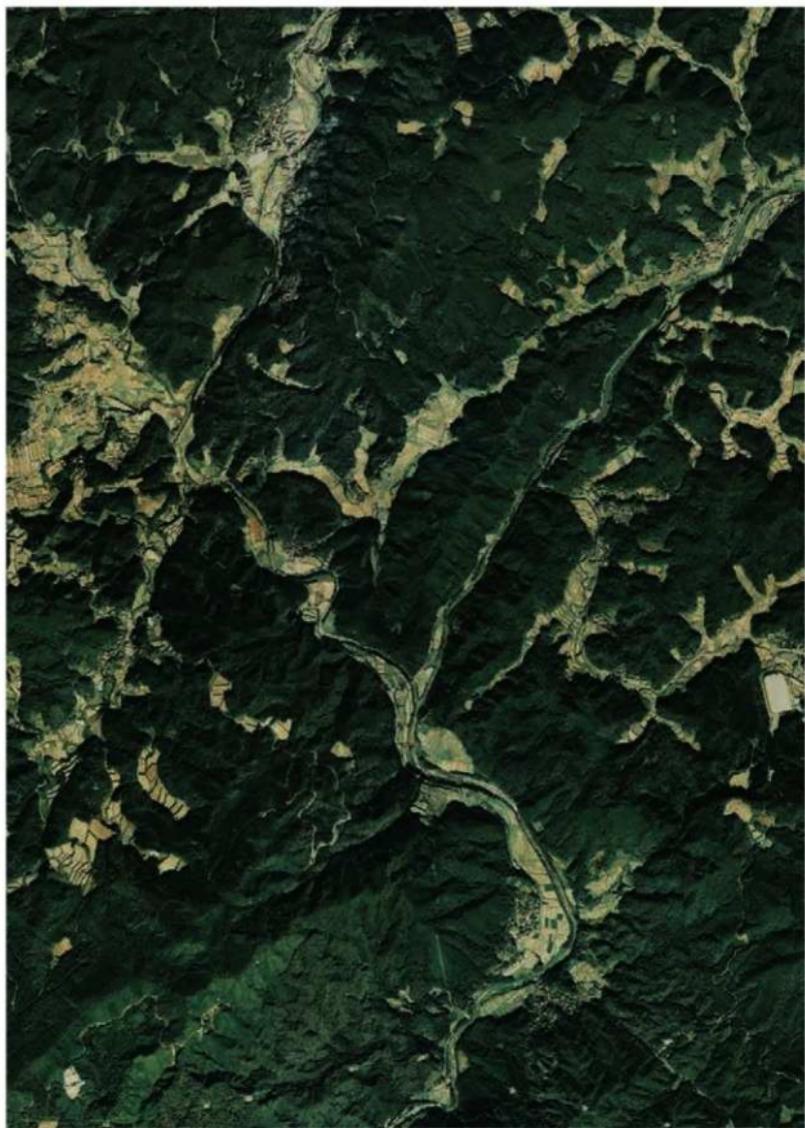
図 103 暦年較正結果

年代の暦年較正を行うと幅広い暦年代範囲となった。そのため SB6222 と SB6221 の時期はほぼ同じ年代範囲に含まれる。遺構の年代評価にあたっては、木材の伐採年代と柱としての機能年代の間に時間差がある可能性や、古木を再利用した可能性を考慮する必要がある。

参考文献

- Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. *Radiocarbon*, 37, 425–430.
 Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. *Radiocarbon*, 43, 355–363.
 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の1C年代, 3–20.
 Reimer PJ, MG L'Heureux, E Bard, JA Bayliss, JW Beck, J Bertrand, PG Blackwell, CB Burr, KBC Cutler, PED Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, MF Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, BK Kromer, JGM McCormac, SM Manning, Bronk Ramsey, RW Reimer, S Rasmussen, JR Southon, M Stuiver, ST Tilman, FW Taylor, J VandePlicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0–26 cal kyr BP. *Radiocarbon*, 46, 1029–1058.

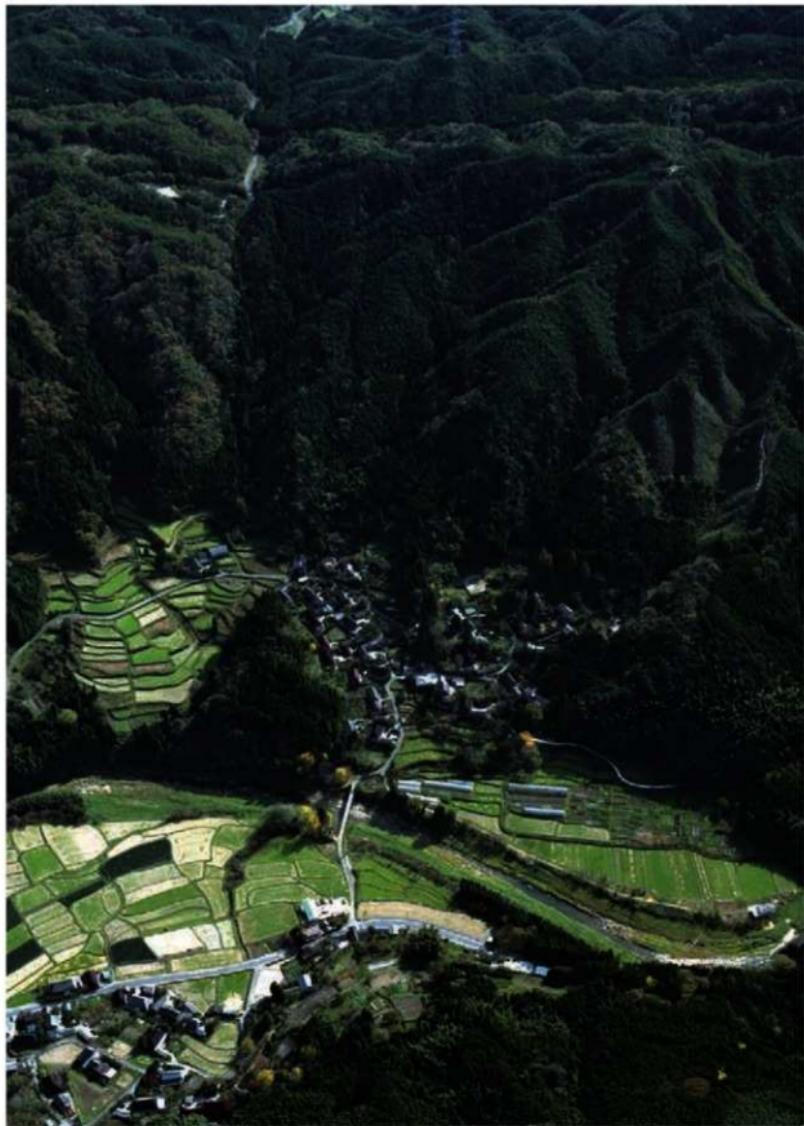
写真図版



嘉瀬川ダム予定地周辺(真俯瞰合成)

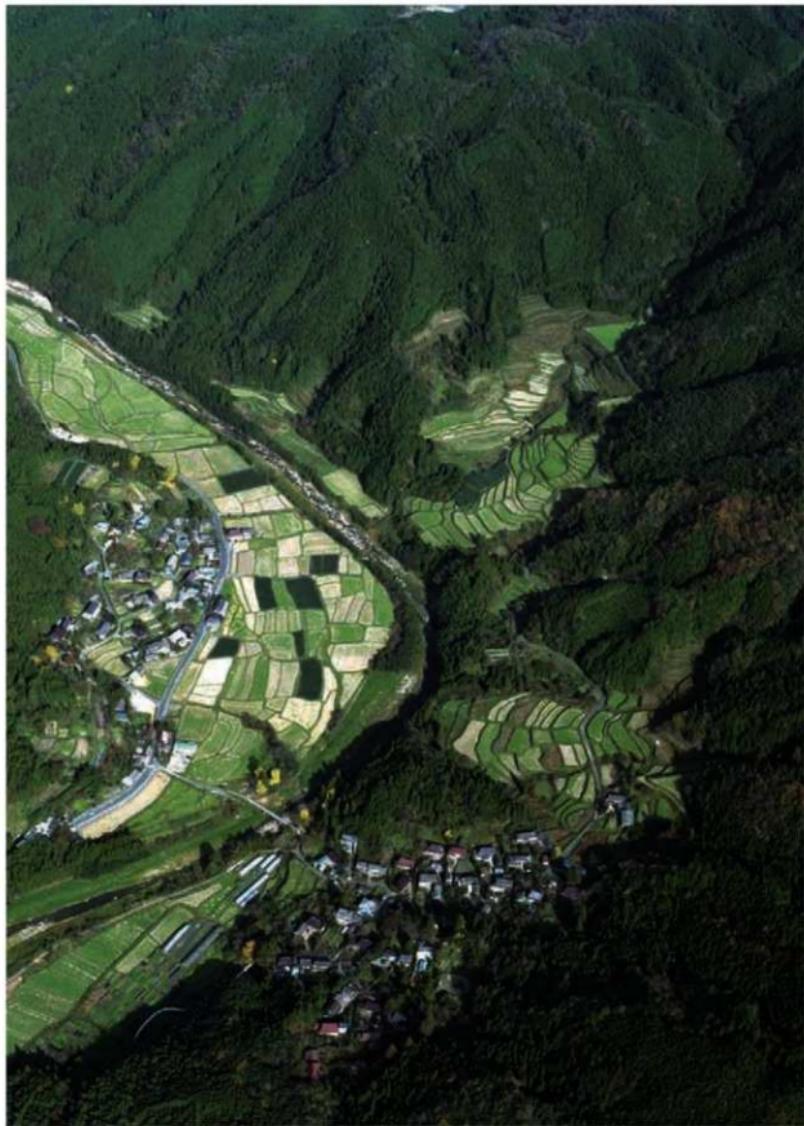
(平成4年10月撮影 嘉瀬川ダム工事事務所提供)

写真図版 2



東畠瀬遺跡中心部・畠瀬城跡遠景（西から）

（平成4年10月撮影 嘉瀬川ダム工事事務所提供）



東畠瀬遺跡全景(南から)

(平成4年10月撮影 嘉瀬川ダム工事事務所提供)

写真図版 4



2区 調査前遠景(西から)



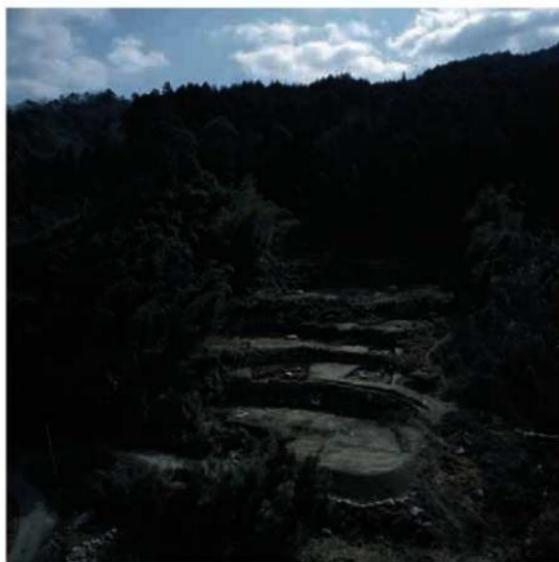
2区 調査状況(南から)



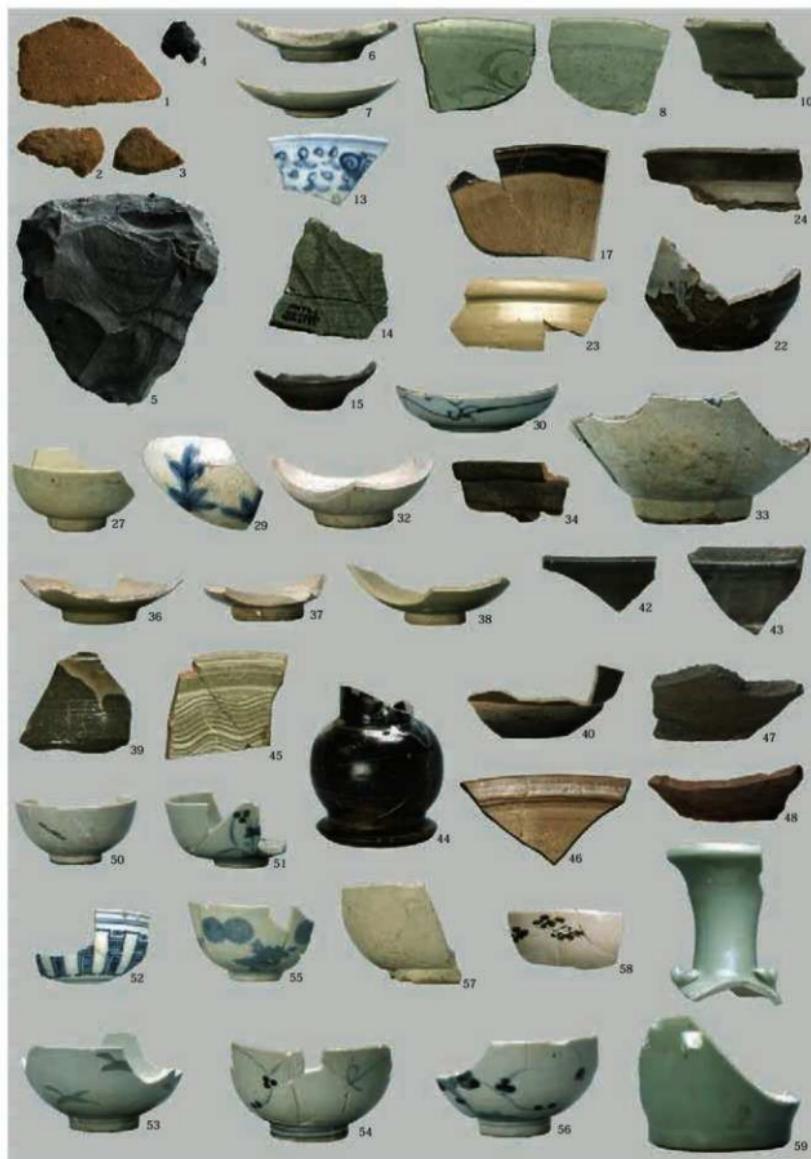
5区 石垣(9・10面)



5区 石垣(4面)

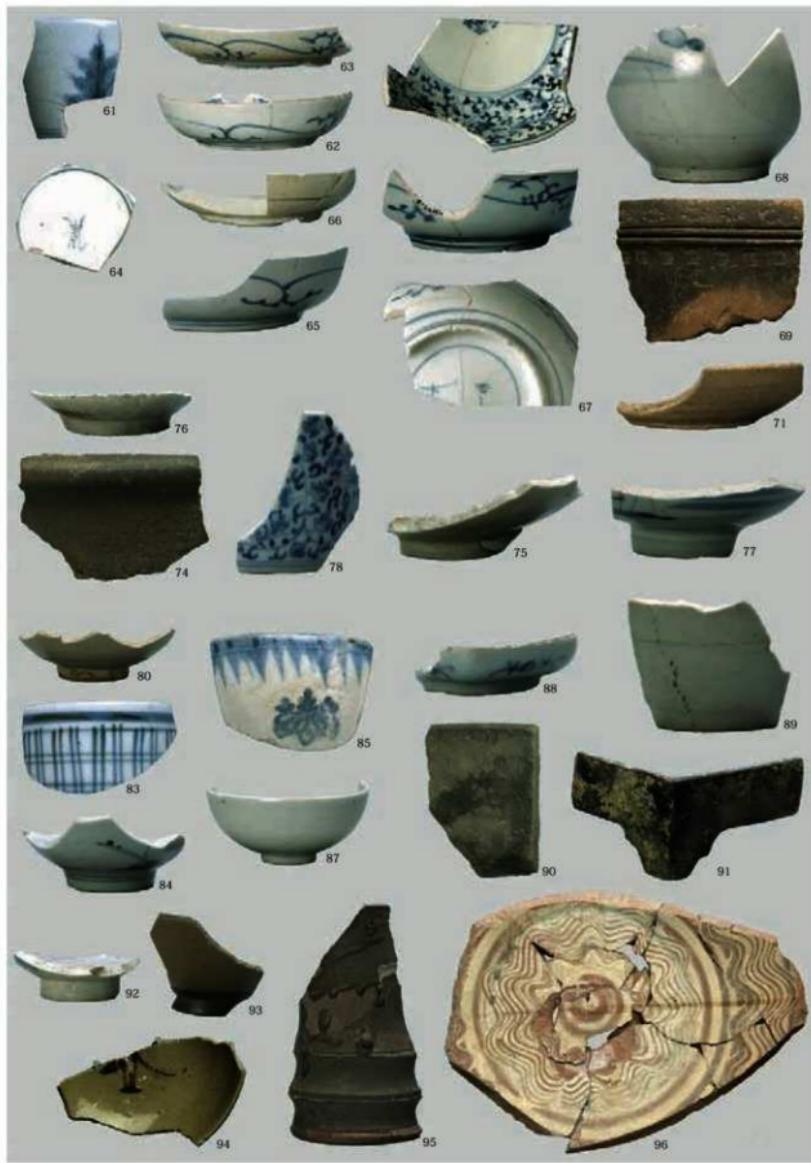


5区 全景(北西から)



2区出土遺物・5区出土遺物 1

写真図版 6



5区出土遺物 2



5区出土遺物 3

写真図版 8



6B 区上層 全景（南から）



6B 区下層 全景（南から）



6B 区下層 SX6035 條出状況（東から）



6B 区上層 SX6020 (南東から)



6B 区上層 SX6021 (南東から)



6B 区上層 SX6028 (南東から)



6B 区 土層 (北から)



6B 区下層 土層 (東から)



6B 区下層 SX6035 炭化物検出状況 (南西から)



6B 区下層 SX6035 完掘状況 (南西から)



6B 区下層 SX6035 壁面赤化状況 (東から)

写真図版 10



6B 区下層 SX6036 半掘状況（南西から）



6B 区下層 SX6103 遺物出土状況



6E 区 SX6201 (東から)



6E 区 SX6203 棚出状況（南東から）



6E 区 SX6203 土層（南東から）



6E 区 SX6203 完掘状況（南東から）



6E 区 SX6204 土層（北から）



6E 区 SX6204 完掘状況（北から）



Kita 区 全景 (南東から)



6E 区 SX6202 (南東から)



6E 区 SB6200 (東から)

写真図版 12



6C 区 全景（南から）



6D 区 全景（南から）



6H 区 SX6002 梢出状況（西から）



6H 区 SX6008 梢出状況



6H 区 SX6006 梢出状況（南西から）



6H 区 SX6006 炭化物梢出状況（南西から）



6H 区 SX6011（北から）



6H 区 完掘状況（東から）



6J区 全景 (南から)



6K区 石垣棟出状況 (南から)



6N区 全景 (南から)



6O区 全景 (南西から)



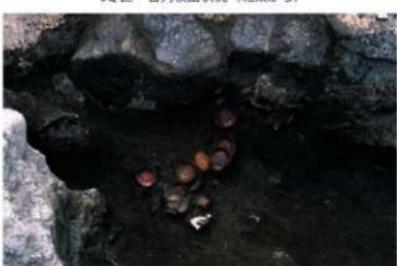
6P区 全景 (南西から)



6Q区 石列棟出状況 (北東から)

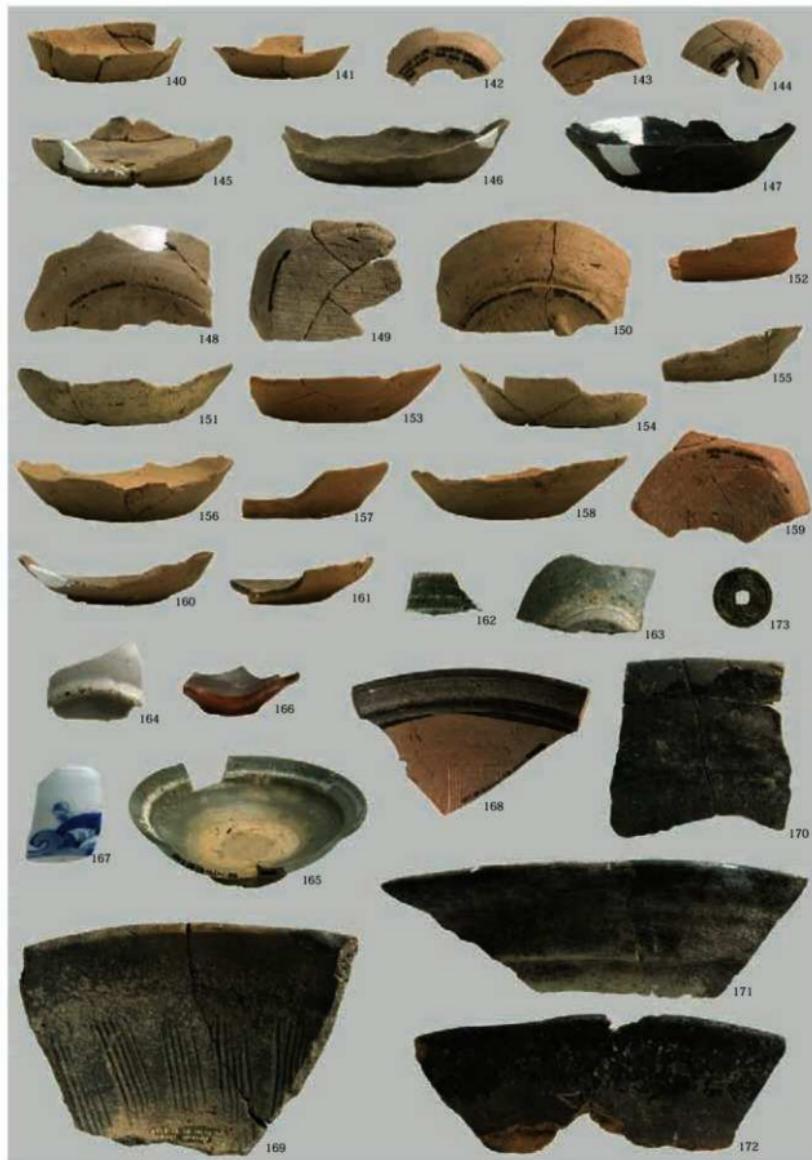


6Q区 遺物出土状況

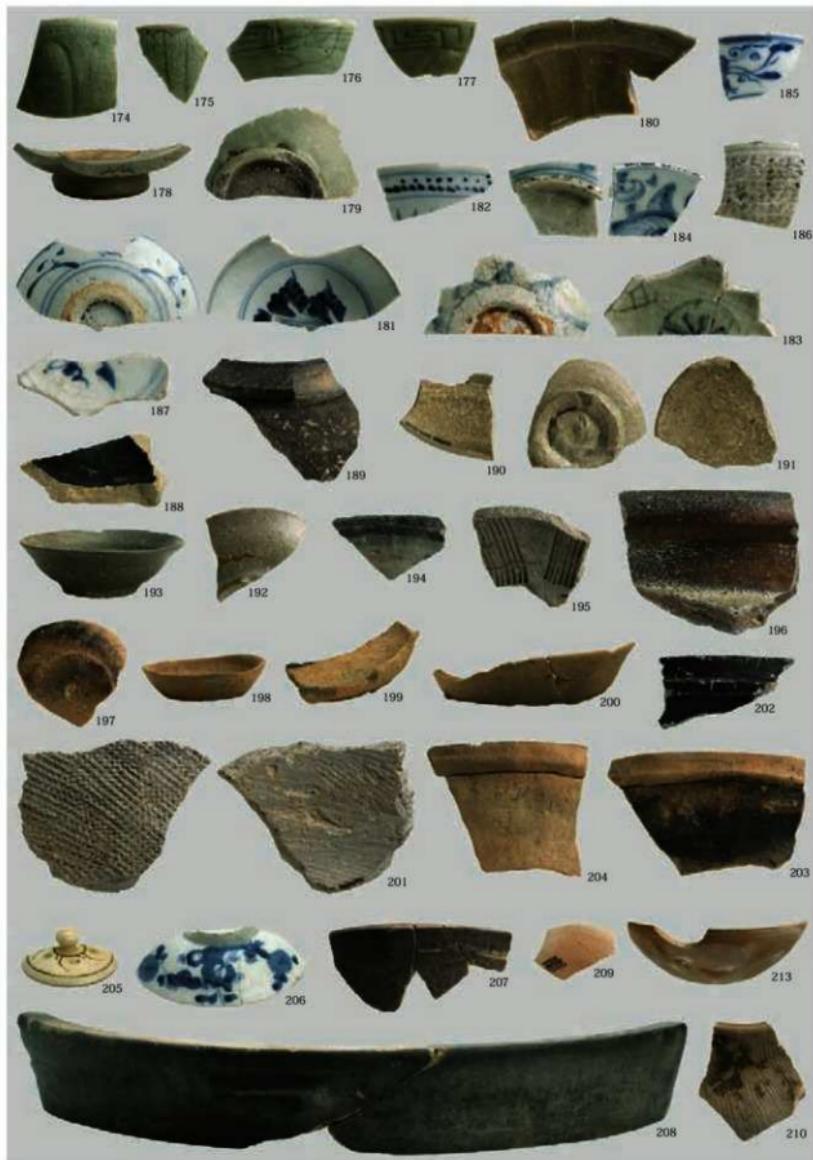


6Q区 遺物出土状況

写真図版 14

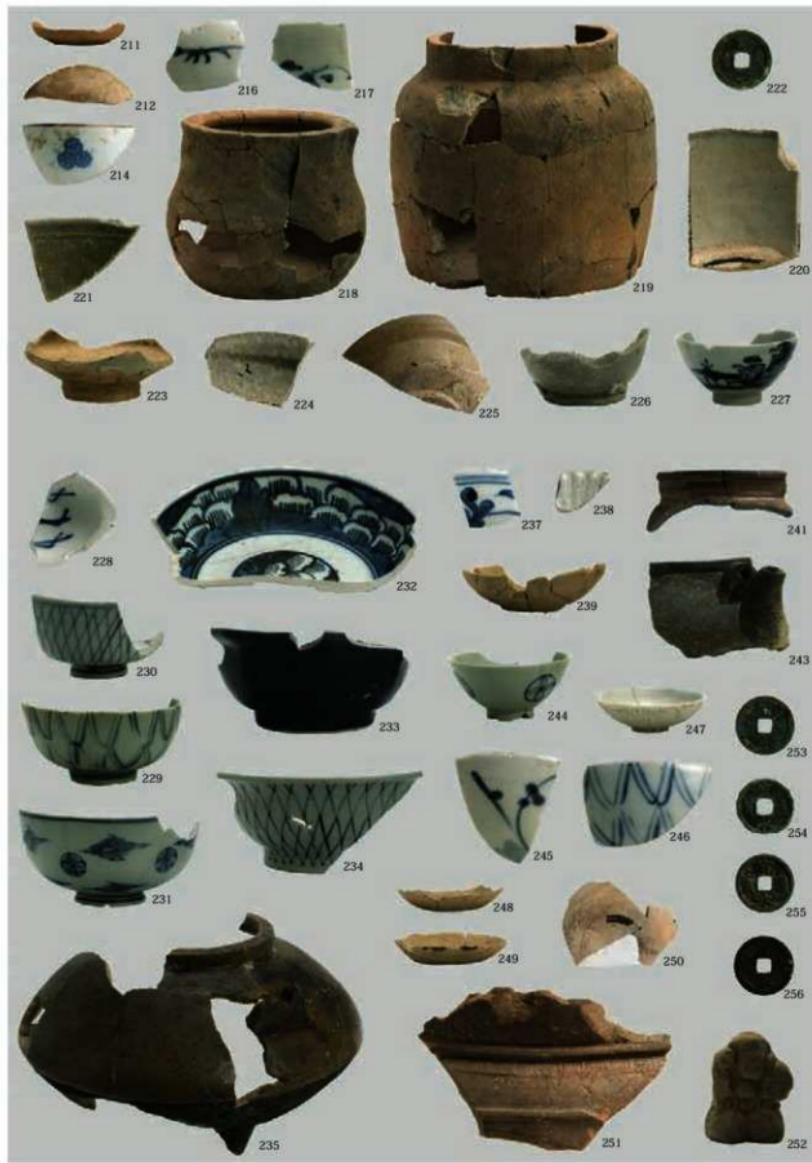


6区出土遺物 1



6区出土遗物 2

写真図版 16



6区出土遺物 3



6区出土遗物 4

写真図版 18

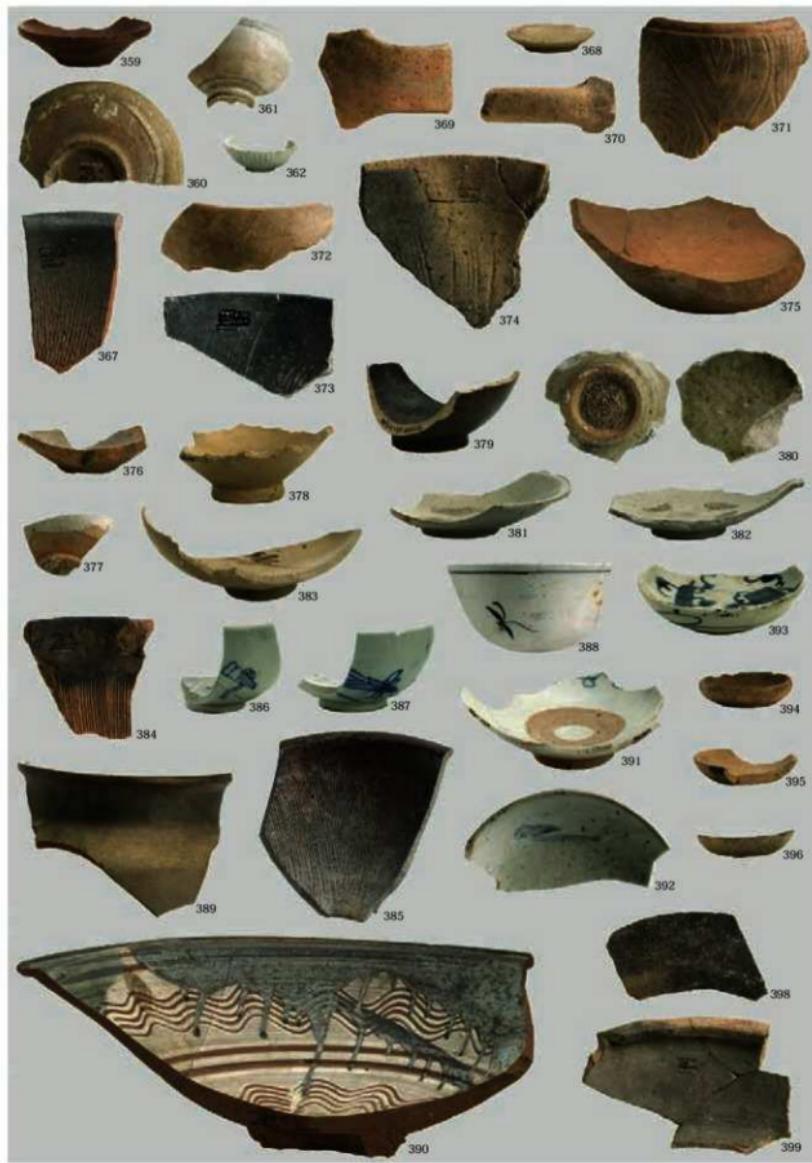


6区出土遺物 5



6区出土遗物 6

写真図版 20



6区出土遺物 7

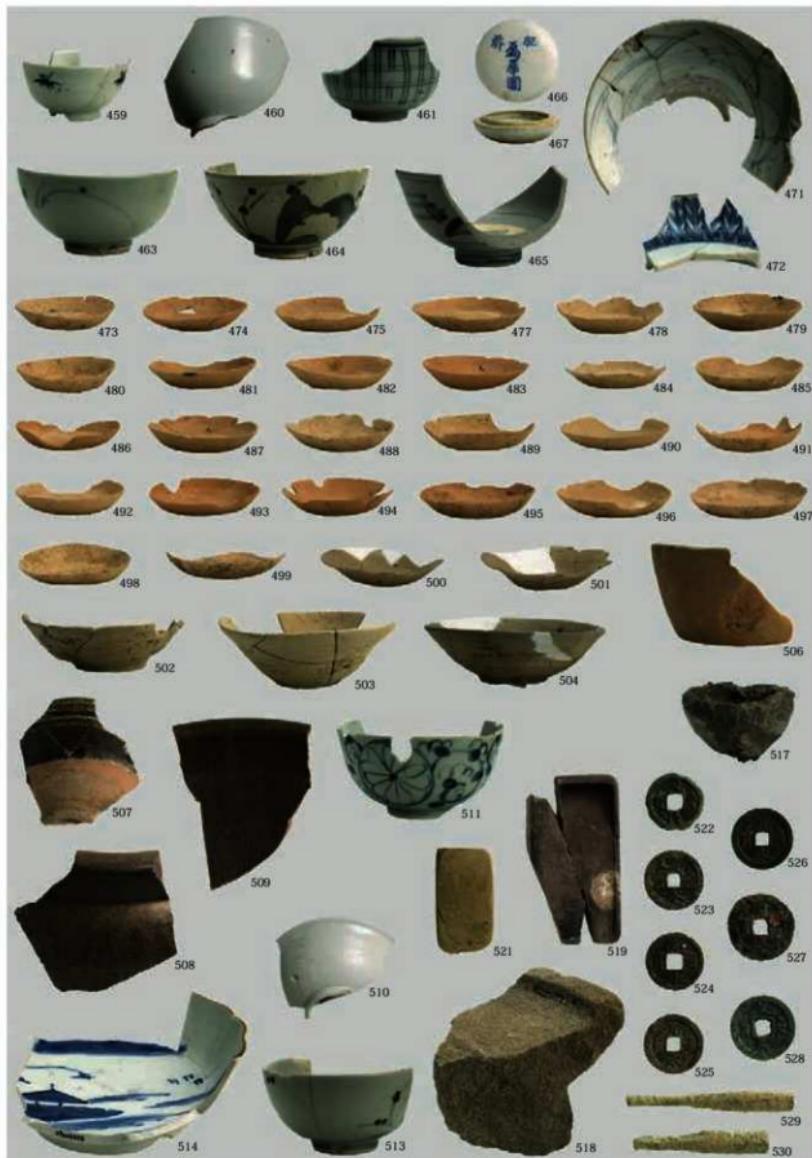


6区出土遺物 8

写真図版 22



6区出土遺物 9



6区出土遺物 10

写真図版 24



6F + 8区 遠景（北西から）



6F + 8A区 遠景（西から）



6F・8A 区 遠景（南東から）



6F 区 全景（東から）

写真図版 26



6F 区 表土除去後状況（北東から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（西から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 土層（南から）



6F 区 調査区北壁土層（南から）



6F 区 全景（北東から）



6F 区 SA6210 土層（南から）



6F 区 SA6210 焼土層検出状況（北西から）



6F 区 SA6210 土層（南から）



6F 区 SA6210 土層（南から）



6F 区 SA6210 土層（南から）



6F 区 SA6210 燃土層棲出状況（南から）



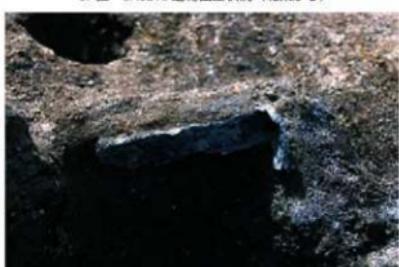
6F 区 SA6210 土層（北から）



6F 区 SA6210 遺物出土状況（北東から）



6F 区 SA6210 遺物出土状況（北東から）



6F 区 SA6210 青銅製飾金具出土状況（北東から）



6F 区 SB6216 (真上から)



6F 区 SB6220・SA6217 (真上から)



6F 区 SX6215 (南西から)



6F 区 SX6215 (南東から)



6F 区 SX6215 石加工痕 (北東から)



6F 区 SB6216PA (南東から)



6F 区 SB6218PE (北西から)



6F 区 SB6220PB (北東から)



6F 区 SB6220PD (北東から)



6F 区 SB6220PE (南西から)



6F 区 主要部全景（真上から）



6F 区 SB6221・6222（真上から）



6F 区 SB6222PG (東から)



6F 区 SB6222PH (南東から)



6F 区 SB6222PI (南西から)

写真図版 34



6F 区 SB6222PA (北西から)



6F 区 SB6222PI (北西から)



6F 区 SB6221+6222PF 土層 (西から)



6F 区 SB6221PA (北西から)



6F 区 SB6221PB (北西から)



6F 区 SB6221PC (北西から)



6F 区 SB6221PF (南東から)



6F 区 SB6221PG (南東から)



6F 区 SX6208 遺物出土状況（南から）



6F 区 SX6208（南から）



6F 区 SA6211（北東から）



6F 区 SA6211（北から）



6F 区 SA6211 柱穴検出状況（南東から）



6F 区 SA6211 柱痕跡層（北東から）



6F 区 近現代加工痕のある石材



6F 区 SX6229（西から）



8A 区 山城全景（北東から）



8A 区 山城全景（真上から）



8A 区 山城調査前状況（北東から）



8A 区 山城全景（北東から）



8A 区 主郭（南東から）

写真図版 38



8A 区 SB8003 柱穴（西から）



8A 区 SB8003 柱穴（東から）



8A 区 SX8006 掘切（南西から）



8A 区 c-d 土層（北東から）



8A 区 e-f 土層（東から）



8A 区 e-f 土層（南東から）



8A 区 尾根上の土層（南から）



8A 区 曲輪 4 土層（北西から）



8B 区 全景（北から）



8B 区 SB8011 (南西から)



8B 区 SB8011PA (南東から)

写真図版 40



6F 区 SX6207 (北西から)



6F 区 SX6207・SX6214 土層 (南東から)



6F 区 SX6212 半掘状況 (北東から)



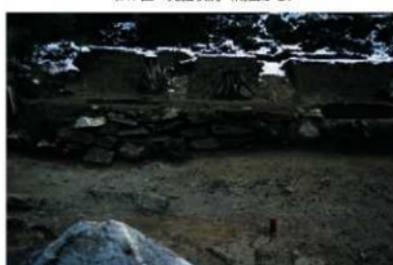
6F 区 SX6213 半掘状況 (北東から)



8A1 区 完壁状況 (南西から)



8A 区 SK8001 (南西から)



8C 区 SX8012 (北西から)



8C 区 SX8013 (南西から)



8C 区 試掘坑 15 完掘状況（東から）



8C 区 試掘坑 3 完掘状況（東から）



8A 区 尾根上近世墓地（南東から）



8A1 区西側 近世墓地（南東から）



8A 区 尾根上近世墓跡状況



8A 区 山城主郭近世墓跡状況（南東から）

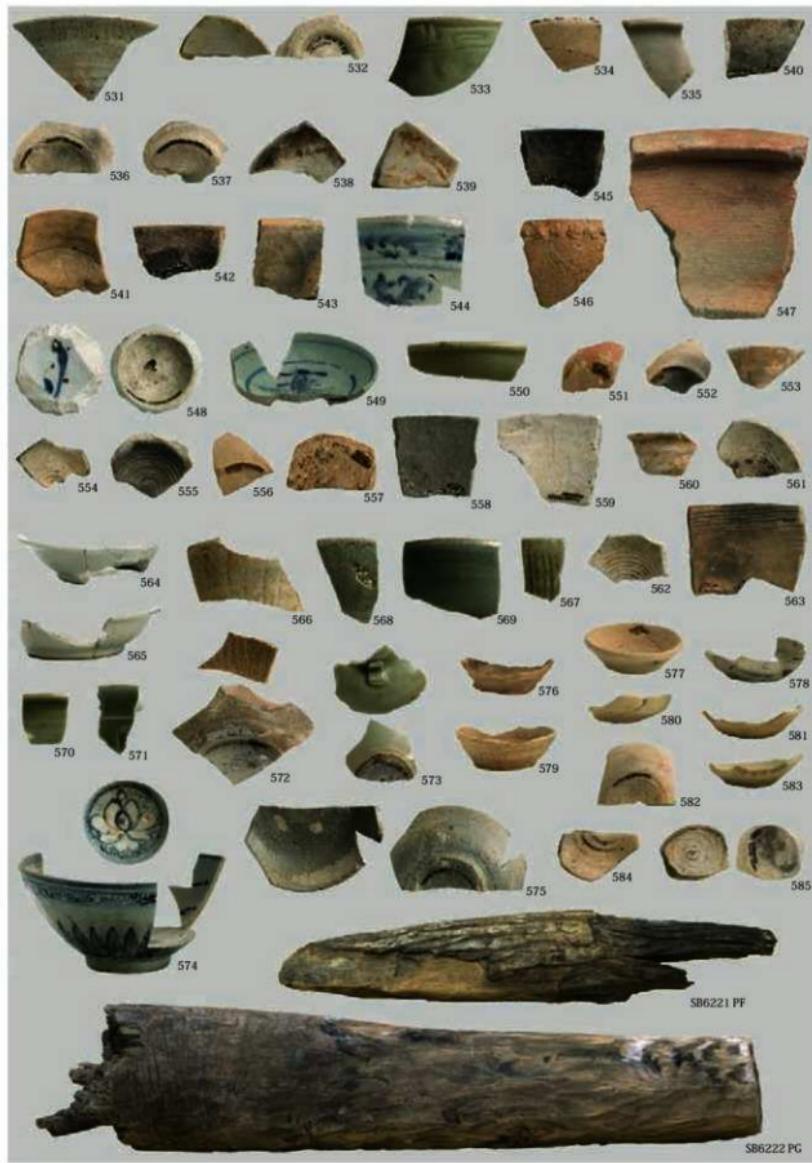


8A 区 尾根上近世墓石（宝曆）

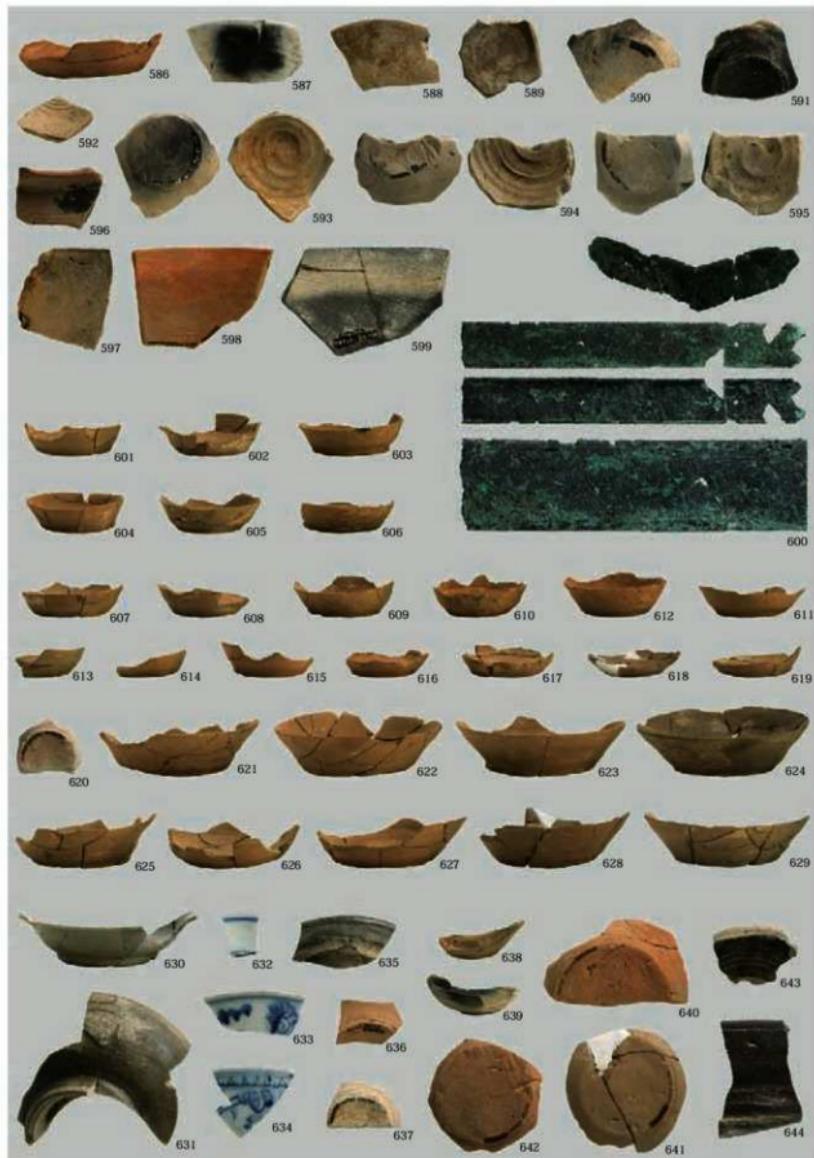


8A1 区西側 近世墓石（延寶・正徳）

写真図版 42



6F 区出土遺物 1



6F 区出土遺物 2

写真図版 44

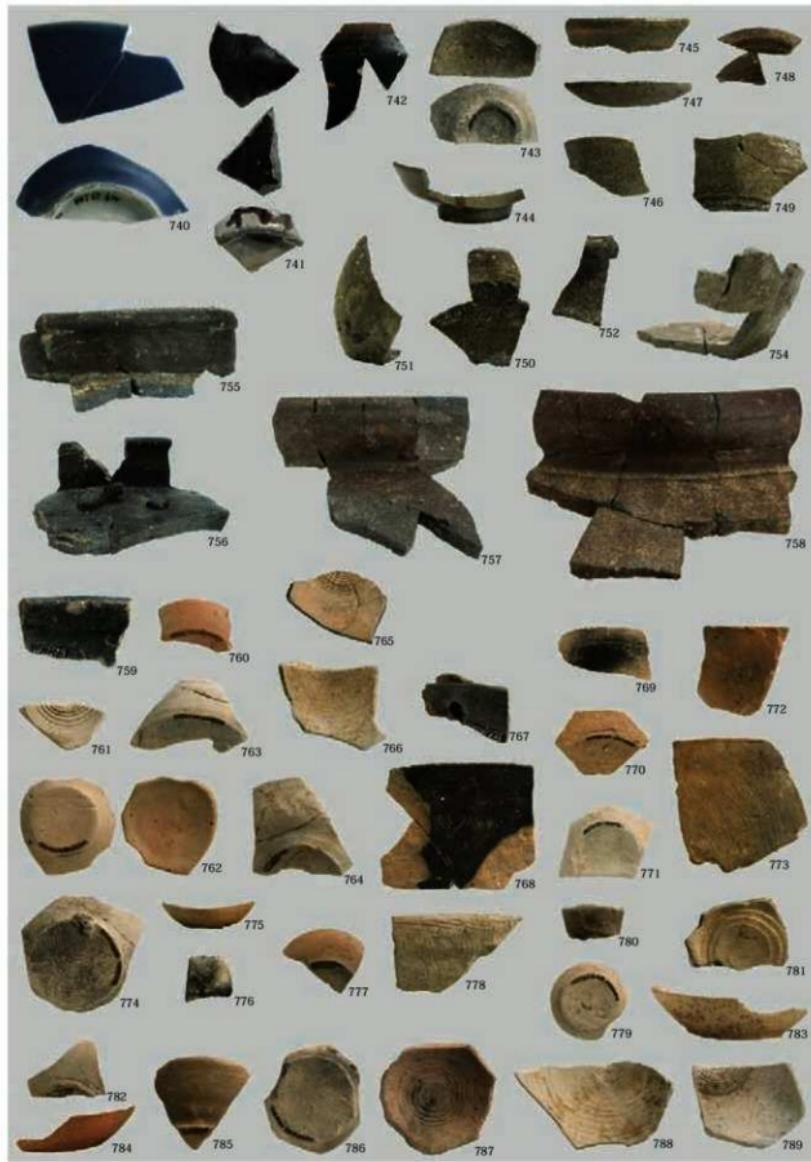


6F 区出土遺物 3

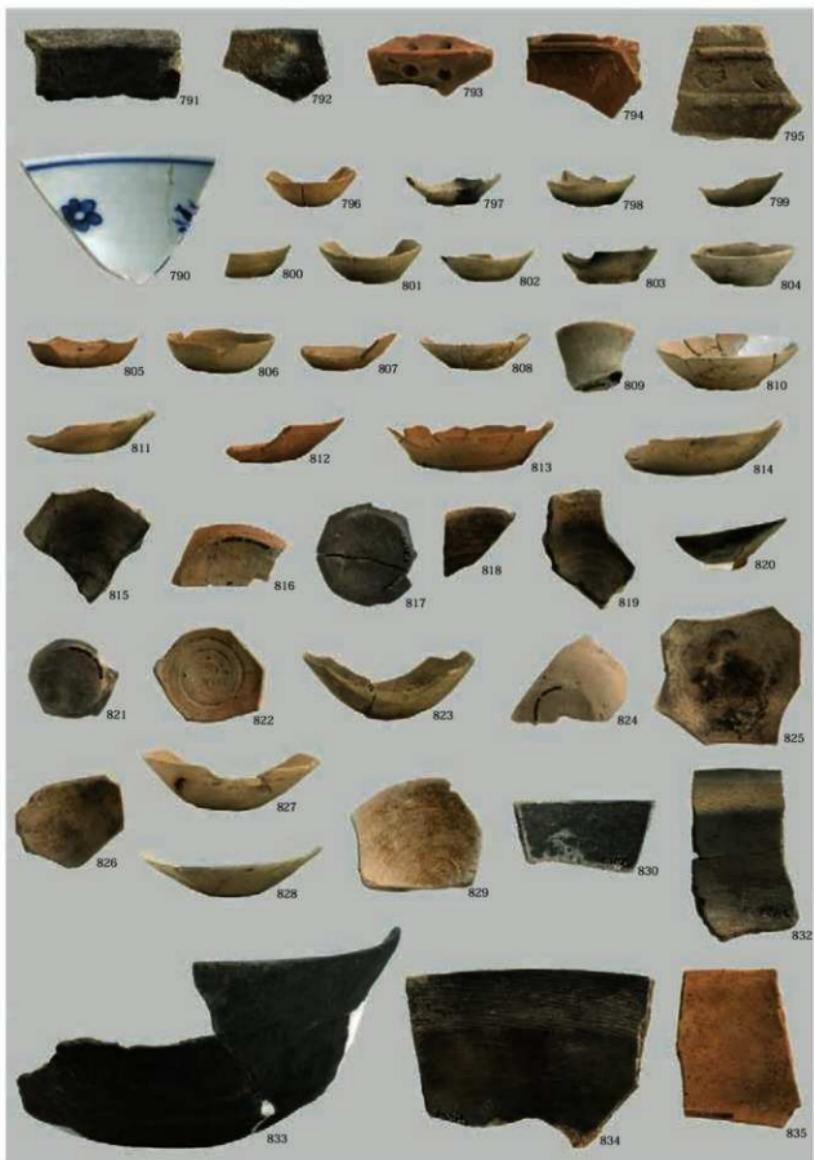


6F 区出土遗物 4

写真図版 46



6F 区出土遺物 5

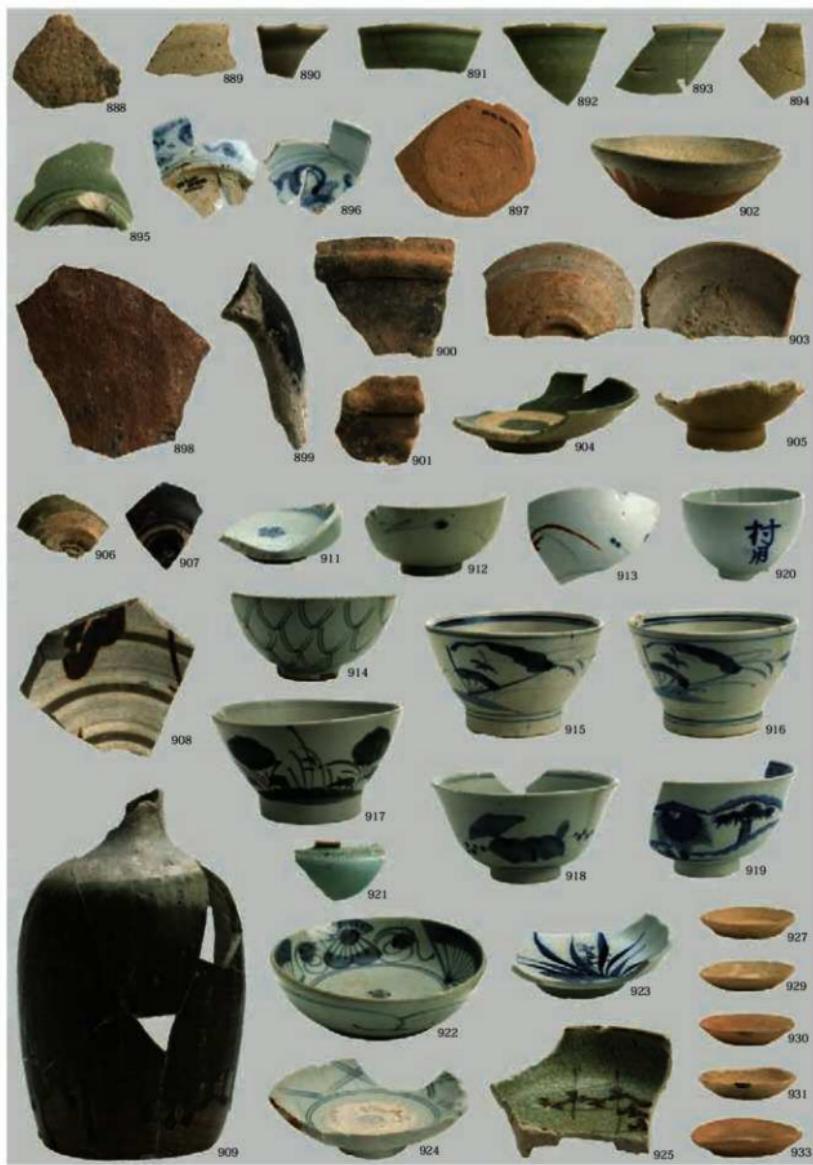


6F 区出土遗物 6

写真図版 48



6F 区出土遺物 7



8区出土遗物



烟瀬城跡遠景（北西から）



2区 遠景（西から）



3区 全景（北西から）

写真図版 51



2区 遠景（西から）



2区 全景（南から）



2区 a-b 土層（西から）



2区 北東斜面完掘状況（東から）



3区 東半部（南から）



3区 西半部（南東から）



3区 東半部（北から）



3区 疋堀（南西から）



3区 試掘坑1 北壁土層（南から）



3区 試掘坑2 北壁土層（南東から）



3区 試掘坑3 北壁土層（西から）



3区 試掘坑4 西壁土層（南から）



3区 試掘坑5 北壁土層（南西から）



3区 試掘坑6 北壁土層（南西から）

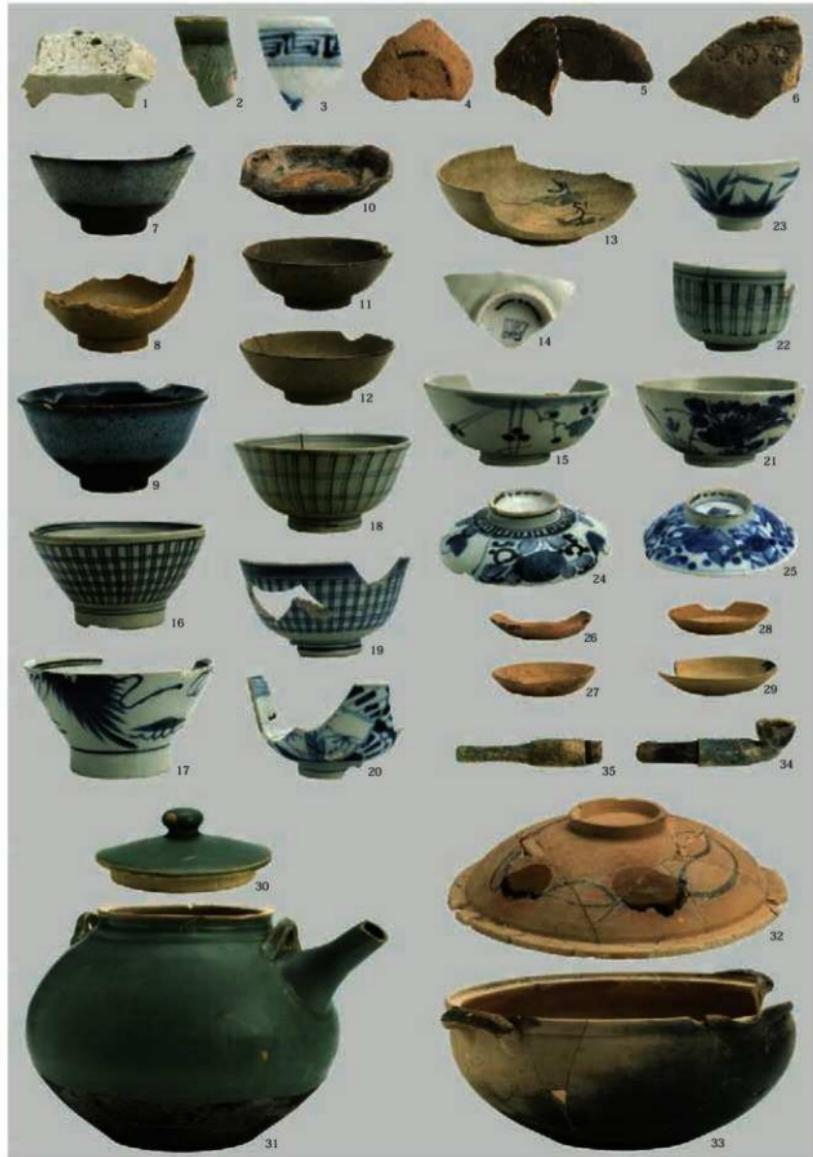


3区 試掘坑7 北壁土層（南西から）



3区 試掘坑8 完掘状況（南から）

写真図版 53



3区出土遺物

報告書抄録

ふりがな 書名 副書名 巻次 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 発行機関 所在地 発行年月日	ひがしはたぜいせき2・はたせじょうあと 東烟瀬道路・烟瀬城跡 嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4 佐賀県文化財調査報告書 第185集 渡谷 穎・徳永貞経 植田弥生(パレオ・ラボ)・パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ 佐賀県教育委員会 〒840-8570 佐賀市城内一丁目1番59号 平成22(西暦2010)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北 緯 ° ′ ″	東 経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
東烟瀬道路 2・4・5・6・8区	佐賀市富士町大字閑屋	412045	-	33° 23' 31" 世界測地系 (33° 23' 43")	130° 13' 36" 世界測地系 (130° 13' 28")	20030513 ~ 20060131	67,000
烟瀬城跡 2・3区	佐賀市富士町大字閑屋	412045	-	33° 23' 24" 世界測地系 (33° 23' 36")	130° 13' 34" 世界測地系 (130° 13' 26")	20051101 ~ 20060105 20090415 ~ 20090703	12,800
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
東烟瀬道路	城館・集落	中世	掘立柱建物 柵列 土塁 土坑 曲輪 甃切 石列		在地系土器 防長系瓦質土器 須恵器系陶器 国産陶器 中国・朝鮮陶磁 石製品 青銅製品 錢貨		神代勝利の隠居所 と推定される館跡 とそれに付随する 山城を確認
			近世		土坑 石列 小穴		
烟瀬城跡 2・3区	城館	中世 近世	曲輪 甃切 小穴		在地系土器 中国陶磁 国産陶磁 青銅製品		烟瀬城の出丸跡

佐賀県文化財調査報告書第 185 集
東畠瀬遺跡 2・畠瀬城跡
—嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4 —

平成 22 年（2010）年 3 月 31 日

発行 佐賀県教育委員会
〒 840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目 1 番 59 号

鹿島印刷株式会社
〒 849-1321 佐賀県鹿島市古桙甲 249 番地 3

